

目 次

学事関連スケジュール	
一般注意事項	4
(法律・政治学科共通) 学事 Web システムの利用方法	13
法律学科学習指導要項	
学習指導要項	23
履修申告のしかた	30
政治学科学習指導要項	
学習指導要項	35
履修申告のしかた	46
講義要綱・シラバス	
法律学科	51
政治学科	97
両学科設置共通科目	141
◇◇◇◇◇	
慶應義塾外国語学校	173
教職課程	174
言語文化研究所特殊講座	175
メディア・コミュニケーション研究所	177
外国語教育研究センター設置講座	194
情報処理教育室	197
国際センター夏季講座	200
国際センター設置講座	203
大学体育研究所設置講座	236
知的資産センター設置講座	244

学事関連スケジュール

履修案内等書類配布	第3学年	※4月1日(木)	10時～14時	123番教室
	第4学年	※4月2日(金)	(11時30分～12時30分を除く)	
成績証明書発行		4月1日(木)	12時30分以降	
情報処理教育室ガイダンス		4月2日(金)	10時45分	513番教室
体育研究所ガイダンス		4月5日(月)	10時45分・16時30分	519番教室
外国語教育研究センターガイダンス		4月5日(月)	12時20分	533番教室
教職課程ガイダンス(既登録者,今年度実習しない者対象)		4月5日(月)	13時	533番教室
教職課程ガイダンス(新規登録者対象)		4月5日(月)	13時	531番教室
国際センター夏季講座ガイダンス		4月5日(月)	14時	133番教室
教職課程ガイダンス(2005年度実習予定者)		4月5日(月)	15時	528番教室
教育実習事前指導I(今年度実習予定者)		4月5日(月)	15時	533番教室
学事Webシステムパスワード変更締切		4月7日(水)	16時	学事センター
春学期授業開始		4月8日(木)		
履修申告用紙配布		4月12日(月)・13日(火)	8時30分～18時10分	学事センター
Webによる履修申告期間		4月15日(木)	10時～4月17日(土)11時	
履修申告用紙による履修申告日		4月16日(金)	8時30分～18時10分	学事センター前受付ボックス
開校記念日(休業)		※4月23日(金)		
授業料納入期限(全納または春学期分納)		4月30日(金)		
4年生卒業見込証明書発行		5月6日(木)	以降	
履修申告科目確認表送付(本人宛)		5月上旬	(掲示を出します)	
履修申告修正受付		5月6日(木)～10日(月)	(予定)	
休学願提出期限(政治学科春学期分)		5月31日(月)		
春学期授業終了		7月14日(水)		
春学期補講日		7月15日(木),16日(金)		
春学期末試験時間割発表		7月上旬	(掲示を出します)	
春学期末試験		7月17日(土)～27日(火)		
春学期追加試験申込受付		7月中	(掲示を出します)	
春学期末追加試験		8月5日(木),6日(金)		
春学期卒業生氏名発表		掲示します		
春学期卒業式		9月18日(土)		
追加卒業生・進級者氏名発表		掲示します		
夏季休業		7月28日(水)～9月21日(火)		
三田一斉休暇		※8月中旬(予定)		
春学期成績表送付(保証人宛)(対象:政治学科のみ)		9月中旬		
秋学期授業開始		9月25日(土)		
授業料納入期限(秋学期分納)		10月29日(金)		
秋学期補講日(1)		11月18日(木)	午前	
三田祭(準備・本祭・片付けを含む)(休講)		11月18日(木)13時～11月24日(水)		
休学願提出期限		11月30日(火)		
冬季休業・一斉休暇		※12月下旬～1月上旬		
授業開始		1月6日(木)		
福澤先生誕生日(休業)		※1月10日(月)		
秋学期月曜代替講義日		1月11日(火)		
秋学期授業終了		1月19日(水)		
秋学期補講日		1月20日(木),1月21日(金)		
秋学期末試験時間割発表		1月上旬	(掲示を出します)	
秋学期末試験		1月22日(土)～2月4日(金)		
秋学期末追加試験申込受付		1月中	(掲示を出します)	
福澤先生命日		2月3日(木)		
春季休業		2月上旬～3月下旬		

学部入学試験	2月上・中旬
卒業生発表	3月10日（木）
秋学期末追加試験	2月下旬（掲示を出します）
学業成績表送付（保証人宛）	3月中旬
卒業式	3月23日（水）

(注1) ※印の期間には学事センター窓口業務を執り行いません。証明書発行等も行わないので注意してください。なお、期日については、決定次第掲示によってお知らせしますので掲示板をご覧ください。

(注2) 事情により日時・教室は変更があり得るので、掲示板等に注意してください。

一般注意事項

I 学生証(身分証明書)

1. 学生証は、諸君が本塾大学学生であることを証明する身分証明書です。同時に慶應義塾大学学生健康保険互助組合員証、および本塾図書館入館票を兼ねています。
2. 学生証は次のような場合に必要となるので、登校の際常に携帯しなければなりません。
 - (1) 本塾教職員の請求があった場合
 - (2) 各種証明書および学割証の交付を受ける場合
 - (3) 各種試験を受験する場合
 - (4) 通学定期券または学生割引乗車券購入の際、およびそれを利用して乗車船し係員の請求があった場合
3. 再交付手続
学生証を紛失したり、汚損した場合は、写真(縦4cm、横3cm、カラー光沢仕上げ)1枚を添えて学事センターで再交付を受けてください。新しい学生証は原則、当日発行いたします。ただし、機械のメンテナンス、故障等により、当日発行できないこともありますのでご了承ください。学生証の紛失、裏面シールの紛失については、手数料2,000円が必要です。
4. 返却
再交付を受けた後、前の学生証が見つかった場合、および退学・卒業などで離籍した場合はただちに学事センターへ返却しなければなりません。

II 学籍番号

学生証に記載されています。この番号は各種試験を受ける際に必要となります。

III 掲示板

1. 学生諸君への通達事項は、すべて西校舎正面入口の掲示板に掲示されます。毎日機会あるごとに、掲示に注意してください。掲示に注意しなかったために、諸君自身が非常な不利益をこうむることもあります。
なお、他学部設置科目を履修した場合はその科目を設置している学部の掲示板を、他地区設置科目を履修した場合はその科目を設置している地区の掲示板を見てください。諸研究所、各種センター設置科目・講座等については、共通掲示板にも注意してください。
2. 主な掲示事項
授業の休講・補講・時間割の変更、教室の変更等毎日の授業に直接関係のある緊急通達、各種試験の実施要項、学事日程、呼出し等。
休講・補講、呼出しについては、インターネットに繋がるパソコンまたは携帯電話(i-modeのみ)により学事Webシステムにおいても確認できます。
また、定期試験時間割、その他掲示の一部は塾生ページ(<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>)でも確認できます。
3. 研究会に関する掲示は、西校舎501番教室後方入口前の掲示板を利用してください。

IV 試験・レポート・成績

定期試験はもとよりレポート・授業中に行われる小テストにおいても、代筆やカンニング、答案用紙の持ち帰りなどの行為があった場合には、不正行為とみなされ学則第188条により厳しく処分されます。このようなことが絶対にないように学生諸君の自戒を強く要望します。

1. 定期試験

定期試験は、学期末に行われます。

春学期末：7月17日(土)～27日(火)実施(春学期に終了する科目および通年科目の中間試験を対象とし、約10日間)

秋学期末：1月22日(土)～2月4日(金)実施(秋学期に終了する科目および通年科目を対象とし、約2週間)

試験時間割や注意事項は、掲示により発表します。

試験に関する注意事項

- ① 定期試験の振鈴時間は、三田と日吉で異なりますので注意してください。
- ② 受験に際しては不正行為のないように、真摯な態度で臨んでください。
- ③ 答案は必ず提出しなければなりません。持ち帰った場合は不正行為と判断され、処分の対象とされます。
- ④ 学生証を必ず携帯し、提示してください。
- ⑤ 試験当日、万一学生証を携帯しなかった場合は、学事センターで必ず仮学生証(発行日当日に限り全キャンパスで有効、図書館入館も可)の交付を受けてください。なお、仮学生証の発行には、手数料500円が必要となります。
- ⑥ 学生証または仮学生証を携帯せずに試験教室に入室することは一切認められません。
- ⑦ 仮学生証発行手続により、試験教室への入室が遅れても試験時間の延長はありません。

- ⑧ 答案用紙の担当者および科目名ならびに学籍欄の記入事項はすべて略さず正確に記入してください。記入がないと成績はつきません。
- ⑨ 試験開始後20分までの遅刻の場合は、試験を受験することができます。ただし、遅刻理由が電車遅延等追加試験の対象となるものの場合、当該試験をそのまま受験するのか、それとも追加試験を受験するのかは、本人の判断に依ります。電車遅延等により遅刻をしても試験開始20分以内で入室した場合は追加試験の対象とはなりません。また、試験時間の延長もありません。
- ⑩ 試験開始後の体調不良などの場合で途中退室する場合は、追加試験の対象とはなりません。

2. 平常試験

随時授業時間内に行われます。

3. 追加試験

追加試験は、履修申告した授業科目で病気や不慮の事故等、やむを得ぬ事情により定期試験を受験できなかった授業科目に対して行うものです。ただし、外国語科目、演習科目、体育実技、その他定期試験を行わず、レポート等により評価の定まる科目、ならびに研究会については行いません。

他学部設置の授業科目を履修した場合、その実施の有無を含めて取り扱いには当該学部の方針によります。他学部が設置主体である併設科目（総合教育科目「歴史」「美術」「法学（憲法を含む）」「近代思想史」「人類学」、関連科目「会計学」「労働法」「租税法」等）についてもこれに準じます。

追加試験の申請には、医師の診断書（加療期間の明記されたもの）、事故の証明書、あるいは学習指導の受験許可書のいずれかが必要です。詳細は、試験時間割発表の際に掲示します。

日吉において履修した授業科目の追加試験の申請は、所定の手続きを日吉で行う必要があります。なお試験場は原則として日吉になります。

以上の手続きを怠って試験を受けても無効です。

なお、定期試験期間中、当該科目の試験時間内に試験教室に立ち入っていた場合は、追加試験が認められません。

4. レポート

三田では、レポートが最終試験と同様に扱われますので、提出にあたっては次の手続きを厳守してください。

- (1) 指定された日時に、指定された場所に提出してください。特に学事センター窓口では、指定日時以外は一切受付けませんので掲示で確認してください。

学事センターレポートボックス受付時間

1. 授業期間中

平 日…… 8時30分～18時10分

土曜日…… 8時30分～11時30分、12時30分～14時

※授業期間中であっても都合により閉室することがあります。

2. 休業期間中

平 日…… 8時30分～11時30分、12時30分～16時

土曜日…… 8時30分～11時30分、12時30分～14時

※その他の事務取り扱い時間については7ページも参照してください。

- (2) 学事センター窓口への提出を指示された場合は、学事センター指定のレポート提出用紙（2枚複写式）に必要事項を記入し、添付してください（2枚とも）。レポート提出用紙は学事センターと西校舎内の掲示板前に備えてあります。

- (3) 一度提出したレポートの変更・訂正は、提出期間内でも認めません。

5. 成績通知

成績結果を記載した学業成績表は、3月中旬に保証人宛に発送します（政治学科の学生に関しては春学期終了科目について、同様に9月中旬に発送します）。

V 諸 届

下記事項はすべて学事センターで取り扱います。

1. 休学願・就学届・退学届

「病気その他やむを得ない理由により欠席が長期にわたる場合には休学することができる」（学則152条）。本年度休学希望者は、11月末日までに学習指導主任と面接し、休学願用紙に承認印をうけたうえで学事センターに提出してください。病気を理由に休学する場合は、医師の診断書を添付してください。休学期間は当該年度末（3月31日）までとします。休学が次の年度に及ぶ場合は、改めて許可を得なければなりません。休学の期間が終了した場合は、速やかに就学届を提出しなければなりません。なお、病気を理由に休学をしていた場合には併せて医師の診断書を提出してください。

政治学科の学生は学期単位の休学となります。この場合の休学届の提出は春学期は5月末日、秋学期は11月末日を期限とし、手続き方法等はこれまでと同様とします。なお、休学期間は春学期は9月21日まで、秋学期は3月31日までとなります。

退学予定者は、退学届に本人・保証人の署名捺印の上、学生証を添えて学事センター窓口へ提出しなければなりません。

2. 留学願

「本大学が教育上有益と認めるときは、休学することなく外国の大学に留学することを許可することがある」(学則153条)。詳しくは学事センター法学部係に問い合わせてください。

3. 住所変更届(本人・保証人)、保証人変更届、改姓(名)届

各届とも学事センター所定の用紙に記入のうえ速やかに学事センター窓口へ届け出てください。学生証の記載事項変更も同時に行ってください。郵便および電話による届け出は受け付けません。

必要書類(所定用紙は学事センターにあります)

- 住所変更届：在学カード
- 保証人変更届：変更届、在学カード、誓約書(本人・保証人押印)、保証人住民票
- 改姓(名)届：改姓(名)届、在学カード、誓約書(本人・保証人押印)、戸籍抄本、学生証再交付願

また、学生総合センター学生課に提出する「学生カード」に新住所等を記入しても、正式な届とは見なされません。必ず学事センターに所定の届を提出してください。

なお、履修上の連絡、あるいはその他の重要な事柄の処理に際し、これらの変更届が出されていない場合は、極めて重大な支障をきたすことがありますので、十分に注意してください。

VI 各種証明書

証明書の発行、申し込み、受け取りいずれの場合でも学生証が必要です。

授業料が未納の場合、すべての証明書が発行できません。

1. 証明書自動発行機で即時発行する証明書(和文)

※料金は改定されることがあります。

在学証明書(4月1日12時30分～)	1通200円
成績証明書(4月1日12時30分～)	
卒業見込証明書(5月6日～)	
履修科目証明書(6月1日～)	
卒業見込証明付成績証明書(5月6日～)	1通400円
学割証(JR各社共通)	無料
健康診断証明書(6月中旬～年度内)	1通200円

注① 稼働時間

学事センター事務室内発行機：学事センター事務取り扱い時間内

南校舎1階設置発行機：9時～20時[休日および大学休業日は除く]

メンテナンス、故障等により、証明書発行機を停止することがあります。使用する時期や枚数に注意し、あらかじめ早めに準備してください。

- ② 学割証は1人1年間10枚まで発行。有効期限は発行日から3か月以内(有効期限内でも離籍した場合は無効)。各種学生団体の課外活動に必要な学割証は学事センターに申し出てください。
- ③ 各種証明書等で厳封を必要とする場合には、学事センターに申し出てください。(自動発行機で発行した証明書は厳封できません。)
- ④ 健康診断証明書は6月中旬以降、定期診断受診者を対象に発行されます。

なお、奨学金申請等で6月中旬以前に証明書が必要な場合は、保健管理センター三田分室受付に相談してください。

2. 学事センター窓口で即時発行する証明書(英文)

※いずれも1通200円。(料金は改定されることがあります。)

- (1) 英文在学証明書(4月1日12時30分～)
- (2) 英文卒業見込証明書(5月6日～)
- (3) 英文成績証明書(4月1日12時30分～)

3. 学事センター窓口で申し込み、日数を要して発行する証明書・文書

前記以外の証明書・文書等(例：司法試験用単位取得証明書、公認会計士用証明書、英文履修科目証明書、他大学院受験等のための形式指定の調査書等)の発行に関しては、余裕をもって学事センター窓口で相談のうえ申請してください。なお、交付には和文書類は申請後標準3日、英文書類は申請後標準1週間の日数を要します。

VII 教室使用申請について

1. 受付窓口

利用者により、受付窓口が異なりますのでご注意ください。

	利 用 者		
	研究会	学生団体	外部団体
授業期間	学事センター	学生総合センター学生課	管財部管財課
休業期間	学事センター	使用できません	管財部管財課

2. 授業期間中の教室使用申請

- (1) 研究会での教室使用の申請は、学事センターに「学内集会届」を提出してください。
 - (2) 学生団体の場合は、学生総合センター学生課窓口にて「学内集会届」を提出してください。
 - (3) 申請は使用予定日の2週間前から4日前まで受け付けます（注）。ただし、日曜・祝日・義塾が定めた休日および定期試験期間中は原則として申請を受け付けません。
 - (4) 「集会許可証」は、研究会・学生団体ともに学生総合センター学生課の窓口でお受け取りください。
 - (5) 外部団体が使用する場合は、施設使用費等が必要となりますので、管財課までお問い合わせください。
- （注）日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間を除いた4日前とします。

3. 休業期間中の教室使用申請

- (1) 研究会での教室使用の申請は、学事センターに「学内集会届」を提出してください。提出にあたっては、「会長名」欄（4枚複写の4枚とも）に研究会担当教員の印またはサインが必要となります。
 - (2) 学生団体は原則として、使用できません。
 - (3) 申請は使用予定日の4日前まで受け付けます（注）。ただし、大学事務の休業期間中（8月中旬および年末年始）は原則として申請を受け付けません。
 - (4) 「集会許可証」は、研究会・学生団体ともに学生総合センター学生課の窓口でお受け取りください。
 - (5) 外部団体が使用する場合は、施設使用費等が必要となりますので、管財課までお問い合わせください。
- （注）日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間を除いた4日前とします。

VIII 学事センターの窓口

1. 学事センター事務取り扱い時間

- (1) 授業期間中は次のとおり取り扱います。

平 日…… 8時30分～18時10分

（なお、各学部・研究科に関する相談・問い合わせは、次の時間帯でお願いします。）

8時30分～16時30分

土曜日…… 8時30分～11時30分、12時30分～14時

- (2) 休業期間中は次のとおり取り扱います。

平 日…… 8時30分～11時30分、12時30分～16時

土曜日…… 8時30分～11時30分、12時30分～14時

※事務取り扱い時間を変更する場合、および事務室の閉室については、掲示等でお知らせします。

2. 窓口業務

- (1) 学籍・成績・履修に関すること
- (2) 授業・試験・レポート等に関すること
- (3) 時間割に関すること
- (4) 休講・補講に関すること
- (5) 追加試験の申し込み
- (6) 休学願・留学願・退学届・住所変更届・保証人変更届・改姓（名）届等
- (7) 学生証の発行
- (8) 成績証明書・在学証明書等各種証明書の発行（和文はおもに証明書自動発行機）
- (9) 公認会計士・司法試験等受験のための単位取得証明書の発行
- (10) 教室に関すること（ただし研究会以外の教室使用申請は学生総合センター学生課で行います）
- (11) 通学証明書の発行

落とし物、学生カード提出は学生総合センター学生課が取り扱います。

卒業後の成績・卒業証明書等の申込・発行は、塾員センター（北館3階）が取り扱います。

IX 教員を訪ねる場合

授業のある日に研究室または教員室を訪ねてください。

- 専門科目担当専任教員（教授・助教授・専任講師・助手）……研究室（三田研究室棟）
- 日吉専任教員および塾外からの出講者（講師）……教員室（南校舎2階）

X 学生総合センターの窓口

学生総合センターには、主に課外活動・課外教養を担当する学生課、奨学金および学生健康保険互助組合を担当する厚生課、就職進路指導を行う就職課があります。ここでは、学生生活を送るうえで何かと関係の深い学生総合センターについて、窓口業務を中心に紹介します。

学 生 課

○教室等の使用申し込み受付

公認学生団体が会合のために教室を使用したい時は、使用希望日の4日前（休日を除く）までに申し込んでください。休日・試験期間中・休業期間中の使用はできません。（「前述Ⅶ 教室使用申請について」も参照）

使用できる時間は次の通りです。

平 日 9:00～18:00（ただし、第一校舎は20:00まで）

土曜日 9:00～18:00（全校舎）

音楽団体指定時間

平 日 18:00～20:00

土曜日 13:00～18:00

なお、教室以外に利用できるスペースとして、学生談話室A・Bと音楽練習室がありますので、使用したい場合は学生課に問い合わせてください。

○山食・生協食堂・北館学生食堂の使用申し込み受付

公認学生団体・教職員・OB・研究会等が、山食や生協食堂・北館学生食堂をパーティー等で利用したい場合は、学生課に使用申し込みをし、予約してください。さらに、予約後1週間以内に学内集会届を提出し、許可を得る必要があります。学内集会届の提出を怠った場合は予約は取り消されますので注意してください。なお日曜日・祝日は利用できません。

○学外行事届の受付

公認学生団体や研究会で、合宿、コンサート、パーティーなどの学外行事を行う場合には、その4日前までに届け出てください（学生教育研究災害傷害保険の項参照）。なお、団体割引、減税証明書等の必要があれば申し出てください。

合宿等で団体割引が必要な場合についても学生課で受け付けています。

○組織届の受付

クラブ、サークル等を新設する場合は、所定の組織届を提出してください。組織届の提出がないと、学生団体公認申請等の諸手続を行うことはできません。公認申請の詳細については学生課に各自で問い合わせをしてください。

○学内における掲示・配布

ポスターやチラシ・パンフレット等を学内で掲示・配布する場合は、学生課に届け出て、場所等の指示を受けることが必要です。

○備品使用申請の受付

学生団体で、ステッカー、ワイヤレスマイク、塾旗、水差、椅子、机等を借用したい場合は、使用希望日の4日前までに申請してください。

○郵便物の取り扱い

外部から送付される各学生団体宛の郵便物は、学生課備え付けのメールボックスに区分けしておきますので、学生責任者は定期的に取りに来るようにしてください。なお、個人宛の郵便物は一切取り扱いません。

○車両入構申請の受付

塾生の車両入構は認められていませんが、やむをえず車両入構の必要がある場合は、入構希望日の4日前までに申請してください。

○学生ラウンジの使用

南校舎1階の学生ラウンジは、個人の利用ができます。開室時間は8:45～21:00です。室内での飲食はできません。

○伝言板および「DENGON」の利用

学生ラウンジ横の黒板および、第一校舎南西角の伝言板「DENGON」は、塾生間の連絡用として自由に利用してください。A4用紙1枚のみ掲示可能ですが、必ず伝言者の学部・学年・氏名・連絡先を明記してください。

○そ の 他

学生総合センター「大学生生活懇談会」では見学会、講演会、討論会等の催物を随時行っていますので、積極的に参加してください。また、学生課の窓口には、財団法人大学セミナーハウス、展覧会の招待券・割引券等も置いてあります。

遺失物は学生課の受付窓口で取り扱っています。

厚 生 課

○奨 学 金

厚生課窓口において、概ね4月初旬から奨学金案内を配布し、出願受付を行います。

●慶應義塾大学奨学金〔給費〕

5月下旬に出願受付を行います。募集日程は西校舎ロビー学生総合センター掲示板に掲示します。

●日本学生支援機構（旧日本育英会）奨学金

4月中旬に出願受付を行います。1種（無利子）と1999年度から設置された、きぼう21プラン（有利子）があります。その他に家計急変者を対象とした緊急採用（無利子）・応急採用（有利子）があります。

●地方公共団体、社・財団法人等の各種奨学金

募集は主に4・5月に行います。募集日程はそのつど、西校舎ロビー学生総合センター掲示板に掲示します。

●指定寄附奨学金（給費）

募集は主に4月に行います。募集日程はそのつど、西校舎ロビー学生総合センター掲示板に掲示します。

○奨学融資制度（奨学金付き学費ローン）

学生諸君の学費の調達の手助けになるよう配慮した制度で、学生本人に金融機関が低金利で学費を直接貸し出しする方式です。在学生であれば、誰でも応募することが可能です。在学中の借りに伴う利子は、規程に従い、慶應義塾が奨学金として給付します。

入学年度等により、適用制度が異なりますので、詳細は厚生課窓口までお問い合わせください。

○学生健康保険互助組合

保険証を使用し、病院や診療所で受診した場合、健康保険が適用された自己負担分について、学生健保から医療費給付が受けられます。給付方法は銀行振込となりますので、口座の届出をしてください。受領口座が未登録の場合には、給付金は振り込まれません。給付を受けるための手続きは、医療機関によって異なりますので、以下に従って手続きしてください。

(1) 慶應病院で受診した場合

病院で診察を受ける際、保険証と学生証を提示してください。また「医療給付金振込口座届」を厚生課へ提出し、振込口座を登録してください。通院は受診月の翌月20日に、入院は翌々月20日に、給付金が振り込まれます。

(2) 一般病院で受診した場合

厚生課に置いてある「医療費領収証明書」に、病院で1か月ごとの診療内容を記入してもらい、塾生記入欄を各自記入して、厚生課へ提出してください。ただし、「学生氏名」「保険点数または保険適用金額」「負担割合」の3点が明示された領収証が発行されている場合は領収証の添付でかまいませんが、必ず「医療費領収証明書」に保険者番号、傷病名等を記入して提出してください。受診月を含め、4か月以内に提出されない場合は無効になります。振込日は証明書を提出した月の翌月20日です。

組合ではこのほか、契約旅館に対する宿泊費補助や、海の家、スキーハウスの設置などを行っています。さらに、日吉塾生会館内にトレーニングルームも設置しています。詳しくは、入学時に配付した「健保の手引き」（学生総合センターにも置いてあります）をご参照ください。

就 職 課

就職課は、就職活動に関するさまざまな情報を収集して提供しています。企業からの求人票・説明会案内をはじめ、会社案内、OB・OG名簿などを、南校舎地下1階の就職課事務室、1階の就職資料室にて、自由な利用に供しています。就職課のホームページには求人企業一覧やさまざまな説明会案内などを掲載しています。

また就職活動支援の一環として、10月から2月にかけて多様な専門家等による講演会、就職ガイダンス、公務員志望者のための説明会、OB・OGや内定者によるディスカッションなどを開催しています。こうした催しはビデオテープに収録し、後日貸し出しも行っていきます。

就職課は就職活動の進め方を解説した『就職ガイドブック』を作成し、3年生全員に配布しています。また皆さんが就職活動をするなかでわからないこと、困ったことがあった場合など、いつでも個別相談に応じています。

就職課を、皆さんの進路決定や就職活動におおいに利用してください。

学生相談室（西校舎地下2階）

学生相談室は、学生生活の中で当面するさまざまな問題や悩みについての個別の相談に応じています。それと共に、小集団の中で自己をみることで自己成長を促す「サイコドラマ」や「エンカウンター・グループ」の行事も行っています（このスケジュールは相談室に問い合わせてください。）

相談内容に関しては、それがいかなる種類のものであっても、個人の秘密を厳守しますし、すべては来談者とカウンセラーの間のこととして扱われますので、気軽に相談に来てください。

各課窓口取り扱い時間

—学生課・厚生課・就職課—

平 日……8時30分～16時20分

土曜日……8時30分～14時20分

※都合により閉室することがあります。

—学生相談室—

平 日……9時30分～16時30分

土 曜……9時30分～14時30分

昼休み……11時30分～12時30分

学生教育研究災害傷害保険について

諸君の教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために、大学で保険料の全額を負担し、日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。この保険の適用を受ける「教育研究活動中」とは次の場合をいいます。

① 正課を受けている間

講義、実験・実習、演習または実技による授業（総称して以下「授業」といいます）を受けている間をいい、次に掲げる間を含みます。

イ. 指導教員の指示に基づき、卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。

ただし、もっぱら被保険者の私的生活にかかわる場所において、これらに従事している間を除きます。

ロ. 指導教員の指示に基づき、授業の準備もしくは後片付けを行っている間、または授業を行う場所、大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

② 学校行事に参加している間

大学の主催する入学式、オリエンテーション、卒業式などの教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

③ ①②以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有、使用または管理している施設内にいる間。ただし、寄宿舎にいる間、大学が禁じた時間もしくは場所にいる間、大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

④ 学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続きにより、大学の認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。ただし山岳登山やハングライダーなどの危険なスポーツを行っている間を除きます。

保険金は本人（被保険者）の申請に基づき支払われますので、上記活動中に万一事故にあった場合は、学生課で相談のうえ、所定の手続きを行ってください。また、本保険の適用が円滑に行われるため、ゼミ合宿を学外で行う場合、および学内学生団体が学外で活動する場合は、その都度「学外行事届」を提出してください。

その他この保険に関する詳細については、直接学生課窓口で尋ねてください。

任意加入の補償制度について

任意加入の補償制度としては、保険と共済の2つがあり、加入希望の場合は直接それぞれに申し込むかたちになっています。

「学生総合補償」保険は、(株)慶應学術事業会（慶應義塾関連会社）に、「学生総合共済」保険は慶應生活協同組合に、資料請求してください。

連絡先 (株)慶應学術事業会 Tel. 03-3453-6098

慶應生活協同組合 Tel. 045-563-8489

学生カード・大学に対する要望カードの提出について（学生カードの提出によって住所変更の届けとすることはできません。）

次に従って提出してください。

1. 提出学年

3・4年（文学部は2・3・4年）

2. 提出方法

提出日：4月末日まで

提出先：学生総合センター学生課窓口

3. 記入上の注意

学生カードは諸君の在学中に活用する資料ですので必ず提出してください（やむをえず提出日に提出できなかった場合でも、後日必ず学生課に提出してください。）

大学に対する要望カードは、大学における今後の研究・教育・学生生活において、改善のための参考に資するものです。諸君が今までの大学生活の中で、教育一般・カリキュラム・課外活動・施設・その他感じたこと、思ったことで大学に対する要望がありましたら、学生カードに連なる同じカードに記入し、学生総合センター学生課に提出してください。

XI 緊急時における授業の取り扱いについて（三田）

交通機関ストライキ、台風・大雨・大雪・地震などの各種自然災害により鉄道等交通機関の運行が停止した場合や、大規模地震対策特別措置法（大震法）に基づく警戒宣言が発せられた場合などの授業の取り扱いは次のとおりとします。

1. 鉄道等交通機関運行停止時の授業の取り扱い

【対象事由】

1. 交通機関のストライキ
2. 台風・大雨・大雪・地震などの各種自然災害によるもの

【対象路線】

- ・山手線 ・中央線（東京－高尾間） ・京浜東北線（大宮－大船間）
- ・東急（電車に限る）

【時間・対応策】

1. 午前6時30分までに運行を再開した場合は、平常どおり授業を行います。
2. 午前8時までに運行を再開した場合は、第2時限から授業を行います。
3. 午前10時30分までに運行を再開した場合は、第3時限から授業を行います。
4. 正午までに運行を再開した場合は、第4時限から授業を行います。
5. 正午を過ぎても運行が再開されない場合は、当日の授業を休講とします。

【その他】

授業開始後に運行停止となるような場合は、状況により授業の短縮や早退など別途措置を講じます。掲示や構内放送、ホームページによる大学からの指示に従ってください。

※ 交通機関の運行状況に係わらず、大規模な災害や事故等が発生した場合の授業の取り扱いについては、状況によりその都度指示することとします。

2. 大震法に基づく警戒宣言が発せられた場合の授業の取り扱い

首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震発生が予想され、大規模地震対策特別措置法（大震法）に基づく「警戒宣言」が発せられた場合の授業の取扱いは下記のとおりとします。

[1] 「警戒宣言」が発せられた場合、ただちに全学休校とします。

[2] 地震が発生することなく「警戒宣言」が解除されたときの対応は、交通機関運行停止時の場合に準じます。

XII 早慶野球戦が行われた場合の授業について

授業は1時限のみとし、2時限以降は応援のため休講とします。

(3回戦以降もこれに準じます)。

法律・政治学科 共通

学事 Web システムの利用方法

- (1) 履修申告
- (2) 新規履修申告科目なし
- (3) 登録済科目確認
- (4) 休講・補講情報
- (5) パスワード変更

〈学事 Web システムの利用方法〉

学内のパソコンからは無論のこと、自宅や海外からでもインターネットに繋がるパソコンがあれば、学事 Web システム（以下 Web システム）を利用して履修申告や登録済科目の確認、また休講・補講情報の確認などが可能です。

学事 Web システムを利用するためには ID（学籍番号）と事前に通知したパスワードが必要です。このパスワードは途中変更は可能ですが、卒業するまでの間使用することになります。すべて個人管理になりますので忘れないように十分注意してください。

学事 Web システムには以下の 5 つの機能があります。

- ① 履修申告（履修申告期間中は、何度でも修正できます。）
- ② 新規履修申告科目なし（4年生のみ使用可能）
- ③ 登録済科目確認（履修申告終了後の、ある一定の期間に自分の登録した科目を Web 上で確認できます。）
- ④ 休講・補講情報
- ⑤ パスワード変更

また、携帯電話（i-mode のみ）では上記のうち、④休講・補講情報の確認、⑤パスワード変更、を行うことができます。

… 注 意 …

もし学事 Web システムのパスワードを忘れてしまった場合には、4月7日（水）16時までに学事センターでパスワード変更申請の手続きを行ってください。（2003年度以前に入学した在学生の初期パスワードは、変更していない場合は2004年3月に送付した成績表に印字されています。）

また、学内のパソコンを利用するための Windows パスワードを忘れてしまった場合には、三田インフォメーションテクノロジーセンター（ITC。大学院校舎地階）で変更申請の手続きを行ってください。（ただし学事 Web システムは学内のパソコンに限らず、インターネットに繋がるパソコンがあれば、自宅などからでも利用できます。）

学事 Web システムのユーザー名とパスワードは、ITC 発行の Windows アカウントのユーザー名とパスワードとは別になりますのでご注意ください。

（学事 Web システムのユーザー名）	学籍番号
（Windows アカウントのユーザー名）	f*****

学事 Web システム操作上の注意

- 複数のブラウザを起動して、同時にログインしないでください。
- 学事 Web システムにログインした後は、ブラウザの [戻る] 及び [進む] ボタンは使用しないでください。誤ってクリックしてしまい画面が正しく表示されなくなった場合には、[更新] ボタンを押してリロードしてください。
- 学事 Web システムは 30 分間何も操作しないと自動的に切断されます。インターネットサービスプロバイダーによっては、これよりも短い時間でタイムアウトする場合がありますので注意してください。
- ブラウザーの [戻る] ボタンや [進む] ボタンを何度も押ししたり、30 分間何も操作をしなかったためタイムアウトになった場合、画面にアクセスエラーと表示されたり、真っ白な画面になる場合があります。そのような場合には、一旦ブラウザを終了し、10 秒程度待ってから再度ブラウザを起動し直してください。このような場合、最後に履修申告メイン画面の [登録] ボタンを押した時点のデータ更新までが反映されています。
- 学事 Web システムは、Cookie を使用していますので、お使いのブラウザに Cookie を受け付ける設定をしてください。また、学事 Web システムは、SSL による暗号通信を行います。学事 Web システムにアクセスすると、新しいサイトの証明書を受け付けるか否かの確認ウィンドウが表示されますので設定してください。
お使いのブラウザが、Proxy Server を経由する設定になっている場合、設定を解除しないと正しく接続できない場合があります。そのような場合には、一時的に Proxy Server の設定を変更してください。
（Cookie, SSL, Proxy の設定については、<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/manual/faq/logon.html> を参照してください。）
- 氏名等に難しい字が使われている場合、画面上にうまく表示できない場合がありますが、システム上問題はありません。
- その他、Q&A、Web 履修にあたっての注意事項（地区／学部別）については URL からのリンクを参照してください。

(1) 履修の申告（法律・政治各学科の「履修申告のしかた」を参照のうえ利用してください。）

2004年度の学事 Web システムを利用した履修申告日程と学事 Web システムの URL は以下のとおりです。

日程：4月15日（木）午前10時～17日（土）午前11時まで

学事 Web システムの URL <http://gakuj2.adst.keio.ac.jp/>

受付期間中に時間割の変更がある場合があります。各キャンパスの掲示板に注意し、必要であれば締め切りまでに再申告（申告の修正）を行ってください。

① 上記 URL にアクセスし [ブラウザ用] をクリックしてください。
履修申告は「インターネットエクスプローラ」や「Netscape」などの標準ブラウザを使用してください。i-mode からは操作できません。



② 学事 Web システムの操作方法（特にログインできない場合などの解説）や、よくある質問についての回答などは、このページに用意されています。[ログイン画面へ] ボタンをクリックしてください。



③ 「ID（学籍番号）」と、事前に通知したパスワードを入力し、[ログイン] ボタンをクリックしてください。画面がうまく表示されない場合は、前述②の画面の「ログオンできない場合はこちら」を選択し、ブラウザの設定方法等を確認してください。



- ※ この画面以降ブラウザの「進む」「戻る」ボタンは使用しないでください。
- ※ 複数のブラウザを起動して、同時にログインしないでください。

④ トップメニュー画面から、履修登録後に送信される受付確認メールの送信先の登録・変更ができます。確認できる状態の電子メールアドレスを登録してください。

変更する場合には、新たに登録する電子メールアドレスを2箇所入力し（再入力欄にも同じものを入力する）、[登録] ボタンをクリックしてください。

（学事センターからの連絡や呼出などがある場合、ログイン後のこの画面に表示されることがあります。）

（注意）学事 Web システムに登録されているメールアドレスについて

学事 Web システム (<http://gakuj2.adst.keio.ac.jp/>) に登録頂いているメールアドレスについて、アドレスの登録間違いにより、履修登録が実行された際に送信するメールが不着になるケースが多発しています。履修申告前に必ず、学事 Web システムに登録されているメールアドレスをご確認ください。

(学事 Web システムログイン直後の「メールアドレス登録・変更」で確認できます。)

学事 Web システムには学校配付のメールアドレス (*****@mita.cc.keio.ac.jp, *****@sfc.keio.ac.jp 等) を登録し、個人所有のメールアドレスに送りたい場合は転送設定をご利用ください。

※ メールアドレスのユーザー名 (例: '*****@mita.cc.keio.ac.jp' の ***** の部分) は変更できません。またユーザー名のみ (例: '*****@mita.cc.keio.ac.jp' の ***** の部分だけ) 登録しても届きません。ご注意ください。



- ⑤ [履修申告] ボタンをクリック後, [Web による履修申告上の注意] をクリックし, 必ず注意文を熟読してください (右上図)。その後, [履修申告メイン画面へ進む] ボタンをクリックしてください。

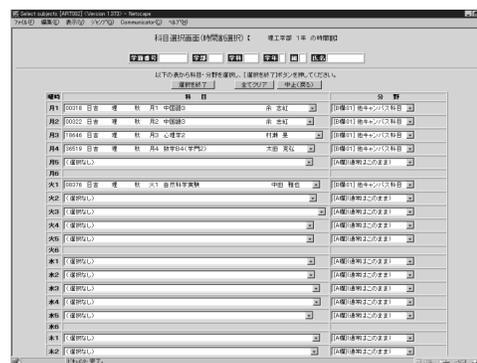


- ⑥ 以下の画面が「履修申告メイン画面」になります (右上図)。 (a) と (b) の 2 通りの方法で科目の選択ができます。

(a) 時間割から科目を選択するとき

[時間割から選択] ボタンの右側のドロップダウンリストから設置学部・学科・学年を選択してから, [時間割から選択] ボタンをクリックしてください。(初期設定では自分の所属する学部・学科および学年が自動的に指定されています)

科目選択画面 (時間割選択) が表示されますので, 曜日時限毎に科目および分野をドロップダウンリストから選択してください。他学部の科目を履修する場合などで, 分野を「A 欄分野」以外で選択する場合は「履修申告のしかた」内「A・B 欄に記入する授業科目」の表 (法律 31 ページ, 政治 47 ページ) をよく読んでください。選択が完了したら, [選択を終了] ボタンをクリックしてください。



(b) 登録番号から科目を選択するとき

[登録番号で選択] ボタンをクリックしてください。科目選択画面 (登録番号) が表示されますので, 履修書類配布時に配布された時間割表に記載されている 5 桁の登録番号を入力してください。[科目名を確認] ボタンを押し, <科目情報> 欄に表示される科目名, 曜日時限などの情報を確認したうえで, 最後に [選択を終了] を押ししてください。



※ (a) (b) いずれの方法も, 分野 (A・B 欄) の選択方法は同じですので, 「履修申告のしかた」内「A・B 欄に記入する授業科目」の表 (法律 31 ページ, 政治 47 ページ) を参照してください。
 ※ (a) (b) の手順は, 連続して行うことができます。

※「すでに登録されています」と表示される「研究会」については過年度分です。新学年分の研究会は新たに登録しなければなりません。

※ 同一の曜日時限に春学期と秋学期の科目を一度に選択することはできません。その場合、一度 [選択を終了] を押し、再度時間割または登録番号から科目を選択してください。

- ⑦ ⑥で選択した科目が、一覧表示されますので確認してください。
(選択直後は「状態」欄に「未登録」として表示されます。)



- ⑧ 選択した科目を取消す場合は、⑦の画面から、取り消したい科目の登録 No. の左側にチェックをつけ、[選択の取消] ボタンをクリックしてください。その後、一覧表から削除されたことを確認してください。

- ⑨ 選択されている科目を確認したら、画面一番下の [登録] ボタンを押してください。⑥および⑧で行った内容はこの [登録] ボタンを押すまで有効になりません。

- ⑩ 履修申告メイン画面の [登録] ボタンをクリックすると、選択した科目について、曜日時限の重複や不足科目等のエラーチェックが行われ、その結果が表示されます。(エラーメッセージの詳細については、⑥の「履修申告メイン画面」の STEP 2 の横にある [エラーの詳細説明] をクリックし、参照してください。) 右端の「状態」欄が「保留中」の場合、エラー科目があるためにすべての科目が未登録となります。エラー内容を確認し登録し直してください。この画面を控としてプリントアウトしておく事をお勧めします。



登録内容を変更したい場合は、[履修申告画面へ戻る] ボタンをクリックし、⑥からの手順を再び行ってください。登録内容がこれで良ければ、[履修申告を終了する] ボタンを押してください。

※ ここで Web ブラウザーを終了しないでください。

- ⑪ ④で登録されているメールアドレスへ受付確認メールが送信されます。受付番号は各自で控えてください。
④でメールアドレスの登録を行っていない場合は、一時的な受付メールの送信先を指定できる画面が表示されます。メールアドレスを入力し [指定する] ボタンを押してください。受付番号と受付メールの送信先が表示され、確認メールがそのアドレス宛に送信されます。(この場合は、メールアドレスの登録はされません。) [指定しない] ボタンを押すと、受付番号のみ表示されます。

なお、hotmail (@hotmail.com) のアドレスを指定した場合、受付確認メールが字化けすることがあります。他のプロバイダーのアドレスを指定するか、学校配布のメールアドレスを指定するようにしてください (④参照)。また、携帯電話のメールアドレスを指定した場合は、正しく送信されない可能性がありますので、使用を避けてください。

すべての作業終了後は [ログアウト] ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

(2) 新規履修申告科目なし ※ 4年生のみ使用可能

4年生で、前年度までに卒業単位を満たしており、今年度履修申告する科目が1つもない場合のみ申告してください。必ず(1)の履修申告画面で次の点を確認してから申告を行ってください。

- ・すでに登録済の科目がないかどうか。 → 登録科目を削除してから行ってください。
- ・1科目も登録しない状態で [登録] ボタンを押し、エラーメッセージがないかどうか。
→ エラーが出た場合卒業単位を満たしていないと考えられます。
- ・(政治学科) 過年度分の研究会が確定科目となっていないか。 → 研究会 (4年) を履修してください。退会の場合、学事センターへ届け出てください。

※ 登録済の科目がある場合には「新規履修申告科目なし」の申請は無効の扱いになります。

- ① 前述(1)の④(トップメニュー画面)まで同様の操作をし、画面上の[新規履修申告科目なし]ボタンを押してください。
- ② [申請する]ボタンを押してください。



- ③ 「今回の履修申告では、科目の申請を行いません。[新規履修申告科目なし]の申請を行いました。」と表示されます。この画面を控としてプリントアウトしておくことをお勧めします。



- ④ メニュー画面に戻ると、「[新規履修申告科目なし]の申請が行われました。」と赤字で表示されるので確認した後、ログアウトしてください。

申請を取り消す場合は①に戻り、②の画面で[申請を取り消す]ボタンを押してください。メニュー画面に「[新規履修申告科目なし]の申請は取り消されました。履修申告を行うことができます。」と表示されたら(1)の履修申告を行ってください。



(3) 登録済科目確認

履修申告で正しく登録された科目は、以後ある一定の期間で Web システムを利用して再度確認することができます。(確認できる日程や詳細などは塾生ページで案内します。http://www.gakuji.keio.ac.jp/)

前述(2)の④(トップメニュー画面)までは、同様の操作ですから、画面上の、[登録済科目確認]ボタンを押して、履修申告科目を確認してください。

(4) 休講・補講情報

Web システムから、全キャンパスの休講・補講情報を Web を利用して確認することができます。またこのサービスは、i-mode 対応の携帯電話からも同様に確認することができます。

なお、公式の情報は大学の掲示板とします。休講・補講情報は変更することがありますので、必ず直前に掲示板を確認するようにしてください。また、代替講義日の休講は、通常講義と異なり Web の休講情報では対応していませんので、以下のページおよび学部掲示板で確認してください。

(塾生ページ URL) <http://www.gakuji.keio.ac.jp/>

[ブラウザ編]

- ① (1)の①から③までを参照して、Web システムにログインしてください。
- ② (1)の④(トップメニュー画面)の画面から[休講補講情報]ボタンをクリックしてください。
- ③ 自分の履修科目の休講情報、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索するキャンパスの対象を選択してください。また、検索期間の選択も同様に行ってください。選択が終了したら、[休講・補講情報を検索する]ボタンをクリックしてください。

法律学科

學習指導要項

法 律 学 科

学 習 指 導 要 項

この学習指導要項は、学則の実際の運用の仕方や、学則には明示されていない細則を解説したものです。皆さんがこれから三田で履修しようとする授業科目を決めるにあたっては、学則とこの指導要項を熟読し、各自の問題意識や研究関心に応じて主体的かつ体系的に科目を決定してください。なお、カリキュラム全体の枠組みや主旨、日吉に設置されている科目の履修については、日吉の履修案内を参照してください。

1. 平成 16 年度開講科目（下線のついてる科目は今年度開講されません）

種類	分野・分野番号・科目区分
外国語 科目	分野：01-10-01 必修 英語
	日吉設置 英語第Ⅰ(1) 英語第Ⅱ(レベル1)(1) 英語第Ⅱ(レベル2)(1)
	三田設置 英語第Ⅱ(1)
	分野：01-10-02 必修 ドイツ語(初級)
	日吉設置 ドイツ語第Ⅰ(1) ドイツ語第Ⅱ(1)
	分野：01-10-03 必修 フランス語(初級)
	日吉設置 フランス語第Ⅰ(1) フランス語第Ⅱ(1)
	分野：01-10-04 必修 中国語(初級)
	日吉設置 中国語第Ⅰ(1) 中国語第Ⅱ(1)
	分野：01-10-05 必修 スペイン語(初級)
	日吉設置 スペイン語第Ⅰ(1) スペイン語第Ⅱ(1)
	分野：01-10-06 必修 ロシア語(初級)
	日吉設置 ロシア語第Ⅰ(1) ロシア語第Ⅱ(1)
	分野：01-10-10 必修 朝鮮語(初級)
	日吉設置 朝鮮語第Ⅰ(1) 朝鮮語第Ⅱ(1)
	分野：01-10-13 必修 日本語(初級)
	日吉設置 日本語(1)
	分野：01-10-16 必修 イタリア語(初級)
	日吉設置 イタリア語第Ⅰ(1) イタリア語第Ⅱ(1)
	分野：01-10-51 必修 英語
	日吉設置 英語第Ⅱ(レベル3)(1) 英語第Ⅲ(1) 英語第Ⅳ(1) 英語インテンシブ(1) 外国語特殊(英語)(2)
	分野：01-10-52 必修 ドイツ語(中級)
	日吉設置 ドイツ語第Ⅲ(1) ドイツ語第Ⅳ(1) ドイツ語インテンシブ(1)
	分野：01-10-53 必修 フランス語(中級)
	日吉設置 フランス語第Ⅲ(1) フランス語第Ⅳ(1) フランス語インテンシブ(1)
	分野：01-10-54 必修 中国語(中級)
	日吉設置 中国語第Ⅲ(1) 中国語第Ⅳ(1) 中国語インテンシブ(1)
	分野：01-10-55 必修 スペイン語(中級)
	日吉設置 スペイン語第Ⅲ(1) スペイン語第Ⅳ(1) スペイン語インテンシブ(1)
	分野：01-10-56 必修 ロシア語(中級)
	日吉設置 ロシア語第Ⅲ(1) ロシア語第Ⅳ(1) ロシア語インテンシブ(1)
	分野：01-10-60 必修 朝鮮語(中級)
	日吉設置 朝鮮語第Ⅲ(1) 朝鮮語第Ⅳ(1)
	分野：01-10-63 必修 日本語(中級)
	日吉設置 日本語(1)
	分野：01-10-66 必修 イタリア語(中級)
	日吉設置 イタリア語第Ⅲ(1) イタリア語第Ⅳ(1)
	分野：01-20-01 選択 英語
	日吉設置 英語(1) 英語インテンシブ(1) 外国語特殊(英語)(2)
	三田設置 英語インテンシブ(1) 英語第Ⅴ(1)
分野：01-20-02 選択 ドイツ語	
日吉設置 ドイツ語(1) 初級ドイツ語演習(1) ドイツ語インテンシブ(1)	
三田設置 ドイツ語第Ⅴ(1) ドイツ語インテンシブ(1) ドイツ語速習(初級)(1) ドイツ語速習(中級)(1)	

外国語 科目	分野：01-20-03	選択 フランス語
	日吉設置	フランス語(1) フランス語インテンシブ(1) 初級フランス語演習(1)
	三田設置	フランス語第Ⅴ(1) フランス語インテンシブ(1)
	分野：01-20-04	選択 中国語
	日吉設置	中国語(1) 中国語インテンシブ(1)
	三田設置	中国語インテンシブ(1)
	分野：01-20-05	選択 スペイン語
	日吉設置	スペイン語(1) スペイン語インテンシブ(1)
	三田設置	スペイン語第Ⅴ(1) スペイン語インテンシブ(1)
	分野：01-20-06	選択 ロシア語
	日吉設置	ロシア語(1) ロシア語インテンシブ(1)
	三田設置	ロシア語インテンシブ(1)
	分野：01-20-10	選択 朝鮮語
	日吉設置	朝鮮語(1)
	三田設置	朝鮮語第Ⅴ(1)
	分野：01-20-11	選択 ラテン語
	日吉設置	ラテン語(1)
	三田設置	ラテン語(中級)(1)
分野：01-20-12	選択 ギリシャ語	
日吉設置	ギリシャ語(1)	
分野：01-20-14	選択 ポルトガル語	
日吉設置	ポルトガル語(1)	
三田設置	ポルトガル語第Ⅴ(中級)(1) ポルトガル語第Ⅵ(上級)(1)	
分野：01-20-15	選択 アラビア語	
日吉設置	アラビア語(1)	
分野：01-20-16	選択 イタリア語	
日吉設置	イタリア語(1)	
三田設置	イタリア語第Ⅴ(1)	
人文科学 科目	分野：02-20-01	選択
	日吉設置	言語学Ⅰ(2) 言語学Ⅱ(2) 言語学Ⅲ(2) 言語学Ⅳ(2) 地域文化論Ⅰ(2) 地域文化論Ⅱ(2) 地域文化論Ⅲ(2) 地域文化論Ⅳ(2) 文学(4) 歴史Ⅰ(2) 歴史Ⅱ(2) 歴史(4) 科学史(2) 論理学(4) 倫理学(4) 宗教学(4) 哲学(4) 音楽(4) 音楽Ⅰ(2) 音楽Ⅱ(2) 漢文(2) 美術(4) 人文科学特論Ⅰ(2) 人文科学特論Ⅱ(2) 人文総合講座(2)
	三田設置	人文科学研究会Ⅰ(2) 人文科学研究会Ⅱ(2) 人文科学研究会Ⅲ(2) 人文科学研究会Ⅳ(2)
自然科学 科目	分野：03-20-01	選択
	日吉設置	物理学(実験を含む)(6) 化学(実験を含む)(6) 生物科学(実験を含む)(6) 基礎数学Ⅰ(2) 基礎数学Ⅱ(2) 心理学Ⅰ(2) 心理学Ⅱ(2) 基礎統計学Ⅰ(2) 基礎統計学Ⅱ(2) 自然科学特論(2) 自然科学特論Ⅰ(2) 自然科学特論Ⅱ(2) 自然科学研究会Ⅰ(2) 自然科学研究会Ⅱ(2) 自然科学総合講座Ⅰ(2) 自然科学総合講座Ⅱ(2)
	三田設置	自然科学特論Ⅰ(2) 自然科学特論Ⅱ(2) 自然科学総合講座Ⅰ(2) 自然科学総合講座Ⅱ(2)
数学・統計・ 情報処理 科目	分野：04-20-01	選択 数学・統計・情報処理系列(1999年度以前入学者用) *科目名は下記と同様
	分野：04-20-11	選択 数学系列(2000年度以降入学者用)
	日吉設置	数学Ⅰ(2) 数学Ⅱ(2) 数学Ⅲ(2) 数学Ⅳ(2)
	三田設置	数学概論Ⅰ(2) 数学概論Ⅱ(2) 数学Ⅲ(2) 数学Ⅳ(2) 数学Ⅴ(2) 数学Ⅵ(2)
	分野：04-20-12	選択 統計系列(2000年度以降入学者用)
	日吉設置	統計学Ⅰ(2) 統計学Ⅱ(2) 統計学Ⅲ(2) 統計学Ⅳ(2)
	三田設置	統計学Ⅲ(2) 統計学Ⅳ(2) 統計学Ⅴ(2) 統計学Ⅵ(2)
分野：04-20-13	選択 情報処理系列(2000年度以降入学者用)	
日吉設置	情報処理Ⅰ(2) 情報処理Ⅱ(2) 情報処理Ⅲ(2) 情報処理Ⅳ(2)	
三田設置	情報処理Ⅴ(2) 情報処理Ⅵ(2) 統計情報処理Ⅰ(2) 統計情報処理Ⅱ(2)	
社会科学 科目	分野：05-10-01	必修
	日吉設置	法学(憲法を含む)(4)
	分野：05-11-01	選択必修
日吉設置	社会学(4) 地理学(4) 経済学(4) 政治学(4) 近代思想史(4)	
法律学 科目	分野：06-10-01	必修 憲法
	日吉設置	憲法Ⅰ(4)

法律学 科目	分野：06-10-02	必修 民法
	日吉設置	民法Ⅰ(4)
	分野：06-10-03	必修 刑法
	日吉設置	刑法Ⅰ(4)
	分野：06-20-01	選択 A系列
	日吉設置	憲法Ⅱ(4)
	三田設置	法理学(4) 国際法Ⅰ(4) 外国法(英米)(4) 外国法(独)(4) 外国法(仏)(4) 外国法(中)(4) 外国法(EU)(4) 外国法(ラテンアメリカ)(4)
	分野：06-20-02	選択 B系列
	日吉設置	民法Ⅱ(4) 民法Ⅲ(4)
	三田設置	民法Ⅳ(4) 民法Ⅴ(4)
	分野：06-20-03	選択 C系列
	日吉設置	刑法Ⅱ(4)
	三田設置	刑法Ⅲ(4) 刑事訴訟法(4) 刑事政策(4)
	分野：06-20-04	選択 D系列
	三田設置	商法Ⅰ(4) 商法Ⅱ(4) 商法Ⅲ(4) 民事訴訟法Ⅰ(4)
	分野：06-20-05	選択 E系列
	三田設置	行政法Ⅰ(4) 行政法Ⅱ(4) 労働法(4) 経済法(4)
分野：06-20-06	選択 F系列	
日吉設置	民法演習Ⅰ(4) 民法演習Ⅱ(4)	
三田設置	研究会(4) 憲法演習(4) 民法演習(4) 刑法演習(4) 刑事学演習(4) 商法演習(4) 行政法演習(4) 知的財産法演習(4) 国際私法演習(4) 刑事訴訟法演習(4) 民事訴訟法演習(4) 破産法演習(4) 刑事政策演習(4) 外国法演習(英米)(4) 外国法演習(独)(4) 外国法演習(仏)(4) 国際法演習(4) 社会法演習(4) 法思想史演習(4) 法制史演習(4) 環境法演習(4) 刑事法演習(4) 国際民事訴訟法演習(4)	
分野：06-20-07	選択 系列外	
日吉設置	法学情報処理(2) 団体会法(2) 法制史(基礎)(4)	
三田設置	行政法Ⅲ(4) 国際法Ⅱ(4) 担保法(4) 商法Ⅳ(4) 民事訴訟法Ⅱ(4) 破産法(4) 国際私法(4) 国際取引法(4) 航空・宇宙法(4) 犯罪学(4) 被害者学(4) 法制史(日本)(4) 法制史(東洋)(4) 法制史(西洋)(4) 法医学(4) 租税法(4) 国際租税法(4) 海洋法(4) 医事法(4) 信託法(4) 知的財産権法(4) 知的財産法(4) 裁判法(4) 社会保障法(4) 法とコンピュータ(4) 環境法(4) 証券取引法(4) 政策と法(4) 法と経済(2) 法思想史(4) 政治学Ⅰ(2) 政治学Ⅱ(2) 社会学Ⅰ(2) 社会学Ⅱ(2) 法社会学(4) 経済政策(4) 経済原論(4) 財政論(4) 金融論(4) 会計学(4) 経営学(4) 他学部等の専門的授業科目	
体育 科目 (2003年度以前は 保健体育科目)	分野：08-20-01	選択 講義系
	日吉設置	体育学講義(2) 体育学演習(1)
	分野：08-20-02	選択 実技系
自主選択 科目	日吉設置	体育実技A(1) 体育実技B(1)
	三田設置	体育実技A(1)
自由科目	分野：09-20-01	選択
		他学科または他学部および教授会の認める大学付設の研究所その他諸機関の授業科目で、あらかじめ当該授業科目の担当者および学習指導の承認を得た人文・自然・社会科学科目に相当するもの
	分野：10-30-01	自由
		進級および卒業資格とならない科目
	分野：11-30-01	自由
		教職課程センター設置科目

2. 進級・卒業に必要な授業科目とその単位数

(1) 第4学年に進級するために必要な授業科目・単位数

第3学年において履修する授業科目（自由科目を除き自主選択科目を含む）から、30単位以上合格することが必要です。ただし、必修として履修した外国語それぞれの語種につき、いまだ取得していない単位が4単位を超える場合には、1年間でそれを取得し終わることができませんので、第4学年に進級することはできません。

(2) 1999年度以前入学者 卒業するために必要な授業科目・単位数

授業科目の種類（分野）		内 容 等		単位数
外国語科目 (01-10-**)		「必修」として履修した語学		2科目各8単位
人文科学科目 (02-20-01)				8
自然科学科目 (03-20-01)		数学・統計・情報処理科目 (04-20-01) をもって替えることができる		8
社会科学科目 (05-**-**)		「法学（憲法を含む）」4単位を含む		8
法律学科目	必修科目	憲法Ⅰ，民法Ⅰ，刑法Ⅰ (06-10-**) 3科目12単位		88
	系列科目	A～F系列 (06-20-01, 02, 03, 04, 05, 06) 各系列2科目8単位，合計48単位以上		
	系列外科目	(06-20-07)		
自由科目を除くすべての科目 ²⁾				16
合 計				144

¹⁾ 系列科目のみで満たしてもかまいません。

²⁾ 卒業に必要な最低単位数を超過した人文科学，自然科学，数学・統計・情報処理，社会科学，法律学科目（必修科目を除く）を充当することができます。また，外国語科目選択，自主選択科目，体育科目（2003年度以前は保健体育科目）も含めることができます。

(3) 2000年度以降入学者 卒業するために必要な授業科目・単位数

授業科目の種類（分野）		内 容 等		単位数
外国語科目 (01-10-**)		「必修」として履修した語学		2科目各8単位
人文科学科目 (02-20-01)				8
自然科学科目 (03-20-01)		数学・統計・情報処理科目の数学系列(04-20-11)，統計系列(04-20-12)をもって替えることができる ¹⁾		8
社会科学科目 (05-**-**)		「法学（憲法を含む）」4単位を含む		8
法律学科目	必修科目	憲法Ⅰ，民法Ⅰ，刑法Ⅰ (06-10-**) 3科目12単位		88
	系列科目	A～F系列 (06-20-01, 02, 03, 04, 05, 06) 各系列2科目8単位，合計48単位以上		
	系列外科目	(06-20-07)		
自由科目を除くすべての科目 ²⁾				16
合 計				144

¹⁾ 数学・統計・情報処理科目の情報処理系列 (04-20-13) は替えることができません。

²⁾ 系列科目のみで満たしてもかまいません。

³⁾ 卒業に必要な最低単位数を超過した人文科学，自然科学，数学・統計・情報処理，社会科学，法律学科目（必修科目を除く）を充当することができます。また，外国語科目選択，自主選択科目，体育科目（2003年度以前は保健体育科目）も含めることができます。

3. 学士入学者の進級・卒業に必要な授業科目とその単位数

(1) 第4学年に進級するために必要な単位数

第3学年において履修する授業科目（自由科目を除く）から、30単位以上合格することが必要です。この中には、認定単位は含まれません。

(2) 卒業するために必要な授業科目・単位数

授業科目の種類		内 容 等		単位数
法律学科目	必修科目	憲法Ⅰ，民法Ⅰ，刑法Ⅰ (06-10-**) 3科目12単位		88
	系列科目	A～F系列 (06-20-01, 02, 03, 04, 05, 06) 各系列2科目8単位，合計48単位以上		
	系列外科目	(06-20-07)		
合 計				88

* 系列科目のみで満たしてもかまいません。

履修上の注意

各学年の履修単位数の最高限度はそれぞれ48単位とし、自由科目を含めて、56単位までとします。
ただし、教職課程教科に関する科目はこれに含まれません。

(1) 専門教育科目のうち必修科目および系列科目は、できるだけ第3学年までに履修を完了させるようにしてください。

(2) 第2学年までの必修科目等に不足単位のある者は、次に従って本年度必ず再履修してください。

① 外国語科目必修（英・独・仏・中・西・露・朝・日・伊）

すべて日吉において指定クラスで履修してください。詳細は別冊「法学部外国語科目履修案内」を参照してください。

② 法学（憲法を含む） 日吉において履修してください。

③ 法律学科目必修 日吉において履修してください。

④ その他の授業科目 三田において開講する授業科目を履修するか、または日吉において履修してください。

<日吉設置科目を履修する場合の注意>

(1) 三田・日吉の連続する時限の授業科目の履修は認めません。ただし、2・3時限についてはこの限りではありません。

(2) 日吉設置科目を履修した場合、試験日が重複することもあります。したがって日吉設置科目の履修は、第3学年で完了することが望ましいでしょう。やむを得ず第4学年で履修する場合は、履修科目に十分余裕をもたないと卒業できない場合もありますから特に注意してください。

(3) 2004年度から「保健体育科目」が「体育科目」の名称となり、科目名についても変更となります。この変更にもとない、今までに「体育理論」「保健衛生」を取得している場合、「体育学講義」「体育学演習」は履修することができません（自由科目扱い）。「体育実技科目」においてはその限りではありません（制限はありません）。

<三田設置科目を履修する場合の注意>

(1) 単位の計算方法

三田で履修する授業科目は講義・演習いずれも「週1時限・半年」の授業で2単位、「週1時限・通年」の授業で4単位、「週2時限・半年」の集中授業で4単位となります（例外もあります）。

(2) 再履修についての注意

前年度までに履修した授業科目はたとえ担当者が変わった場合でも再履修できません。

ただし、人文科学研究会、F系列の演習科目、体育実技科目、および不合格となった授業科目の履修についてはこの限りではありません。また、A系列の「外国法」については、(英米)・(独)・(仏)・(中)それぞれを別科目として履修することができます(4)を参照)。

(3) 演習科目を履修する際の注意

人文科学研究会、F系列の演習を履修する際、同一科目名であっても担当者が異なる場合には履修することができます。なお、人文科学研究会については担当者が同じ場合でも、「Ⅰ・Ⅲ」「Ⅱ・Ⅳ」を併設としましたので、第3学年でⅠとⅡを履修した場合は、第4学年でⅢとⅣを履修してください。

(4) 「外国法」を履修する際の注意

A系列の「外国法」を履修する際、(英米)・(独)・(仏)・(中)についてはそれぞれ別科目として履修することができますが、その場合は1科目のみが「A系列科目」として履修でき、2科目めからは「系列外科目」として履修することになります。履修申告のしかたは、31ページ「A・B欄に記入する授業科目」を参照してください。

(5) 法律学科の「研究会(3年)」、「研究会(4年)」は別科目とし、それぞれF系列の科目になります。

(6) 集中講義(商法Ⅰ・Ⅱ等)は一週2時限ずつ履修しなければなりません。

(7) 政治学科、他学部、研究所等に開講された授業科目を履修する場合の注意

三田に開講されている政治学科、他学部、および大学付設の研究所その他諸機関の専門的授業科目であらかじめ当該授業科目の担当者、および法律学科学習指導が承認した科目(4月当初より学事センターに「一覧表」を用意します)は、法律学科の「系列外科目」として履修することができます(なお、その場合に、法律学科設置科目と同一科目で、他学部・他学科では名称が異なる科目を別科目として履修することはできませんので注意してください)。

授業科目の履修にあたっては、必ず事前に履修を希望する授業科目の担当者の許可を口頭で得てから(承認印は不要)履修申告をしてください。

これらの授業科目は、直接法律学科の学生を対象に開講されている科目ではないために、その学科、学部、研究所等の規則、教育方針、施設の関係や担当者の教育上の配慮に基づいて履修が認められない場合もありますので、あらかじめ承知しておいてください。

また、あらかじめ法律学科学習指導の承認を得ていない授業科目については、「系列外科目」としては認められず、「自由科目」として履修することになります。

その他、研究所等設置科目の取扱いについては31ページの表を参照してください。

(8) 三田に開講される外国語科目について

三田キャンパスでは、次の外国語科目を開講します。これらの科目は「外国語科目選択」となりますので、日吉の「外国語科目必修」の単位に振り替えることはできません。週1回の授業について半期(春/秋)で1単位となります。

英 語：

「英語第Ⅴ」は週1回の授業で、春秋12コマ開講します。

ドイツ語：

「ドイツ語インテンシブ」は週4回の授業で、1コース開講します。週4回セットで履修してください。4月3日(土)10時から三田325-B番教室で選抜テストを行って履修者を決めます。新たに参加を希望する者は担当者(三瓶)に相談してください。

「ドイツ語速習」は初級1コース、中級1コースが開講されます。ドイツ語未習者を対象として、1年間で文献が読めるまでの力をつけることを目的とします。週1回ネイティブスピーカーの授業もあります。

「ドイツ語第Ⅴ」(春/秋)は週1回の授業で、春秋2コマ開講します。

フランス語：

「フランス語インテンシブ」は週4回の授業で、8コマのうち4つを選択して履修してください。

「フランス語第Ⅴ」(春/秋)は週1回の授業で、春秋3コマ開講します。

中 国 語：

「中国語インテンシブ」は週3回の授業で、1コース開講します。日吉からの3年連続コースですが、新たに参加を希望する者は代表担当者(安田)に相談してください。週1回の中・上級の授業を希望する者は政治学科の「文献講読Ⅰ・Ⅱ」に参加してください。

スペイン語：

「スペイン語インテンシブ」は週4回の授業で、1コース開講します。日吉からの3年連続コースですが、新たに参加を希望する者は担当者に相談してください。

「スペイン語第Ⅴ」(春/秋)は週1回の授業で、春秋3コマ開講します。

ロシア語：

「ロシア語インテンシブ」は週4回の授業で、1コース開講します。日吉からの3年連続コースですが、新たに参加を希望する者は担当者に相談してください。週1回の中・上級の授業を希望する者は政治学科の「文献講読Ⅰ・Ⅱ」に参加してください。

朝 鮮 語：

「朝鮮語第Ⅴ」(春/秋)は週1回の授業で、1コマ開講します。

イタリア語：

「イタリア語第Ⅴ」(春/秋)は週1回の授業で、1コマ開講します。

ポルトガル語：

「ポルトガル語第Ⅴ(中級)」(春/秋)、「ポルトガル語第Ⅵ(上級)」(春/秋)は週1回の授業で、それぞれ1コマ開講します。

ラテン語：

「ラテン語(中級)」(春/秋)は週1回の授業で、1コマ開講します。

それぞれの語学のインテンシブコース、および「ドイツ語速習」は1年を通じて受講すること、週3ないし4回の授業をセットとして受講することを原則とします。ほかの授業と重なる場合は、担当者に相談してください。なお、セットで履修できない場合はインテンシブコースは自由科目となりますので注意してください。

(9)「商法Ⅰ・Ⅱ」については、3年生・4年生ともに指定クラスで履修してください。

<不合格者、休学者、留学者に対する注意>

(1) 第3学年末に進級不合格となった者

不合格年度に履修合格した科目のうち、履修済みと認められる単位は、A・Bの評語を得た授業科目に限られます。ただし、外国語科目必修、体育科目、法律学科必修、自由科目、分野11-30-01の教職課程教科に関する科目はCの評語を得た授業科目も履修済みと認めます。

(2) 第4学年末に卒業不合格となった者

不合格年度に履修合格した科目はすべて履修済みと認めます。

(3) 休学者・留学者が当該年度の休学・留学期間以前に試験を受け、評語を取得できた科目については、履修済みと認めます(3・4年共通)。

<定期試験期間中の試験についての注意>

(1) 追加試験

① 追加試験は、履修申告を行った授業科目で、病気その他「やむを得ない理由」のため定期試験を受けられなかった授業科目について施行します(受験料=1科目につき2,000円)。

② 語学、演習科目、その他定期試験を行わず、レポート等により評価の定まる科目、定期試験期間以外で試験を行う科目は追加試験を行いません。

③ 受験を希望する者は、追加試験申込用紙(用紙は学事センターで交付)に、その理由を明らかにする診断書等の文書を添えて、指定する期日までに学事センター窓口で申し込んでください。詳細は定期試験時間割発表時に掲示します。

④ 追加試験による成績評語は、定期試験の場合のそれの一段階下の評語となります。ただし、司法試験のような国家試験等の受験を理由とした場合はこの限りではありません。

(2) 試験時間の重複により定期試験を受験できなかった授業科目の試験

① 三田と日吉の試験時間が重複したために定期試験期間中に受験できなかった授業科目の試験は、追加試験期間中に行います。

② この場合の受験は、追加試験扱いではなく、定期試験扱い(一段階下の評語にはなりません)となります。

③ この場合の受験も、追加試験申込用紙を用い、追加試験受験の場合と同じ手続きで申し込んでください(受験料不要)。

(3) 試験日程は春学期終了科目は8月5・6日(三田), その他の科目は2月下旬の予定です。

(4) 試験における不正行為

定期試験(レポートも含む)において不正行為(答案の持ち帰りも不正行為です)があった場合は、当該科目を不合格とし、当該年度に履修合格した他の全科目について減点します。追加試験の場合も同様です。なお、事情によっては、退学・停学の処分も行われますので厳正な態度をもって受験してください。

<退学について>

学則第156条の規定により、第3学年・第4学年に併せて4年間在学し、なお卒業できない場合、退学させられます。

なお、休学期間は在学年数に算入しません(休学願の提出については5ページを参照してください)。

<自主留年について>

4年生が卒業単位を満たした上、司法試験・公務員試験等の公的試験を理由にさらに翌年度の在学を希望する場合は、これを認めることがあります。在学を希望する者は、定められた日時までに本人・保証人連署の誓約書を添えて願出、学習指導の面接を受けなければなりません。日程は12月上旬に掲示します。自主留年を許可された年度においては、次の条件が課せられます。

① 在学を許可された年度は、1年間在籍しなければなりません。途中で籍を離れる場合は、退学となります。

② 在学を許可された年度には、自由科目を除き法律学科目(必修を除く)を1科目以上履修し、合格しなくてはなりません。最低1科目に合格しない場合、卒業不合格となり、当該年度の卒業はできないこととなります。

なお、9月卒業予定者のみ、理由を公的試験に限らず半年間の自主留年を認めることがあります。日程は5月上旬に掲示します。内容詳細については学事センター法学部係に問い合わせてください。

<クラス担任>

本年度のクラス担任は次のとおりです。学問的な研究の指導ばかりでなく、日常生活ないし就職など、学生生活の全般にわたって相談や助言が行われます。具体的な指導運営については必要に応じて担当者の指示があるはずですが、同時に学生諸君の自主的なクラス運営が望まれます。

クラス	第3学年	第4学年
A	西川 理恵子	北澤 安紀
B	安富 潔	森 征一
C	鈴木 千佳子	安富 潔
D	並木 和夫	齋藤 和夫
E	宮島 司	田村 次朗
F	岩谷 十郎	加藤 修
G	山本 爲三郎	北澤 安紀
H	坂原 正夫	駒村 圭吾
I	池田 真朗	吉村 典久
J	北澤 安紀	北澤 安紀
K	太田 達也	小林 節
L	高田 晴仁	武川 幸嗣
M	加藤 久雄	藤原 淳一郎
N	内藤 恵	北澤 安紀
O	三木 浩一	北澤 安紀
P	霞 信彦	安富 潔
Q	大森 正仁	安富 潔
R	オステン・フィリップ	安富 潔
S	安富 潔	犬伏 由子
T	小山 剛	安富 潔

法律学科の学習指導は次のとおりです。

教授 安富 潔

助教授 北澤 安紀

学習指導の面会は原則として授業期間内の金曜日の昼休みに、三田研究室1階の教員談話室で行います。ただし、5月以降面会希望者は前日木曜日午後4時までに学事センター法学部係まで申し込んでください。

履修申告のしかた

1. 履修申告について

(1) 申告方法について

『Web』による申告とします（なお、旧来の履修申告用紙での申告を完全に行わないということではありませんので、用紙を必要とする者は学事センター窓口（4月12日（月）・13日（火）の両日に限り）に取りにきてください。ただし、Webによる申告と履修申告用紙による申告を併用することはできませんので必ずどちらか一方で申告してください。

Webによる申告を行うと、即時にエラーチェックおよび進級・卒業の学則判定が行われます。エラーのある場合のみメッセージが表示されます（ただし、最終的な履修科目およびエラー等の確認は、自宅宛に送付する履修確認表で行ってください）。また、用紙の場合と異なり、誤登録・申告漏れ等によって希望どおりに申告できないという事態も軽減されます。

(2) Webによる申告

Web申告期間 4月15日（木）10:00～4月17日（土）11:00

p.15～の〈学事Webシステムの利用方法〉(1)履修の申告を参照してください。

(3) 履修申告用紙による申告

履修申告用紙提出日（場所：学事センター前受付ボックス）

第3・4学年 4月16日（金） 8:30～18:10

(4) 申告上の注意

申告にあたっては、2003年度の学業成績表を保証人宛に送付してありますので、各自保証人からそれを受け取り、取得した科目を確認し、「法律学科学習指導要項」、「履修申告のしかた」（本項）を熟読して申告してください。

申告後は、履修科目の変更・追加・取り消しを認めません。また、閲覧・照会にも応じません。Webによる申告をした場合は登録科目一覧画面を印刷、もしくはファイルで保存、履修申告用紙の場合はコピーをとり、時間割とともに控えとして保管してください。期日までに申告しない場合は、原則として修学の意志がないものとして退学処分になります（学則第188条）。

(5) 履修に関する疑問点、その他については申告以前に、学習指導または学事センター法学部係に問い合わせてください。

(6) 履修確認表（履修申告した授業科目のリスト）は5月上旬本人住所宛に送付します。確認のうえ、年度末まで大切に保管してください。

この確認を怠ったために生じた問題については、自己責任となります。確認期間は送付後約一週間（詳しくは掲示により指示します）とし、この期間を経過した後は確認が終了したものとみなします。

(7) 時間割は変更することがありますので、西校舎掲示板で確認のうえ申告してください。

(8) 申告していない授業科目を受験しても一切無効ですので、単位は取得できません。

2. 履修申告用紙（マークシート用紙）の記入方法等について

(1) 学籍等の記入方法

学部、学科、学年、組、氏名、学籍番号および提出日を記入してください（修士・博士の欄は記入の必要はありません）。学籍番号は数字で記入するとともに、該当する数字をマークしてください。

(2) 履修科目の記入方法

① 記入にあたっては、科目名、教員名と登録番号（5桁）に十分注意しHBもしくはBの鉛筆でマークしてください。

② 複数の教員が担当する科目は、時間割上段に記載されている教員名を記入してください。

③ 1つの授業科目には1つの登録番号が付いています。

集中講義、実験をとまなう科目等で複数の曜日・時限にわたって開講している授業科目についても、必ず登録番号は1か所のみ付いていますので、その登録番号をマークすることで、他の時限についても登録されます。この場合、番号の付いていない曜日・時限に別の科目を登録することはできませんので注意してください。

④ 形態欄は、その科目の形態（春（春学期集中も含む）・秋（秋学期集中も含む）・通年）を○で囲み、曜日・時限を記入してください。

⑤ 「無効マーク」にマークすると、その枠内について「無効」にすることができます。訂正は消しゴムを使用して修正することもできますが、跡が残ったり、黒くこすれたりした場合は、この「無効マーク」を利用してください。

⑥ 履修申告欄は[A]、[B]欄によって構成されています。どちらの欄に記入するかは次ページのとおりです。ただし、同一科目を[A]欄および[B]欄の両方に記入する必要はありません。

⑦ A・B欄に記入する授業科目

科目の種類	記入欄	分野の扱い	B欄分野	備考
法学学科設置科目 (日吉・三田とも) *開講科目表の分野どおり履修する場合	A欄	開講科目表どおり		
外国法の2科目めから (A系列で1科目を取得済、もしくは履修の場合)	A欄	系列外科目		時間割表の「系列外」の欄を参照。登録番号に注意してください。
外国語インテンシブをセット履修できない場合	B欄	自由科目	99	
政治学科・他学部の専門的授業科目	B欄	大半は系列外科目 (学事センターにて「一覧表」で確認)	55	履修申告前に必ず授業担当者の許可を得ること。
政治学科・他学部の人文・自然・社会科学科目	B欄	大半は自主選択科目 (学事センターで確認)	77	履修申告前に必ず授業担当者の許可を得ること。
他学部設置の外国語科目	B欄	外国語科目選択	01～16	各語種のB欄分野は次ページ参照。開講科目は「全学部共通外国語履修案内」参照。
外国語教育研究センター設置科目	B欄	外国語科目選択	01～16	各語種のB欄分野は次ページ参照。受講申込方法については194ページ参照。
言語文化研究所設置科目	B欄	外国語科目選択または自主選択科目	朝鮮語.....10 アラビア語.....15 その他 自主選択科目.....77	
メディア・コミュニケーション研究所設置科目	B欄	原則として系列外科目	55	例外……「時事英語Ⅰ・Ⅱ」「文章作法Ⅰ・Ⅱ」は自主選択科目(B欄77)、研究会(Ⅰ～Ⅵ)の4単位を超えた分は自由科目(B欄99)
国際センター設置科目 ¹⁾	B欄	自主選択科目または自由科目	自主選択科目.....77 自由科目.....99	分野の扱いについては、204ページ参照。
教職課程センター設置科目	B欄	(教職課程設置) 自由科目	95	履修上限には含まれません。教職課程登録者のみ履修可能。
情報処理教育室設置科目	B欄	自主選択科目	77	受講申込方法については197ページ参照。
知的資産センター設置科目	B欄	自主選択科目	77	
体育科目	B欄	体育科目	講義系81, 実技系82	履修申告方法については236ページ参照。
保健管理センター設置科目	B欄	自主選択科目	77	
教養研究センター設置科目	B欄	自主選択科目	77	
外国語学校設置科目	B欄	自由科目	99	入学手続が必要。173ページ参照。
その他、自由科目として履修する場合	B欄	自由科目	99	

注¹⁾ 他学部の科目との併設科目については、国際センター設置科目の時間割、登録番号ではなく、設置学部の時間割、登録番号を使用してください。(204ページの「履修取扱い」欄参照)。

B欄記入上の注意事項

分野欄：法律学科が定める分野を<B欄分野表>に従って2桁の数字を記入しマークしてください。

(3) 履修申告用紙の再交付について

- ① 履修申告用紙提出前の科目の訂正および変更等は、なるべく「無効マーク」を使用して無効にした上で別の記入欄に正しい科目を登録してください。それでも訂正し切れない場合は交換しますので、その履修申告用紙を持参の上、学事センター窓口へ申し出てください。
- ② 交付された履修申告用紙では記入欄が足りない場合も学事センター窓口へ申し出てください。そして、複数枚の申込用紙を提出する時には、申告用紙左上の欄(枚目/枚中)を記入してください。

3. 修正申告について

修正期間はあくまでも「修正」の期間ですので「変更・追加・取り消し」は一切認められません。

登録科目に誤りがあり、追加・削除をする場合は、修正申告用の履修申告用紙を使用してください。修正申告用の履修申告用紙は、修正申告の際に学事センターで配付します。

<B 欄分野表>

B 欄分野	意味する分野番号と科目区分			
01	01-20-01	外国語科目	選択	英語
02	01-20-02	〃	〃	ドイツ語
03	01-20-03	〃	〃	フランス語
04	01-20-04	〃	〃	中国語
05	01-20-05	〃	〃	スペイン語
06	01-20-06	〃	〃	ロシア語
10	01-20-10	〃	〃	朝鮮語
11	01-20-11	〃	〃	ラテン語
12	01-20-12	〃	〃	ギリシャ語
14	01-20-14	〃	〃	ポルトガル語
15	01-20-15	〃	〃	アラビア語
16	01-20-16	〃	〃	イタリア語
31	03-20-01	自然科学科目	選択	—
55	06-20-07	法律学科目	選択	系列外
81	08-20-01	体育科目	選択	講義系
82	08-20-02	〃	〃	実技系
77	09-20-01	自主選択科目	選択	—
99	10-30-01	自由科目	自由	—
95	11-30-01	(教職課程設置) 自由科目	自由	—

政治学科

學習指導要項

政治学科

政治学科

学習指導要項

この学習指導要項は、学則の実際の運用の仕方や、学則には明示されていない細則を解説したものです。皆さんがこれから三田で履修しようとする授業科目については、学則とこの指導要項を熟読し、その規定を守りながら、各自の問題意識や研究関心に応じて、主体的かつ体系的に決定してください。なお、日吉に設置されている科目の履修については、日吉の履修案内を参照してください。

1. 平成16年度開講科目（下線のついている科目は今年度開講されません）

種類	分野・分野番号・科目区分
外国語科目	分野：01-10-01 必修 英語
	日吉設置 英語第Ⅰ(1) 英語第Ⅱ(レベル1)(1) 英語第Ⅱ(レベル2)(1)
	三田設置 英語第Ⅱ(1)
	分野：01-10-02 必修 ドイツ語(初級)
	日吉設置 ドイツ語第Ⅰ(1) ドイツ語第Ⅱ(1)
	分野：01-10-03 必修 フランス語(初級)
	日吉設置 フランス語第Ⅰ(1) フランス語第Ⅱ(1)
	分野：01-10-04 必修 中国語(初級)
	日吉設置 中国語第Ⅰ(1) 中国語第Ⅱ(1)
	分野：01-10-05 必修 スペイン語(初級)
	日吉設置 スペイン語第Ⅰ(1) スペイン語第Ⅱ(1)
	分野：01-10-06 必修 ロシア語(初級)
	日吉設置 ロシア語第Ⅰ(1) ロシア語第Ⅱ(1)
	分野：01-10-10 必修 朝鮮語(初級)
	日吉設置 朝鮮語第Ⅰ(1) 朝鮮語第Ⅱ(1)
	分野：01-10-13 必修 日本語(初級)
	日吉設置 日本語(1)
	分野：01-10-16 必修 イタリア語(初級)
	日吉設置 イタリア語第Ⅰ(1) イタリア語第Ⅱ(1)
	分野：01-10-51 必修 英語
	日吉設置 英語第Ⅱ(レベル3)(1) 英語第Ⅲ(1) 英語第Ⅳ(1) 英語インテンシブ(1) 外国語特殊(英語)(2)
	分野：01-10-52 必修 ドイツ語(中級)
	日吉設置 ドイツ語第Ⅲ(1) ドイツ語第Ⅳ(1) ドイツ語インテンシブ(1)
	分野：01-10-53 必修 フランス語(中級)
	日吉設置 フランス語第Ⅲ(1) フランス語第Ⅳ(1) フランス語インテンシブ(1)
	分野：01-10-54 必修 中国語(中級)
	日吉設置 中国語第Ⅲ(1) 中国語第Ⅳ(1) 中国語インテンシブ(1)
	分野：01-10-55 必修 スペイン語(中級)
	日吉設置 スペイン語第Ⅲ(1) スペイン語第Ⅳ(1) スペイン語インテンシブ(1)
	分野：01-10-56 必修 ロシア語(中級)
	日吉設置 ロシア語第Ⅲ(1) ロシア語第Ⅳ(1) ロシア語インテンシブ(1)
	分野：01-10-60 必修 朝鮮語(中級)
	日吉設置 朝鮮語第Ⅲ(1) 朝鮮語第Ⅳ(1)
	分野：01-10-63 必修 日本語(中級)
	日吉設置 日本語(1)
	分野：01-10-66 必修 イタリア語(中級)
	日吉設置 イタリア語第Ⅲ(1) イタリア語第Ⅳ(1)
	分野：01-20-01 選択 英語
	日吉設置 英語(1) 外国語特殊(英語)(2)
	三田設置 英語インテンシブ(1) 英語第Ⅴ(1)
	分野：01-20-02 選択 ドイツ語
	日吉設置 ドイツ語(1) 初級ドイツ語演習(1) ドイツ語インテンシブ(1)
三田設置 ドイツ語第Ⅴ(1) ドイツ語インテンシブ(1) ドイツ語速習(初級)(1) ドイツ語速習(中級)(1)	

外国語 科目	分野：01-20-03	選択 フランス語
	日吉設置	フランス語(1) フランス語インテンシブ(1) 初級フランス語演習(1)
	三田設置	フランス語第Ⅴ(1) フランス語インテンシブ(1)
	分野：01-20-04	選択 中国語
	日吉設置	中国語(1) 中国語インテンシブ(1)
	三田設置	中国語インテンシブ(1)
	分野：01-20-05	選択 スペイン語
	日吉設置	スペイン語(1) スペイン語インテンシブ(1)
	三田設置	スペイン語第Ⅴ(1) スペイン語インテンシブ(1)
	分野：01-20-06	選択 ロシア語
	日吉設置	ロシア語(1) ロシア語インテンシブ(1)
	三田設置	ロシア語インテンシブ(1)
	分野：01-20-10	選択 朝鮮語
	日吉設置	朝鮮語(1)
	三田設置	朝鮮語第Ⅴ(1)
	分野：01-20-11	選択 ラテン語
	日吉設置	ラテン語(1)
	三田設置	ラテン語(中級)(1)
分野：01-20-12	選択 ギリシャ語	
日吉設置	ギリシャ語(1)	
分野：01-20-14	選択 ポルトガル語	
日吉設置	ポルトガル語(1)	
三田設置	ポルトガル語第Ⅴ(中級)(1) ポルトガル語第Ⅵ(上級)(1)	
分野：01-20-15	選択 アラビア語	
日吉設置	アラビア語(1)	
分野：01-20-16	選択 イタリア語	
日吉設置	イタリア語(1)	
三田設置	イタリア語第Ⅴ(1)	
人文科学 科目	分野：02-20-01	選択
	日吉設置	言語学Ⅰ(2) 言語学Ⅱ(2) 言語学Ⅲ(2) 言語学Ⅳ(2) 地域文化論Ⅰ(2) 地域文化論Ⅱ(2) 地域文化論Ⅲ(2) 地域文化論Ⅳ(2) 文学(4) 歴史Ⅰ(2) 歴史Ⅱ(2) 歴史(4) 科学史(2) 論理学(4) 倫理学(4) 宗教学(4) 哲学(4) 音楽(4) 音楽Ⅰ(2) 音楽Ⅱ(2) 漢文(2) 美術(4) 人文科学特論Ⅰ(2) 人文科学特論Ⅱ(2) 人文総合講座(2)
	三田設置	人文科学研究会Ⅰ(2) 人文科学研究会Ⅱ(2) 人文科学研究会Ⅲ(2) 人文科学研究会Ⅳ(2)
自然科学 科目	分野：03-20-01	選択
	日吉設置	物理学(実験を含む)(6) 化学(実験を含む)(6) 生物科学(実験を含む)(6) 基礎数学Ⅰ(2) 基礎数学Ⅱ(2) 心理学Ⅰ(2) 心理学Ⅱ(2) 基礎統計学Ⅰ(2) 基礎統計学Ⅱ(2) 自然科学特論(2) 自然科学特論Ⅰ(2) 自然科学特論Ⅱ(2) 自然科学研究会Ⅰ(2) 自然科学研究会Ⅱ(2) 自然科学総合講座Ⅰ(2) 自然科学総合講座Ⅱ(2)
	三田設置	自然科学特論Ⅰ(2) 自然科学特論Ⅱ(2) 自然科学総合講座Ⅰ(2) 自然科学総合講座Ⅱ(2)
数学・統計・ 情報処理 科目	分野：04-20-01	選択 数学・統計・情報処理系列(1999年度以前入学者用) *科目名は下記と同様
	分野：04-20-11	選択 数学系列(2000年度以降入学者用)
	日吉設置	数学Ⅰ(2) 数学Ⅱ(2) 数学Ⅲ(2) 数学Ⅳ(2)
	三田設置	数学概論Ⅰ(2) 数学概論Ⅱ(2) 数学Ⅲ(2) 数学Ⅳ(2) 数学Ⅴ(2) 数学Ⅵ(2)
	分野：04-20-12	選択 統計系列(2000年度以降入学者用)
	日吉設置	統計学Ⅰ(2) 統計学Ⅱ(2) 統計学Ⅲ(2) 統計学Ⅳ(2)
	三田設置	統計学Ⅲ(2) 統計学Ⅳ(2) 統計学Ⅴ(2) 統計学Ⅵ(2)
分野：04-20-13	選択 情報処理系列(2000年度以降入学者用)	
日吉設置	情報処理Ⅰ(2) 情報処理Ⅱ(2) 情報処理Ⅲ(2) 情報処理Ⅳ(2)	
三田設置	情報処理Ⅴ(2) 情報処理Ⅵ(2) 統計情報処理Ⅰ(2) 統計情報処理Ⅱ(2)	
社会科学 科目	分野：05-10-11	必修 社会学系列
	日吉設置	社会学(4)
	分野：05-10-12	必修 法学系列
	日吉設置	法学(憲法を含む)(4) 憲法(4) 民法Ⅰ(4) 民法Ⅱ(4)
分野：05-10-13	必修 経済学・商学系列	
日吉設置	経済原論Ⅰ(4) 経済原論Ⅱ(4)	

社会科学 科目	分野：05-11-12	選択必修 法学系列
	日吉設置	行政法(4) 刑法(4) 国際法(4)
	分野：05-11-13	選択必修 経済学・商学系列
	三田設置	経済政策(4) 財政論(4) 国際経済論(4)
	分野：05-20-11	選択 社会学系列
	日吉設置	社会心理学Ⅰ(4) 社会心理学Ⅱ(4) 文化人類学Ⅰ(4) 文化人類学Ⅱ(4)
	分野：05-20-12	選択 法学系列
	三田設置	民法Ⅲ(4) 商法Ⅰ(4) 商法Ⅱ(4) 労働法(4) 経済法(4) 犯罪学(4)
分野：05-20-13	選択 経済学・商学系列	
三田設置	計量経済学(4) 経済史(4) 日本経済論(4) 金融論(4) 労働経済論(4) 社会保障論(4) 経営学(4) 会計学(4)	
政治学 科目	分野：07-10-01	必修 基礎科目
	日吉設置	政治学基礎Ⅰ(2) 政治学基礎Ⅱ(2) 政治思想基礎(2) 日本政治基礎(2) 地域研究基礎(2) 国際政治基礎(2)
	分野：07-20-01	選択・系列科目 政治思想論
	日吉設置	政治文化論(2) 民主主義思想論Ⅰ(2)
	三田設置	近代政治思想史Ⅰ(2) 近代政治思想史Ⅱ(2) 現代政治思想Ⅰ(2) 政治哲学Ⅰ(2) 政治哲学Ⅱ(2) 政治理論史Ⅰ(2) 政治理論史Ⅱ(2) 政治理論史Ⅲ(2) 政治理論史Ⅳ(2) 中世政治思想(2) *東洋政治思想史Ⅰ(2) *東洋政治思想史Ⅱ(2) *日本政治思想史Ⅰ(2) *日本政治思想史Ⅱ(2) 現代政治思想特殊研究Ⅰ(2) *日本政治思想史特殊研究Ⅰ(2) 政治理論史特殊研究Ⅰ(2)
	分野：07-20-02	選択・系列科目 政治・社会論
	日吉設置	行政学Ⅰ(2) 行政学Ⅱ(2) 社会変動論Ⅰ(2) *マス・コミュニケーション論Ⅰ(2)
	三田設置	アメリカの司法と政治(2) 行政学特論Ⅰ(2) 行政学特論Ⅱ(2) 現代行政論Ⅰ(2) 現代社会理論Ⅰ(2) 現代社会理論Ⅱ(2) 現代政治理論Ⅰ(2) 現代政治理論Ⅱ(2) 公共経済論Ⅰ(2) 公共経済論Ⅱ(2) *国際コミュニケーション論Ⅰ(2) *国際コミュニケーション論Ⅱ(2) 国家論Ⅰ(2) シヴィル・ソサエティ論(2) 社会成層論Ⅰ(2) 社会調査論Ⅰ(2) 社会調査論Ⅱ(2) 社会変動論Ⅱ(2) 政治過程論Ⅰ(2) 政治過程論Ⅱ(2) *政治経済システム論(2) 政治権力論Ⅰ(2) 政治権力論Ⅱ(2) 地域社会論Ⅰ(2) 地域社会論Ⅱ(2) *マス・コミュニケーション発達史Ⅰ(2) *マス・コミュニケーション発達史Ⅱ(2) *マス・コミュニケーション論Ⅰ(2) *マス・コミュニケーション論Ⅱ(2) メディア社会論Ⅰ(2) メディア社会論Ⅱ(2) 現代社会理論特殊研究Ⅰ 国家論特殊研究Ⅰ(2) 社会成層論特殊研究Ⅰ(2) 社会変動論特殊研究Ⅰ(2) 政治過程論特殊研究Ⅰ(2) 政治権力論特殊研究Ⅰ(2) 地域社会論特殊研究Ⅰ(2) *マス・コミュニケーション論特殊研究Ⅰ(2)
	分野：07-20-03	選択・系列科目 日本政治論
	日吉設置	*日本外交史Ⅰ(2) 日本政治運動史Ⅰ(2) *マス・コミュニケーション論Ⅰ(2) 近代日本政治史Ⅰ(2)
三田設置	近世日本政治史Ⅰ(2) 近世日本政治史Ⅱ(2) 近代日本政治史Ⅱ(2) 近代日本政党史Ⅰ(2) 近代日本政党史Ⅱ(2) 現代日本行政論Ⅰ(2) 現代日本行政論Ⅱ(2) 現代日本政治論Ⅰ(2) 現代日本政治論Ⅱ(2) 古代日本政治史Ⅰ(2) 古代日本政治史Ⅱ(2) 中世日本政治史Ⅰ(2) 中世日本政治史Ⅱ(2) *日本外交史Ⅱ(2) 日本行政史Ⅰ(2) 日本行政史Ⅱ(2) 日本政治運動史Ⅰ(2) 日本政治運動史Ⅱ(2) *日本政治思想史Ⅰ(2) *日本政治思想史Ⅱ(2) *マス・コミュニケーション発達史Ⅰ(2) *マス・コミュニケーション発達史Ⅱ(2) *マス・コミュニケーション論Ⅰ(2) *マス・コミュニケーション論Ⅱ(2) 近代日本政治史特殊研究Ⅰ(2) 近代日本政治史特殊研究Ⅱ(2) 古代日本政治史特殊研究Ⅰ(2) 日本行政史特殊研究Ⅱ(2) *日本政治思想史特殊研究Ⅰ(2) *マス・コミュニケーション論特殊研究Ⅰ(2)	

政治学 科目	分野：07-20-04	選択・系列科目 地域研究論
	日吉設置	アフリカ現代史Ⅰ(2) 中国政治史Ⅰ(2)
	三田設置	*NGO・NPO論Ⅰ(2) アフリカ現代史Ⅰ(2) アフリカ社会論Ⅰ(2) アフリカ社会論Ⅱ(2) アメリカ政治史(4) アメリカ政治史Ⅰ(2) アメリカ政治史Ⅱ(2) イスラーム社会論Ⅰ(2) イスラーム社会論Ⅱ(2) ヨーロッパ政治史Ⅰ(2) ヨーロッパ政治史Ⅱ(2) *開発援助政策論Ⅰ(2) *開発援助政策論Ⅱ(2) 現代アフリカ論Ⅱ(2) 現代アメリカ論Ⅰ(2) 現代オーストラリア論Ⅰ(2) 現代台湾論(2) 現代中国論Ⅰ(2) 現代中国論Ⅱ(2) 現代中東論Ⅰ(2) 現代中東論Ⅱ(2) *現代朝鮮論Ⅰ(2) *現代朝鮮論Ⅱ(2) 現代ラテン・アメリカ論Ⅱ(2) 現代ロシア論Ⅰ(2) 西洋法制史(4) 中国政治史Ⅰ(2) 中国政治史Ⅱ(2) 中国法制史(4) *東洋政治思想史Ⅰ(2) *東洋政治思想史Ⅱ(2) グローバル化のなかの地域政治(2) 比較地域研究論Ⅰ(2) 比較地域研究論Ⅱ(2) 比較地域研究論Ⅲ(2) 現代中国論特殊研究Ⅰ(2) *現代朝鮮論特殊研究Ⅰ(2) *現代朝鮮論特殊研究Ⅱ(2) *現代東南アジア論特殊研究Ⅰ(2) *現代東南アジア論特殊研究Ⅱ(2) 地域研究論特殊研究Ⅰ(2) 比較地域研究論特殊研究Ⅰ(2)
	分野：07-20-05	選択・系列科目 国際政治論
	日吉設置	国際政治論Ⅰ(2) 国際政治論Ⅱ(2) 西洋外交史Ⅰ(2) *日本外交史Ⅰ(2)
	三田設置	*NGO・NPO論Ⅰ(2) 安全保障論(2) *開発援助政策論Ⅰ(2) *開発援助政策論Ⅱ(2) 現代国際政治Ⅰ(2) 現代国際政治Ⅱ(2) *現代朝鮮論Ⅰ(2) *現代朝鮮論Ⅱ(2) 現代ヨーロッパの国際関係Ⅰ(2) 現代ヨーロッパの国際関係Ⅱ(2) 現代ヨーロッパの国際関係Ⅲ(2) 現代ヨーロッパの国際関係Ⅳ(2) *国際コミュニケーション論Ⅰ(2) *国際コミュニケーション論Ⅱ(2) 国際政治経済論Ⅰ(2) 国際政治経済論Ⅱ(2) 国際政治理論Ⅰ(2) 国際政治理論Ⅱ(2) *政治経済システム論(2) 西洋外交史Ⅱ(2) *日本外交史Ⅱ(2) 現代国際政治特殊研究Ⅰ(2) 現代国際政治特殊研究Ⅱ(2) *現代朝鮮論特殊研究Ⅰ *現代朝鮮論特殊研究Ⅱ *現代東南アジア論特殊研究Ⅰ(2) *現代東南アジア論特殊研究Ⅱ(2) 国際政治経済論特殊研究Ⅰ(2) 国際政治理論特殊研究Ⅰ(2) 西洋外交史特殊研究Ⅰ(2) 西洋外交史特殊研究Ⅱ(2)
	分野：07-20-06	選択・系列科目 研究会
	三田設置	研究会(4) 研究会(2) (2004年度以降第3学年に進級した者)
	分野：07-20-07	選択・系列科目 文献講読
	三田設置	文献講読Ⅰ(2) 文献講読Ⅱ(2)
分野：07-20-08	選択・系列科目 政治学総合講座	
三田設置	戦後世界と日本(2)	
分野：07-22-01	選択・集中学習科目	
日吉設置	演習Ⅰ(2) 演習Ⅱ(英書講読)(2)	
体育 科目 (2003年度以前は 保健体育科目)	分野：08-20-01	選択 講義系
	日吉設置	体育学講義(2) 体育学演習(1)
	分野：08-20-02	選択 実技系
	日吉設置	体育実技A(1) 体育実技B(1)
三田設置	体育実技A(1)	
自主選択 科目	分野：09-20-01	選択
		他学科または他学部および教授会の認める大学付設の研究所その他諸機関の授業科目で、あらかじめ当該授業科目の担当者および学習指導の承認を得たもの
自由科目	分野：10-30-01	自由
		進級および卒業資格とならない科目
	分野：11-30-01	自由
	教職課程設置科目	

* 政治学科目の選択・系列科目のうち*印は、2つの系列に属している科目であることを示します。

2. 進級・卒業に必要な授業科目とその単位数

(1) 第4学年に進級するために必要な授業科目・単位数

第3学年において履修する授業科目（自由科目を除く）から、30単位以上合格することが必要です。ただし、必修として履修した外国語それぞれの語種につき、いまだ取得していない単位が4単位を超える場合には、1年間でそれを取得し終わることができませんので、第4学年に進級することはできません。

(2) 1999年度以前入学者 卒業するために必要な授業科目・単位数

授業科目の種類（分野）		内容等	単位数	
外国語科目 (01-10-**)		「必修」として履修した語学 2科目各8単位	16	
人文科学科目 (02-20-01)			8	
自然科学科目 (03-20-01)		数学・統計・情報処理科目 (04-20-01) をもって替えることができる	8	
社会科学科目		社会学、法学（憲法を含む） 憲法、民法Ⅰ・Ⅱ、 経済原論Ⅰ・Ⅱ } (05-10-**) 必修7科目計28単位	36	
		行政法・国際法・刑法のうち (05-11-12) 1科目4単位		
		経済政策・財政論・国際経済論のうち (05-11-13) 1科目4単位		
政治学科目 ¹⁾	基礎科目	政治学基礎Ⅰ・Ⅱ、政治思想基礎、日本政治基礎、 地域研究基礎、国際政治基礎 } (07-10-01) 必修6科目計12単位	52	
	選択 系列科目	政治思想論系列 (07-20-01) 4単位以上		40単位 以上
		政治・社会論系列 (07-20-02) 4単位以上		
		日本政治論系列 (07-20-03) 4単位以上		
		地域研究論系列 (07-20-04) 4単位以上		
		国際政治論系列 (07-20-05) 4単位以上		
	研究会 (07-20-06)、文献講読Ⅰ・Ⅱ (07-20-07)			
自由科目を除くすべての科目 ²⁾ (10-30-01, 11-30-01 以外)			24	
合 計			144	

¹⁾ 演習Ⅰ、演習Ⅱ（英書講読）(07-22-01) は政治学科目ですが、系列科目ではありません。

²⁾ 卒業に必要な最低単位数を超過した人文科学、自然科学、数学・統計・情報処理、社会科学、政治学科目（基礎科目を除く）を充当することができます。また、外国語科目選択、自主選択科目、体育科目（2003年度以前は保健体育科目）も含めることができます。

(3) 2000年度以降入学者 卒業するために必要な授業科目・単位数

授業科目の種類（分野）		内容等	単位数	
外国語科目 (01-10-**)		「必修」として履修した語学 2科目各8単位	16	
人文科学科目 (02-20-01)			8	
自然科学科目 (03-20-01)		数学・統計・情報処理科目の数学系列 (04-20-11)、統計系列 (04-20-12) をもって替えることができる ¹⁾	8	
社会科学科目		社会学、法学（憲法を含む） 憲法、民法Ⅰ・Ⅱ、 経済原論Ⅰ・Ⅱ } (05-10-**) 必修7科目計28単位	36	
		行政法・国際法・刑法のうち (05-11-12) 1科目4単位		
		経済政策・財政論・国際経済論のうち (05-11-13) 1科目4単位		
政治学科目 ²⁾	基礎科目	政治学基礎Ⅰ・Ⅱ、政治思想基礎、日本政治基礎、 地域研究基礎、国際政治基礎 } (07-10-01) 必修6科目計12単位	52	
	選択 系列科目	政治思想論系列 (07-20-01) 4単位以上		40単位 以上
		政治・社会論系列 (07-20-02) 4単位以上		
		日本政治論系列 (07-20-03) 4単位以上		
		地域研究論系列 (07-20-04) 4単位以上		
		国際政治論系列 (07-20-05) 4単位以上		
	研究会 (07-20-06)、文献講読Ⅰ・Ⅱ (07-20-07)			
自由科目を除くすべての科目 ³⁾ (10-30-01, 11-30-01 以外)			24	
合 計			144	

¹⁾ 数学・統計・情報処理科目の情報処理系列 (04-20-13) は替えることができません。

²⁾ 演習Ⅰ、演習Ⅱ（英書講読）(07-22-01) は政治学科目ですが、系列科目ではありません。

³⁾ 卒業に必要な最低単位数を超過した人文科学、自然科学、数学・統計・情報処理、社会科学、政治学科目（基礎科目を除く）を充当することができます。また、外国語科目選択、自主選択科目、体育科目（2003年度以前は保健体育科目）も含めることができます。

3. 学士入学者の進級・卒業に必要な授業科目とその単位数

(1) 第4学年に進級するために必要な授業科目・単位数

第3学年において履修する授業科目（自由科目を除く）から、30単位以上合格することが必要です。ただし、進級に必要な「30単位以上」の中に、認定された単位のうち、最大16単位を繰り入れることができます。

(2) 卒業するために必要な授業科目・単位数

授業科目の種類		内 容 等	単位数
社会科学科目		社会学，法学（憲法を含む） 憲法，民法Ⅰ・Ⅱ， 経済原論Ⅰ・Ⅱ	(05-10-**) 必修7科目計28単位 行政法・国際法・刑法のうち (05-11-12) 1科目4単位 経済政策・財政論・国際経済論のうち (05-11-13) 1科目4単位
		行政法・国際法・刑法のうち (05-11-12)	
		経済政策・財政論・国際経済論のうち (05-11-13)	
政治学科目 ^{a)}	基礎科目	政治学基礎Ⅰ・Ⅱ，政治思想基礎，日本政治基礎， 地域研究基礎，国際政治基礎	(07-10-01) 必修6科目計12単位
	選択 系列科目	政治思想論系列 (07-20-01)	4単位以上
		政治・社会論系列 (07-20-02)	4単位以上
		日本政治論系列 (07-20-03)	4単位以上
		地域研究論系列 (07-20-04)	4単位以上
		国際政治論系列 (07-20-05)	4単位以上
	研究会 (07-20-06)，文献講読Ⅰ・Ⅱ (07-20-07)		
合 計			88

* 演習Ⅰ，演習Ⅱ（英書講読）(07-22-01)は政治学科目ですが，系列科目ではありません。

履修上の注意

<無理のない計画的な履修を！>

(1) 2000年度以前入学者

各学年で履修できる単位数に制限がありません。だからといってむやみに履修申告を行うと、途中で放棄したすべての科目にD(不合格)の評価がつくだけでなく、少人数制をとる科目が増設されていますので、定員からあふれ、履修したくても履修できなかった他の学生に大変な迷惑をかけることになります。自分なりに計画をたてた、密度の高い学習をこころがけてください。

2001年度以降入学者

各学年の履修単位数の最高限度はそれぞれ52単位です。52単位を超える場合は、「自由科目」として履修してください。自分なりに計画をたてた、密度の高い学習をこころがけてください。

なお、履修申告にあたっては、今までどおり、通年・春学期・秋学期科目すべての申告を原則としますが、履修上限が設定されたことにともない、秋学期に「政治学科目」についてのみ、履修上限の範囲内での「追加のみ(削除は認めない)」認めることとします。

たとえば、春学期に48単位を申告。春学期に不合格となった科目があり、一部の政治学科目系列科目の単位が満たせない場合など、4単位まで追加することができます。

- (2) 下級学年に配当されている必修科目等の単位の不足がある3年生は、今年度中に必ず再履修するようにしてください。第3学年から第4学年への進級の条件は、30単位ですが、必修科目を取り残したまま第4学年に進級しても、履修科目数に十分な余裕がないと卒業できない場合もありますので特に注意が必要です。

<日吉設置科目を履修する場合の注意>

(1) 外国語科目必修

すべて日吉において指定クラスで履修してください。詳細は別冊「法学部外国語科目履修案内」を参照してください。

(2) 社会科学科目

すべて日吉において再履修してください。再履修にあたってはクラス指定はありません。同一名称の科目が他学部等の三田の科目に存在しても、特別の場合を除きそれを代替科目とは認めません。

(3) 政治学科目基礎科目

すべて日吉において再履修してください。再履修にあたってはクラス指定はありません。

(4) 体育科目

2004年度から「保健体育科目」が「体育科目」の名称となり、科目名についても変更となります。この変更にともない、今までに「体育理論」「保健衛生」を取得している場合、「体育学講義」「体育学演習」は履修することができません(自由科目扱い)。「体育実技科目」においてはその限りではありません(制限はありません)。

(5) その他の科目

人文科学科目、自然科学科目、数学・統計・情報処理科目、社会科学科目、政治学科目系列科目、演習Ⅰ・Ⅱ、体育科目など、その他の日吉設置科目を自分の関心や研究テーマとの関連から履修することはかまいません。

なお、三田・日吉の連続する時限の授業科目の履修は、移動時間が必要ですので、2・3限の場合以外認めません。また、日吉設置科目を履修した場合、三田と日吉の試験日が重複することもありますから、あらかじめ承知しておいてください(この場合、追加試験日程で受験することになります)。

<三田設置科目を履修する場合の注意>

(1) 外国語科目

三田に設置される外国語科目はすべて「外国語科目選択」になりますので、日吉の「外国語科目必修」の単位に振り替えることはできません。

英語：

「英語第Ⅴ」は週1回の授業で、春秋12コマ開講します。

ドイツ語：

「ドイツ語インテンシブ」は週4回の授業で、1コース設置します。週4回セットで履修してください。4月3日(土)10時から三田325-B番教室で選抜テストを行って履修者を決定します。新たに参加を希望する者は担当者(三瓶)に相談してください。

「ドイツ語速習」は初級1コース、中級1コース設置します。ドイツ語未習者を対象として、1年間で文献が読めるまでの力をつけることを目的とします。週1回ネイティブスピーカーの授業もあります。

「ドイツ語第Ⅴ」は週1回の授業で、春秋2コマ開講します。

フランス語：

「フランス語インテンシブ」は週4回の授業で、8クラスのうち4つを選択して履修してください。

「フランス語第Ⅴ」は週1回の授業で、春秋3コマ開講します。

中国語：

「中国語インテンシブ」は週3回の授業で、1コース開講します。日吉からの3年連続コースですが、新たに参加を希望する者は代表担当者（安田）に相談してください。中・上級レベルの授業を希望する者は週1回の「文献講読Ⅰ・Ⅱ」に参加してください。

スペイン語：

「スペイン語インテンシブ」は週4回の授業で、1コース開講します。日吉からの3年連続コースですが、新たに参加を希望する者は担当者に相談してください。

「スペイン語第Ⅴ」は週1回の授業で、春秋3コマ開講します。

ロシア語：

「ロシア語インテンシブ」は週4回の授業で、1コース開講します。日吉からの3年連続コースですが、新たに参加を希望する者は担当者に相談してください。中・上級レベルの授業を希望する者は週1回の「文献講読Ⅰ・Ⅱ」に参加してください。

朝鮮語：

「朝鮮語第Ⅴ」は週1回の授業で、春秋1コマ開講します。

イタリア語：

「イタリア語第Ⅴ」は週1回の授業で、春秋1コマ開講します。

ポルトガル語：

「ポルトガル語第Ⅴ（中級）」、「ポルトガル語第Ⅵ（上級）」は週1回の授業で、それぞれ春秋1コマ開講します。

ラテン語：

「ラテン語（中級）」は週1回の授業で、春秋1コマ開講します。

それぞれの語学のインテンシブコース、および「ドイツ語速習」は1年を通じて受講すること、週3ないし4回の授業をセットとして受講することを原則とします。ほかの授業と重なる場合は、担当者に相談してください。なお、セットで履修できない場合はインテンシブコースは自由科目となりますので注意してください。

(2) 人文科学科目

三田設置の人文科学科目として人文科学研究会Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳが設置されます。これは人文科学分野の演習形式の授業ですので、履修者は少人数に制限されることとなります。具体的な履修者の選考方法は研究会によって異なりますので、初回の授業に必ず出席してください。担当者が異なる場合は、同一科目名の履修も可能です。なお、担当者が同じ場合でも、人文科学研究会については「Ⅰ・Ⅲ」「Ⅱ・Ⅳ」を併設としましたので、第3学年でⅠとⅡを履修した場合は、第4学年でⅢとⅣを履修してください。

(3) 自然科学科目、数学・統計・情報処理科目

数学や情報処理科目など、科目の性質上、基礎的科目の履修済みが条件として要求されるもの、コンピュータの使用の関係で、履修者に制限のある科目もありますので、講義要綱や授業開始頃の掲示に注意してください。なお、情報処理科目には、法学部設置の科目とは別に、情報処理教育室開講の科目もありますので（本冊子197ページ以降を参照のこと）混同しないようにしてください。

(4) 社会科学科目

社会科学科目の中で、**経済政策、財政論、国際経済論のうちの1科目が必修**です。3年生のうちに1科目以上を履修し終わることが望ましいでしょう。平成16年度は国際経済論を5コマ（内1クラスは集中講義）設置します（他は各1コマ）。「国際経済論」は他学部では別の名前の授業科目ですが、法学部では同一科目名の授業科目となりますので、**担当者が異なる場合でも同一科目を二つ以上履修することはできませんので注意してください。**

(5) 政治学科目系列科目

卒業までに「政治思想論系列」、「政治・社会論系列」、「日本政治論系列」、「地域研究論系列」、「国際政治論系列」の5系列の中から、各系列とも4単位以上、また文献講読Ⅰ・Ⅱ、研究会も含めて合計40単位以上の履修が必要です。これにはもちろん、日吉で開講されている行政学Ⅰ・Ⅱなどの系列科目の単位も含まれます。

(6) 文献講読Ⅰ・Ⅱ

イ) 文献講読は、大学院への進学や外国語の政治学文献の読解力を高めたい意欲ある学生のための科目です。

ロ) 文献講読の履修にあたっては、担当者が適当と認める方法で受講者を制限する場合がありますので、講義要綱を十分に参照すると同時に授業開始頃の掲示にも注意し、初回の授業に必ず出席してください。

ハ) 文献講読の授業への出席が全体の3分の2に満たない場合は、**不合格**とします。具体的な出欠の認定は担当者が最も適当と考える方法によって行います。

(7) 研究会

① 研究会、いわゆるゼミは、第3・4学年に開講され、政治学科の専任教員が担当する系列科目です。

2004年度第3学年進級者

2004年度に第3学年に進級した学生から、研究会は2単位として、学期毎に成績を取得することができます。2単位科目となりますが、同一担当者の研究会を、第3・4学年を通じて2年以上履修するという原則は変わりません。また、内容についても従来どおりとなります。なお、研究会の入会のタイミングは第3学年の春学期からとなり、中途から研究会を履修することはできません。ただし、研究会3年は秋学期分も春学期に必ず履修申告をしてください。

2003年度以前の第3学年進級者

単位数は通年で4単位ですが、同一担当者の研究会を第3・4学年を通じ2年以上履修してはじめて卒業時に8単位がまとめて与えられます。したがって、研究会の単位は第3学年から第4学年に進級する際に必要となる30単位の中に含めて計算されませんから注意してください。

*研究会は必修ではありませんが、その履修を途中で放棄することは、様々な意味で望ましくありません。2年間という長丁場での大学生活の中心となる授業科目です。

研究会の履修は一人1科目に限られます。また科目の性格から履修者数は限定されます。研究会の履修者の決定は、原則として、4月の初めの統一試験において行われます。

② 2004年度の研究会入会者選考の日程は次のとおりです。

第1次統一選考 4月3日(土) 午後1時

第1次合格発表 4月5日(月) 午前9時以降 西校舎地下2階掲示板にて

第2次選考以降 4月6日(火) 午後1時以降

③ 秋学期に三田に進級してくる学生で、研究会の入会を希望する場合は学事センターに問い合わせてください。

④ 研究会の履修申告については、当該学年の分のみを毎年履修してください。また、万が一研究会を退会した場合は、必ず学事センター法学部係に申し出てください。

⑤ 法律学科、他学部の研究会を履修する場合、4単位までは「自主選択科目」として履修できます。残りの4単位は「自由科目」として履修してください。

(8) 特殊研究

集中学習科目として設置されている特殊研究は、特定の主題に関して受講者の積極的参加を前提として行われる、少人数制のセミナー形式の授業です。したがって、担当者が適当と認める方法で受講者数を制限する場合がありますので、講義要綱を十分に参照すると同時に授業開始頃の掲示にも注意し、初回の授業に必ず出席してください。なお同一担当者の特殊研究は、その名称のいかんにかかわらず、IとIIの2科目4単位までが卒業必要科目として履修できる上限です。それ以上履修を希望する場合は「自由科目」の扱いになります。

(9) 自主選択科目

三田に設置されている法律学科、他学部、およびメディア・コミュニケーション研究所、言語文化研究所(アラビア語と朝鮮語は外国語科目選択)、情報処理教育室開講の専門的授業科目、国際センター開講の科目の一部(204ページ参照)は、政治学科の自主選択科目として卒業単位にすることができます。ただし、これらの科目の中には、直接政治学科の学生を対象に開講されている授業科目ではないために、様々な理由から履修が許可されないものもありますから、事前に各研究所その他諸機関に問い合わせるとともに、必ずその授業科目担当者の許可を口頭で得てから履修申告してください。なお、メディア・コミュニケーション研究所開講の研究会(I~VI)当該研究所研究生のみ対象科目の4単位を超える分は「自由科目」として履修してください。また同一科目で、学部によって名称のみが異なる科目を別科目として履修することはできません。

<履修全般についての注意>

(1) すでに(過年度)一度履修合格した授業科目は、たとえ担当者が変わった場合でも、自由科目として以外に再履修はできません。ただし、1) 担当者の異なる同一名称の特殊研究、2) 担当者の異なる人文科学研究会、3) 不合格となった授業科目の再履修についてはこの限りではありません。

なお履修済みの授業科目はたとえ名称が変わった場合でも再履修はできません。現在までのところ、名称変更があったのは次の科目です。

旧	新
アメリカ政治史	アメリカ政治史 I
アメリカ政治史	アメリカ政治史 II
イスラム社会論 I	イスラーム社会論 I
イスラム社会論 II	イスラーム社会論 II
現代中近東論 I	現代中東論 I
現代中近東論 II	現代中東論 II
NGO・NPO 論	NGO・NPO 論 I

(2) 系列科目の一部の授業科目は二つの系列に属しています。たとえば「政治経済システム論」は、「政治・社会論系列」と「国際政治論系列」にそれぞれ属しています。したがって、履修申告の際、どちらの系列科目として履修するのかが決定し、いずれか一方の登録番号だけを登録することが必要です。申告後にそれを変更することはできません。

(3) 系列科目の「アメリカ政治史 I・II」と文学部設置の「西洋史概論 III」は科目名が異なりますが、実質同一科目とします。どちらか一方のみを履修してください。

(4) 教職課程センター設置科目は、原則として教職課程申告者以外、履修できません。

(5) いくつかの授業科目では履修者数の制限を設けています。それらの科目については、講義要綱と掲示に注意することが重要です。受講者の選抜を行う科目は、「研究会」を除き原則として初回の授業時に行うことになっています。秋学期開講の科目も、同じく秋学期の初回授業日に選抜が行われます。不幸にして選抜に漏れた学生に対しては、同一時間帯の別科目の修正履修申告を秋学期に認めることにな

ります。

<不合格者、休学者、留学者に対する注意>

進級後、2学期間在学し、30単位以上の授業科目に合格すれば上級学年に進級できます。しかし必修科目を取り残したまま上級学年に進級すると、4年生までは進級できても、1年では卒業ができない事態になりかねませんから注意してください。また、必修として履修した外国語科目それぞれの語種につき、いまだ取得していない単位が4単位を超える場合には4年に進級できません。

(1) 復活制度について

たとえば進級に2単位足りずに留年したとします。その次の学期に奮起して、その学期だけで20単位取得すると、そのうちの2単位を進級に不足していた単位にあて、残りの18単位は上級学年で取得した単位であるとみなすのがこの制度です。これを認めると、1年半で（つまり半期の留年で）次の学年に進級できるだけでなく、同じ例を用いて説明すれば、進級直後の学期で12単位以上に合格すれば、その学年は半年で終了し、元の学年に返り咲くことができるわけです（ただしこのような半期進級が可能なのは、留年あけの次の学期のみです）。

(2) 進級不合格者の履修済みの単位（A・B・Cの評語を得た授業科目）はすべて履修済みと認めます。

(3) 休学・留学は学期単位で認めます。ただし一度に認定できる期間の上限は1年（学期毎に1枚、計2枚の申請書が必要）ですので、それ以上の場合には新規の申請が必要です。休学（語学研修を含む）も留学も、しかるべき書類と会議体での承認が必要ですので、学事センターに問い合わせたうえで、学習指導の面接を受けてください。

<留学について>

学則第153条により、在籍途中での留学が認められます。留学を希望する者は、同条項の他に、第85条②、③も併せて読むとともに、学習指導の面接を受けてください。研究会履修者は、必ず研究会担当者とも十分相談してください。留学した場合には、卒業・進級に必要な条件に関して、研究会単位の取り扱いや留学先での科目履修にもとづく単位の認定などに関して特別な措置が講じられます。

<定期試験期間中の試験についての注意>

(1) 追加試験

① 追加試験は、履修申告を行った授業科目で、病気その他「やむを得ない理由」のために定期試験を受けられなかった授業科目について施行します（受験料＝1科目につき2,000円）。

② 語学、人文科学研究会、文献講読、研究会、特殊研究等の平常点の要素が多い科目やレポート採点に替える科目、定期試験期間以外で試験を行う科目は追加試験を行いません。

③ 受験を希望する者は、追加試験申込用紙（用紙は学事センターで交付）に、その理由を明らかにする診断書等の文書を添えて、指定する期日までに学事センター窓口で申し込んでください。詳細は定期試験時間割発表時に掲示します。

④ 追加試験による成績評語は、定期試験の場合のその一段階下の評語となります。ただし、公務員試験・司法試験のような国家試験等の受験を理由とした場合はこの限りではありません。

(2) 試験時間の重複により定期試験を受験できなかった授業科目の試験

① 三田と日吉の試験時間が重複したために定期試験期間中に受験できなかった授業科目の試験は、追加試験期間中に行います。

② この場合の受験は、追加試験扱いではなく、定期試験扱い（一段階下の評語にはなりません）となります。

③ この場合の受験も、追加試験申込用紙を用い、追加試験受験の場合と同じ手続きで申し込んでください（受験料不要）。

(3) 試験日程は、春学期は8月5・6日（三田）、秋学期は2月下旬の予定です。

(4) 試験における不正行為

定期試験（レポート含む）において不正行為（答案の持ち帰りも不正行為です）があった場合は、当該科目を不合格とし、当該学期に履修合格した他の全科目について減点します。追加試験の場合も同様です。なお事情によっては退学・停学の処分も行われますので厳正な態度を持って受験してください。

<退学について>

学則第156条の規定により、第3学年・第4学年に併せて4年間在学し、なお卒業できない場合、退学させられます。

なお、休学期間は在学年数に算入しません（休学願の届け出については5ページを参照してください）。

<自主留年について>

4年生が卒業単位を満たした上、公務員試験等の公的試験を理由にさらに翌年度1年間の在学を希望する場合は、これを認めることがあります。在学を希望する者は、定められた日時までに本人・保証人連署の誓約書を添えて願出、学習指導の面接を受けなければなりません。日程は12月上旬に掲示します。自主留年を許可された年度においては、次の条件が課せられます。

① 在学を許可された年度は、1年間在籍しなければなりません。途中で籍を離れる場合は、退学となります。

② 在学を許可された年度には、自由科目を除き政治学科目（必修を除く）を1科目以上履修し、合格しなくてはなりません。最低1科目に合格しない場合、卒業不合格となり、当該年度の卒業はできないこととなります。

なお、9月卒業予定者のみ、理由を公的試験に限らず半年間の自主留年を認めることがあります。日程は5月上旬に掲示します。内容詳細については学事センター法学部係に問い合わせてください。

<クラス担任>

クラス担任は学問上の研究指導を行うと同時に、学生生活全般にわたって相談にのり助言を与えることになっています。この場合政治学科では、研究会担当者がクラス担任となります。研究会に所属していない者のクラス担任は、次のとおりです。

A～J組 …………… 玉井 清
K～T組 …………… 堤林 剣

政治学科の学習指導は次のとおりです。

教授 玉井 清
助教授 堤林 剣

学習指導の面会は原則として授業期間内の金曜日昼休みに、三田研究室1階の教員談話室で行います。ただし、5月以降面会希望者は前日木曜日午後4時までに学事センター法学部係まで申し込んでください。なお、三田祭期間中は行いません。

履修申告のしかた

1. 履修申告について

(1) 申告方法について

『Web』による申告とします（なお、旧来の履修申告用紙での申告を完全に行わないということではありませんので、用紙を必要とする者は学事センター窓口（4月12・13日の両日に限ります）に取りにきてください）。ただし、Webによる申告と履修申告用紙による申告を併用することはできませんので必ずどちらか一方で申告してください。

Webによる申告を行うと、即時にエラーチェックおよび進級・卒業の学則判定が行われます。エラーのある場合のみメッセージが表示されます（ただし、最終的な履修科目およびエラー等の確認は、自宅宛に送付する履修確認表で行ってください）。また、用紙の場合と異なり、誤登録・申告漏れ等によって希望どおりに申告できないという事態も軽減されます。

(2) Webによる申告

Web 申告期間 4月15日（木）10:00～4月17日（土）11:00

p.15～の〈学事 Web システムの利用方法〉(1)履修の申告を参照してください。

(3) 履修申告用紙による申告

履修申告用紙提出日（場所：学事センター前受付ボックス）

第3・4学年 4月16日（金） 8:30～18:10

(4) 申告上の注意

申告にあたっては、2003年度の学業成績表を保証人宛に送付してありますので、各自保証人からそれを受け取り、取得した科目を確認し、「政治学科学習指導要項」、「履修申告のしかた」（本項）を熟読して申告してください。

申告後は、履修科目の変更・追加・取り消しを認めません（2001年度以降入学者は41ページ参照）。また、閲覧・照会にも応じません。Webによる申告をした場合は登録科目一覧画面を印刷、もしくはファイルで保存、履修申告用紙の場合はコピーをとり、時間割とともに控えとして保管してください。期日までに申告しない場合は、原則として修学の意志がないものとして退学処分になります（学則第188条）。

(5) 履修に関する疑問点、その他については申告以前に、学習指導または学事センター法学部係に問い合わせてください。

(6) 履修確認表（履修申告した授業科目のリスト）は5月上旬本人住所宛に送付します。確認のうえ、年度末まで大切に保管してください。この確認を怠ったために生じた問題については、自己責任となります。確認期間は送付後約一週間（詳しくは掲示により指示します）とし、この期間を経過した後は確認が終了したものとみなします。

(7) 時間割は変更することがありますので、西校舎掲示板で変更の有無を確認のうえ申告してください。

(8) 申告していない授業科目を受験しても一切無効ですので、単位は取得できません。

2. 履修申告用紙（マークシート用紙）の記入方法等について

(1) 学籍等の記入方法

学部、学科、学年、組、氏名、学籍番号および提出日を記入してください（修士・博士の欄は記入の必要はありません）。学籍番号は数字で記入するとともに、該当する数字をマークしてください。

(2) 履修科目の記入方法

① 記入にあたっては、科目名、教員名と登録番号（5桁）に十分注意しHBもしくはBの鉛筆でマークしてください。

② 複数の教員が担当する科目は、時間割上段に記載されている教員名を記入してください。

③ 1つの授業科目には1つの登録番号が付いています。

集中講義、実験をとまなう科目等で複数の曜日・時限にわたって開講している授業科目についても、必ず登録番号は1か所のみ付いていますので、その登録番号をマークすることで、他の時限についても登録されます。この場合、番号の付いていない曜日・時限に別の科目を登録することはできませんので注意してください。

④ 形態欄は、その科目の形態（春（春学期集中も含む）・秋（秋学期集中も含む）・通年）を○で囲み、曜日・時限を記入してください。

⑤ 「無効マーク」にマークすると、その枠内について「無効」にすることができます。訂正は消しゴムを使用して修正することもできますが、跡が残ったり、黒くこすれたりした場合は、この「無効マーク」を利用してください。

⑥ 履修申告欄は[A]、[B]欄によって構成されています。どちらの欄に記入するかは次ページのとおりで。ただし、同一科目を[A]欄および[B]欄の両方に記入する必要はありません。

⑦ A・B欄に記入する授業科目

科目の種類	記入欄	分野の扱い	B欄分野	備考
政治学科設置科目 (日吉・三田とも) *開講科目表の分野どおり履修する場合	A欄	開講科目表どおり		
外国語インテンシブをセット履修できない場合	B欄	自由科目	99	
法律学科・他学部の科目	B欄	大半は自主選択科目 (学事センターにて確認)	77	履修申告前に必ず授業担当者の許可を得ること。
他学部設置の外国語科目	B欄	外国語科目選択	01～16	各語種のB欄分野は次ページ参照。開講科目は「全学部共通外国語履修案内」参照。
外国語教育研究センター設置科目	B欄	外国語科目選択	01～16	各語種のB欄分野は次ページ参照。受講申込方法については194ページ参照。
言語文化研究所設置科目	B欄	外国語科目選択または自主選択科目	朝鮮語.....10 アラビア語.....15 その他 自主選択科目....77	
メディア・コミュニケーション研究所設置科目	B欄	原則として自主選択科目	77	例外…研究会(I～VI)の4単位を超えた分は自由科目(B欄99)
国際センター設置科目 ¹⁾	B欄	自主選択科目または自由科目	自主選択科目.....77 自由科目.....99	分野の扱いについては、204ページ参照。
教職課程センター設置科目	B欄	(教職課程設置) 自由科目	95	履修上限には含まれません。教職課程登録者のみ。
情報処理教育室設置科目	B欄	自主選択科目	77	受講申込方法については197ページ参照。
知的資産センター設置科目	B欄	自由科目	99	
体育科目	B欄	体育科目	講義系81, 実技系82	履修申告方法については236ページ参照。
保健管理センター設置科目	B欄	自主選択科目	77	
教養研究センター設置科目	B欄	自主選択科目	77	
外国語学校設置科目	B欄	自由科目	99	入学手続が必要。173ページ参照。
その他、自由科目として履修する場合	B欄	自由科目	99	

注¹⁾ 他学部の科目との併設科目については、国際センター設置科目の時間割、登録番号ではなく、設置学部の時間割、登録番号を使用すること(204ページ表の「履修取扱い」欄参照)。

B欄記入上の注意事項

分野欄：政治学科が定める分野を<B欄分野表>に従って2桁の数字を記入しマークしてください。

(3) 履修申告用紙の再交付について

- ① 履修申告用紙提出前の科目の訂正および変更等は、なるべく「無効マーク」を使用して無効にした上で別の記入欄に正しい科目を登録してください。それでも訂正し切れない場合は交換しますので、その履修申告用紙を持参の上、学事センター窓口に出してください。
- ② 交付された履修申告用紙では記入欄が足りない場合も学事センター窓口に出してください。そして、複数枚の申込用紙を提出する時には、申告用紙左上の欄(枚目/枚中)を記入してください。

3. 修正申告について

修正期間はあくまでも「修正」の期間ですので「変更・追加・取り消し」は一切認められません。

登録科目に誤りがあり、追加・削除をする場合は、修正申告用の履修申告用紙を使用してください。修正申告用の履修申告用紙は、修正申告の際に学事センターで配付します。

<B 欄分野表>

B 欄分野	意味する分野番号と科目区分			
01	01-20-01	外国語科目	選択	英語
02	01-20-02	〃	〃	ドイツ語
03	01-20-03	〃	〃	フランス語
04	01-20-04	〃	〃	中国語
05	01-20-05	〃	〃	スペイン語
06	01-20-06	〃	〃	ロシア語
10	01-20-10	〃	〃	朝鮮語
11	01-20-11	〃	〃	ラテン語
12	01-20-12	〃	〃	ギリシャ語
14	01-20-14	〃	〃	ポルトガル語
15	01-20-15	〃	〃	アラビア語
16	01-20-16	〃	〃	イタリア語
31	03-20-01	自然科学科目	選択	—
81	08-20-01	体育科目	選択	講義系
82	08-20-02	〃	〃	実技系
77	09-20-01	自主選択科目	選択	—
99	10-30-01	自由科目	自由	—
95	11-30-01	(教職課程設置) 自由科目	自由	—

講義要綱・シラバス

※ 講義の内容とその順番は授業の展開等に応じて変更される
こともあります。

※ またその他の項目についても変更されることがあります。

【系列・系列外科目】

【A 系列】

法 理 学 (春学期集中)

講 師 井 上 達 夫

授業科目の内容：

現代法哲学・法理学の基本問題を正義論を中心に考察する。「正義への企てとしての法」の概念およびリベラル・デモクラシーの法の・哲学的基礎の解明も射程に置く。

テキスト：

- ・井上達夫『共生の作法— 会話としての正義』創文社, 1986
- ・井上達夫『法という企て』東京大学出版会, 2003

参考書：

講義において各論題に対応した文献書を配布するが、一般的な参考文献として

- ・井上達夫『他者への自由— 公共性の哲学としてのリベラリズム』創文社, 1998
- ・井上達夫『現代への貧困』岩波書店, 2001
- ・井上達夫『普遍の再生』岩波書店, 2003

国際法 I

教授 大 森 正 仁

授業科目の内容：

国際社会で起きている問題を理解するためには基本的な知識が必要とされます。そのなかで国際法の観点から様々な事象を明確に把握できるようになることがこの授業の目標です。国際法の扱う領域は拡大してきており、国境を越えた人や物の移動、国際環境問題、国際的な平和と安全の維持など広い分野にまたがります。授業では基本的な国際法の概念を国際事例および国内事例を取り上げて説明して行きます。

テキスト：

- ・栗林忠男『現代国際法』（慶應義塾大学出版会, 1999年）

参考書：

- ・大沼保昭・藤田久一編『国際条約集 2004年版』（有斐閣, 2004年）
- ・山本草二他『国際法判例百選』（有斐閣, 2001年）

外 国 法 (英米)

教授 西 川 理 恵 子

授業科目の内容：

世界に存在する法体系を大きく分類したとき、わが国の法体系である大陸法と異なる体系として存在するのがいわゆるコモンロー体系である。この体系をとる国家は、アメリカ合衆国をはじめとして、イギリス、カナダ、オーストラリアなど、日本と関係の深い国家が多い。本稿では、コモンローシステムがどのように、成立し、どのようにわが国と異なっているかを考える。わが国の法と異なる体系について考えることにより、法に対する認識、理解を深めることができると思っている。

テキスト：

特に指定しないが、参考書の内、履修者の気に入ったものを読むことはすすめる。

参考書：

- ・ジュリスト英米法百選、英米法総論（田中英夫）
- ・アメリカ法入門、英米法（現代法学全集）等

外 国 法 (独)

専任講師 オステン, フィリップ

授業科目の内容：

ドイツ法の全体像を理解してもらえようような講義にすることに力を注ぎたい。

テキスト：

必要に応じて講義資料プリントを配布することにする。

参考書：

参考文献については講義のなかで必要に応じて紹介することにする。概説書としては、村上淳—ハンス・ベーター・マルチュケ『ドイツ法入門・改訂第5版』（有斐閣, 2002年）がある。

外 国 法 (仏)

フランス法の基礎的諸制度および諸理論とその歴史

講 師 上 井 長 久

授業科目の内容：

フランス法の根幹をなす諸制度および諸理論とそれらの理解に必要な歴史について講義します。本講は、フランス私法および公法の基底を理解することを目的として、私法および公法の序論と歴史について原典資料（法文、判例、学説等）により理解しようとするものです。フランス法は、わが国の母法の一つとして重要であるばかりか、フランス革命により近代国家が樹立され、いち早く成文の憲法および諸実定法を持つ法典国として経験が豊富であり、法の宝庫として重要です。

テキスト：

講義資料プリント「Introduction au droit privé」「Introduction au droit public」「Histoire du droit privé」などを配布します。

参考書：

- ・山口俊夫「概説フランス法 上」（東大出版会）
- ・滝沢 正「フランス法」（三省堂）

外 国 法 (中)

現代中国法概説

講 師 黄 清 溪

授業科目の内容：

社会主義国家を堅持しながら、改革開放を推進し、市場経済制度を大胆に採り入れる。そのような中国において、いかなる法制度が展開されているか、民法と会社法を重点において見つけていきたいと思えます。春学期は近代中国法の形成に関する、歴史、沿革、社会背景などについて講義をしたのち、秋学期は輪読の方式で実際の規定条文を理解していく予定です。履修者諸君には、現代中国法体系に関する基礎的理解が得られることが本講義の目標です。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

特に指定しません。

外 国 法 (EU)

EU法の基礎理論と域内市場法を中心に

法務研究科 教授 庄 司 克 宏

授業科目の内容：

欧州連合 (EU) 法の中核をなす欧州共同体 (EU) 法に関する基本的知識の習得を目的とする。第1に組織法 (EU諸機関, 立法手続, 行政制度, 司法制度), 第2に国内法との関係 (直接効果, 優越性, EC法上の権利の国内的救済), 第3に実体法としての域内市場法 (物・人・サービス・資本の自由移動, 競争法), およびWTO法との関係について講義を行う。また、性差別の禁止を含む基本的人権の保護, 環境法, 司法内務協力などについても時間の許す範囲で取り上げる。

テキスト：

- ・庄司克宏『EU法 基礎編』岩波書店, 2003年 (春学期)
- ・庄司克宏『EU法 政策編』岩波書店, 2003年 (秋学期)

参考書：

授業中に情報提供する。

(B 系列)**民法Ⅳ**

債権総論

教授 池田 真 朗

授業科目の内容：

民法中債権総論の全範囲を講義する。債権総論は、金融実務等で大変重要な分野であるが、保証等、市民の日常生活における必須の知識も含む。また理論的にも非常に奥の深い内容を持っている。日吉での民法Ⅰ～Ⅲの履修でカリキュラム上は民法系列を充足している諸君も多いと思うが、民法学習の実質を達成するためには是非この民法Ⅳも履修していただきたい。

テキスト：

・野村・池田他『民法Ⅲ — 債権総論』〔第2版補訂2版〕(有斐閣Sシリーズ)

参考書：

・奥田・池田他『判例講義民法Ⅱ債権』(悠々社)
・山田・池田他『分析と展開民法Ⅱ債権』〔第3版〕(弘文堂)

民法Ⅴ

家族法

教授 犬伏 由子

授業科目の内容：

民法(親族編・相続編)を対象とします。この部分は家族法と呼ばれていますが、家族に関しては、意識や行動、価値観の大きな変化が見られます。講義では、現代社会における家族の変化も踏えて、家族法の基本的枠組や諸課題について、考察して行きます。

テキスト：

・遠藤 浩編『民法(8)親族(第4版増補版)』有斐閣
・遠藤 浩編『民法(9)相続(第4版増補版)』有斐閣

参考書：

・久 貴他編『家族法判例百選(6版)』有斐閣

(C 系列)**刑法Ⅲ**

刑法総論

法務研究科 教授 井田 良

授業科目の内容：

刑法総論の重要論点を選び、各問題点に対し可能なかぎり掘り下げた検討を加えたい。判例と学説にみられる問題解決の論理を正確に理解してもらえるような講義とすることに力を注ぎたい。

テキスト：

・井田 良=丸山雅夫『ケーススタディ刑法〔第2版〕』(2004年、日本評論社)

参考書：

・芝原邦爾ほか編『刑法判例百選Ⅰ総論〔第5版〕』(2003年、有斐閣)

刑事訴訟法

教授 安富 潔

授業科目の内容：

刑事訴訟法は、刑法を具体的に実現する手続法です。つまり、抽象的に刑法に定められた犯罪と刑罰を、個々の事件に具体的にあてはめて、どのような犯罪事実が誰によって行われたかを明らかにし、その犯人に対して適切な刑罰を科す手続を定めた法律が刑事訴訟法というわけです。

今日の社会における刑事訴訟法で求められているのは、国家の権限行使が個人の自由を不当に侵害することのないように配慮することとあってよいでしょう。そこで、個人の基本的人権と自由の保障を確保することが重要な意義を有することになります。刑事裁判も

そうした理念のもとに運用されることが大切です。

自由で豊かな社会を旨とし、秩序と平穏を伴った社会を築いてゆこうと、ふさわしい刑事訴訟の理想を実現するために、どのような基本原理が妥当し、その原理にしたがって法的規律がなされるべきかを考えてみたいと思います。

講義では、捜査から裁判にいたるまで、その流れにしたがって、第一審の刑事手続を概説し、あわせて重要な論点について詳説し、実務的な話題を折り込んでみなさんが考える素材を提供したいと思います。

テキスト：

・安富潔『やさしい刑事訴訟法』(法学書院)

参考書：

・安富潔『演習講義・刑事訴訟法』(第二版)(法学書院)

刑事政策

(共同担当) 教授 加藤 久雄

(共同担当) 講師 安部 哲夫

(共同担当) 講師 守山 正

授業科目の内容：

前半は、刑事政策総論部分の刑事政策の基礎理論や制度論について講義をする。後半は、犯罪各論の原因論と対策論を重要テーマごとに講じていきたい。例えば、新「心神喪失者医療観察法」と触法精神障害者、人格障害犯罪者に対する刑事政策、2001年9月11日の同時多発テロ後のテロ対策、オウム教団などの宗教集団によるテロ犯罪者、暴力団犯罪者、性犯罪者、薬物依存犯罪者、女子犯罪者、少年犯罪者、外国人犯罪者、政治家、公務員の犯罪などいわゆる伝統的な犯罪類型に加えて、経済犯罪やコンピュータ・ハイテク犯罪などの新しいタイプの犯罪類型に対する刑事政策についても講義したい。

そして、今年度は安部講師と守山講師と3名の共同担当になるので、それぞれ得意とするテーマを分担して講義していきたい。講義の最初の時間にシラバスを配布する。刑事政策は極めて実証的な情報に基づく研究が必要とされるので、講義はわれわれが入手した最近の情報についてビデオ、スライド、OHPなどを毎時間使って、学生諸君が90分を短いと思うような内容のものにしていきたい。この講義はC系列科目なので、出席を厳しくチェックする。また、試験は、講義に出ていないと書けないような設問になっている。講義に出席する人は教科書と白書を必ず入手して出席してもらいたい。

テキスト：

・加藤・安部・守山『教材：刑事政策入門』を執筆中

参考書：

・加藤久雄『人格障害犯罪者と社会治療』(成文堂・2003年)
・同『医事刑法入門』(東京法令出版・2004年)
・守山正『犯罪学への招待』、安部哲夫『少年保護論』

(D 系列)**商法Ⅰ(A～H)(春学期集中)**

会社法

法務研究科 教授 山手 正史

授業科目の内容：

商法第二編「会社」および関係法令について、諸々の規定がどのような政策を実現しようとしているのかということに焦点を当てて講述する。それとともに、判例分析を通じて、日本の株式会社の実態が株式会社法解釈学にどのような歪みをもたらしているかを検証する。目指すは、法規制の政策論的含意把握を通しての社会科学的分析能力の向上と、法解釈学の学習を通しての論理的・原則的思考力の練磨である。

テキスト：

特定のテキストは用いない。予習復習用に、宮島司『会社法』(弘文堂)、神田秀樹『会社法』(弘文堂)など、最新の商法改正を盛り込んだ定評ある概説書を各自で用意すること。担当者の会社法についての考えを知るには、岩崎俊ほか『セミナー商法』(日本評論社)

があるが、改訂していないのでやや古い。

参考書：

授業中に随時指示する。

商 法Ⅰ（Ⅰ～Ⅳ）（春学期集中）

会社法 教授 山本 爲三郎

授業科目の内容：

会社法に関する一般講義。全体を通して少なくとも卒業論文程度のレベルでの講義にしたいと思います。会社法は取り上げるべき論点が非常に多く、しかも、近年の度重なる改正により制度が多様化しています。また、現在進行中の大改正については詳細な情報を提供する予定です。そのために、受講者の予習を前提とした効率的な講義を進めたいと考えています。

テキスト：

・山本爲三郎『会社法の考え方〈第4版〉』（八千代出版、2003年）

商 法Ⅱ（A～H）（秋学期集中）

手形法・小切手法（有価証券法理）
教授 加藤 修

授業科目の内容：

手形法・小切手法総論（Allgemeiner Teil）と手形法・小切手法各論（Besonderer Teil）の二部門により構成される。

総論においては、①手形・小切手の意義、②手形・小切手の経済的機能、③有価証券としての手形・小切手と有価証券の意義、④手形行為（手形行為の意義・手形行為の解釈・手形行為の独立性）、⑤手形理論（契約説・単独行為説・二段階説）、⑥手形行為と法律行為の一般原則、⑦手形能力、⑧手形上の意思表示、⑨他人による手形行為（手形行為の代理・手形の偽造・手形の変造）、⑩手形と実質関係（手形予約・対価関係・手形の書換）の諸項目が講義される。

各論においては、⑪振出（振出の性質・手形要件・白地手形）、⑫裏書（譲渡裏書・譲渡裏書の効力・善意取得・特殊の裏書）、⑬引受、⑭保証、⑮支払、⑯手形・小切手の権利の消滅（時効・利得償還請求権）の各項目が講義される。

本講義においては、手形（約束手形・為替手形）と小切手の意義につき説明した後に、手形（約束手形・為替手形）と小切手がどのようにして成立し、どのようにしてその役割をはたして、結末をむかえるかということが説明される。手形（約束手形・為替手形）と小切手が、それぞれの満期において支払われれば、手形関係者は満足を得て、円満のうちに法律関係終了ということになるけれども、もし満期において支払がなされなければ、手形法・小切手法において対処方法が規定されているので、その点についても説明される。

本講義は、手形法と小切手法をその対象としているけれども、最終的には、有価証券法理の理解を目的とする。手形（約束手形・為替手形）と小切手は、典型的な有価証券である。そのほかにも、株券、債権、貨物引換証、船荷証券、倉庫証券なども有価証券とされている。現在の国民経済において、資金・資本の調達、それらの流動化、資金・資本の払戻あるいは支払につき、有価証券という道具を利用して処理することが大々的に行われている。その意味において、現在の市場経済資本主義は、有価証券資本主義ともいわれている。本講義において、手形法と小切手法の基本法理を理解することにより、市場経済資本主義の基本の一つを構成する有価証券法理の根本を理解することが期待される。

テキスト：

・宮島司「やさしい手形法・小切手法」（第2版）法学書院（2003年（平成15年））

参考書：

・倉澤康一郎「手形判例の基礎 — リーディングケースによる手形法入門」日本評論社（1990年（平成2年初版））

商 法Ⅱ（Ⅰ～Ⅳ）（秋学期集中）

手形法・小切手法講義 教授 鈴木 千佳子

授業科目の内容：

手形法・小切手法について講義する。有価証券としての手形・小切手の特質を踏まえたうえで、約束手形に関する法制度を中心に問題点を整理する。手形・小切手は学生にとってはイメージを持ちにくい難しい分野と考えられているようであるが、取引の安全の保護などに代表される、最も商法的な考え方が適合するものであって興味深く、勉強するだけ理解は深まってゆくはずなので、積極的に履修することを勧める。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

授業中に指示する。

商 法Ⅲ

商法総則・商行為講義 教授 鈴木 千佳子

授業科目の内容：

商法総則・商行為法の講義をおこなう。商法が民法の特別法であることは既に学んでいるとおもうが、商法の総論をまず検討することで、商法とはなにかについて学んだ後、商人・商行為という基礎概念を通じて商法の枠組みを理解してもらいたい。また民法に対する特則になっている部分に関しては、民法との関連性も重要であるから、民法についての詳しく言及し、その相違と理由についても考えてゆきたい。

テキスト：

特に指定しないが、レジュメを生協において販売する。

参考書：

授業中に指示する。

民事訴訟法Ⅰ

民事訴訟法のうちの判決手続に関する講義科目
教授 三木 浩一

授業科目の内容：

民事訴訟法（判決手続き）について、訴えの提起から判決による訴訟の終了までを取り上げ、民事訴訟の基本原則と基礎的な知識の習得を目標とする。

教科書：

特に指定しない。

参考書：

・伊藤 眞「民事訴訟法〔第3版〕」（有斐閣、2004年）
・高橋宏志「重点講義民事訴訟法〔新版〕」（有斐閣、2000年）
・民事訴訟法判例百選〔第3版〕（有斐閣、2003年）

〔E 系列〕

行政法Ⅰ

行政法総論 講師 磯部 哲

授業科目の内容：

本講義では「行政法総論」領域を扱う。基本方針としては、実益の乏しい問題の説明はできるだけ控え、行政組織論の概説のほか、行政作用と法の関係、行政活動の一般的な規制原理、行政活動の行為形式ごとの概念整理や法的統制のあり方等、重要と思われる論点について突っ込んだ説明を行っていきたいと考えている。また、近時の行政を取り巻く環境の変化はきわめて大きいのであるが、中でも、「行政手続」と「情報公開」については重点的に取りあげる予定である。

法律

テキスト:

・原田尚彦『行政法要論〔全訂第四版増補版〕』(学陽書房, 2000年)

参考書:

『小六法』(有斐閣)レベルの六法(行政法規は多種多量なので), 行政判例百選Ⅰ・Ⅱ〔第四版〕(有斐閣, 1999年)。そのほか, 塩野宏『行政法Ⅰ〔第三版〕』(有斐閣, 2003年)など定評ある教科書等については, 随時講義の中で紹介する。

行政法Ⅱ

行政救済法

教授 藤原 淳一郎

授業科目の内容:

国家賠償, 損失補償, 行政不服審査, 行政訴訟について講述。現在行政事件訴訟法改正が議論されており, これもカバーしていきたい。また, 授業冒頭, 時事問題もとりあげることとする(学部掲示板なるべく事前予告)。

テキスト:

・芝池義一『行政救済法』(有斐閣)

参考書:

・塩野宏『行政法Ⅱ』, 中西ら『テキストブック行政法』(いずれも有斐閣)

労働法

企業と労働者(サラリーマン)をめぐる法的問題を分析する

助教授 内藤 恵

授業科目の内容:

労働法とは, 賃金を得て生活する者(これを労働者と称します。)と使用者との間に生起する様々な法的問題を学ぶ領域です。この領域は大別して, 労働市場法, 個別的労働関係法, そして集团的労使関係法に分類されます。

本講義はまず労働法の歴史的背景から説き起こし, 春学期及び秋学期の初めを使って, 特に労働者と使用者の間に締結された労働契約の始期からそれが終了する原因に至るまでを講義します。この二つの法主体間の関係を, 個別的労働関係と呼びます。内容としては, 下記授業計画の第二章から第十一章がそれに当たります。

続いて, 労働法と社会保障法の間位置する労働災害補償の問題を講義(第十二章)し, 更に労働者・使用者・労働組合の三者間の法的関係を解釈する, 集团的労使関係の領域を講じます。内容としては, 第十三章から第十八章がそれに当たります。

講義の進み方・あるいはソフトボール大会の影響などを見ながら, 出来れば話題となった新しいテーマや法改正についても, 随時織り込んでお話をしたいと考えます。

テキスト:

・テキストは指定せず, 毎回 Web に講義資料プリントをアップロードします。

但し法学部のホームページの特性からパスワードの設定が出来ないので, URL は初回講義の中でお話しします。講義には, 六法と判例百選を必ず携行してください。

別冊ジュリスト・労働法判例百選〔第7版〕(有斐閣 2002)

参考書:

初心者向けの参考書として,

・野川忍・野田進・和田肇『労働法の世界(第5版)』(有斐閣, 2003)
・西村健一郎・安枝英訓『労働法(第7版)』(有斐閣プリマシリーズ, 2002)

良く書き込まれた概説書に, 菅野和夫『労働法(第6版)』(弘文堂)

経済法(春学期集中)

独占禁止法

名誉教授 金子 晃
産業研究所 助教授 石岡 克俊

授業科目の内容:

本講義では, 時間の関係で実定経済法の中核をなし, 経済の基本的秩序を形成している「独占禁止法」の体系的講義を行う。ただし必要最小限の範囲(独占禁止法の性格を明らかにする範囲)で, 経

済法理論についても触れる。独占禁止法は競争法とも呼ばれ, 国内経済のみならず, 国際経済をも基本的に秩序付けているグローバルスタンダードである。現代の経済社会で活躍するビジネスマンにとって必要不可欠な法律である。

わが国の独占禁止法は, 敗戦後の昭和22年(1947年)に制定され, 現代にいたるまで既に50年余が経過している。この間に, わが国の経済社会は大きく変化し, わが国経済を基本的に秩序付ける独占禁止法の内容, 公正取引委員会の運用・解釈もそれに適応して変化してきたといえる。現代において独占禁止法の社会的役割, そしてその重要性は国民一般に広く理解・認識されてきているが, いまだ完全にわが国の経済社会に定着したとはいえない状況にある。わが国が経済大国に相応しい国家になるためには独占禁止法をわが国の経済社会に定着させることが不可欠である。

本講義では現実の経済社会で活用できる知識と応用可能な理論を提供する。いかなる法科大学院の講義にも負けない充実した授業を学生諸君に提供したい。

テキスト:

・教科書は特に指定しない。ただし, 近時, 経済法ないし独占禁止法のテキストが数多く刊行されているので, 講義初回に現在入手(ないし参照)可能なこれら関連書籍の簡単な紹介を行う。授業で提供される資料を毎回入手し, 整理することにより, 卒業後に企業等で活用できる実用的な教科書が作成できる。講義のレジュメや資料など必要な情報は主として講義担当者の下記ウェブサイトを通じて公表される。ウェブサイトの URL は以下の通り。OFFICE ISHIOKA <<http://www.ishioka.org/>>

参考書:

・参考書も特に指定しない。前項と同様, 経済法・独占禁止法に関する参考書や URL についてのさまざまなリソースへのアクセスは, 講義初回にまとめて案内する。

[F 系列]

憲法演習

立法に関する総合的な考察と最新の憲法問題の検討

講師 川崎 政司

授業科目の内容:

本演習は, 基本的に2つの柱によって構成をする。1つは, 統治の作用, その中でも特に法実現の最も重要な作用となっている「立法」について取り上げ, その意義, 実態, あり方等に関し, できる限り幅広くかつ総合的に分析・検討を行うことである。もう1つは, 最近の立法, 政治課題, 判例等を題材に, 最新の憲法問題について考察を加えるとともに, 法制度設計も含めその法的な解決について検討を行うことである。それらを通じて, 学生諸君にとってあまりなじみのない立法に関する理解・知識を深めるとともに, 憲法の動態等について学んでもらい, あわせて, 近年とみにその重要性が指摘されている, 法制度・法政策の設計・評価に当たった視点や法的思考能力の養成といったことにも取り組んでいきたいと考えている。

テキスト:

授業のつどレジュメを配布する。

参考書:

特に指定はしないが, 適宜, 参考文献等を紹介する。

憲法演習

講師 山岡 永知

授業科目の内容:

憲法演習の授業はアメリカ合衆国憲法を中心に講義し, アメリカ合衆国最高裁判所の憲法判例を研究しながら, 日本国憲法や憲法判例と比較し, 憲法解釈に関する知識を深める。

テキスト:

・別冊ジュリスト No.139「英米判例百選」(有斐閣)

参考書:

・対訳「アメリカ合衆国憲法」北脇・山岡(国際書院)

憲法演習

憲法を身近に考えよう

講師 向井 久了

授業科目の内容：

「クローン人間の開発を目的とした研究」など現実に生じる様々な憲法問題を生きた素材としてアップ・ツー・デートにとりあげ、憲法の論理とその動態を検討したいと考えています。

憲法を主権者として主体的に考えるよすがとなれば、と念じております。

テキスト：

・向井久了「憲法問題の考え方」法学書院 2001年

参考書：

・向井久了「やさしい憲法（第2版）」法学書院 2000年

民法演習

事例問題検討による分析力養成 講師 秋山 知文

授業科目の内容：

指定テキスト記載の事例を素材として、民法の財産法の分野で重要な論点を網羅的にとりあげて検討する。

授業は質疑応答形式で進める。

秋学期の後半から論文式試験問題等も検討する予定である。

六法は毎回必ず持参されたい。

テキスト：

・内田 貴著 東京大学出版会 民法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ

・六法（種類は問いません）

参考書：

特に指定はしません。

民法演習

法務研究科 教授 豊泉 貫太郎

授業科目の内容：

一般に債権総論と称される分野での重要論点につき、一日一テーマで集中的に研究する。但し進行は通常の授業とは逆に債権譲渡、弁済、相殺、連帯債務、保証債務と遡る予定である。なお私法分野における新立法、新判例につき適宜紹介する。

教科書は指定しないが参考書としては、星野「民法概論Ⅲ（債権総論）」又は平井「債権総論」が適当と考える。なお授業に際しコンパクト六法程度を持参されたい。

民法演習

民法の体系・基礎理論とその応用

講師 金井 高志

授業科目の内容：**1. 民法の体系・基礎理論**

最も重要な契約である売買契約や賃貸借契約につき、契約の成立から契約の終了に至るまでの時系列にそって論点・争点の検討を行うことにより、民法典の編別の体系とは別に典型的な契約類型を基にした体系・基礎理論の説明・演習を行います。また、その体系・基礎理論の中で、1年次及び2年次などで学習した様々な民法の論点の位置付けの検討を行い、また、様々な論点につき、考え方の論理のパターンで分類を行います。

2. 民法の体系・基礎理論の応用

現在の情報化社会で重要となっている知的財産権のライセンス（使用許諾）契約やコンピュータ・インターネットを利用した取引において、民法の体系・基礎理論がどのように応用・修正されているかの検討・演習を行います。

テキスト：

特定の教科書は使用しません。

講義の際に、講義資料プリントを配布します。

参考書：

参考文献などは適宜指示します。

民法演習

ベンチャー企業をめぐる法律実務

講師 出縄 正人

授業科目の内容：

ベンチャー企業をめぐる法律関係を、企業側弁護士あるいはベンチャー企業にファイナンスを行う側の弁護士の立場から、必要な法律関係を抽出かつ分析し、当該法律関係において、法令あるいは判例実務がどのような役割を果たしているのかを研究するとともに、その法律実務において必要とされる基礎的な法律条文（民法・会社法・民事訴訟法等）の現れ方を理解する。

テキスト：

特に指定なし。但し、六法は「必ず」持参すること。資料を授業中に配布することを予定。

参考書：

特に指定なし。

刑法演習

法務研究科 教授 鈴木 左斗志

授業科目の内容：

本演習は、討論を通じて、刑法総論・各論の重要問題に対する理解を深めてもらうことを目的としています。より具体的には、つぎのような参加者、「教科書等の説明は表面的な感じがして、どうもいまひとつ納得できない。問題（あるいは議論）が結局のところどのような意味をもっているのかということ、『実感』したうえで理解したい」と考えている参加者に、教科書レベルからさらに踏み込んだ理解を得てもらうことを目指します。このような本演習の趣旨から、とりあげる問題の選択にあたっては参加者の希望を尊重したいと思います。

演習参加者には、毎回、全員、十分に予習してもらいたいと思います。すこしキツイと思うかもしれませんが、充実した討論をおこなうためには、全員の十分な準備が必要不可欠です。また、討論の内容を充実したものにするため、参加人数を15名程度に制限したいと思います。

刑法演習

判決の理由づけを読み取る

講師 野阪 滋男

授業科目の内容：

主として刑法総論に関する判決を、毎回報告者を決めて議論できたらとおもう。現実起きた事件に対する判決には、論理のほかには何かが含まれていることが多い。報告者においては、その事件の事実の概要及び判旨をまとめるなかで、その問題の所在を明らかにし、他の履修者を加えて討論し、従来の判例のなかでどのような地位を占めるかにも論及できたらとおもう。

テキスト：

特に指定しません。検討裁判例は、新しい判決例をもとりあげるので、（1週間前）にコピー配布します。

刑法演習

講師 白濱 清貴

授業科目の内容：

刑法総論・各論の基本的論点について、あらかじめ提示した具体的事例を素材として最近の判例学説の動向を踏まえ討議・検討するが、講師が現職の検事であることから、特に実務の観点をも加味し、実体法の観点から裁判実務・検察実務に対する理解を深める機会を提供する。

また、講義中に、適宜法務省や検察庁の業務についても紹介していくが、見学等の機会も設け、刑事事件について法律実務家が果たしている役割や刑罰法令の社会的機能についても具体的に理解できる場とする。

刑法演習 講師 末道康之

授業科目の内容:

刑法総論・各論の重要問題のなかから、受講者の関心のあるテーマをとりあげ、深く掘り下げ検討します。

テキスト:

特に指定しません。詳細は開講時に指示します。

参考書:

開講時に指示します。

商法演習 商法の判例研究 法務研究科 教授 山手正史

授業科目の内容:

判例研究を通しての論理的・原則的思考力の錬磨、および、法規制の政策論的含意把握を通しての社会科学的分析能力の向上を目指す。平たく言えば、「学問を楽しむ」ということである。

題材としては、商法総則、会社法、商行為法（国際取引法を含む）に関する判決を取りあげる。ただし、受講生各自の研究の展開によって、保険法、海商法、手形法等に関する判決を取りあげてもよい。要するに、商法に関することであれば「何でもあり」ということである。

報告・討論方式で行う。毎回ひとつの判決を取りあげる。取りあげる判決は、報告者が自ら決定する。報告者は、遅くとも報告の1週間前までに、レジュメを受講生全員に配布しなければならない。報告者以外の受講生も、全員、発言義務を負う。

テキスト:

報告者が作成したレジュメに基づいて授業を進めるが、別冊ジュリスト『商法（総則・商行為）判例百選〔第4版〕（有斐閣）および同『会社判例百選〔第6版〕』（有斐閣）は用意しておくこと。

参考書:

授業中に随時指示する。

商法演習 手形法・小切手法判例研究 講師 黄清溪

授業科目の内容:

近時最高裁の重要判例を素材として、手形法の理論・学説について考究する。授業は発表と討議の形式を行う。法科大学院に入学際に、手形法に関する、基礎的な法理論構成能力と重要判例の体系的な理解を修得できることを本演習の目標としています。

テキスト:

ジュリスト手形法小切手法判例百選 有斐閣

参考書:

特に指定しません。

商法演習 会社の業務運営と商法・証券取引法 講師 竹中 正明

授業科目の内容:

会社の業務運営上不可欠な、商法（会社法）の特別法である証券取引法につき、商法の規則と関連付けながら、授業計画に示した事項につき講義形式により、実用を旨として概説します。会社のリーガル・スタッフとして必要な知識を身に付けてもらうことが目的です。

テキスト:

特に指定しません。政省令を含め改正の多い法律のため、最新の規定をもとにまとめた講義概要および資料のプリントを配布して解説します。

参考書:

・近藤光男・吉原和志・黒沼悦郎共著「証券取引法入門」商事法務研究会刊

・河本一郎・大武泰南共著「証券取引法読本」有斐閣刊

（注）ともに最新版が望ましい

商法演習 法曹実務家による事例演習 講師 加々美 博久

授業科目の内容:

会社法、手形法、商法総則及び商行為法を対象に、具体的事例を通して、そこに含まれている法律上の問題点の把握、解決を目的として討議を行う。討議は、受講者が事例を検討し、その意見を聞きながら進めていくが、議論を進めていく中で法的思考力を身につけることを目標とした。

テキスト:

会社法判例百選 手形・小切手判例百選（有斐閣）

参考書:

会社判例の基礎、手形判例の基礎（倉沢康一郎著）日本評論社

行政法演習 講師 竹之内 一幸

授業科目の内容:

行政法理論と行政救済制度の理解を目的とします。その際の導入に裁判例・事例を利用することを考えています。

受講者数にもよりますが、演習ですから「参加型」の授業にしたいと思います。課題報告や質疑応答により評価ができればいいのですが、やはり受講者数次第です。

テキスト:

受講者数により授業形態の変更がありうるため、未定です。

参考書:

受講者数により授業形態の変更がありうるため、未定です。

国際私法演習 講師 横山 潤

授業科目の内容:

1898年に立法された『法例』は日本の国際私法の主要法源ですが、現在、その全面改正の作業が進行中です。立法案とその解釈について検討したいと思います。

テキスト:

用いません。

参考書:

必要な文献は適宜配布します。

刑事訴訟法演習 刑事手続の理論と実務 法務研究科 教授 松田 章

授業科目の内容:

(1) この演習は、刑事訴訟法の捜査・公判・証拠の各分野における基本的な問題について、学生諸君が、予習してきた上で発表や討議を行うことによって、刑事手続に関する理論と実務についての理解を深めることを目的とします。

(2) 演習は、事前にテーマあるいは具体的なケースを選定出題し、全受講者に予習を要求します。また、受講者の中から、各回のテーマあるいはケースに関する報告者を事前に指定します。毎回、報告者から発表してもらった上で、受講者全員で討論することを基本とします。

(3) 学生諸君に、刑事訴訟法に関する基本的な理論や実務を学習することに加え、基礎的な文献・判例調査能力、人前での発表能力、討論能力などを身につけてもらうことを狙っています。

(4) 抽象的な刑事手続理論の解説に止まらず、刑事手続における実務を踏まえ、生きた捜査・公判の動きを紹介することによって、実務に適合しつつも実務をリードし得る理論の在り方について、学生諸君が自分の頭で考えることができるようになることを目指します。

(5) 必要に応じ、刑事訴訟法の要点に関する講義を行うことがあります。

(6) 法科大学院への進学や司法試験の勉強にも役立つ内容として考えています。

テキスト:

①「入門刑事手続法（第3版）」三井誠・酒巻匡著 有斐閣

②「刑事訴訟法の争点（第3版）」松尾浩也・井上正仁編 有斐閣

参考書：

・開講後指示します。

民事訴訟法演習

具体的設例を通じて民事訴訟法の理解を深める

講師 栗田 陸 雄

授業科目の内容：

民事訴訟法の分野における判例および設例を素材に、具体的事例における理論的な問題点の解明を試みる。

テキスト：

講義資料プリントを配布する。

参考書：

・民事訴訟法判例百選ⅠⅡ（新法対応版）および民事訴訟法に関する体系書

民事訴訟法演習

判決手続の基礎理論の応用・発展

法務研究科 教授 三上 威彦

授業科目の内容：

本授業では、民事訴訟法のうち判決手続の部分の全体像を、事例を通して理解してもらうことを目的とする。そのために、民事訴訟法における基本的な論点を取り上げて、それを事例に基づいて考えてもらうという方法を採用する。具体的には(1) 担当者が事例問題を作り事前に配布する。(2) 履修者は、その事例問題につき、各自解答を考えてくる。(3) 授業では、その解答を提示してもらいみんなで議論する（あらかじめレポーターを指定することはしない）。(4) 議論の筋道を見失わないために、常に教科書のその点に関する記載をリファアする、という流れになろう。

テキスト：

・石川 明編『はじめて学ぶ民事訴訟法』不磨書房

参考書：

・伊藤眞・高橋宏志・高田裕成編『民事訴訟法判例百選〔第三版〕』有斐閣

破産法演習

倒産法から見た民法

法務研究科 教授 中島 弘雅

授業科目の内容：

学生諸君からよく民法は難しいという声を聞きますが、民法でよく判らなかつた論点も、倒産という究極の場面を念頭に置くと、民法の規定がどのように作用するかがよく判ります。本演習は、倒産法の観点から民法の規定する諸制度を眺め直すことを通じて、民法と倒産法（さらには民事手続法）についての理解を深めてもらうことを目的としています。

テキスト：

・小林秀之『〔新版〕破産から民法がみえる』（2003、日本評論社）

参考書：

・青山善充＝伊藤眞＝松下淳一編『倒産判例百選〔第3版〕』（2002、有斐閣）

刑事政策演習

刑事司法制度論・犯罪者処遇論・犯罪予防論・被害者学

助教授 太田 達也

授業科目の内容：

刑事司法制度、犯罪者処遇制度、犯罪予防論・被害者学の概要を講義するとともに、刑事政策を巡る昨今の新しい問題に関して討論を行う。刑事司法制度を政策的観点から正しく理解し、犯罪や犯罪者を巡る政策立案に必要な基礎的思考・分析能力を養うことが講義の目的である。また、犯罪者処遇の実務を知るため、刑務所、少年院、更生保護施設、児童自立支援施設のうち幾つかの施設参観を

実施する。参観施設、回数、日程については施設側の事情と受講者の人数や都合を考慮して決める。

テキスト：

講義の内容毎に資料を配付する。

参考書：

犯罪白書の最新版。その他の参考書は講義の内容毎に紹介する。

刑事政策演習

矯正処遇論

講師 内田 雅人

授業科目の内容：

わたしの専門は、心理学なので、少年非行者や犯罪者の非行・犯罪原因や社会復帰処遇対策などのテーマを中心にして、わたしの国連職員、矯正研修所教官、アジア極東犯罪防止研究所教官などの経験にもとづく国際比較制度・処遇論のテーマを中心に演習を行っていきたい。

将来、留学して専門家になりたい学部学生・院生で国立の研究機関の研究員や国際公務員、法務省、警察庁、家庭裁判所調査官などで刑事法の知見を活かした専門家として働きたいと希望している他学部の学生・研究科の院生の諸君の聴講も歓迎している。

テキスト：

受講者の希望などを考慮して最初の講義・演習のときにきめる。

外国法演習（英米）

外国文献による証券取引法の学習

教授 並木 和夫

授業科目の内容：

授業計画を参照してください。

テキスト：

Seliman, Transformation of Wall Street

外国法演習（英米）

教授 西川 理恵子

授業科目の内容：

アメリカの「不法行為 (Torts)」を勉強する。不法行為は、日本では、政権法の一部として議論されるが、アメリカでは法を学ぶに当たっての最も大切な基礎科目の一つと考えられている。そこで、不法行為のケースや論文を読みながら、不法行為をめぐるさまざまな論点、アメリカの法思考方法などを学ぼうというのが、法演習の目的である。

テキスト：

適宜、教材のコピーを配布する。

参考書：

開講時に指定

外国法演習（英米）

イギリス刑事司法研究

講師 倉田 靖司

授業科目の内容：

刑事司法制度は、未だかつて犯罪を皆無にすることはできていないが、ある国において、犯罪に至らない人々が一応満足する程度まで犯罪を封じ込めることができれば、その国の刑事司法制度は成功していると言えよう。被疑者・被告人の人権を尊重しながら社会防衛を図るといふ、衝突しやすい二つの要請をどう調和させるか、そのためには実体法、手続法、犯罪者処遇法は相互にいかなる関係にあるべきか、現存する制度の一部を変えるとき、他の部分はそのまま刑事司法制度全体の犯罪封じ込め機能を従前どおり維持できるのか、それとも他の部分も変えなければ無理なのか。イギリスは、頻りに法改正を行っているが、果たして犯罪封じ込めに成功しているのだろうか。このようなことを念頭に置きながら、当事者主義に基づく陪審制の母国であり、最近捜査の可視化を図ったイギリスの刑事司法制度について、実体法（刑法）、手続法（捜査、公判、量刑審査）、犯罪者の処遇方法等にわたり、多角的に研究することを試みたい。

法律

テキスト：

・バリスターのための司法研修所である Inns of Court School of Law が作成した Bar Manual の一つである Criminal Litigation and Sentencing 2003/2004 (Oxford University Press)

参考書：

・Archbold, Blackstone's Criminal Practice,
・倉田靖司「イギリスにおける否認事件の捜査・起訴の実態及びその前提となる諸条件に関する一考察」(司法研修所論集 1997-Ⅲ-464), 「陪審裁判復活の条件」(判例タイムズ 801-4, 802-40, 「イギリスの刑事陪審制における『公正な審理』について」(法の支配 86-37)

外国法演習(独) 専任講師 オステン, フィリップ

授業科目の内容：

本演習は、ドイツ法・ドイツ法学に関する原書(ドイツ語文献)を理解できるようにすることを目的とするものである。

テキスト：

テキストについては、履修者の希望・語学力等を考慮して、開講時に決定したうえで、プリントをして配布する予定。

参考書：

参考文献については、演習のなかで必要に応じて紹介することにする。

外国法演習(仏) 法務研究科 教授 金山直樹

本授業科目の内容：

本講義は、フランス法的なるものに多角的かつできるだけ直接迫ってみようとするものである。フランス法は、その歴史的な発展過程においても、また現代における法のあり方においても、個性と特色を有している。本講義では、その最新の状況に至るまでを視野に入れながら、できるだけその多様な相に多角的に接することができるように努めたい。

テキスト：

4月に受講生と共に決定する。

参考書：

テキストとして法律書を選択した場合には、三省堂または東大出版会の「フランス法辞典」は便利。

外国法演習(仏) 講師 末道康之

授業科目の内容：

フランスの司法制度(特に刑事司法に関する問題)又はフランス刑事法に関連する最近のフランス語文献を読み、フランスの刑事司法、又は刑法解釈学の現状について検討し、フランス刑事法についての理解を深めることを目標とします。

テキスト：

特に指定せず、必要に応じて、指示します。

参考書：

・末道康之『フランス刑法における未遂犯論』(成文堂, 1998年)

国際法演習

国際法適用の理論と実務

総合政策学部(有期) 山本 条太

授業科目の内容：

国際法の制定から適用までの実際を、実務・理論両面にわたる論点を通じて、解析します。国際法と国内法との関係、国際社会における国際法の実効性などにつき、明確なイメージを持てるようにすることが、この授業の目標です。国家実行分析に集中しますが、国際判例ではなく、条約・決議の制定・適用過程に焦点を絞りますので、注意してください。

テキスト：

テキストは指定しませんが、下記の「参考書」を常時参照できるようにし、実際に参照してください。

参考書：

Ian Brownlie, "Principles of Public International Law", 6th ed. (Oxford, 2003年), D. J. Harris, "Cases & Materials on International Law", 5th ed. (Sweet & Maxwell, 1998年)

国際法演習

国際環境法

講師 白杵知史

授業科目の内容：

下記の教材を用いて、国際環境法の重要項目について検討する。前半は、教材を中心に、国際環境法の対象と方法、法史、法源、事後救済法、事前防止法、紛争解決方式などの基礎項目について検討する。後半は、多数国間条約および国際環境判例をとりあげて、武力紛争と環境、貿易と環境、人権と環境、エネルギー利用(原子力)と環境、海洋環境の保護などの個別テーマを検討する予定である。

テキスト：

・水上千之, 西井正弘, 白杵知史編『国際環境法』(有信堂, 2001年)
・広部和也, 白杵知史監修『解説・国際環境条約集』(三省堂, 2003年)

社会法演習(春学期集中)

社会生活におけるリスク管理と法 講師 松浦 茂

授業科目の内容：

社会生活を営むうえでのリスク・ヘッジ手段の典型である保険の役割はますます高まっているが、その基本的構造は、一般に十分理解されているとは言い難い。

本演習では、家庭生活を取り巻くリスクに重点を置いて、保険に関連するさまざまな法律問題を具体例に則して多面的に考えることによって、活きた法律知識を身につけることを目標とします。

テキスト：

特に指定しません。講義資料はプリントを配布します。

参考書：

1回目のガイダンスの中で紹介します。

社会法演習

ジェンダーからみた労働法

講師 神尾 真知子

授業科目の内容：

社会的文化的に作られたジェンダーという視点で、労働法を見直します。法規定、判例の中にどのようにジェンダーが潜んでいるかを明らかにします。憲法14条、女性差別撤廃条約、女性労働の歴史、均等法、労基法の女性保護規定、労基法4条、育児・介護休業法などを取り上げます。

女性労働の歴史を学ぶために、女性と仕事の未来館を見学します。また、裁判所も見学します。

テキスト：

・山下・戒能・神尾・植野『法女性学への招待(新版)』有斐閣
講義時の配布資料

参考書：

講義時に適宜紹介する。

法思想史演習

法・国家・正義に関わる諸問題の検討

講師 國分典子

授業科目の内容：

春学期は、現代の学者の書いた法思想史に関する論文を読み、法・正義・国家といった概念に関わる諸問題を考察するとともに、入手しやすい文庫本等に収められた代表的な法思想家の著作を読んで、討論を行います。秋学期は、受講者各自の選んだテーマでの自由報告を中心に進めます。但し、少人数の授業ですので、扱う文献および授業の進め方については初回に参加者の希望を聞き、できるだけ受講者の興味に沿った内容としたいと思います。

テキスト：

初回に受講者と話し合って採り上げる文献を決定します。

法制史演習

講師 漆原 徹

授業科目の内容：

鎌倉・室町期における多様な中世社会の諸相，特に幕府・守護・御家人の関係について幕府法を中心に理解を深めたい。鎌倉幕府の基本法たる貞永式目は，室町時代に至る迄，武家の法制に多大な影響を維持し続けた。鎌倉・室町の追加法を含む中世幕府法そして分国法などを読み幕府体制とそれをとりまく多様な諸相を法制度の視点から考えていきたい。

テキスト：

・霞信彦・漆原徹・浜野潔編「日本法制史史料集」慶應出版 2003 年
参考書：
 ・佐藤進一・池内義資編「中世法制史料集」第 1 巻～第 3 巻

国際民事訴訟法演習

法務研究科 教授 春日 偉知郎

授業科目の内容：

本演習は，涉外事件（財産関係事件のほか身分関係事件も含む）を解決する上で不可欠な手続上の主要問題について，判例を中心に検討することにより，国際民事訴訟の諸制度について十分な理解を得られるようにすることを目的とするものである。授業計画に示してあるように，国際裁判管轄から外国判決の承認・執行までの過程において生ずる諸問題のほか，国際仲裁，国際倒産等についても検討し，個別的問題の解決能力のみならず，包括的な視点から具体的事件の解決方法を考えることができるようにしたい。

テキスト：

第一回目に詳しく説明するが，担当者が，判例を主とした教材を準備して，配布する予定でいる。

参考書：

高桑・道垣内編・国際民事訴訟法（財産法関係）を予定している。

〔研究会（3 年）〕

研究会（3 年）

憲法 教授 小林 節

授業科目の内容：

日本国憲法を研究する。論点方式で，憲法の体系に従って，全員で討論を展開し，当該論点の理解を深める。また，学年の途中で憲法に関する重要な判決が下された場合には，その検討も行う。一年間で，日本国憲法に関する重要な論点を総て網羅する予定である。なお，3 年次の一月に卒業研究の指導を始める。卒業研究の課題と方法は各自の好みと必要に応じて選択する。

テキスト：

特になし。

参考書：

特に指定せず。

研究会（3 年）

基本的人権の諸問題 教授 小山 剛

授業科目の内容：

3 年次はレポーター形式により，基本的人権に関する重要論点について研究する。取り扱う論点は受講者と相談の上で決定する。なお，開講に先立ち 4 年生による模擬演習を予定しているのので，参考にすること。

テキスト：

開講に先立ちガイダンスをおこない，具体的に指示する。

参考書：

開講に先立ちガイダンスをおこない，具体的に指示する。

研究会（3 年）

助教授 駒村 圭吾

授業科目の内容：

憲法の代表的論点について，深くかつ多面的に探求する演習を行う。手法としては，重要判例を素材にして賛成・反対に別れ討論する方法と，担当者が作成した新作事例問題を解く手法とを併用する予定である。ロースクール教育に耐えられる力をつけるために，判例と学説のいわば **reverse engineering** を行い，あらゆる事例に対応できる応用力と，法学部生一般に要求される **legal mind** を，獲得することを旨とする。

が，他方で，憲法学は，憲法理論を駆使するいわば職人芸的な力のみならず，憲法理論そのものの妥当性を吟味する原理的思考力をも必要とする。したがって，かかる原理的思考を喚起する機会を別途（合宿など）で持ちたいと考えている。

テキスト：

判例集や教科書・論文集を駆使してもらうので，教科書は指定しない。が，担当者作法の独自の見取り図を配布する予定である。

参考書：

使用頻度が高くなるものとして次の参考書を上げておく。
 ・芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法 第 3 版』（岩波書店）
 ・野中俊彦・中村陸男・高橋和之・高見勝利『憲法 I・II 第 3 版』（有斐閣）

研究会（3 年）

行政法事例研究 教授 藤原 淳一郎

授業科目の内容：

行政法の事例問題をソクラティック・メソッドにより教授する。

テキスト：

・『六法全書』（いわゆる大六法）（有斐閣）
 ・原田尚彦『行政法要論』（学陽書房）

参考書：

・塩野宏『行政法 I・II・III』大橋洋一『行政法』（ともに有斐閣）

研究会（3 年）

タックスヘイブン税制の研究 助教授 吉村 典久

授業科目の内容：

租税法及び国際租税法の基礎知識を修得し，タックスヘイブン税制など重要な租税問題につき，十分に理解できる基礎学力を養成します。法律的会話を行うことができるようになれば，本授業の目標は達成されたと認められます。

テキスト：

・金子宏『租税法』弘文堂
 ・『実務税法六法（法令編）』新日本法規

研究会（3 年）

教授 西川 理恵子

授業科目の内容：

国際商取引に関する法律について，下のテキストを使い勉強する。国際取引法を理解するには，日本法だけでなく，相手国の法も理解しなければならない。そこで，日本の最も重要な取引相手国がアメリカであることもあり，また，アメリカがコモンロー国家であるので，アメリカ合衆国における関連法も，視野に入れる。カバーする予定の問題は，国際売買契約および，それに関連するさまざまな問題，紛争解決手段としての商事仲裁などを含む。この研究会の目的は，国際取引という場面では，法とは何か，そして，それがどのように働くかを理解することである。

テキスト：

Folsom, Gordon, Spangle "International Business Transaction"

研究会(3年) 教授 大森正仁

授業科目の内容:

国際法の基本的な理解とその具体的な場面への適用について研究することを目標とします。前者については個別の問題についてレポートの作成を、後者については4年生との模擬裁判を通じて行います。

テキスト:

- ・杉原高嶺他『現代国際法講義』(有斐閣, 第3版, 2003年)
- ・大沼保昭・藤田久一編『国際条約集 2003年版』(有斐閣, 2003年)

参考書:

- ・栗林忠男『現代国際法』(慶應義塾大学出版会, 1999年)
- ・山本草二他『国際法判例百選』(有斐閣, 2001年)

研究会(3年) 教授 加藤久雄

授業科目の内容:

医事刑法入門(東京法令出版, 2004年新訂版)と新刑事政策学入門(2004年3月刊行予定)などを参考書として, 刑事政策と医事刑法とを幅広く研究する。三田祭には必ず参加して, 論文集の作成をする。

尚, 参考文献として, 拙著・犯罪者処遇の理論と実践(慶應義塾大学出版会, 1984年), 同・刑事政策学入門(立花書房, 1991年), 同・組織犯罪の研究—マフィア, ラ・コーザ・ノストラ, 暴力団の比較研究—(成文堂, 1992年), 同・暴力団(岩波ブックレット, 1993年), 同・「人格障害犯罪者と社会治療」(成文堂, 2002年), などをよく使うのでよく読んでおくようにしてください。

研究会(3年) 教授 安富 潔

授業科目の内容:

判例を素材にした問題の検討を中心とした刑事訴訟法の研究を行う。報告者の発表をもとに参加者全員によるディスカッション形式で進めてゆきます。

問題解決能力の基本を養いたいと思います。

研究会(3年) 助教授 太田 達也

刑事政策・被害者学・アジア法

授業科目の内容:

本研究会は, 刑事政策と被害者学について扱う。最初の1か月は担当者が刑事政策の概要について講義を行い, その後, 刑事司法制度, 犯罪者処遇制度, 犯罪予防論, 被害者学に関する重要な問題について受講生に順番に報告してもらい, 担当者と受講生全員で議論を行う。3年次には刑事政策の基本的な事項について正しく理解するとともに, 刑事政策の問題に対する考察能力を深めることが課題である。また, 犯罪者処遇の実務を知るため, 合宿を兼ね, 刑務所, 少年院, 更生保護施設, 児童自立支援施設などの施設参観を予定している。アジア法に関心のある受講生についても適宜指導を行うので, 学習の成果を研究会の時間に報告してもらい, さらに関心があれば, 卒業論文のテーマとすることも認める。

テキスト:

特に使用しない。

参考書:

犯罪白書の最新版を使用する。

研究会(3年) 専任講師 オステン, フィリップ

授業科目の内容:

本研究会は, 現在の国際刑事法およびその成立過程を主な対象とする。また, 個々の研究テーマに応じて, 外国文献の講読等も予定している。

テキスト:

必要に応じて資料プリントを配布することにしますが, 毎回, 六法および国際条約集(山手治之・他[編]『ベーシック条約集[第4版]』

東信堂(2003年)を推奨する)を持参されたい。

参考書:

- ・小長谷和高『国際刑事裁判序説[訂正版]』(尚学社(2001年))
- ・安藤泰子『国際刑事裁判所の理念』(成文堂(2002年))
- ・森下忠『新しい国際刑法』(信山社(2002年))
- ・フィリップ・オステン「国際刑事裁判所規程と国内立法—ドイツ『国際刑法典』草案を素材として」(ジュリスト1207号(2001年)126頁以下)
- ・松宮孝明「実体刑法とその国際化—またはグローバリゼーションに伴う諸問題」(法律時報927号(2003年)25頁以下)
- ・Cassese, Antonio, International Criminal Law (Oxford UP), 2003
- ・その他, 随時指示する

研究会(3年)

刑事実体法・刑事政策ゼミナール

法務研究科 教授 伊東 研 祐

授業科目の内容:

現代社会状況の中で明らかになって来る刑事実体法に関わる諸々の問題につき, その適正な解決を図るべく, 自ら考える為の視座の形成を目的とします。当然ながら, 問題を発見し, 解析し, 解決の為に調査する等々の能力の養成も行ないます。参加者の主体的な取り組みを前提とした, 小人数のゼミです。

テキスト:

指定しない。

参考書:

参加者の研究の必要に応じ, 随時指示します。

研究会(3年)

教授 斎藤 和 夫

授業科目の内容:

国際金融取引を「担保法」や「金融法」の視点から考察します。

テキスト:

特に指定しません。

参考書:

随時, 指示します。

研究会(3年)

民法財産法ゼミナール

教授 池田 真 朗

授業科目の内容:

民法財産法の範囲で, 事例問題を用いた演習を行う。なお, 本年も秋に恒例の早稲田大学鎌田ゼミとの早慶合同ゼミナールを行う予定である。

(過去の出題講師は, 星野英一, 川井健, 好美清光, 下森定, 石田喜久夫, 加藤雅信, 加藤新太郎, 寺田逸郎, 野村豊弘, 瀬川信久, 能見善久, 安永正昭, 吉田克己, 内田貴, 中田裕康, 山本敬三, 奥田昌道の諸先生である)。

ゼミ生には毎回のディベート参加と, 一回おきの4000字のレポートが義務づけられる(夏合宿後のレポートは1万字である)。

テキスト:

問題集として池田真朗・半田正夫他『スリーステップ民法ゼミナール』(一粒社)を使用する。

(ただし昨年使用した問題をのぞく。また, 問題集が絶版のため入手に困難を生じる場合には, 別途考慮する)

参考書:

毎回多数の論文, 判例評釈等を使用する(資料集めはゼミ生の諸君が協力して行う)

研究会(3年)

家族法研究

教授 犬伏 由 子

授業科目の内容:

家族法(民法—親族・相続編)を対象とします。具体的なテーマについては, 受講生と相談の上決定しますが, 家族法の諸論点を,

学説・判例を踏えて検討すること、および、現代家族が抱える諸課題について立法論も含めて検討する予定です。

参考書：

「家族法判例百選（第6版）」有斐閣

研究会（3年）

助教授 北澤安紀

授業科目の内容：

まずはじめに、国際私法の基本的な概念の理解と習得、つぎに、国際私法上の重要な論点について事例問題を中心とした演習形式のゼミを行う。本ゼミでは、担当者が予め作成し出題しておいた事例問題についてレポーターによる報告が行われ、その後、参加者全員で質疑応答を行う。このほか、ゼミ員には毎週1回サブゼミへの参加が義務付けられる。また、毎月1回程度、ゼミで扱った事例問題について各自の見解をまとめたレポート（4000字程度）の提出を求めている。

（受講者は、国際私法の講義を併せて履修すること）

テキスト：

授業内で指示する。

参考書：

授業内で指示する。

研究会（3年）

民法（財産法）の総合的研究 助教授 武川幸嗣

授業科目の内容：

財産法分野に関する応用事例の演習を通して、基本的理解の深化ならびに応用的思考力の涵養を図ることを目的とする。具体的な進め方としては、班分けした上で、担当者が予め配布する課題（事例が中心）につき事前に各班で検討を行い（したがって自主的にセブゼミを開いてもらう）、本ゼミの際にその成果を班ごとにレポーターを立てて報告し、さらに全体で討議をしてもらう予定である。演習課題の対象範囲は年間を通して財産法全般にわたるよう、ゼミを進行していきたい。

このほか、夏期合宿を行い、集中的にまとまった課題研究を行う予定である。

テキスト：

とくに共通のテキストは指定しないが、基本書レベルのものは開講時まで各自が通読していることを前提としてゼミを進行する。課題ごとの参考文献については必要に応じて逐次指示する。

参考書：

同上。

研究会（3年）

民法財産法の総合的研究

法務研究科 教授 片山直也

授業科目の内容：

春学期は、6つのサイクルに分け、各サイクルごとに1つのテーマを設定し、①事例問題研究、②討論研究（ディベート）および③判例研究を組み合わせた双方向の多角的な演習を行い、論理的思考能力、問題解決能力の育成をめざす。

秋学期は、受講生が各自の研究テーマを選択し、近接するテーマごとにいくつかのグループを組み、各グループの構成員を中心に、裁判例や代表的な論文の分析研究を行い、4年次のリサーチペーパー、卒業論文の作成に備える。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

各テーマごとに、ゼミに先立って、メディアセンターで判例、雑誌論文などの資料を収集し、分析検討を行う。

研究会（3年）

法務研究科 教授 北居功

授業科目の内容：

民法財産法について、主要なテーマを具体例を素材にしつつ扱いながら、参加者の議論を通じて、理解を深めることを目指している。従って、議論を深めるうえでも、各参加者には、事前の十分な予習を求めることとなる。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度による評価）

研究会（3年）

民法理論の基礎から応用へ

法務研究科 教授 松尾弘

授業科目の内容：

- (1) 民法全般にわたり、理論と実務の双方の観点から解釈論を深める。新しい裁判例や法改正の動向、比較法、法形成（法継受）の歴史、法解釈方法論にも、たえず注意を払ってゆきたい。
- (2) 政府のガバナンス向上のための法制度改革、発展途上国への法整備支援などを対象とする、開発法学（Law and Development）の理論と実践を分析する。

ゼミでは(1)を主眼とし、(2)はメンバーの希望や関心に応じて取り上げる。

具体的には、つぎのような活動を予定している。①民法全般にわたり、主要問題に関する判例、学説を的確に整理し、自説を形成する（レポーター制）。②①と並行しながら、法解釈方法論を検討する③最新の裁判例の中から重要なものを抽出し、内容や意義を検討する（担当者〔松尾〕と共同）。④民法関連の法改正の内容を検討する（解説書を用いる）。⑤諸外国の民法の概要、その形成プロセス、法継受などを通じた相互作用について学習する（担当者と共同）、⑥開発法学の動向、法整備支援の状況を検討する（最初は担当者として希望者）。⑦ゼミ誌を発行する（担当者と共同）。

テキスト：

①に関して

山野日章夫＝野澤正充編『ケースではじめる民法』（弘文堂、2003）

松尾弘『民法の体系－市民法の基礎－（第3版）』（慶應義塾大学出版会、2003）

②に関して

五十嵐清『法学入門（新版）』（悠々社、2002）

ヤン・シュレーダー／石部雅亮編訳『トビク・類推・衡平－法解釈方法論史の基本概念－』（信山社、2000）

④に関して

道垣内弘人＝山本和彦＝古賀政治＝小林明彦『新しい担保・執行制度』（有斐閣、2003）

⑤に関して

オッコー・バーレンツ＝河上正二『歴史の中の民法－ローマ法との対話－』（日本評論社、2001）

⑥に関して

松尾弘『関係法学と法整備支援の理論化』横浜国際経済法学11巻1号（2002）55－89ページ

参考書：

授業中に随時紹介する。

研究会（3年）

商法

法務研究科 教授 山手正史

授業科目の内容：

法解釈学の学習を通じて論理的・原則的思考力を練磨するとともに、法規制の政策論的含意把握を通して社会科学的分析能力の向上を目指す。題材としては、商法総則、会社法、商行為法（国際取引法を含む）に関する判決を取りあげる。ただし、受講生各自の研究の展開によって、保険法、海商法、手形法等に関する判決を取りあげてもよい。要するに、商法に関することであれば「何でもあり」ということである。

報告・討論方式で行う。毎回ひとつの判決を取りあげる。取りあげる判決は、報告者が自ら決定する。報告者は、遅くとも報告の1週間前までに、レジメを受講生全員に配布しなければならない。

法律

報告者以外の受講生も、全員、発言義務を負う。

テキスト:

報告者が作成したレジュメに基づいて授業を進めるが、別冊ジュリスト『商法(総則・商行為)判例百選(第4版)』(有斐閣)および同『会社判例百選(第6版)』(有斐閣)は用意しておくこと。

参考書:

授業中に随時指示する。

研究会(3年)

会社法及び証券取引法についての研究

教授 並木和夫

授業科目の内容:

並木和夫著、会社法・証券取引法(中央経済社)に基づいて研究を行う。

履修者へのコメント:

各自、上記書物を生協にて購入してください。

研究会(3年)

民事訴訟法研究会

教授 坂原正夫

授業科目の内容:

民事訴訟法に関する事例問題を履修者全員が徹底的に討論することによって、履修者が民事訴訟法の基礎理論について理解できるようにします。換言すれば、履修者が民事訴訟法の基本的な問題について判例・通説の内容と問題点を認識し、各自がそれぞれの問題について自らの見解をまとめることができるように指導します。

テキスト:

特に指定しません。

参考書:

春休み中(3月中旬)に勉強会を行いました。そのためのガイドダンスの際(2月中旬)に、配布した演習問題に参考書一覧が記載されているので、それを参照してください。

研究会(3年)

教授 三木浩一

授業科目の内容:

民事訴訟法判決手続について、通年のゼミナール形式で演習を行う。授業のスタイルとしては、担当者が作成した事例問題を課題として事前に与えておき、授業当日はこれを素材としてソクラテック・メソッドを用いて議論を行う。

教科書:

特に指定しない。

参考書:

最初の授業の日に口頭で指定する。

研究会(3年)

経済法(独占禁止法)・国際経済法(GATT/WTO)

教授 田村次朗

授業科目の内容:

企業間の競争を通じて、低廉・良質な財・サービスが消費者に提供されることは、資本主義メカニズムの根幹であるが、競争は時として、独占企業や寡占によって減殺される。このような弊害を是正し、競争を維持・促進する法制度が独占禁止法(競争法)である。競争法では、独占やカルテル、イノベーションの促進と知的財産権、規制緩和問題(情報通信・電力・ガス事業)などを取り扱う。また、国内市場を規律する競争法の検討とともに、国際貿易を規律する法制度である国際経済法を検討する。国際経済法では、主としてWTO(世界貿易機関)における紛争解決事例の検討を通じて、セーフガード、アンチ・ダンピング、国際的環境問題を検討する予定である。

テキスト:

- ・根岸 哲・舟田正之『独占禁止法概説(第2版)』(有斐閣, 2003)
- ・田村次朗『WTOガイドブック』(弘文堂, 2001)
- ・厚谷襄児・稗貫俊文(編)『独禁法審決・判例百選(第6版)』(有

斐閣, 2002)

参考書:

- ・村上政博『独占禁止法の日米比較』(弘文堂, 1992)
- ・松下満雄『経済法概説』(東京大学出版会, 1995)
- ・松下満雄『国際経済法-国際通商・投資の規制(第3版)』(有斐閣, 2001) など

研究会(3年)

労働法・社会保障法

助教授 内藤 恵

授業科目の内容:

当ゼミナールでは、3・4年生一緒に2コマ(3時間)通して、研究会を行います。3年生は特に、学部における内藤担当の労働法および社会保障法の講義を履修し、それと相互補完的に下記のテーマに関する裁判例及び理論研究を行います。毎週1つのテーマにつき2名のリポーターをたて、その報告をきいて、全員参加のディスカッションを進めます。

同時に3年生の希望がある場合には、夏休みから11月にかけて学生論文集『法律学研究』に掲載する論文を全員で執筆します。テーマは3年生が自ら選びます。

4年生は、春学期は就職活動が終了するまでゼミのリポーターからは外れますが、各々の就職が決まり次第各自ゼミに復帰し、3年生のリポートに対してディスカッションに参加し、同時に卒業論文の作成を進めます。秋学期になると、リポーターは出来る限り3&4年生のペアで行い、それぞれの視点を生かした形で研究を進めます。

9月中旬には、ゼミ合宿を行います。その席上、4年生は卒業論文の中間報告をし、他の4年生あるいは3年生からの質問を受け議論をし、秋学期の卒論作成の参考にします。

テキスト:

・特に指定せず、各テーマに関する参考文献等をそれぞれのテーマに応じて指示します。

但し最低でも、労働法あるいは社会保障法のそれぞれのテーマに応じて、下記から菅野和夫『労働法』あるいは西村健一郎『社会保障法』及び、各々の判例百選及び六法は持参すること。

参考書:

労働法

- ・野川忍・野田進・和田肇『労働法の世界(第5版)』(有斐閣, 2003)
- ・西村健一郎・安枝英紳『労働法(第7版)』(有斐閣プリマシリーズ, 2002)
- ・菅野和夫『労働法(第6版)』(弘文堂)

社会保障法

- ・西村健一郎『社会保障法』(有斐閣, 2003)
- ・西村道雄・編『社会保障法(第5版)』(有斐閣双書)

研究会(3年)

ヨーロッパ法史研究

教授 森 征一

授業科目の内容:

法制史は、法を学ぶ者が身につけるべき基礎教養科目であり、当然に憲法、民法、刑法、訴訟法等の実定法科目と有機的に連結して、法学教育の一端を担うものです。

本研究会は、現在ヨーロッパ共通法として形成されつつあるEU(欧州連合)法を視野に入れながら、近代日本法の形成に大きな影響を与えた、12世紀から19世紀にいたるヨーロッパ法の歴史を辿り、ヨーロッパ法文化の本質を理解することが目標です。

テキスト:

・勝田他『ヨーロッパ法の時空』(ミネルヴァ書房 2004年)

参考書:

- ・P.スタイン/屋敷二郎監訳『ローマ法とヨーロッパ』(ミネルヴァ書房 2003年)
- ・K.W.ネル/村上淳一訳『ヨーロッパ法史入門』(東京大学出版会 1999年)
- ・O.F.Robinson, T.D.Fergus, European Legal History, London, 1994
- ・M.Bellomo, The Common Legal Past of Europe 1000-1800,

Washington D.C., 1995, 他

研究会 (3年) 教授 霞 信彦**授業科目の内容:**

明治初期の刑事法や刑事裁判制度に関する理解を深めることを目的とする。しかしそのためには、わが国近代に対する基礎的な知見を有することが、前提かつ必須である。そこで三年次では、まず幅広く先学の著作・論考を読み、また史跡を訪ね史料の展示にふれること等を通じて、「明治」という時代がいかなる時代であったかを体感し、自分なりの理解を深めることをスタート点としたい。そうした上で今年度は、明治期に朝野の注目を集めた著名事件のいくつかをとりあげ、その事実関係や司法処理の経過について調べ、各自研究発表をおこなうものとする。

テキスト:

・霞・漆原・浜野「日本法制史 史料集」(慶應義塾大学出版会 2003年 2000円)

参考書:

講義において必要に応じて指摘する。

研究会 (3年) 日本近代期の法の歴史・法文化 教授 岩谷 十郎**授業科目の内容:**

日本法の「近代」がどのように展開したのか、法制度・法意識・法文化の観点から、様々な文献を通じて議論する。

テキスト:

未定(参考書から1冊選ぶこともある)

参考書:

・大木雅夫『日本人の法観念』(東大出版会)
 ・村上淳一『〈法〉の歴史』(同前)
 ・田中成明『転換期の日本法』(岩波書店)
 ・小林直樹『法の人間の考察』(同前) 他

研究会 (4年)**研究会 (4年)** 憲法 教授 小林 節**授業科目の内容:**

3年次の一月に選択した各自の課題と方法に従って、卒業研究の指導を続行する。必要に応じて中間報告を求める。4年生は、時間の許す限り、3年生の研究会にも出席すること。

テキスト:

特になし。

参考書:

特に指定せず。

研究会 (4年) 教授 小山 剛**授業科目の内容:**

[春学期]

統治の基本問題について演習をおこなう。

[秋学期]

各自の選択したテーマにしたがって卒業論文またはリサーチ・ペーパーを執筆する。

テキスト:

とくになし

参考書:

適宜指示する

研究会 (4年) 戦争と平和の法理 part II 助教授 駒村 圭吾**授業科目の内容:**

昨年度の「戦争と平和の法理」を踏まえて、各自の卒業研究の作成を行う。

卒業研究の内容は、各自で選択することになるが、ゼミでは、最大公約数の関心に応えうる文献を選択し、みなで討議する。今のところ、international justice, restorative justice, U. N. / C. P. A. などについて、constitutional justiceの観点から考察する文献を選択したいと考えている。

テキスト:

開講後、その時点での学界状況を勘案し、随時決定する。

参考書:

上記に従って、随時決定する。

研究会 (4年) 行政法演習&卒論作成 教授 藤原 淳一郎**授業科目の内容:**

行政法の基礎理論を「演習問題」で復習する一方、「月刊法学教室」演習問題、最新判例、最新学術論文等により、一層の学力の向上を目指す。秋学期には卒業論文を作成する。テーマは、法哲学、法社会学、法政策学、法と経済、行政学等に及ぶものでも良い。

テキスト:

特にはない。

参考書:

既に研究会(3年)のときに指示。

授業の計画:

秋学期の卒論作成が最終ゴールといってもよい。テーマの選択、中間発表等、いくつかの段階を踏んでいくことになる。

履修者へのコメント:

3年次の当研究会履修者に限定。

成績評価方法:

・平常点(出席状況および授業態度による評価)
 ・卒業論文の作成

質問・相談:

Office Hour: 木曜日 PM 2:00 ~ 2:30

研究会 (4年) 租税回避行為の研究 助教授 吉村 典久**授業科目の内容:**

2年間の研究会活動の集大成として、卒業論文を作成します。同時に、司会及び裁判官として、後進の指導にあたってください。

テキスト:

・金子宏『租税法』弘文堂
 ・『実務税法六法(法令編)』新日本法規

研究会 (4年) 教授 西川 理恵子**授業科目の内容:**

前年度のトピックに関する勉強の継続と、各自、卒論を自分の選んだテーマで書く。

テキスト:

Folsom, Gordon Spangle "International Business, Transaction"

研究会 (4年) 教授 大森 正仁**授業科目の内容:**

3年次に獲得した国際法の知識の事例への適用として、模擬裁判を行います。同時に大学での学習の集大成としての卒業論文の作成に取り組みます。

テキスト:

法律

- ・杉原高嶺他『現代国際法講義』（有斐閣，第3版，2003年）
- ・大沼保昭・藤田久一編『国際条約集2003年版』（有斐閣，2003年）

参考書：

- ・栗林忠男『現代国際法』（慶應義塾大学出版会，1999年）
- ・山本草二他『国際法判例百選』（有斐閣，2001年）

研究会（4年） 教授 加藤 久雄

授業科目の内容：

卒論作成の指導を行う。

研究会（4年） 教授 安富 潔

授業科目の内容：

総合的な事例の検討を中心として刑事訴訟法の研究を行います。問題解決能力の練成をめざします。

研究会（4年） 法務研究科 教授 平良木 登規男

授業科目の内容：

刑事訴訟法に関する諸問題について検討する。
具体的な内容については、適宜相談して決定する。

テキスト：

- ・平良木登規男「捜査法（第2版）」（成文堂）
- ・田宮 裕「刑事訴訟法（改訂版）」（有斐閣）

研究会（4年） 刑法総論の諸問題 法務研究科 教授 井田 良

授業科目の内容：

刑法総論の論点を取り上げて全員で議論することにした。秋学期は各人の卒業論文の中間報告をしよう予定である。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

特に指定しない。

研究会（4年） 教授 斎藤 和夫

授業科目の内容：

卒論作成の作業を進めます。三年次のⅢ限テーマとⅣ限テーマとの、いずれかを選択して、卒論テーマをしばってください。

研究会（4年） 民法財産法ゼミナール 教授 池田 真朗

授業科目の内容：

春学期は卒業論文の中間報告とそれに対する質疑を内容とする。秋学期は司法試験受験者と法科大学院進学者の個別報告とそれに対する質疑を行う。

参考書：

各人のテーマによって収集する

研究会（4年） 家族法研究 教授 犬伏 由子

授業科目の内容：

家族法（民法一親族・相続編）を対象とします。三年次に引き続き、家族法の諸課題について研究を深め、各自テーマを選抜し、卒業論文の作成を行うこととなります。

参考書：

「家族法判例百選（第6版）」有斐閣

研究会（4年） （代講） 助教授 北澤 安紀
知的財産法 助教授 君嶋 祐子

授業科目の内容：

知的財産法の分野からテーマを選択して卒業論文を作成してもらう。

テキスト：

特になし。中間報告される分野の法令が記載された六法を持参のこと。

参考書：

特になし。

研究会（4年） 助教授 北澤 安紀

授業科目の内容：

卒業論文作成の指導を行う。

研究会（4年） 財産法の応用的展開 助教授 武川 幸嗣

授業科目の内容：

ゼミ生の将来の進路ないし希望に応じて適宜調整するつもりであるが、基本的には、3年次の課題演習を継続しつつ、これと並行ないし前後して、各自が自ら設定したテーマ研究につき、中間報告・討論を行うことを予定している。最終的には、卒業論文または課題研究としてまとめて提出してもらう。

テキスト：

特に指定しない。課題に応じて適宜指示する。

参考書：

同上。

研究会（4年） 民法財産法の発展的研究
法務研究科 教授 片山 直也

授業科目の内容：

研究会（3年）春学期において養われた論理的思考能力および問題解決能力を基礎に、同・秋学期において育てられた興味関心をさらに発展させ、リサーチペーパーまたは卒業論文の作成を行う。

春学期、秋学期にそれぞれ各人の研究の進捗状況について中間報告を行うとともに、秋学期は各自の研究テーマに近接する3年生のグループ研究を指導する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

各人のテーマごとに、メディアセンターで判例、雑誌論文などの資料を収集し、分析検討を行う。

研究会（4年） 法務研究科 教授 北居 功

授業科目の内容：

本年は卒業論文の作成を行う。その内容等については、研究会の学生との話し合いで決定する。

研究会（4年） 講師 七戸 克彦

授業科目の内容：

卒業論文作成。

研究会（4年） 法務研究科 教授 六車 明

授業科目の内容：

一人年間に春秋2回行う口頭（レジュメ配布）による中間発表に対する担当者のコメントを中心に行う。

研究会 (4年)

商法 (会社法) セミナール

教授 加藤 修

授業科目の内容:

学術論文とは何なのかを指導し、その後、卒業論文執筆のための指導を行なう。どのようにして問題意識を明確にして、論文の題目にするかがまず指導される。その後、関係参考文献と資料の探知方法、問題意識の再構成、関係参考文献と資料の批判的解析方法とその方法に基づく実行と新展開への指導がなされる。参加者全員が各自で、必ずどこかで商法と接点を有する法律問題あるいは商法の問題そのものにおいて題目を設定し、複数回の中間報告を行い卒業論文を完成する。中間報告は十分な準備をかさね、事前にレジュメを参加者全員に配布し、学会における学術発表と同じ形式でなされる。合格率の極端に低い国家試験に挑戦しようとする参加者については、卒業論文作成についての時間と労力の配分について、相談に応じます。相談に応じるだけの経験と秘訣は持ち合わせております。

テキスト:

特に指定しない。

参考書:

特に指定しない。

研究会 (4年)

商法研究

教授 宮島 司

授業科目の内容:

春学期は3年と共に商法に関する具体的事例の検討を行い、秋学期は卒論の中間報告。

テキスト:

研究会であるので、テーマに応じてその都度。

参考書:

会社法概説 (第三版補正版), 弘文堂

研究会 (4年)

教授 山本 爲三郎

授業科目の内容:

卒業論文を作成します。テーマは商事法の中から自由選択。会社法、有価証券法に限らず保険法、海商法や金融法でも可。4万字以上を目標に頑張ってください。

テキスト:

山本爲三郎『会社法の考え方 (第4版)』(八千代出版, 2003年)

研究会 (4年)

会社法ゼミナール

教授 鈴木 千佳子

授業科目の内容:

三年に学習した会社法の知識を基にして、さらに高度な内容の習得を目指す。初めて取り組む卒業論文のテーマの選択から完成までの全ての過程で、指導をおこなってゆく。

テキスト:

特になし。

参考書:

特になし。

研究会 (4年)

助教授 高田 晴仁

授業科目の内容:

事例研究および卒業論文の作成を行う。

研究会 (4年)

卒業論文の作成指導

教授 並木 和夫

授業科目の内容:

まず、卒論の題目を内容を決めておき、これについて指導を行う。

研究会 (4年)

民事訴訟法研究会

教授 坂原 正夫

授業科目の内容:

民事訴訟法に関する卒業論文を完成させることができるようになります。卒業論文を執筆するためには、履修者は民事訴訟法に関する問題の中から任意に卒業論文のテーマを選ぶ必要があります。次に履修者はそのテーマに関して事例問題を作成し、問題と解答を授業中に報告しなければなりません。報告内容についての履修者全員の検討と担当者の講評を参考にすることによって、卒業論文の内容が深まるように指導します。

テキスト:

特に指定しません。

参考書:

論文執筆に関する一般的な参考書については、研究会 (3年) の最後の授業で配布した「4年生の研究会要領」に記載されていますので、それを参照してください。

研究会 (4年)

教授 三木 浩一

授業科目の内容:

民事訴訟法判決手続に関するテーマを各人が選択して卒業論文の作成を行う。夏に中間報告会を行う。

教科書:

特に指定しない。

参考書:

特に指定しない。

研究会 (4年)

経済法 (独占禁止法)・国際経済法 (GATT/WTO)

教授 田村 次朗

授業科目の内容:

研究会 (3年) の学習内容をふまえて、各自、経済法・国際経済法に関する卒業論文を作成することが基本となる。授業では卒論指導のほか、私のもう1つの専門分野である交渉学を学習する。交渉学は、講義を通じて学ぶものではなく、ロール・プレイを通じて体験的に学習するものである。具体的には、ロール・プレイを学生諸君に体験してもらい、その後のフィードバックを通じて、交渉学の基礎概念やテクニックを学んでもらう。なお、日本の法学教育における交渉学は、いまだ馴染みの浅い領域であるので、学生諸君には、単に交渉学を学ぶという姿勢にとどまらず、交渉学を私と共に作り上げるような積極的な姿勢で参加してほしい。

テキスト:

・授業のなかで適宜指示・配布する。

参考書:

・授業のなかで適宜指示・配布する。

研究会 (4年)

労働法・社会保障法

助教授 内藤 恵

授業科目の内容:

当ゼミナールでは、3・4年生一緒に2コマ (3時間) 通して、研究会を行います。3年生は特に、学部における内藤担当の労働法および社会保障法の講義を履修し、それと相互補完的に下記のテーマに関する裁判例及び理論研究を行います。毎週1つのテーマにつき2名のリポーターをたて、その報告をきいて、全員参加のディスカッションで進めます。

同時に3年生の希望がある場合には、夏休みから11月にかけて学生論文集『法律学研究』に掲載する論文を全員で執筆します。テーマは3年生が自ら選びます。

4年生は、春学期は就職活動が終了するまでゼミのリポーターからは外れますが、各々の就職が決まり次第各自ゼミに復帰し、3年生のリポートに対してディスカッションに参加し、同時に卒業論文

法律

の作成を進めます。秋学期になると、リポーターは出来る限り3 & 4年生のペアで行い、それぞれの視点を生かした形で研究を進めます。

9月中旬には、ゼミ合宿を行います。その席上、4年生は卒業論文の中間報告をし、他の4年生あるいは3年生からの質問を受け議論をし、秋学期の卒論作成の参考にします。

テキスト：

・特に指定せず、各テーマに関する参考文献等をそれぞれのテーマに応じて指示します。

但し最低でも、労働法あるいは社会保障法のそれぞれのテーマに応じて、下記から菅野和夫『労働法』あるいは西村健一郎『社会保障法』及び、各々の判例百選及び六法は持参すること。

参考書：

労働法

- ・野川忍・野田進・和田肇『労働法の世界（第5版）』（有斐閣、2003）
- ・西村健一郎・安枝英詩『労働法（第7版）』（有斐閣プリマシリーズ、2002）
- ・菅野和夫『労働法（第6版）』（弘文堂）

社会保障法

- ・西村健一郎『社会保障法』（有斐閣、2003）
- ・西村道雄・編『社会保障法（第5版）』（有斐閣双書）

研究会（4年）

ヨーロッパ法史研究 教授 森 征一

授業科目の内容：

本研究会は、現在ヨーロッパ共通法として形成されつつあるEU（欧州連合）法を視野に入れながら、近代日本法の形成に大きな影響を与えた、12世紀から19世紀にいたるヨーロッパ法の歴史を辿り、ヨーロッパ法文化の本質を理解しようとするものですが、4年では研究をさらに深め、その結果を卒業論文として仕上げてもらおうことが目標です。

テキスト：

- ・O. F. Robinson, T. D. Fergus, European Legal History, London, 1994

参考書：

その都度、内容に即して参考書を指示する。

研究会（4年）

教授 霞 信彦

授業科目の内容：

三年次における学習や研究を基礎とし、各自が興味をもつ題材を選択して卒業論文の作成をおこなう。研究の進展にともない、随時中間報告を求めその完成をめざす。

研究会（4年）

日本近代期の法の歴史・法文化 教授 岩谷 十郎

授業科目の内容：

3年次の課題を継続する。最終目標を卒業論文作成に置く。

テキスト：

- ・竹下賢他編『訂正版 マルチ・リーガル・カルチャー』（見洋書房）

参考書：

未定

〔系列外〕

行政法Ⅲ

行政法各論（地方自治法を含む）
法務研究科 教授 植村 栄治

授業科目の内容：

行政法各論の講義を行う。行政法各論は大きく行政組織法と行政

作用法に分かれるが、講義では主として行政組織法を取り上げる。内閣法、国家行政組織法、国家公務員法等がその例である。秋学期には主として地方自治法を取り上げる。

テキスト：

特に用いない。

参考書：

- ・塩野宏『行政法Ⅲ』（有斐閣、第二版、2001年）
- ・地方自治判例百選〔第三版〕（有斐閣、2003年）

国際法Ⅱ

国際法における紛争解決と権利・義務の実現のための手続
講師 青木 隆

授業科目の内容：

国際法上の多様な手続を考察することによって国際法の理解をいっそう深めることを目的として、平和的解決手続を中心とする国際紛争の解決のための方法を基礎に、他の現代国際法の特徴を現すと考えられる諸局面について講義を行います。

テキスト：

教科書として指定する書籍はありません。できれば、条約集を携行してください。

参考書：

上記とともに初回講義において説明を行います。

担保法

（共同担当）教授 斎藤 和夫

（共同担当）講師 花房 博文

授業科目の内容：

- 1) 民法判例百選ⅠⅡ（ジュリスト増刊）・担保法の判例ⅠⅡ（ジュリスト増刊）・清水＝高木編・「担保・保証」・有斐閣：1988年を教材として、レポーター形式（演習形式）（判例研究）でおこないます。研究会（斎藤）履修者の場合には、ゼミナールのスケジュールの一環を成すものとなります。前年度のスケジュールの継続となりますので、4年ゼミ員も履修申告のこと。
- 2) また、今年度のポイントとして、民法典の担保物権編や人的担保なども重点的に考察する予定です。

商法Ⅳ

保険法 講師 島原 宏明

授業科目の内容：

一般に、人の経済生活に関する法律制度は、経済制度を形成・維持するための手段たる形式であるから、経済制度と法形式が内容上異なるということは考えにくい。ところが、保険制度にあっては、経済制度としては保険団体を要素とするものでありながら、法律制度としては保険契約の当事者間の契約のみが問題とされるというように、同一の取引について、経済制度と法律制度とでとらえる側面がまったく異なるという特殊性がみられる。こうした特殊性を念頭に置くとき、個々の被保険者と保険者との間の権利・義務がいかなる内容をもつことになるのであろうか。さらにまた、保険制度の発展・変革は、保険者と保険契約者との対等性を喪失させるが、その復権がいかにされるべきであらうか。こうしたことを意識しながら、保険法に関する一般講義を行う。

テキスト：

使用しない。

参考書：

- ・倉沢康一郎『保険法通論』三嶺書房

民事訴訟法Ⅱ（春学期集中）

複雑訴訟・上訴・再審と民事執行法
教授 坂原 正夫

授業科目の内容：

本講義が担当する領域は、民事訴訟法（判決手続法）では「複雑

訴訟（複数請求訴訟と多数当事者訴訟）」と「上訴（控訴，上告，抗告）・再審」です。さらに「民事執行法」も担当領域に入っています。しかし，授業では，先ず昨年度の私の民事訴訟法Ⅰで講義できなかったもので，重要なものについて取り上げます。その次に上記の担当領域について講義しますが，民事執行法については，簡単な解説にとどめます。

このように本講義では民事訴訟法Ⅰとの連続性を考えています。すなわち本授業は前年度の民事訴訟法Ⅰの履修者が本授業を履修することによって，民事訴訟法（判決手続法）の全領域に関して基本的な知識を修得し，それぞれの制度を十分に理解することができることを目標としています。なお昨年度に民事訴訟法Ⅰを履修したことを本授業の履修の条件にはしませんが，授業は民事訴訟法の基本的な知識（民事訴訟法Ⅰを履修すれば修得するであろう知識）を有していることを前提に行います。

最後に民事執行法について一言説明します。民事訴訟法（判決手続法）については既に昨年度講義しましたし，昨年度の講義要綱でも述べましたので，その説明は省略します。民事執行法は，主に強制執行を規律する法律で，強制執行とは，私法上の請求権（給付義務）の強制的満足を目的にする制度です。すなわち，強制執行は請求権の内容に従い，関係者の利害の現実的な調整をはかりつつ，法の妥当性を究極的に確保する機能を担っています。それは正に権利の実効性を支えるものです。いわば実体法と訴訟法を支え，統合している分野です。授業では強制執行手続の概要を述べながら，民事執行法と実体法や民事訴訟法（判決手続法）との関係について考察し，そこで発生する諸問題について，理論的な解答を探索してみようと考えています。

テキスト：

昨年度，民事訴訟法Ⅰで使用した中野貞一郎編『現代民事訴訟法入門【新版】』（法律文化社）をそのまま使用します。平成15年の法改正に伴うテキストの記述の修正は授業中に適宜指示します。民事執行法については，特に指定しません。

参考書：

「履修者へのコメント」で述べていますように，民事訴訟法と民事執行法は平成15年にかなりの部分で改正されました。したがって参考書を利用する場合，改正法を織り込んだものを利用すべきです。しかし，それはそうでない参考書は法の改正によって価値がなくなったということではありません。改正に関係ない箇所や理論的な問題については，十分利用できるからです。ただ利用するに際して，当該事項が改正法に関係していないか否かを考えたうえで，利用する必要があります。

- (1) 民事訴訟法の一般的な参考書（五十音順）
 - 伊藤眞『民事訴訟法【第3版】』（有斐閣，03年）
 - 上田徹一郎『民事訴訟法【第4版】』（法学書院，03年）
 - 新堂幸司『新民事訴訟法【第2版】』（弘文堂，01年）
 - 高橋宏志『重点講義 民事訴訟法【新版】』（有斐閣，00年）
 - 中野貞一郎ほか編『新民事訴訟法講義【第2版】』（有斐閣，04年）
 - 松本博之＝上野泰男『民事訴訟法【第3版】』（弘文堂，03年）
- (2) 民事訴訟法の判例を知るための参考書
 - 伊藤眞ほか編『民事訴訟法判例百選Ⅰ【第3版】』（＝別冊ジュリスト169号，有斐閣，03年）
- (3) 民事訴訟法の論点を整理するための参考書
 - 青山善充ほか編『民事訴訟法の争点【第3版】』（有斐閣，98年）
- (4) 民事訴訟法に関する辞典
 - 林屋礼二ほか編『民事訴訟法辞典』（信山社，00年）
- (5) 民事執行法についての詳細な参考書
 - 中野貞一郎『民事執行法【新訂4版】』（青林書院，00年）

破 産 法

倒産法基礎理論の理解

法務研究科 教授 三上 威彦

授業科目の内容：

ある企業ないし個人が倒産した場合，絶対的に不足する債務者の財産をめぐって債権者の利害は鋭く対立する。この倒産という現象

を，可能な限り平和的に解決するためには，関係人の利害を調整しつつこれら債権者の公平な満足を図ると共に，もし可能ならば，債務者の経済的な再出発をも可能にするような法律制度が是非とも必要になる。本授業では，このような倒産法制の基礎理論を講義する。

授業では，会社更生法や民事再生法などが国における現行の倒産法制にも言及するが，破産法を中心に講義をすることになる。なぜならば，破産法は，我が国倒産法制の中でもっとも基本的なものであり，各倒産法制は，多かれ少なかれ，破産法の基礎概念の上に構築されているといっても過言ではない。よって，わが国倒産法制を理解するためには，破産法の基礎概念の理解が不可欠であり，逆に言えば，破産法が理解できれば，他の倒産法制の理解も格段に容易になると考えるからである。

講義にあたっては，初学者を対象に，破産手続の基本的な流れを十分に理解してもらうために，基本的な事項を中心として手続の初めから終わりまでまんべんなく触れるつもりである。

テキスト：

・石川明＝三上威彦編『破産法・民事再生法』青林書院

参考書：

・青山善充＝伊藤眞＝松下淳一編『倒産判例百選【第三版】』（別冊ジュリストNo.163）有斐閣

国際私法

助教授 北澤 安紀

授業科目の内容：

近年我々の生活環境が国際化するのに伴い，国境を越えた取引や家族関係の形成等に関する法律問題が多発するようになった。このような現状に鑑み，本講義では，今日国境を越えて生ずる私人間の法律関係を規律している国際私法についての体系的な講義を行う。

国際私法は，私法的な法律関係をその規律の対象としているという点で，民法・商法と似通った側面をもつが，他方で，私法的な法律関係のうちとくに渉外的な（外国的な）要素がある法律関係（例えば，国際契約，国際結婚等）を規律するという点で，民法・商法とはまた異なった処理が必要とされる法分野である。例えば，日本の企業が米国の企業を被告としてわが国の裁判所に契約の債務不履行にもとづく損害賠償請求の訴えを提起した場合や，フランス人妻が日本人夫を被告としてわが国の裁判所に離婚の訴えを提起した場合，日本の裁判所はいかなる法律を適用して当該事案を処理すべきなのか。この事案には訴訟が行われる地である日本の民法の規定が当然に適用されるのか，あるいは，外国の法律の規定が適用されるのか問題となる。

本講義が対象とする広義の国際私法には，渉外的法律関係を規律するための基準となる法（準拠法）を世界中の法律の中から選択・指定するという役割を担うことで渉外的な法律関係を実体的に規律している狭義の国際私法と渉外民事事件の手続法的な処理に関わる国際民事訴訟法の双方が含まれる。

これらのうち，本講義では，まず，狭義の国際私法について検討する。すなわち，渉外的私法的法律関係を実体法上いかに規律すべきかという観点から，国際私法の基本的な概念ならびに国際私法における準拠法決定のプロセスについて説明したうえで（国際私法総論），わが国の国際私法の主要な成文法源たる「法例」の諸規定の解釈・適用上の問題点について検討する（国際私法各論）。具体的には，国際契約法，国際物権法，国際婚姻法，国際親子法，国際相続法等について言及する予定である。

また，渉外民事事件に関する手続法上の問題については，国際裁判管轄の決定方法，外国判決の承認・執行，国際的訴訟競合等の問題を中心に，具体的な紛争事例を参照しつつ検討することとしたい。

テキスト：

・櫻田嘉章『国際私法【第3版】』（有斐閣Sシリーズ）

参考書：

・澤本敬郎＝道垣内正人『国際私法入門【第4版再訂版】』（有斐閣双書）

・『国際私法判例百選（ジュリスト別冊）』（有斐閣・2004年刊行予定）

・『国際私法の争点【新版】』（ジュリスト増刊）（有斐閣）

国際取引法

世界貿易機関 (WTO) の通商ルール入門

講師 荒木 一郎

授業科目の内容:

WTO のルールを中心とする国際通商に対する法的規制の概要についての理解を深めることを目的とします。国際法や経済法についての知識は必ずしも前提とはしませんが、英文資料をしばしば参照しますので、基本的な英文読解力が必要です。

テキスト:

・中川淳司・清水章雄・平覚・間宮勇『国際経済法』(有斐閣)

参考書:

・小室程夫『ゼミナール国際経済法入門』(日本経済新聞社)

犯罪学

(共同担当) 教授 加藤 久 雄

(共同担当) 講師 安部 哲 夫

(共同担当) 講師 守山 正

授業科目の内容:

講義は、基本的には (1) 犯罪学の意義, (2) 犯罪原因論, (3) 犯罪現象論, (4) 犯罪対策論に分かれる。(1) ではさらに、・「犯罪」の構造・刑事政策との関係, (2) では・犯罪の原因論: 生物学的, 心理学的原因論, 社会学的原因論, (3) では・統計と犯罪現象: ハードな刑事政策を必要とする重大犯罪: 凶悪殺人, 凶悪性犯罪, 凶悪精神障害犯罪, 危険運転犯罪, 重大少年犯罪, 暴力団型組織犯罪, テロ犯罪。ソフトな刑事政策で対応できる犯罪: 被害者なき犯罪, 軽微な財産犯罪, 軽い交通犯罪, (4) では個別的に伝統的な犯罪に加えて, ストーカー犯罪, 児童虐待, 夫婦間暴力等の新しい社会現象などを扱う。但し, 必要に応じてテーマを取り上げるので, 必ずしも上記の順となるとは限らない。そして, 最終的に現代の犯罪学がどのような方向に向かいつつあるのかを検討する。

テキスト:

現在, 共同担当者の加藤・安部・守山の3名の編集による「犯罪学30講」(仮称)を執筆中。

参考書:

・加藤久雄『人格障害犯罪者と社会治療』(成文堂・2003年)

・同『医事刑法入門』(東京法令出版・2004年)

・守山正『犯罪学への招待』, 安部哲夫『少年保護論』

被害者学

被害原因論と被害者支援論

助教授 太田 達 也

授業科目の内容:

被害者学は、第二次世界大戦前後に提起された学問分野であり、当初は、犯罪の発生過程における犯罪者と被害者の関係や犯罪被害の受けやすさ(被害受容性)といった被害原因論又は被害要因論と呼ばれる分野を中心に発達したが、こうした初期の被害者学研究成果を受け、特に1960年代からは被害者に対する経済的支援(被害者補償制度もその一つである)や1970年代以降は被害者に対する精神的支援や危機介入など被害者支援に関する様々な制度が海外において成立するようになると、犯罪被害者に対しどのような支援を行うべきかといった被害者支援論(又は対策論)が被害者学におけるもう一つの重要なテーマとなるに至っている。さらに、1980年代以降は、被害者の権利や刑事手続における被害者の地位に関する議論が盛んに行われるようになり、海外では様々な立法や制度が実現し、我が国でも遅ればせながら、1990年代末以降、犯罪被害者に対する連絡制度や通知制度を始め、刑事訴訟法一部改正、いわゆる犯罪被害者保護法、児童虐待防止法、配偶者暴力防止法、ストーカー行為規制法、少年法一部改正などの立法が実現している。今日、被害者学は、単に法学のみならず、社会学、心理学、(精神)医学、教育学など様々な分野に亘る学際的性格をもった学問として、各種の犯罪被害の実態やその背景、さらにそうした被害者に対する支援の在り方についての研究を行っている。

本講義では、まず被害者学の創設期に提唱された基礎的な理論を

紹介した上で、まず被害者の権利や被害者支援論について講義し、秋学期には被害原因論(要因論)と各種犯罪被害の現状と対策について講義する。また、近年、犯罪による「損害」の「回復」に重点を置く修復的司法と呼ばれる概念に基づいた刑事和解や犯罪者=被害者和解などの制度が世界各国で実現しており、講義においてもこうした修復的司法を巡る新しい動向についても講義する予定である。

テキスト:

・諸澤英道「新版被害者学入門」(2001年, 成文堂)

参考書:

講義毎に適宜紹介するが、概ね、以下のものが参考になる。

・諸澤英道編著「犯罪被害者—その権利と対策」現代のエスプリ 336号(1995年, 至文堂)

・小西聖子「犯罪被害者の心の傷」(1996年, 白水社)

・宮澤=田口=高橋「犯罪被害者の研究」(1996年, 成文堂)

・諸澤英道編著「トラウマから回復するために」(1999年, 講談社)

・宮澤=國松監修「講座被害者支援」全5巻(2000年, 成文堂)

・松尾浩也編著「逐条解説・犯罪被害者保護二法」ジュリストブック(2001年, 有斐閣)

さらに、日本被害者学会の学会誌「被害者学研究」に多くの論文が掲載されている。

法制史(日本)

教授 霞 信 彦

授業科目の内容:

本講義は、日吉において開講されている「法制史(基礎)」に連続するものである。従って、古代を中心に講じた日吉での内容を承けて、時代的には、中世から近代の間について述べることを予定している。中世に関しては、武士の台頭と切り離すことのできない鎌倉時代という時代が、一体どの様な時代であったかを考えながら、武家社会の法として著名な「貞永式目」の編纂経緯や鎌倉幕府のもとでおこなわれた裁判の内容にふれてみたい。続いて、室町時代開幕期に定められた「建武式目」の性格づけを論じ、さらに、戦国大名が領国経営のために制定した戦国国家法を取りあげ、その特徴に言及するつもりである。近世については、最初に、幕府法の態様を知ること軸に、江戸時代の「法」の概要を述べる。そうして得られた基礎知識を前提に、初代家康以来時代とともに変わりゆく、幕府と大名との支配関係を詳らかにする「武家諸法度」の内容にふれ、併せて幕府が自ら直接支配する地域におこなった「公事方御定書」の編纂・性格・具体的内容を明らかにしたい。さらには、TV・映画・演劇で日本人の血をわかせる時代劇の世界へも目を向け、当時の刑事罰や警察活動(いわゆる「捕物」の世界である)、併せて刑事裁判の史実現実に迫りたいと考えている。

最後に近代に関しては、明治維新後の法制度の近代化、特に刑法・刑事裁判のそれを中心テーマとして取り上げ論じてみたいと思う。すなわち、まず明治初期に政府が編纂した諸刑律典(「仮刑律」・「新律綱領」・「改訂律例」)を素材に、当該分野での近代化がどのように進んでいったのか、わが国最初の近代刑法典といわれる「旧刑法」施行(明治15年1月1日)までの経緯を述べるつもりである。また、明治初期の刑事裁判がいかなるかたちで行われていたのか、司法制度への言及とともに、その運用の実態を明らかにし、さらに許せば、維新後の獄制史についてふれることも視野にいられている。

テキスト:

・霞・漆原・浜野「日本法制史 史料集」(慶應義塾大学出版会 2003年 2000円)

参考書:

講義において必要に応じて指摘する。

法制史(日本)

主として明治時代以降の日本法の近代化過程を論点的に考察する

教授 岩谷 十 郎

授業科目の内容:

本講義は、通年制の講義形態を前提にしている。まず講義前半部分では、法の歴史を問う現代的な視点を明らかにするために、現代

に生ずる様々な訴訟事件を法的に解決するにあたって、優れて歴史解釈的なセンスが要求された問題を取り上げ、それらを通して、法史の上で現在と過去をつなぐ論点を確認する。さらに、析出された具体的な論点を歴史に問う手段として、とくに訴訟関係資料を中心とした資料論を提示し、近代日本法の歴史を学ぶ基本的な道具立てを紹介する。後半では、近代日本法を形成する主要法典の編纂過程を概観する。諸法典が制定されてゆく経過を、我が国の近代法の描く国家と法のグランドデザインの形成過程としてとらえつつ、講義を進めてゆきたい。また、これまで「日本人の法意識」が具体的に論じられる素材として、日本人の訴訟忌避行動についての分析が、現在、様々な角度から法社会学的に進められている。本講義では、歴史学的視点からこの問題を吟味するために、我が国の近世における民事訴訟システムのあり方と近代期のそれとの比較を行い、両者間の連続と断絶とを見極め、「日本人の法意識」を形成する歴史的な要因を考えてみることにしたい。

テキスト：

特に指定はしない。

参考書：

- ・川口由彦著『日本近代法制史 — 新法学ライブラリ 29』（新世社・1998年）
- ・水林彪他編『法社会史』（山川出版社・2001年）
- ・山中永之佑編『新・日本近代法論』（法律文化社・2002年）
- ・同編『日本近代法案内』（法律文化社・2003年）等。

法 制 史 (東洋)

法文化の歩み 講 師 堀 毅

授業科目の内容：

21世紀は国際化の時代といわれている。欧州では経済的な統合が進められ、日米に対抗する第三極を構成している。

一方、アジア地域では、多様な言語・異質な文化などの他、経済的な格差が大きく、経済的な統合や自由化は遠い将来の事である、といわれている。

アジアを概観すると、東アジア・東南アジア・南アジア・西アジアに大別されるが、講義は中国を主軸とする東アジアの法を中心に進める。

また、近年、イスラム圏に対しても大きな関心が寄せられているので、メソポタミアにおける法文化についても言及したい。

参考書：

授業時に提示

法 制 史 (西洋)

ローマ法とヨーロッパ法史 講 師 村 上 裕

授業科目の内容：

ヨーロッパ法の基礎であるローマ法の特質と、中世から近代にかけての法発展のアウトラインを捉えることを目的にして、内容は以下のような2部構成とします。

第1部は、共和政からユスティニアヌス法典の成立に至るまでのローマ法史を概観し、ローマ人の現実主義的な特質が法思考・法制度にどのように現れているかを、民事訴訟制度の展開などを採り上げて示していきます。

第2部は、ドイツを中心に中世から近代までの法の流れを辿っていきます。中世における非学問的な法からローマ法の継受をへて近代の体系的・論理的構築物としての法へと進んでいく際の現実的契機と、ヨーロッパに普遍的な要素と特殊ドイツ的な面の対比を軸として、ヨーロッパ法史における諸々の時代的局をクローズアップしていきたいと思っています。

テキスト：

特に指定しません。講義資料は私のホームページからダウンロードできるようにします。URLやパスワードについては授業時に指示します。

参考書：

授業の進行に合わせて指示します。

法 医 学

医学部 教 授 村 井 達 哉

授業科目の内容：

法医学は医学と法学の橋渡しとなる学問であるが、実際には forensic medicine という語からもわかるように、裁判上の医学的諸問題を自然科学的な手法を用いて解決することを目的とした極めて実務的な色彩の強い学問領域である。

本講座においても、法医学の扱う対象や法医学鑑定の実際などの講義を通じて、法律を学ぶ学生諸君に法医学についての正しい知識をもってもらうと同時に、法医学的なものの考え方を少しでも体験してもらい、同時に医学と社会とのかかわりについて考えていただきたいと考えている。

テキスト：

・法医学（南山堂）

参考書：

・標準法医学・医事法（医学書院）

租 税 法

21世紀にふさわしい税制の構築に向けて

助教 吉 村 典 久

授業科目の内容：

租税法は総合科学です。したがって法学方法のみならず、経済学のアプローチも駆使します。今年度の授業の重心は、所得税・法人税・消費税です。日本の財政赤字が拡大し、歳入の柱であるこれらの租税の重要性は高まることがあっても、減じることはありません。21世紀の税制を皆さんとともに考えていきましょう。

テキスト：

・岸田貞夫・矢内一好・柳裕治・吉村典久『現代税法の基礎知識』ぎょうせい

参考書：

・金子宏『租税法』弘文堂、『小六法』有斐閣

国際租税法

講 師 赤 松 晃

授業科目の内容：

経済のグローバル化は、国際租税に関する基本的理解を抜きにしてビジネスプランを語れない状況をもたらしています。すなわち国際的事業活動の経営判断に当たっては租税コストの予見可能性は極めて重要です。したがって現実のビジネスでは、租税法の適用を踏まえて経営判断がなされています。このように国際租税法は、今や国際ビジネスパーソン必修の知識となっています。

本講義は国際ビジネスに興味のある学生の履修を歓迎します。したがって、租税法についての専門的知識が無くとも興味をもって積極的に講義に参加できるように新聞等で報道された具体的事例を素材として行います。ストックオプション課税、国際節税商品、恒久的施設 (P. E.) 認定課税、タックス・ヘイブン対策税制、外国税額控除、国際金融取引に係る源泉所得税、移転価格課税、国際 M&A、新日米租税条約などに関する新聞報道を通じて、国際租税原則、国内租税法と租税条約の適用関係、税務調査の実際、国際的二重課税の排除のための制度とその運用の実際についてのトータルな理解を得ることにより、国際租税法についての基本的な力を身につけることを目的としています。

テキスト：

・テキストは特に指定しません。講義資料プリントを配布します。
 ・基礎資料として税制調査会に財務省が提出した次の資料をダウンロードして持参してください。
 ・「基礎問題小委員会」第2回（平成15年11月17日開催）日米新租税条約
 ・「基礎問題小委員会」第19回（平成12年4月25日開催）国際課税

・<http://www.mof.go.jp/singikai/zeicho/top.thm>（議事録・提出資料）

参考書：

ガイダンスにおいて紹介しますが、近年出版された国際租税法に関する書籍を次に示します。

法律

- ・水野忠恒『租税法』有斐閣（2003年）
- ・金子宏『租税法（9版）』弘文堂（2003年）
- ・赤松晃『国際租税原則と日本の国際租税法』税務研究会出版局（2001年）
- ・村井正他『教材 国際租税法』信山社（2001年）
- ・水野忠恒『国際課税の制度と理論—国際租税法の基礎的考察—』有斐閣（2000年）
- ・木村弘之亮『国際税法』成文堂（2000年）

海洋法

名誉教授 栗林 忠 男

授業科目の内容：

国連海洋法条約（1982年採択）を中心に海洋法の諸問題について講義する。特に海洋法と日本の関係について触れるようにしたい。

医 事 法

（共同担当）教 授 加 藤 久 雄
（共同担当）客員教授 児 玉 安 司

授業科目の内容：

「医事法」は、言うまでもなく、「医療」をめぐる法律問題を幅広く扱うばかりではなく、遺伝子組換え、遺伝子治療、染色体異常、脳死、臓器移植（生体間移植、異種移植も含む）、安楽死と尊厳死、人工授精（リブドアクション）、初期胚の保護、ガンの告知、エイズ問題、インフォームド・コンセントの問題、医学・医療上の人体実験、新薬治験と人体実験、触法精神障害者の処遇など「法と医の倫理」の問題をも広くそのストライク・ゾーンとしている最も今日の法律学の研究領域である。これらのテーマについて、具体的判例を検討する。そして、医事法で扱うテーマでは、たとえば1997年10月施行された「臓器移植法」の成立過程で明らかになったように、高額医療に対する保険や厚生行政の問題、脳死を「人の死」とするかどうかで「生命倫理」の問題、早過ぎる臓器摘出に伴う、刑法上、民法上の諸問題、ドナー不足と生体間移植の問題などについて法律学のみならず政治学、生命倫理学、社会学、行政学、法制度論、医学、情報処理学などからの解決が必要である。担当者加藤は、医事刑法をその主たる専門領域としているので、英米法と民事法に関する医事法のテーマに関連する他の専門領域に関しては共同担当者の児玉安司客員教授（弁護士・ニューヨーク州弁護士）に第一線の実務家の立場から具体的事例を中心に、またテーマによりゲストの講師による幅広い、ダイナミックな講義を予定している。

テキスト：

- ・加藤久雄『医事刑法入門』（東京法令出版・2004年新訂版）

知的財産法

講 師 角 田 政 芳

授業科目の内容：

今、私達は、あの産業革命にも匹敵するIT革命の真っ只中にある。その中で、テクノロジー、デザイン、ブランドそしてアートの法的保護の重要性は高まるばかりである。知的財産権は、これらの人類の知的創作に対する私権であり排他的独占権である。その保護法を知的財産権法と総称している。その法的保護は、国内にとどまらずグローバルである必要がある。また、それらの利用形態は企業と個人の間で差が小さくなっており、誰もが知的創作物に関する法的なルールと無縁ではなくなっている。ビジネスモデル、バイオテクノロジー、コンピュータソフトウェア、データベース等の発達も新たなレベルの保護が検討されている。この講義では、知的財産権法の全体を、具体的な事件を通して体系的な理解をめざしたい。

テキスト：

- ・角田政芳・辰巳直彦「知的財産法（第2版）」有斐閣（2003年発行）

参考書：

- ・角田政芳「知的財産権六法（第2版）」三省堂（2004年2月発行）
- ・角田政芳「ケーススタディ知的財産法」三省堂（2004年3月発行予定）

裁 判 法

講 師 梶 善 夫

授業科目の内容：

紛争解決手段としての裁判の目的・機能・沿革・手続き・効力、裁判制度の理想と現実・改革などについて講義します。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

第1回目の講義の時に年間の詳しい講義予定表と参考文献一覧を配付します。

社会保障法

労働者の生活を支える社会保険と高齢者に関する政策を学ぶ
助教授 内 藤 恵

授業科目の内容：

社会保障法とは、社会法の範疇において、個人の幸福追求権をどのように実現するかを考える領域です。対象範囲がきわめて広く、また「社会保障」という概念自体が定説を持ちません。大別すれば社会保険と社会福祉の二つの領域に分けられる広い分野の法的問題を研究対象とします。

そこで当講義で具体的に取り上げる領域としては、まず社会保障法総論をお話ししたあと、労働法と呼応する形で、労働者とその人生の中で様々に関わる社会保険（雇用保険、労働災害補償保険、年金保険、医療保険、介護保険）を中心に講義をします。

続いて秋学期中頃から社会福祉の領域に入り、特に高齢者福祉の問題を取り上げます。医療・福祉・介護といった、縦割りの領域としては三つの法分野にまたがる問題点を、多角的に講義します。これは上述の介護保険と関連させて理解しなければならない領域です。後期の最後の講義では、地方分権という流れの中で、地方公共団体の役割と財政の問題に触れて全体を締めくくります。

なお、労働法と社会保障法は相互補完的領域です。内藤担当の労働法（E系列）を既に履修したか、履修中であることが望ましいと考えます。

テキスト：

- ・テキストは指定せず、毎回 Web に講義資料プリントをアップロードします。
- 但し法学部のホームページの特性からパスワードの設定が出来ないので、URL は初回講義の中でお話しします。なお講義には、六法と下記の二冊を必ず携行してください。
- 別冊ジュリスト・社会保障判例百選〔第三版〕（有斐閣、2000）
- 岩村・菊池・編、『目で見る社会保障教材〔第二版〕』（有斐閣、2001）

参考書：

- ・西村健一郎『社会保障法』（有斐閣、2003）
- ・西村道雄・編『社会保障法（第5版）』（有斐閣双書）

法とコンピュータ

講 師 吉 野 一

授業科目の内容：

法分野へのコンピュータの応用について講義と実習を行う。法学をよく学ぶために、法的実践においてよい働きをするためにも、効率的な情報処理や情報検索の技術を習得する必要がある。本講義・実習は事例問題から出発する。そしてその問題を解決するために必要な知識と技術を身に付けるというアプローチをとる。春学期は法情報処理の基礎知識と技術を身に付けることを目的とする。すなわち、コンピュータソフトウェア（ワープロソフト、表計算、データベースソフト）の利用方法を学び、グループ学習を行うための電子メールの先進的な利用方法やインターネット上の情報検索の方法を学ぶ。判例検索や法令検索で必要とする法情報を獲得する方法を学ぶ。また獲得した情報を加工する技術も学ぶ。秋学期は法律人工知能の基礎について講義と実習を行う。法律人工知能は、相談事例を入力すると、法的推論を行い、法的判断を出力するシステムである。それはまた法的推論過程や法の構造を分かりやすく示してくれる。法律人工知能は、法的知識を構造化してコンピュータに登載

することによって実現される。本講義・実習では、契約法の事例問題を解くための法的知識と法的推論の構造を分析し、コンピュータに実装する。受講者が自分自身の一つの法的推論システムを実現することが最終目標である。

テキスト：

- ・吉野 一他編著『法律人工知能』（創成社）
- ・教材は、適宜授業において提示するとともに、事前 WWW 上で公開する予定である。

参考書：

- ・吉野 一編著『法律エキスパートシステムの基礎』（ぎょうせい）
- ・加賀山茂・松浦好治『法情報学』（有斐閣）

環境法

法はどのようにして環境を破壊から守ろうとしているのか
法務研究科 教授 六車 明

授業科目の内容：

受講者が環境法の全体像を1年間でとらえることができるようになることを目標に講義を進めます。環境問題は、さまざまな分野にわたって発生しています。なかには、私たち自身が被害者であるとともに加害者であったり、私たちの世代だけでなく、次の世代にまで影響を及ぼし、あるいは国内にとどまらず、地球全体に影響を及ぼす問題もあります。環境法の対象もますます広がってきています。法はどのようにして環境を破壊から守り、後の世代によりよい環境を残そうとしているのであろうか、ということを考えながら進めてゆきます。

テキスト：

プリントを配る予定です。

参考書：

- ・大塚 直「環境法」有斐閣、2002年

証券取引法

証券の発行及び取引等についての学習
教授 並木 和夫

授業科目の内容：

当方が配布するプリントに基づいて講義を行なう

テキスト：

当方が配布するプリント

参考書：

並木和夫、会社法・証券取引法の研究（中央経済）。堀口巨，最新証券取引法（商事法務）・ハンドブック証券取引法（勁草書房）。河本=大武，証券取引法読本（有斐閣）。近藤光男他，証券取引法入門（商事法務）。

政策と法

—政策の形成、執行、評価及び統制に関する法制度とその実態を学ぶ—
講師 有川 博

授業科目の内容：

本講義の狙いは、国及び地方公共団体における政策の立案・形成、執行、その評価、そして次の政策形成へのフィードバックへと至る、いわゆる政策過程全体を視野に入れながら、その中で行政が適正、適切に行われるだけでなく、効果的・効率的に行政目的を実現できるようにするために、どのようなコントロール（統制）が法制度として用意されているか（そして、それが近年どのように変容しているか）を学ぶとともに、各政策過程における失敗事例等を検証しながら、それら法制度の実態についてもあわせて学ぶこととする。

テキスト：

各項目ごとに（だいたい毎回）講義資料プリントを作成、配布します。

参考書：

- ・拙著『有効性の検査の展開—政策評価との交錯—』
- その他、各項目ごとに講義資料プリントの中で紹介します。

法と経済（春学期）

現代自由主義経済社会における経済と法
名誉教授 金子 晃

授業科目の内容：

本講義の目的は、これまで学生諸君が学んできた法が、経済といかなる関係を有しているかを明らかにすることである。

現実の社会においては、法はさまざまな形で経済秩序、経済制度および経済活動に関係している。たとえば、民法はわたしたちの私的な生活関係を規律する最も基本的な法とされている。しかも、わたしたちの私的な生活関係の大部分が経済生活関係である。民法はわたしたちの経済生活とどのような関わりを有しているのだろうか。例えば自然人、法人など権利主体に関する規定は経済的に見た場合いかなる意味を、またいかなる機能を果たしているのだろうか。また、所有制度や契約制度はわたしたちが生活する経済社会においていかなる役割を果たしているのだろうか。

商法は企業法ともいわれている。企業とはまさに経済活動の主要なものであり、商法は経済主体である企業の設立、組織、運営などの面において経済と係わり合いを有している。また、独占禁止法は経済主体が取引を行う市場の秩序に関わっているし、行政法は、政府のさまざまな経済政策の実現に関し、原則と手続きを提供する。

本講義では、これまで学生諸君が学んできた法、またはこれから学ぶ法を経済という観点から整理し、現代社会における経済秩序、経済制度、経済活動に法がいかなる関係を有しているかを明らかにする。

テキスト：

新しい科目であり、講義全体をカバーする適切な教科書がないので、特に指定しない。ただし、講義のレジュメや資料など必要な情報はウェブサイトなどを通じて公表する予定である。詳細は、初回講義の際に指示する。

参考書：

参考書も教科書同様特に指定しないが、内容との関係で有意義と認められるものについては積極的に紹介していくこととした。

法思想史

法と国家に関する諸理論の史的考察
講師 國分 典子

授業科目の内容：

「法思想史」は、「法」「思想」「史」の三つの要素をもつために、ともすれば「法学」から逸脱した感も与える幅広い学問領域です。しかし、一方で、「思想的」「史的」考察の基礎づけなくして「法」は語れません。

ここでは、正義の概念、法と国家の関係を中心に、西洋法思想の発展過程を考察し、それが現代の法理論状況とどう関わっているかを考えてゆきます。

春学期は総論と古代から近代まで、秋学期は近代以降を中心に、アジアにおける西洋法受容の問題も扱う予定です。

テキスト：

授業内容のレジュメをプリントしてそのつど、配布します。

参考書：

- ・田中成明他『法思想史』（有斐閣Sシリーズ）

政治学 I（春学期）

代議制民主主義における権力の集中と分散
講師 増山 幹高

授業科目の内容：

この講義では、現代の日本政治における「権力の集中と分散」について論じる。現代的な国民国家の根幹は代議制民主主義にあり、その原理は権力集中と権力分散に大別することができる。日本は議院内閣制を採用しているが、必ずしも完全に権力が集中しているわけではない。いかに権力の集中が達成されるかは、まず政府を樹立し、権力を握る段階に大きく依存し、現政権の実績と将来の政権構

法律

想の二者択一を有権者が意識する場合に権力の集中は最も促進される。また内閣が立法や政策を主導するかどうかということも権力の集中度を規定する。一方、権力分散による民主主義は、選挙において多くの政党が競争し、立法や政策が与野党間の交渉に委ねられることによって、国民各層の意見を広く政府運営に反映させるものである。この講義では、選挙制度と議会制度の各々の観点から、日本政治における代議制民主主義のあり方を検討していく。

テキスト：

- ・河野・平野編著『アクセス日本政治論』（日本経済評論社，2003年）
- ・増山著『議会制度と日本政治』（木鐸社，2003年）

参考書：

- ・村松ほか著『日本の政治：第二版』（有斐閣，2001年）
- ・川人ほか著『現代の政党と選挙』（有斐閣，2001年）

政治学Ⅱ（秋学期）

現代日本における政策決定過程の分析

講師 竹中治堅

授業科目の内容：

現代日本政治論Ⅱは、日本における政策決定過程が戦後、歴史的に容容していく流れを理解した上で、政策決定過程を分析する力を身につけることが目的である。より具体的には、ある政策決定がどのように、そして、なぜされたのかを分析できるようにすることを図る。この目的のために、本講義では、まず基礎知識として、戦後日本政治の歩みを主要な政策決定を中心に概観する。次いで、政策決定の法制度的枠組みを紹介する一方で、政策決定に影響力を行使する者・機関を紹介する。その上で、日本における政策決定を分析するために有効な代表的な分析視角を紹介し、さらに、時間の許す範囲内で、これらの視角に基づいて具体的な政策決定を分析する。（下記「成績評価方法・履修者へのコメント」も参照のこと。）

テキスト：

- ・北岡伸一『自民党：政権党の38年』（読売新聞社，1995年）
- ・T.J. Penpel. Regime Shift. (Cornell University Press, 1998)
- ・M. ラムザイヤー, F. ローゼンブルス『日本政治の経済学』（弘文堂，1995年）
- その他、講義用資料を配付。

参考書：

- ・講義用の参考書：平野浩・河野勝『日本政治論』（日本経済評論社，2003年）
- ・レポート用の参考書（これに限るものではない、詳細は開講時にさらに説明する。）：
- ・日本経済新聞社編『金融迷走の10年』（日経ビジネス人文庫，2002年）
- ・日本経済新聞社編『検証バブル 犯意なき過ち』（日経ビジネス人文庫，2001年）
- ・西野智彦『検証 経済暗雲』（岩波書店，2003年）

社会学Ⅰ（春学期）

都市社会学概説

教授 有末賢

授業科目の内容：

都市化社会と呼ばれる現代社会において、都市と地域社会（コミュニティ）は、われわれの社会生活において重要な〈空間〉であるだけでなく、〈集団〉でも〈関係〉でもある。本講義においては、地域社会を対象として、都市社会学を中心とした学説・理論から解説し、実証的研究の系譜や日本の農村と都市、都市問題と都市計画、世界の都市と都市化現象などを講義していく。

理論・学説においては、1920年代、アメリカのシカゴ学派による「人間生態学」とシカゴ・モノグラフ・シリーズの登場、ヨーロッパを中心とした1970年代以降の新都社会学や「空間の社会学」の動向などを扱う。また、後半では、ビデオ視聴なども加えながら、先進資本主義諸国の都市問題、発展途上国などの都市化などについても考察する予定である。講義予定科目は以下のようである。

テキスト：

- ・有末賢『現代大都市の重層的構造』ミネルヴァ書房，1999年

参考書：

- ・藤田弘夫・吉原直樹編著『都市社会学』有斐閣，1999年
- ・地域社会学会編『キーワード地域社会学』ハーベスト社，2000年

社会学Ⅱ（秋学期）

〈東京圏〉の社会学

教授 有末賢

授業科目の内容：

社会学Ⅰから引き続いて、都市社会学を中心とした地域社会の現代的・実証的なテーマを扱っていく。今回は、一つのケース・スタディとして「東京圏」の社会学を講義する。「東京」は現代大都市の中でも多くの問題を抱え、しかもダイナミックな社会変動によって、一刻一刻その姿を変えつつある。まず、イギリスのロンドンと比較しながら、歴史的な都市化の特性をとらえ、都市化—郊外化—脱郊外化—反都市化などの人口変動のサイクルを検証する。また、東京圏内部を都心業務地域、インナーシティ・エリア、下町—山の手、戦前型郊外住宅地、戦後ニュータウン、盛り場・繁華街などに類型化しながらそれぞれの地区特性と現代的問題点を解説していく。最後には、東京論とライフスタイルについても考察していきたい。講義予定題目は以下のようである。

テキスト：

- ・有末賢『現代都市の重層的構造』ミネルヴァ書房，1999年

参考書：

- ・藤田弘夫・吉原直樹編著『都市社会学』有斐閣，1999年
- ・地域社会学会編『キーワード地域社会学』ハーベスト社，2000年

経済政策

講師 川野辺裕幸

授業科目の内容：

先進資本主義国における経済は各個人や企業の市場における取引を中心として成り立っている。社会主義計画経済と市場経済の優劣は近年のソ連東欧圏の崩壊から明らかと思われる。しかしわが国をふくめて多くの先進資本主義国には巨大な政府部門があり、市場経済にさまざまな形で影響をあたえようとしている。経済政策をもっとも広い意味でとれば、この全体が経済政策である。本講義は、「市場経済に政府が経済政策という形で介入する根拠：その正当性と成果」の解明をテーマにする。講義はマクロ・ミクロ経済学の基礎知識を前提として進め、簡単な理論で現実をいかに説明し、政策論を展開できるかに主眼をおく。景気政策、規制緩和、社会保障政策、環境政策など、経済政策課題を取り入れる。その意味で、この講義は、経済理論と現実への架け橋を理解することをねらっている。また、政府による政策決定と市場における決定の違いを明らかにするために、公共選択論による民主主義的な意思決定システムの特徴を講義する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

授業計画を参照。

経済原論

経済学部 専任講師 大平 哲

授業科目の内容：

マクロ経済学、ミクロ経済学の内容を展望し、基礎にある考え方を理解することを目的にする。専門的に経済学を学習するためには数学的知識が必要になるが、この授業では数式展開をはじめとした技術的なことは必要最小限しかつかわず、考え方を理解することに重点をおく。マクロ経済学とミクロ経済学とで考え方にどのようなちがいがいいのか、マクロ経済学を用いた政策論ではどのような社会状態を理想と考えるのか、ミクロ経済学の世界観はどのように整理できるか、等々のことを学習する。くわしい説明を

<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/tets/kougi/economics>に掲載する。

財 政 論 (秋学期集中)

 講 師 牛 丸 聡

授業科目の内容：

財政学は政府の収入と支出に関する学問です。財政学に関する基本的な知識を提供するとともに、わが国の財政制度の仕組みと財政の現状と問題点を理解できるように講義します。

テキスト：

開講時に指示します。

参考書：

その都度紹介します。

金 融 論

経済学部 教授 吉野直行(春学期)

 講師 高月昭年(秋学期)

授業科目の内容：

金融を取り巻く環境は大きな変化に直面している。マクロ・ミクロの両面から、わが国の金融全般について講義を行う。

参考書：

- ・吉野直行・高月昭年『入門・金融』有斐閣
- ・吉野直行『英語で読む日本の金融』有斐閣
- ・池尾和人・飯島高雄『日韓経済システムの比較制度分析』日本経済新聞社など

会 計 学

 商学部 教授 黒川行治

授業科目の内容：

財務会計の基本的枠組み、会計基準の設定過程の問題、会計代替案選択に関する企業の会計意思決定の問題、会計認識および測定に関する基本的論理、会計測定の拡大・変容をふまえた近年の会計諸基準の具体的内容について、理解を深めることを目標とする。

テキスト：

- ・田中茂次『現代会計学総論〔第2版〕』(中央経済社)
- ・黒川行治『連結会計』(新世社)

参考書：

- ・黒川行治『合併会計選択論』(中央経済社)

経 営 学

 商学部 教授 今口忠政

授業科目の内容：

企業を取り巻く環境は激変し、国際化、IT化が急激な勢いで進展している。これからの企業経営は、迅速・柔軟に変化に適応できる形態が求められる。講義は、企業を取り巻く環境の変化とそれに対応した経営という視点から理論的な考え方、事例を紹介する。現代企業の経営状況を具体的に理解し、これからの企業経営に必要な考え方を学べるように工夫する。

春学期は経営学の歴史的な発展、企業形態、会社組織などを中心として、現実の企業行動の理解に重点に置く。経営学がどのような問題を解決しようとするのか、企業形態、企業の統治、企業集団、企業合併などについて説明し、現代の企業が抱える問題、これから登場する企業形態などを理解する。

巨大企業は多数の従業員、巨額の資本、設備から成り立っており、それらを組織的に運営することは非常に難しい。巨大な企業ほど綿密に経営戦略をたて、経営組織を作って、計画的に運営している。秋学期は企業内部に焦点をあてて、経営戦略、組織、指揮、統制などのマネジメント活動について講義する。

テキスト：

- ・今口忠政『事例で学ぶ経営学(仮題)』白桃書房、2004年出版予定

参考書：

- ・小倉昌男『経営学』日経BP社、1999年(ヤマト運輸の経営者で、経営の実態理解に最適)
 - ・今口忠政『戦略構築と組織設計のマネジメント』中央経済社、2001年(秋学期の戦略、組織に参照)
- その他は講義時に随時紹介します。

〔系列科目〕

〔文献講読〕

文献講読 I (独書) (春学期)

政治学文献をドイツ語で読めるようになろう

教授 萩原能久

授業科目の内容:

この授業では、ドイツ語で書かれた社会科学の専門書を正確に読みこなす能力の育成と同時に、書かれている内容についても積極的な討論を行います。履修者は少数でしょうから、基本的には開講時に相談して、受講者の関心にできるだけそった使用テキストを決めたいと思いますが、基本的に、政治学の理論的問題、ドイツを中心とした戦後ヨーロッパの政治・社会情勢の問題を扱うつもりです。政治思想に関心のある受講者が多い場合には、特定の思想家の著作を読むこともあります。

テキスト:

開講時に履修者と相談して決めます。

参考書:

辞書(電子辞書でも結構ですが、収録語数、文例の多いものが多いと役に立ちません)は必ず携行してください。

文献講読 II (独書) (秋学期)

助教授 田上雅徳

授業科目の内容:

ドイツ語で著された政治史・政治思想史の研究書を講読します。

テキスト:

Rudolf Weber-Fas; *Über die Staatsgewalt, Von Platons Idealstaat bis zur Europäischen Union* (München, 2000).

文献講読 I (仏書) (春学期)

助教授 堤林 剣

授業科目の内容:

具体的なテキストは受講生の希望を考慮した上で決定する。但し、テーマはフランスの政治思想である。

文献講読 II (仏書) (秋学期)

Le Nouveau Monde Industriel et Sociétaire の講読

教授 井田三夫

授業科目の内容:

オウエン、サン＝シモンと並び空想的社会主義者 *socialistes utopiques* と見なされているシャルル・フーリエ Charles Fourier の著作を講読します。彼の宇宙論的スケールの「情念引力」に基づく社会・人間に対する豊饒かつユニークな分析(社会進化論、心的・性的人間情念論、人間疎外論 etc)は単なる政治思想を超えた広がりを持っている。この授業では難解な彼の著作の中では比較的読みやすいとされている代表作『産業的・協同社会的新世界論』*Le Nouveau Monde Industriel et Sociétaire* の序文を講読します。

テキスト:

・ Charles Fourier: *Le Nouveau Monde Industriel et Sociétaire*

最初の授業の時に、プリントを配布します。

参考書:

・『世界の名著 ― オウエン、サン・シモン、フーリエー』(中央公論社)はじめフーリエに関する日本語(英語・フランス語?)文献にも目を通すことをおすすめします。必ず予習し、丹念に辞書を引いて、授業に出席のこと。

文献講読 I (中国書) (春学期)

助教授 安田 淳

授業科目の内容:

中国の政治・社会等に関する中国語文献を講読することにより、現代中国の歴史や現状を理解し問題意識を高めることを目的とする。

テキスト:

教材は授業中にプリントとして配布する。

文献講読 II (中国書) (秋学期)

助教授 安田 淳

授業科目の内容:

文献講読 I (中国書) (春学期) に同じ。

文献講読 I (西書) (春学期)

助教授 大久保 教 宏

授業科目の内容:

メキシコの新宗教「世の光」について扱った研究書を精読しながら、スペイン語の研究論文の読み方や、宗教社会学の方法を学びます。「世の光」は日本にもよくあるお騒がせ宗教のメキシコ版ですが、このような宗教が成立し、信者を獲得していく理由を歴史的、社会的背景から探ります。200頁ほどの本ですが、ひたすらこれを読みます。

テキスト:

・ Jorge Erdely y otros, *La Luz del Mundo*, 1997.

コピーを配布します。

文献講読 II (西書) (秋学期)

助教授 大久保 教 宏

授業科目の内容:

春学期と同じ本をひたすら読みます。

文献講読 I (露書) (春学期)

教授 山田 恒

授業科目の内容:

長文読解に必要なテクニックを身につけることを目標とします。秋学期には集中してウェブからダウンロードしたロシアの新聞や雑誌を読む予定ですので、そのための準備です。

四月から五月にかけては、長文を語句に分割する作業を行ってまいります。見知らぬ単語があっても、句や節を正確に分割できることが長文読解の基礎です。今までの経験から言うなら、副詞句などは前置詞が目印となって正確に捉えられるようですが、副動詞構文や形動詞構文を苦手とする履修者が多いようです。形動詞や副動詞は知識として蓄えられていても、長文の中に出てくると、正確に捉え、理解し、翻訳することが困難なのではないかと思われまます。

そこで最初の段階では、形動詞と副動詞を徹底的に反復練習します。二・三ページ分の動詞を形動詞や副動詞に変える作業を通して、習熟出来るようにするとともに、関係代名詞構文を形動詞構文に変換する練習も十分に行います。きちんと出席しているなら、形動詞や副動詞で困ることはなくなるでしょう。六月から七月にかけては、実際に長文を読み解く作業を行います。ロシアのニュースが中心ですが、何か別のテーマに変更することも考えています。受講生諸君の関心領域と合わせるつもりです。教材は全て準備し、授業中にペーパーを配布します。

レギュラーコースを終了した学生諸君は更にロシア語の実力をつけるため、是非とも履修してください。

テキスト:

コピーを使用する。

参考書:

特にありません。ただし日吉で使用した文法の教科書と辞書は、毎時間持ってきてください。

文献講読 II (露書) (秋学期) 教授 山田 恒

授業科目の内容:

春学期で学んだテクニクを駆使してロシアのニュースを読みま
す。テキストは山田が準備し、全員に同一のコピーを渡しますが、
学期後半には各人の希望するテーマでニュースを集めてもらい、そ
れを教材とします。ロシア語のネットを検索し、各人が拾い集めた
ものをテキストとして使用します。

一回の授業で、各人は少なくともそれぞれ3ページ前後のテキス
トを読んでくることにします。

テキスト:

コピーを使用します。

〔政治思想論〕

近代政治思想史 I (春学期)

コンテキストを重視する思想史研究の方法と主題

助教授 堤 林 剣

授業科目の内容:

まずは準備作業として政治思想史研究の方法論にまつわる論争を
紹介し、諸説の交通整理を試みる。本論では、いくつかの方法論を
適用する形で、また「近代国家の中世的起源」という解釈枠組を意
識しつつ、マキアヴェッリ、ホブズ、ロック、ルソー、シエース、
コンスタンの政治思想とその歴史的意義について論じる。その際、
「歴史のアンビヴァレンス」という視座からテキスト(理論)とコン
テキスト(言語慣習・歴史的文脈)との影響関係に着目する。

テキスト:

特に指定しない。

参考書:

講義の際に紹介する。

現代政治思想 I (秋学期)

永遠のワイマール?

教授 蔭 山 宏

授業科目の内容:

ワイマール共和国期の政治思想について取り上げる。狭義の政治
思想に限らず、「ワイマール文化」における「ワイマールの状況」を
精神的にとらえることにしたい。「ワイマールの状況」は、ワイマ
ール共和国期に限られた現象ではなく、今日においてもたえず再生
産されうるとの立場にたつて、表題のようなテーマをかかげた。

テキスト:

特に用いない。

参考書:

多数あるので、その都度指示する。

政治哲学 I (春学期)

政治的なものの概念

教授 萩原 能久

授業科目の内容:

この講義では、政治哲学、および政治学方法論上の基礎概念、基
本問題についての理解を深めることを目標におきます。しかし最終
的には、様々なアプローチや思想についての「知識」を得ることが
目的ではなく、私としては受講者の皆さんが、政治的現実を批判
的に、かつ「他人の指導がなくても自分自身の悟性を敢えて使用
しようとする決意と勇気」(カント)をもって考えることができるよ
うなることを望んでいます。

テキスト:

特に用いません。

参考書:

逐一、講義のなかで示していきます。

政治理論史 I (春学期)

政治と宗教の相克 — 西欧政治思想史の一試論 前編 —

助教授 田上 雅徳

授業科目の内容:

「政治理論史 I・II」を通して、西欧における政治思想の歴史的変
遷を、「政治的なもの」と宗教(キリスト教)とのせめぎあいとい
う観点から捉え直して講義します。

ここでの問題設定の切実さは、ひとところよりも、たとえばテロ事
件や民族紛争をテレビ等で見聞きしている皆さんの方が、よくわか
っていただけるのではないかと思います。つまり、現代においても
宗教を理解しなければ説明しきれない政治の局面というものが存在
するのです。

同時に担当者は、西欧における政治と宗教の関係のあり方が広く、
西欧文化それ自体を根底で規定しているとも考えています。この考
え方に立てば、本講義は西欧精神の基層を検討する試みとも言えま
しょう。

テキスト:

とくに指定しません。

参考書:

授業の中で適宜紹介していきますが、さしあたって、宮田光雄
『宮田光雄集IV 国家と宗教』(岩波書店)、鷲見誠一『ヨーロッパ文化
の原型』(南窓社)、トレルチ『トレルチ著作集』(ヨルダン社)をあ
げておきます。

政治理論史 II (秋学期)

政治と宗教の相克 — 西欧政治思想史の一試論 後編 —

助教授 田上 雅徳

授業科目の内容:

「政治理論史 I」の続きとなります。

テキスト:

とくに指定しません。

参考書:

授業の中で適宜紹介していきます。

政治理論史 III (春学期)

政治学の基礎概念の歴史的考察 講師 宇野 重規

授業科目の内容:

「政治」「デモクラシー」「権力」「人権」「市民権」「ナショナリ
ズム」「自由主義」「共和主義」といった政治学の基礎概念について、
歴史的に考察していきます。これらの諸概念は、なぜ、どのように
して、生まれ、発展してきたのでしょうか。一つひとつの概念を歴
史的に考察することで、それぞれの特徴や意味の膨らみについて理
解を深めていきたいと思います。

テキスト:

特に指定しません。講義プリントを配布します。

参考書:

講義中に適宜紹介していきます。

政治理論史 IV (秋学期)

政治学の基礎概念の歴史的考察 講師 宇野 重規

授業科目の内容:

「政治」「デモクラシー」「権力」「人権」「市民権」「ナショナリ
ズム」「自由主義」「共和主義」といった政治学の基礎概念について、
歴史的に考察していきます。これらの諸概念は、なぜ、どのように
して、生まれ、発展してきたのでしょうか。一つひとつの概念を歴
史的に考察することで、それぞれの特徴や意味の膨らみについて理
解を深めていきたいと思います。

テキスト:

特に指定しません。講義プリントを配布します。

参考書：

講義中に適宜紹介していきます。

中世政治思想（春学期） 名誉教授 鷲見誠一

授業科目の内容：

ヨーロッパ中世政治思想における基本的問題を述べる。

テキスト：

・鷲見誠一「ヨーロッパ文化の原型」南窓社

参考書：

・バコー「テオクラシー」（創文社）

東洋政治思想史 I（春学期）

近代前期における中国政治思想の諸相

講師 高柳信夫

授業科目の内容：

本講義では、アヘン戦争を発端とした西洋列強の侵入に直面した中国知識人が、いかにして王朝体制の再編をめざしていったかを、主に思想面において検討します。

対象として扱う時期は、主としてアヘン戦争前後から戊戌変法期までとし、特に、西洋という新たな「文明」と対峙しつつ、中国知識人が「中国」をどのようなものとして位置づけていったかという点に注目して論述を進めてゆきます。

テキスト：

テキストは特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

東洋政治思想史 II（秋学期）

梁啓超（1873～1929）と近代中国の思想世界

講師 高柳信夫

授業科目の内容：

梁啓超は、清末民国初の中国において圧倒的な影響力を持った思想家・ジャーナリスト・政治家・学者であり、その主張に賛成するにせよ反対するにせよ、当時において彼の影響を受けなかった知識人は、殆ど存在しないといってもよい程の人物です。

本講義では、彼の思想的な歩みを跡づけつつ、同時に、彼と対立した様々な思想潮流にも言及し、19世紀末から20世紀初頭の中国の思想状況について概観することをめざします。

テキスト：

テキストは特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

日本政治思想史 I（春学期） 教授 寺崎修

授業科目の内容：

日本の政治思想をその当時の時代状況のなかで理解しようとする立場から、明治維新以降の政治思想をとりあげる。

テキスト：

・『福澤諭吉著作集』第7巻（慶應義塾大学出版会，2003年）

参考書：

講義の際に適宜紹介する

日本政治思想史 II（秋学期）

明治期の政治思想

講師 山田央子

授業科目の内容：

幕末以降、日本の政治は西洋からの新しい政治思想と出会い、伝統との連続や軋轢、断絶が絡み合った複雑な経過を辿っていきます。その中で、「自由」や「権利」といった新しい価値理念が明治期の日本でどのように受け止められ、近代国家が創設される中でそれがどのように実現また制約されていったのか——本講義では、明治啓蒙以降の政治思想家の著作をとりあげ、異なる立場からの主張をもとに明治期における「政治」について考察していきます。

テキスト：

特に指定しません。毎回講義資料を配布します。

参考書：

・『日本政治思想』松沢弘陽，放送大学教育振興会
・『明治思想史—近代国家の創設から個の覚醒まで—』松本三之介，新曜社ほか，各テーマ毎に講義で紹介する。

日本政治思想史特殊研究 I（秋学期）

福沢書簡を読む

教授 寺崎修

授業科目の内容：

当時の時代状況を説明しながら福沢諭吉の代表的書簡を輪読する。

テキスト：

・『福沢諭吉の手紙』（岩波文庫）

参考書：

適宜紹介する。

〔政治・社会論〕

アメリカの司法と政治（春学期） 講師 木内英仁

授業科目の内容：

この講義では、アメリカの司法と政治との関係について解説します。具体的には、アメリカ憲法および司法制度の概要を説明した上で、アメリカの司法と政治との関連性を基礎づける社会的、制度的要因について、連邦最高裁判所が下した著名な判例を紹介しながら検討していきます。アメリカの司法制度に関する議論について基本的な知識を身につけることが本講義の目標です。

テキスト：

・大沢秀介「アメリカの司法と政治講義ノート」（成文堂，2003年）

参考書：

使用しません

行政学特論 I（行政管理論）（秋学期）

講師 山口道昭

授業科目の内容：

この講義では、行政の管理・運用を、実例に基づいて明らかにすることを目的とし、行政管理の現代的課題を、政策管理、組織管理、人事管理、事務管理、行政統制の観点から取り上げます。国の行政のほか、自治体行政をも積極的に取り扱います。

テキスト：

特に指定しません。講義に際しては、レジュメの配布を予定しています。

参考書：

・西尾勝『行政学 [新版]』（有斐閣，2001年）
・西尾勝・村松岐夫編『講座行政学④～⑥』（有斐閣，1994～95年）

行政学特論 II（地方自治論）（春学期）

講師 山口道昭

授業科目の内容：

この講義では、日本の地方自治の現状と課題を、実例に基づいて明らかにすることを目的とします。

自治体の活動は、国の法律の枠組に規定されている部分が多いため、運用実態の把握のためには制度の理解が欠かせません。そこで、これらを踏まえ、あるべき地方自治の姿を素描してみたいと思います。

テキスト：

・原田尚彦『新版 地方自治の法としくみ』（学陽書房，2003年）

参考書：

・西尾勝『未完の分権改革』（岩波書店，1999年）
・山口道昭『図説 新地方自治制度』（東京法令，2001年）

現代行政論 I (春学期)

行政指導を素材とした国家と社会, 政府と市場 (産業) の関係の再検討
教授 大山 耕 輔

授業科目の内容:

通商産業省 (現在, 経済産業省) が戦後に行ってきた行政指導 (administrative guidance) について, 事例研究 (ケース・スタディ) の方法を用いて分析します。この分析を通じて, 戦後日本における国家と社会, 政府と市場 (産業) の関係がダイナミックに逆転してきたことを明らかにします。これに関連して, 規制改革 (regulatory reform) の意義と限界についても考察します。

テキスト:

・拙著『行政指導の政治経済学——産業政策の形成と実施』(有斐閣, 1996)

参考書:

拙稿「政策実施と行政手段」(福田耕治・真淵勝・縣公一郎共編著『行政の新展開』法律文化社, 第5章, 2002), 拙稿「規制システム」(宮川公男・山本清編著『パブリック・ガバナンス』日本経済評論社, 第4章第3節, 2002), 『通商産業政策史』(通商産業調査会, 1990年前後) 等

現代社会理論 I (秋学期)

社会的選択理論入門 講師 志田 基与師

授業科目の内容:

複数の人々の意思や意見を集約して, 集団や社会の意思を決定する場面で起こる様々な問題について概説する。一人の人間ならばやすやすと決定できることが, 複数の人間を含む集団では, さまざまな困難に直面する事例を学ぶことで, 集団や社会の基礎的な構成について, 受講者各自がある種の洞察をえることを目的とする (最終的な見解について講師の意見を押し付けることは行わない)。この分野では簡単な数学の使用が必須であるが, 授業内で必要最小限の事柄は解説するので, 数学が苦手な受講者, 数学の準備がない受講者も心配する必要はない。取り上げるトピックは, (1) 社会的選択理論前史, (2) 数学的準備, (3) 囚人のジレンマ, (4) 自由主義のパラドックス, (5) 民主制の不可能性, (6) 公正としての正義, (7) 戦略的操作の可能性, などである (取り上げるトピックは順番も含めて若干の変更はありうる)。

テキスト:

・A. セン『集約的選択と社会的厚生』勁草書房

参考書:

授業内で指示する。

現代社会理論 II (春学期)

社会理論で読みとく現代社会の死の様相
助教授 澤 井 敦

授業科目の内容:

社会理論の魅力は, 身近な現象を, 社会全体の構造・変動とリンクさせて理解するための幅広い視野をあたえてくれるという点にある。本講義では, ひとつの題材として死という現象をとりあげ, その現代社会における様相を, 社会理論をもちいて読み解くことを試みる。とりあげる予定の理論・理論家は, ヴェーバー, デュルケム, パーソンズ, エスノメソドロジー, シンボリック相互作用論, バーガー, エリアス, ギデンズ, パウマン, ポストモダンティ論, 身体社会学, 物語論などである。

テキスト:

特に指定しない。

参考書:

授業中に紹介する。

現代政治理論 I (春学期)

教授 河野 武 司

授業科目の内容:

政治学の様々な領域において最近議論されている比較的新しい理論について, 解説します。この春学期においては, 民主主義と政策決定に関する理論を取り上げます。

テキスト:

特に指定しません。

参考書:

授業中に, 適宜紹介します。

現代政治理論 II (秋学期)

教授 河野 武 司

授業科目の内容:

春学期に続いて, 政治学の様々な領域において最近議論されている比較的新しい理論について, 解説します。この秋学期においては, 政治における諸アクターの行動に関する理論などを取り上げます。

テキスト:

特に指定しません。

参考書:

授業中に, 適宜紹介します。

公共経済論 I (春学期)

政府の役割とは何か 教授 麻生 良 文

授業科目の内容:

政府が果たすべき役割とは何だろうか。公共経済論 I ではこの問題を扱う。なお, 政府活動は租税や公債等によって賄われるが, これらが経済活動に与える影響を公共経済論 II で扱う。

政府活動の根拠は, 「市場の失敗」に求められる。この講義では, 市場の失敗を明らかにし, それをどのように解決すべきなのかを論じる。講義内容は以下の通り。

1. 市場の失敗と政府の役割
2. 市場の失敗各論 (1) 公共財, (2) 外部性, (3) 自然独占, (4) 情報上の失敗
3. 応用 (1) 国と地方の役割分担, (2) 財政投融资制度

テキスト:

・麻生良文『公共経済学』有斐閣

参考書:

・スティグリッツ『公共経済学 (上)』東洋経済新報社
・スティグリッツ『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社
・Rosen, Harvey. Public Finance, Irwin
・ミラー・ベンジャミン・ノース『経済学で現代社会を読む』日本経済新聞社, 1995年

公共経済論 II (秋学期)

租税と公債の効果 教授 麻生 良 文

授業科目の内容:

公共経済論 II では, 租税と公債の効果について講義を行う。租税の理論では, 望ましい税制はどのようなものか, 実際に租税を負担するのは誰か, 租税はどのように経済活動に影響を与えるかについて講義する。また, 財政政策の有効性, 公債の負担についても講義する。講義の概要は以下の通り。

- 1) 租税の理論入門 (1) 租税原則, (2) 課税ベースの選択
- 2) 個別物産税の帰着
- 3) 所得税か支出税か (1) 労働所得税の効果, (2) 資本所得税の効果, (3) 課税の長期的効果
- 4) 財政政策の効果 (1) 乗数モデル, (2) 減税の効果 リカードの等価定理
- 5) 公債の負担

テキスト:

・麻生良文『公共経済学』有斐閣

参考書：

- ・スティグリッツ『公共経済学（下）』東洋経済新報社
- ・Rosen, Harvey. Public Finance, Irwin
- ・マンキュー『マクロ経済学Ⅱ』東洋経済新報社

国際コミュニケーション論 I（春学期）

国際報道の現状とニュースの流れの構造

講師 内藤 耕

授業科目の内容：

本講義では国際コミュニケーションを諸国家間のコミュニケーションおよび国境を相対化するグローバル・コミュニケーションをめぐる問題構成としてとらえていきます。とくにIでは、イラク戦争でクローズアップされた、戦争報道を中心とした国際報道の現状と問題点を考えていきます。戦争報道の歴史の変遷から始まって、報道を支えるシステムのはらむ問題やニュースの国際的な流れの構造にいたるまで概観していきます。事例研究と理論的議論をセットにして紹介します。あまり明い話はできませんが、「世界」に対する批判的精神を養うと同時に、むしろ受講生自身の力でオルタナティブな道を見つけていただけるような問題提起ができればと思っています。

テキスト：

学期中に案内します。

参考書：

- ・鶴木真『情報政治学』三嶺書房、2002年

国際コミュニケーション論 II（秋学期）

メディアのグローバリゼーションと文化摩擦

講師 内藤 耕

授業科目の内容：

グローバル化しつつあるメディアの現状とそれをめぐる問題について多面的に解説を試みます。講義は大きく二つに分かれ、前半が資本、コンテンツの流通等の側面からの分析となります。メディア資本の世界戦略、アジアにおける日本製アニメやテレビ番組の流通と受容などの事例を取り上げます。後半は、政策論として、文化交流政策と開発コミュニケーションについて概観していきます。受容する側の「したたかさ」についても理解できればと思います。全体的に、日本との関係、それから授業担当者の専攻領域の都合により、アジアの事例を多く取り上げることになるでしょう。対象の性格上、春学期の内容と一部重複する部分があるかもしれませんが、Iを受講している必要はありません。

テキスト：

学期中に案内します。

参考書：

適宜、授業中に紹介します。

国家論 I（春学期）

教授 根岸 毅

授業科目の内容：

政治学はどのように構成される学問であり、そこでは国家はどのような位置を占めるのであろうか。さらに、国家とはいかなる社会的存在であろうか。本講義では、以上の、政治学の方法論の基本問題について考察する。

テキスト：

- ・根岸毅他『国家の解剖学』日本評論社・1994年

参考書：

- ・根岸毅『政治学と国家』慶應義塾大学出版会・1990年

渋沢栄一記念財団寄附講座**シヴィル・ソサエティ論（春学期）**

新公益論：新しい国づくりを目指して

教授 小林 良彰

授業科目の内容：

「シヴィル・ソサエティ論」は、渋沢栄一を記念して新たに開設される科目です。各界の第一線で活躍する有識者や実務家を講師に迎え、サブ・テーマ「新しい国づくりを目指して」にもとづく4つの観点（授業計画を参照）から、現在の日本が抱える大きな課題である「公益とは何か、誰がそれを定義し、誰がそれを担うのか」について考える機会を提供します。

日本が封建体制から脱却し、急速な近代化の道を歩み始めた激動の時代にあつて、渋沢栄一の実業、教育、福祉、外交などの諸分野における数々の偉業を支えたものは、公益の視点にもとづく民間の活動が政府の活動を補完あるいは先導すべきであり、それこそが日本に活力ある発展をもたらすとともに、国際社会に貢献するという意味での「開国」を可能にするという信念でした。

グローバリゼーションが進展し、社会が多様化するなかで、現在、日本は「第二の開国」を迫られているともいえるでしょう。それゆえに、「公益」の新しい定義および新しい「公益」を政府やシビル・ソサエティが分担するシステムを構築することは、日本人全体が取り組むべき急務であるといえます。この機会に、日本が直面している諸課題について分析し、今後の政策的・制度的対応のあり方について幅広い視野を養って頂きたいと考えます。

テキスト：

テキストは特に指定しません。講義用資料は、必要に応じて、当日教室にて配布します。

参考書：

- ・渋沢研究会編『新時代の創造 公益の追求者・渋沢栄一』（1999、山川出版社）、五百旗頭真・山本正ほか共著『「官」から「民」へのパワーシフト—誰のための「公益」か』（1998、TBSブリタニカ）、竹森俊平著『経済論戦は甦る』（2002、東洋経済新報社）など

社会調査論 I（春学期）

社会調査の歴史、概要、基礎 講師 玉野 和志

授業科目の内容：

この講義では、社会学の方法としての社会調査の基礎的な理解と全体像を知ることが目的とする。初めに社会学と社会調査の成立の歴史の経緯について学び、それゆえ社会調査には様々な方法が存在することを確認する。そのうえで従来あやまった認識として量的調査と質的調査を対比する考え方が流布してきたことを批判し、それを社会学そのものも二面性との関連で位置づけ直すことで、社会調査の本来のトータルな姿を習得することを目標としたい。

テキスト：

特に決まったものは使用しない。

参考書：

- ・福武直『社会調査』有斐閣

社会調査論 II（秋学期）

社会調査の方法と実践

講師 玉野 和志

授業科目の内容：

この講義では、春学期の内容をふまえて、実際にトータルな社会調査の全過程をシュミレートしながら、それぞれの文脈と目的にあった社会調査の様々な方法を実践的に紹介しつつ、その技法を実際に理解し、習得していくことを目的とする。既存の統計資料などの文書データ、インタビューにもとづくヒアリングデータ、さらにサーベイ調査の調査票データなど、それぞれの収集方法と分析法を学ぶことで、社会調査によってどのように問題を探索し、どのように説明を構想し、いかにして確認していくかを考えていく。

テキスト：

特に決まったものは使用しない。

政治

参考書：

・森岡清志編（1998）『ガイドブック社会調査』、日本評論社

政治過程論 I（春学期）

公共選択：どのような決定が行われているか？
どのような決定が望ましいのか？

講師 森 正

授業科目の内容：

政治における「決定」とは、誰が、どのような条件の下で、いかなるゴールを目指して行動した結果、「まとまる」のであろうか。このように、政治過程を「公共的選択の決定の場」として捉え、諸アクター（有権者・政党・政治家・官僚・利益集団など）の行動戦略とその帰結に関する普遍的図式（モデル）を追求する立場を「公共選択論」という。

公共選択論には2つの側面がある。1つは、「われわれの政治や社会において、どのような決定がなされるのが望ましいか」を検討する「規範的公共選択論」としての側面である。もう1つは、といった理念を現実化してゆくために「われわれの政治や社会が、どのような状態にあるのか」を把握する、つまり「実証的公共選択論」としての側面である。前者は哲学や規範論的経済学にとって、また後者は計量的アプローチをとる社会科学にとって馴染み深い課題となっている。講義ではこれら2つの課題を意識しながら、政治過程における決定について論を進めたい。

テキスト：

・小林良彰，1998，『公共選択』東京大学出版会

参考書：

講義中に指示する。

政治過程論 II（秋学期）

選挙・投票行動の理論とモデル：
われわれは1票に何を託しているのか？

講師 森 正

授業科目の内容：

この講義では現代の政治過程における主要な構成要素である「選挙」や「投票行動」を取り上げて、それらに関する様々な研究を紹介することにした。投票行動についての研究は、政治学における中心的な研究テーマの1つとして、早くから米国で盛んに行われてきたが、今日では日本においても多くの研究が蓄積されてきている。講義では、これらの研究成果をベースとして、投票参加に関する理論とモデル、及び投票行動に関する諸変数（地域特性、社会的属性、政党支持、争点態度、政治信頼、政府業績、候補者要因、選挙運動など）の効果について紹介する。

また、講義を通して、選挙や投票行動以外の政治過程、つまり政策形成、政治意識、マス・メディア、地方政治といった政治現象を実証的に分析する方法についても、わかりやすく説明することにした。このため、「選挙」や「投票行動」に関心がある学生ばかりでなく、広く政治過程に関わる様々な研究テーマに関心がある学生、あるいは政治学の系譜を知りたいと思う学生など多くの学生の履修を望みたい。

テキスト：

・小林良彰，2000，『選挙・投票行動』東京大学出版会

参考書：

講義中に指示する。

政治経済システム論（春学期） 名誉教授 田 中 宏

授業科目の内容：

個人の自由、繁栄、そして国家間の平和を確保する上で、政府の役割はどうあるべきか。この問題を吟味することが本講義の目的である。これは古く、かつ、新しい問題であるが、政治学、国際政治学の基本概念（たとえば権力概念とそのメカニズム）を明確にすることに力を置きながら講義を進めたい。

参考書：

・根岸・萩原・田中『国家の解剖学』日本評論社

地域社会論 I（春学期）

都市社会学概説 教授 有 末 賢

授業科目の内容：

都市化社会と呼ばれる現代社会において、都市と地域社会（コミュニティ）は、われわれの社会生活において重要な空間であるだけでなく、〈集団〉でも〈関係〉でもある。本講義においては、地域社会を対象として、都市社会学を中心とした学説・理論から解説し、実証的研究の系譜や日本の農村と都市、都市問題と都市計画、世界の都市と都市化現象などを講義していく。

理論・学説においては、1920年代、アメリカのシカゴ学派による「人間生態学」とシカゴ・モノグラフ・シリーズの登場、ヨーロッパを中心とした1970年代以降の大都市社会学や「空間の社会学」の動向などを扱う。また、後半では、ビデオ視聴なども加えながら、先進資本主義諸国の都市問題、発展途上国などの都市化などについても考察する予定である。講義予定題目は以下のようである。

テキスト：

・有末賢『現代大都市の重層的構造』ミネルヴァ書房，1999年

参考書：

・藤田弘夫・吉原直樹編著『都市社会学』有斐閣，1999年
・地域社会学会編『キーワード地域社会学』ハーベスト社，2000年

地域社会論 II（秋学期）

〈東京圏〉の社会学 教授 有 末 賢

授業科目の内容：

地域社会論 I から引き続いて、都市社会学を中心とした地域社会の現代的・実証的なテーマを扱っていく。今回は、一つのケース・スタディとして「東京圏」の社会学を講義する。「東京」は現代大都市の中でも多くの問題を抱え、しかもダイナミックな社会変動によって、一刻一刻その姿を変えつつある。まず、イギリスのロンドンと比較しながら、歴史的な都市化の特性をとらえ、都市化—郊外化—脱郊外化—反都市化などの人口変動のサイクルを検証する。また、東京圏内部を都心業務地域、インナーシティ・エリア、下町—山の手、戦前型郊外住宅地、戦後ニュータウン、盛り場・繁華街などに類型化しながらそれぞれの地区特性と現代的問題点を解説していく。最後には、東京論とライフスタイルについても考察していきたい。講義予定題目は以下のようである。

テキスト：

・有末賢『現代大都市の重層的構造』ミネルヴァ書房，1999年

参考書：

・藤田弘夫・吉原直樹編著『都市社会学』有斐閣，1999年
・地域社会学会編『キーワード地域社会学』ハーベスト社，2000年

マス・コミュニケーション発達史 I（春学期）

近代化の位相とマス・コミュニケーション
講師 大 井 眞 二

授業科目の内容：

日本の近代化を縦軸にし、マス・メディア空間を横軸にして、日本の近代史をメディア史のパスベクティブから振り返ってみたい。近代社会という固有の空間に誕生した最初のマス・メディアである新聞は、近代化の過程と密接に絡み合いながらその姿を変えてきた。本講では、幕末維新期から第一次世界大戦までを射程に置いて、日本の近代政治史に「変化のエージェントとしてのメディア」（エイゼンシュテイン）がどのように関わったか、を考察する。

テキスト：

特に指定しない。適宜資料を配付する。

参考書：

・大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』（近刊）、世界思想社，2004年

マス・コミュニケーション発達史 II (秋学期)

デモクラシーとマス・メディア

講師 大井 眞 二

授業科目の内容：

日本のマス・メディアに与えた大きな影響の視点から、米国のメディア史を取り上げたい。

これには日本のメディア史を相対化する意図が込められている。米国のメディアとりわけ新聞は、建国期からデモクラシーにおける役割が重視されてきた。あるいはデモクラシーの制度的前提であったといってもいい。この考え方は、基本的に今日においても変わることがない。このことの意味を考えてみたい。

テキスト：

講義の際に指示する。

参考書：

・大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』(近刊), 世界思想社

マス・コミュニケーション論 I (春学期)

マス・コミュニケーションと政治

教授 大石 裕

授業科目の内容：

本講義は、マス・コミュニケーションと政治をめぐる諸問題について講義する。基本的な概念や理論・モデルの説明が中心となるが、具体的事例に言及しながら講義を進めることにしたい。その際、ニュースの政治的機能が中心となる。

テキスト：

・大石 裕『コミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会
・大石 裕ほか『現代ニュース論』有斐閣

参考書：

・マッコームズほか『ニュース・メディアと世論』関西大学出版部
・ニューマン『マス・オーディエンスの将来像』学文社

マス・コミュニケーション論 II (秋学期)

政治コミュニケーションの理論と分析

教授 大石 裕

授業科目の内容：

本講義では、政治コミュニケーションに関する理論について解説し、また、それを用いて現実の政治社会(主として戦後日本社会)について分析を行う。その際、マス・コミュニケーションに関する諸研究、世論研究、社会運動論、政治権力論などを参照する。

テキスト：

・大石 裕『政治コミュニケーション』勁草書房
・大石 裕ほか『現代ニュース論』有斐閣

参考書：

・大石 裕『コミュニケーション研究』
・ルークス『現代権力論批判』未来社

メディア社会論 I (春学期)

講師 伊藤 守

授業科目の内容：

メディアの文化的表象作用が、社会秩序の編制と諸個人のアイデンティティに決定的な機能をもちはじめた現代社会のメディア・システム、文化表象の問題について講義する。TV番組を実際に検証する作業もおりこみながら、講義を進めていく予定である。メディア・リテラシーを身に付けることがこの講義の目的である。

テキスト：

・伊藤守編『メディア文化の権力作用』せりか書房2002年

参考書：

・正村俊之編『情報化と文化変容』ミネルヴァ書房2003年

メディア社会論 II (秋学期)

講師 藤田 真 文

授業科目の内容：

メディア論は、メディアが個人の行動・日常生活や社会構造にどのような影響を与えるかを考察する授業です。本講義では、放送メディア、特にテレビの発達を中心に論じ、放送のオーディエンスおよび社会との関係を考えていきます。

テキスト：

・本講義では、教科書を使用せず学期の最初に配付するプリントで授業をすすめていきます。プリントと授業で見せる映像素材などで、自分なりにメディアに対する理解を深めていってください。

参考書：

・伊藤守、藤田真文編著『テレビジョン・ポリフォニー：番組・視聴者分析の試み』世界思想社2,200円

現代社会理論特殊研究 I (秋学期)

モダニティとポストモダニティ 助教授 澤井 敦

授業科目の内容：

近年の社会理論のひとつの動向として、近代社会の編成を「モダニティ」として整理したうえで、その各領域においてみられるモダニティを離脱・再編成しようとする動きを「ポストモダニティ」として総合的に把握しようとする試みがある。この授業では、モダニティ論・ポストモダニティ論に関する文献をとりあげ、受講者各自による報告と質疑応答・討論をゼミ形式でおこないながら、モダニティとポストモダニティのせめぎあいとしての現代社会の動向について考察する。

テキスト：

初回授業時に決定する。

参考書：

授業中に紹介する。

国家論特殊研究 I (春学期)

教授 根岸 毅

授業科目の内容：

アメリカ合衆国の「国家としての造り」が形成された現場での思索の成果を記録した『ザ・フェデラリスト』を材料として、国家の根本問題について討論を行う。論題は、アメリカ政治史として取り扱うのではなく、政治学の理論の観点から捉える。

テキスト：

・A. ハミルトン他(斉藤他訳)『ザ・フェデラリスト』岩波文庫 [白24-1] 1999年

参考書：

とくに指定しない。

政治過程論特殊研究 I (春学期)

教授 小林 良 彰

授業科目の内容：

現代の政治過程における政治参加や地方自治などの文献を読みながら、各自が自分で研究する際の方法などを学ぶことを目的とする。

テキスト：

・テリー・クラーク、小林良彰『地方自治の国際比較』
・R. Niemi & H. Weisberg, *Controversies in voting Behavior*.

政治権力論特殊研究 I (春学期)

ギデンズの社会学入門 教授 霜野 寿 亮

授業科目の内容：

ギデンズの著作を読み、その理論を理解する。

テキスト：

・アンソニー・ギデンズ著、藤田監訳、「社会理論と現代社会学」、青木書店、1998年

参考書：

なし

地域社会論特殊研究 I (春学期) 教授 有末 賢

授業科目の内容:

地域社会論、都市社会学及び広く社会的な関心から、文献(内外)を選んで、演習に参加する学生諸君とともに輪読していきたいと考えている。基本的には、受講生と相談しながら、読む文献を決めたいと考えているが、今考えている各方面からの文献として以下のものを挙げておきたい。

参考書:

- ・園部雅久『現代大都市社会編』東信堂、2001年
- ・小内透・酒井恵真編著『日系ブラジル人の定住化と地域社会』御茶ノ水書房、2001年
- ・吉原直樹『アジアの地域住民組織』御茶ノ水書房、2000年
- ・伊豫谷登士翁『グローバル化と移民』有信堂、2001年
- ・井上真・宮内泰介編『コモンの社会学』新曜社、2001年
- ・ロビン・コーエン(角谷多佳子訳)『グローバル・ディアスポラ』明石書店、2001年
- ・ジョン・アーリ(吉原直樹/大澤善信監訳)『場所を消費する』法政大学出版局、2003年
- ・山下祐介/菅藤志保『震災ボランティアの社会学』ミネルヴァ書房、2002年
- ・堀田泉『モダンシティにおける都市と市民』御茶ノ水書房、2002年

マス・コミュニケーション論特殊研究 I (秋学期)
 メディアと政治について考える 教授 大石 裕

授業科目の内容:

この授業は、メディアと政治をめぐる諸問題について考える。授業方法は演習形式である。

テキスト:

- ・鶴木 真編『コミュニケーションの政治学』慶應義塾大学出版会

参考書:

- ・大石 裕『コミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会

〔日本政治論〕

近世日本政治史 I (春学期)

関係意識から近世政治史を読みかえる (1)

講師 若尾政希

授業科目の内容:

私は、領主層・家臣・民・三者の関係意識の歴史を踏まえた近世政治史を書きたいと思っている。本講義では、最も良質な17Cの通史『土農工商の世』を読みながら、新たな近世政治史の可能性について考えてみたい。(講義形式で授業をしますが、各自テキストを読んでくるのが前提となります。)

テキスト:

- ・深谷克己『大系日本の歴史<9>土農工商の世』小学館ライブラリー

参考書:

- ・若尾政希『「太平記読み」の時代』平凡社選書、他
講義中に紹介します。

近世日本政治史 II (秋学期)

関係意識から近世政治史を読みかえる (2)

講師 若尾政希

授業科目の内容:

私は、領主層・家臣・民・三者の関係意識の歴史を踏まえた近世政治史を書きたいと思っている。本講義では、最新の18Cの通史『享保改革と社会変容』を読みながら、新たな近世政治史の可能性について考えてみたい。(講義形式で授業をしますが、各自テキストを読んでくるのが前提となります。)

テキスト:

- ・大石学編『日本の時代史16 享保改革と社会変容』吉川弘文館

参考書:

- ・若尾政希『安藤昌益からみえる日本近世』東京大学出版会、他
講義中に紹介します。

近代日本政治史 II (秋学期)

原敬と立憲政友会 教授 玉井 清

授業科目の内容:

周知のように、原敬は、大正中葉に我が国最初の本格的政党を成立させた政治家である。しかし、幕末には反維新の側に立った南部藩出身という彼の出自は、政界雄飛に際し、逆風にこそなれ順風たりえなかった。その原が、何故、明治憲法体制下、重要閣僚であった内相を歴任し、衆議院第一党の立憲政友会の党首となり、さらに同党を率いて権力の頂点まで昇りつめることができたのであろうか。また誕生した原内閣は、彼が暗殺されるまで三年余に亘り続き、同憲法体制下歴代4位に位置する長期政権になったが、その理由はどこにあったのであろうか。原の政権戦略を中心に検証してみたい。

テキスト:

- ・玉井清『原敬と立憲政友会』(慶應義塾大学出版会)

近代日本政党史 I (春学期) 講師 小栗勝也

授業科目の内容:

近代日本における革新政党の歴史と問題点につき講述します。できれば今日の問題点についても触れたいと思います。

テキスト:

- ・特に指定しません。

参考書:

- ・必要に応じて講義の中で適宜指示します。

近代日本政党史 II (秋学期) 講師 小栗勝也

授業科目の内容:

大正・昭和期の政党と政党政治について講述します。春学期の「近代日本政党史 I」を受講していることが望ましいが、必要条件とはしません。

テキスト:

- ・特に指定しません。

参考書:

- ・必要に応じて講義の中で適宜指示します。

現代日本行政論 I (春学期)

行政改革の理論と実際 講師 田中一昭

授業科目の内容:

現代国家は行政国家といわれる。日本も例外ではない。しかし、日本の行政には他にはみられない特色がある。欧米へのキャッチアップの時代から、いまやフロントランナーにまでなった。にもかかわらず、あらゆる政策、制度は社会経済の変化に対応せず、国民の不満はうっ積している。少子・高齢化、情報化、国際化そして環境問題の深刻化は否応無しに変革を求めているが、改革は遅々とし、しかもちぐはぐで、ときには的外れであったりする。この講義では、具体的な行革課題を上げながら、改革の理論と実際をたどり、日本の行政の歩みと今後のあり方を考えたい。講義は、毎回レジュメを用意する。

参考書:

- ・「中央省庁改革」田中一昭・岡田彰編著 日本評論社 2000年
- ・「規制改革」川本明 中公新書 1998
- ・「規制緩和の政治経済学」橋元寿朗・中川淳司編 有斐閣 2000年
その他、その都度紹介する。

現代日本行政論 II (秋学期)

行政改革の理論と実際

講師 田中一昭

授業科目の内容：

現代国家は行政国家といわれる。日本も例外ではない。しかし、日本の行政には他にはみられない特色がある。欧米へのキャッチアップの時代から、いまやフロントランナーにまでなった。にもかかわらず、あらゆる政策、制度は社会経済の変化に対応せず、国民の不満はうっ積している。少子・高齢化、情報化、国際化そして環境問題の深刻化は否応無しに変革を求めているが、改革は遅々とし、しかもちぐはぐで、ときには的外れであったりする。この講義では、具体的な行革課題を取上げながら、改革の理論と実際をたどり、日本の行政の歩みと今後のあり方を考えたい。講義は、毎回レジュメを用意する。

参考書：

- ・「三公社の民営化」田中一昭著（「中曽根内閣史第一巻」に所収。）中央公論事業出版 1995年
- ・「証言『大改革はいかになされたか』」増島俊之・小林秀徳共編 2001年
- その他、その都度紹介する。

現代日本政治論 I (春学期)

代議制民主主義における権力の集中と分散

講師 増山幹高

授業科目の内容：

この講義では、現代の日本政治における「権力の集中と分散」について論じる。現代的な国民国家の根幹は代議制民主主義にあり、その原理は権力集中と権力分散に大別することができる。日本は議院内閣制を採用しているが、必ずしも完全に権力が集中しているわけではない。いかに権力の集中が達成されるかは、まず政府を樹立し、権力を握る段階に大きく依存し、現政権の実績と将来の政権構想の二者択一を有権者が意識する場合に権力の集中は最も促進される。また内閣が立法や政策を主導するか否かということも権力の集中度を規定する。一方、権力分散による民主主義は、選挙において多くの政党が競争し、立法や政策が野党間交渉に委ねられることによって、国民各層の意見を広く政府運営に反映させるものである。この講義では、選挙制度と議会制度の各々の観点から、日本政治における代議制民主主義のあり方を検討していく。

テキスト：

- ・河野・平野編著『アクセス日本政治論』（日本経済評論社、2003年）
- ・増山著『議会制度と日本政治』（木鐸社、2003年）

参考書：

- ・村松ほか著『日本の政治：第二版』（有斐閣、2001年）
- ・川人ほか著『現代の政党と選挙』（有斐閣、2001年）

現代日本政治論 II (秋学期)

現代日本における政策決定過程の分析

講師 竹中治堅

授業科目の内容：

現代日本政治論IIは、日本における政策決定過程が戦後、歴史的に変容していく流れを理解した上で、政策決定過程を分析する力を身につけることが目的である。より具体的には、ある政策決定がどのように、そして、なぜされたのかを分析できるようにすることを図る。この目的のために、本講義では、まず基礎知識として、戦後日本政治の歩みを主要な政策決定を中心に概観する。次いで、政策決定の法制度的枠組みを紹介する一方で、政策決定に影響力行使する者・機関を紹介する。その上で、日本における政策決定を分析するために有効な代表的な分析視角を紹介し、さらに、時間の許す範囲内で、これらの視角に基づいて具体的な政策決定を分析する。（下記「履修者へのコメント・成績評価方法」も参照のこと。）

テキスト：

- ・北岡伸一『自民党：政権党の38年』（読売新聞社、1995年）

- ・T.J. Penpel. *Regime Shift*. (Cornell University Press, 1998)
- ・M. ラムザイヤー, F. ローゼンブルス『日本政治の経済学』（弘文堂、1995年）
- その他、講義用資料を配付。

参考書：

講義用の参考書：

- ・平野浩・河野勝『日本政治論』（日本経済評論社、2003年）
- レポート用の参考書（これに限るものではない、詳細は開講時にさらに説明する。）：
- ・日本経済新聞社編『金融迷走の10年』（日経ビジネス人文庫、2002年）
- ・日本経済新聞社編『検証バブル 犯意なき過ち』（日経ビジネス人文庫、2001年）
- ・西野智彦『検証 経済暗雲』（岩波書店、2003年）

古代日本政治史 I (春学期)

教授 笠原英彦

授業科目の内容：

日本古代国家の形成過程について講述する。

1. 邪馬台国論争
2. 大和朝廷の成立
3. 中央集権化の進展

テキスト：

- ・利光三津夫『日本古代政治史』（慶應義塾大学出版会）
- ・笠原英彦『天皇と官僚』（PHP 研究所）

参考書：

授業時に適宜指示する。

中世日本政治史 I (春学期)

室町幕府の成立過程

文学部 教授 中島圭一

授業科目の内容：

歴史年表類を見ると、1336年の建武式目制定をもって、室町幕府が成立したことになっています。しかし、足利尊氏を武家の棟梁に押し上げる動きは、実のところ鎌倉幕府滅亡の時から存在しており、特に尊氏が後醍醐天皇の建武新政府に叛旗を翻して以降は、足利氏の幕府が実態として成立していたと考えることも可能です。他方、言うまでもないことですが、1336年以降も南北朝の内乱は続き、室町幕府が日本全域に君臨する政権として成長するには、さらに半世紀以上の時間が必要でした。本講義では、初代将軍尊氏・二代将軍義詮の時代を中心に、全国政権としての室町幕府が成立するに至る過程を詳しく見ていきます。

テキスト：

特にありません。プリントを配布します。

参考書：

- ・新田一郎『太平記の時代』（講談社日本の歴史11）

中世日本政治史 II (秋学期)

「室町殿」権力の確立過程

文学部 教授 中島圭一

授業科目の内容：

三代将軍義満は、南北朝統一に成功し、室町幕府による全国支配を確立させます。しかし、彼の動きはそこで止まりませんでした。内乱中、南朝と対抗するために擁立し、支えてきた北朝の朝廷に対する政治的支配力も強めており、最終的には自身を院（上皇）に擬し、子息を天皇位に就けようとしたという説もあります。本講義では、義満による権力確立の過程を追い、さらに彼の後継者（四代将軍義持、六代将軍義教）が義満の権力をどのように継承していったのかを考えていきます。

テキスト：

特にありません。プリントを配布します。

参考書：

- ・桜井英治『室町人の精神』（講談社日本の歴史12）

日本外交史 II (春学期) 教授 添谷 芳 秀

授業科目の内容:

戦後日本外交の変遷を講義する。重要事項を外交史の事例として理解することとあわせて、戦後日本外交の全体像を理解するための視角や枠組みを重視して講義する。とりわけ、選択の自由が根本的に締約されていた占領下での吉田茂の選択が、その後不完全なまま定着したことの意味を考えてみたい。それは、きわめて今日的問題でもあり、そのことを深くみつめ直さなければ、今後の日本外交の指針もみえてこないだろう。

参考書:

参考文献を適宜講義のなかで紹介する。とりあえずは、以下を参照のこと。

- ・添谷芳秀『日本外交と中国 1945-1972』（慶應義塾大学出版会、1995年）
- ・五百旗頭真『戦後日本外交史』（有斐閣、1999年）
- ・添谷芳秀・田所昌幸編著『日本の東アジア構想』（慶應義塾大学出版会、2004年）

日本行政史 I (春学期)

明治期の日本行政 講師 福 沢 真 一

授業科目の内容:

明治期における日本行政の史的展開について論ずる。可能な限り現代の日本行政の特徴とその問題点に言及し、その歴史的背景について説明を行うことを予定している。

テキスト:

授業において、指示する。

参考書:

- ・利光三津夫・笠原英彦『日本の官僚制』PHP研究所、1998年
- ・笠原英彦『日本行政史序説』芦書房、1998年
- ・水谷三公『日本の近代13 官僚の風貌』中央公論新社、1999年
- ・百瀬孝『内務省』PHP研究所、2001年
- ・御厨貴編『歴代首相物語』新書館、2003年

日本行政史 II (秋学期)

大正期以降の日本行政 講師 福 沢 真 一

授業科目の内容:

大正期以降の日本行政の史的展開について論ずる。可能な限り現代の日本行政の特徴とその問題点に言及し、その歴史的背景について説明を行うことを予定している。

テキスト:

授業において、指示する。

参考書:

- ・利光三津夫・笠原英彦『日本の官僚制』PHP研究所、1998年
- ・笠原英彦『日本行政史序説』芦書房、1998年
- ・水谷三公『日本の近代13 官僚の風貌』中央公論新社、1999年
- ・百瀬孝『内務省』PHP研究所、2001年
- ・御厨貴編『歴代首相物語』新書館、2003年
- ・竹前栄治『GHQ』岩波書店、1983年
- ・竹前栄治『占領戦後史』岩波書店、1992年

日本政治運動史 I (秋学期) 教授 寺 崎 修

授業科目の内容:

政治運動を歴史的にアプローチする立場から近代日本における一大政治運動であった自由民権運動をとりあげる。

テキスト:

- ・寺崎『明治自由党の研究』上巻（慶應義塾大学出版会）

参考書:

適宜紹介する。

日本政治運動史 II (秋学期)

幕末維新期の政治運動 講師 小川原 正 道

授業科目の内容:

幕末から西南戦争にかけての変動期の政治運動について、当時、にわか政治的重要性を増すこととなった天皇をめぐる運動を中心に講義を進める。幕末においては、ペリー来航によって昂じた尊皇攘夷運動から討幕運動、そして大政奉還と王政復古の号令に至る一連の政治運動について検討し、また明治期では、不平士族による反乱や自由民権運動の展開とともに、神祇官復興、神仏分離にはじまる神道国教化政策と廃仏毀釈運動、民衆教化政策と政教分離運動について考察していきたい。

テキスト:

ガイダンスの際に指示します。

日本政治思想史 I (春学期) 教授 寺 崎 修

授業科目の内容:

日本の政治思想をその当時の時代状況のなかで理解しようとする立場から、明治維新以降の政治思想をとりあげる。

テキスト:

- ・『福澤論吉著作集』第7巻（慶應義塾大学出版会、2003年）

参考書:

講義の際に適宜紹介する

日本政治思想史 II (秋学期)

明治期の政治思想 講師 山 田 央 子

授業科目の内容:

幕末以降、日本の政治は西洋からの新しい政治思想と出会い、伝統との連続や軋轢、断絶が絡み合った複雑な経過を辿っていきます。その中で、「自由」や「権利」といった新しい価値理念が明治期の日本でどのように受け止められ、近代国家が創設される中でそれがどのように実現また制約されていったのか——本講義では、明治啓蒙以降の政治思想家の著作をとりあげ、異なる立場からの主張をもとに明治期における「政治」について考察していきます。

テキスト:

特に指定しません。毎回講義資料を配布します。

参考書:

- ・『日本政治思想』松沢弘陽、放送大学教育振興会
- ・『明治思想史—近代国家の創設から個の覚醒まで—』松本三之介、新曜社ほか、各テーマ毎に講義で紹介する。

マス・コミュニケーション発達史 I (春学期)

近代化の位相とマス・コミュニケーション

講師 大 井 眞 二

授業科目の内容:

日本の近代化を縦軸にし、マス・メディア空間を横軸にして、日本の近代史をメディア史のパースペクティブから振り返ってみたい。近代社会という固有の空間に誕生した最初のマス・メディアである新聞は、近代化の過程と密接に絡み合いながらその姿を変えてきた。本講では、幕末維新期から第一次世界大戦までを射程に置いて、日本の近代政治史に「変化のエージェントとしてのメディア」（エイゼンシュテイン）がどのように関わったか、を考察する。

テキスト:

特に指定しない。適宜資料を配付する。

参考書:

- ・大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』（近刊）、世界思想社、2004年

マス・コミュニケーション発達史Ⅱ（秋学期）
 デモクラシーとマス・メディア 講師 大井 眞 二

授業科目の内容：

日本のマス・メディアに与えた大きな影響の視点から、米国のメディア史を取り上げたい。

これには日本のメディア史を相対化する意図が込められている。米国のメディアとりわけ新聞は、建国期からデモクラシーにおける役割が重視されてきた。あるいはデモクラシーの制度的前提であったといってもいい。この考え方は、基本的に今日においても変わることがない。このことの意味を考えてみたい。

テキスト：

講義の際に指示する

参考書：

・大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』（近刊）、世界思想社

マス・コミュニケーション論Ⅰ（春学期）
 マス・コミュニケーションと政治 教授 大石 裕

授業科目の内容：

本講義は、マス・コミュニケーションと政治をめぐる諸問題について講義する。基本的な概念や理論・モデルの説明が中心となるが、具体的事例に言及しながら講義を進めることにしたい。その際、ニュースの政治的機能が中心となる。

テキスト：

・大石 裕『コミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会
 ・大石 裕ほか『現代ニュース論』有斐閣

参考書：

・マッコームズほか『ニュース・メディアと世論』関西大学出版部
 ・ニューマン『マス・オーディエンスの将来像』学文社

マス・コミュニケーション論Ⅱ（秋学期）
 政治コミュニケーションの理論と分析
 教授 大石 裕

授業科目の内容：

本講義では、政治コミュニケーションに関する理論について解説し、また、それをうけて現実の政治社会（主として戦後日本社会）について分析を行う。その際、マス・コミュニケーションに関する諸研究、世論研究、社会運動論、政治権力論などを参照する。

テキスト：

・大石 裕『政治コミュニケーション』勁草書房
 ・大石 裕ほか『現代ニュース論』有斐閣

参考書：

・大石 裕『コミュニケーション研究』
 ・ルークス『現代権力論批判』未来社

近代日本政治史特殊研究Ⅰ（春学期）
 大正期日本のアメリカ認識 教授 玉井 清

授業科目の内容：

大正期の日本人がいかなるアメリカイメージを抱いていたかを、考察した研究書を中心に、当該テーマについての議論を深めたい。

テキスト：

・長谷川雄一編著『大正期日本のアメリカ認識』（慶應義塾大学出版会）

近代日本政治史特殊研究Ⅱ（秋学期）
 満州事変の衝撃と内外の反応 教授 玉井 清

授業科目の内容：

昭和6年9月に勃発した満州事変は、その後の日中戦争、日米開戦へと向う我が国の歩みに鑑みる時、戦前の日本政治史上、書き落とすことの出来ぬ出来事である。この事変に関し、国内の各政治勢

力がさらに関係諸外国がいかなる反応を示したかは、その後の我が国の進路を検証する際の重要な視座を提示している。

下記の研究書を読み解きながら、上記の問題意識に立ち議論を深めたい。

テキスト：

中村勝範編『満州事変の衝撃』（勁草書房）

日本政治思想史特殊研究Ⅰ（秋学期）
 福沢書簡を読む 教授 寺崎 修

授業科目の内容：

当時の時代状況を説明しながら福沢諭吉の代表的書簡を輪読する。

テキスト：

・『福沢諭吉の手紙』（岩波文庫）

参考書：

適宜紹介する。

マス・コミュニケーション論特殊研究Ⅰ（秋学期）
 メディアと政治について考える 教授 大石 裕

授業科目の内容：

この授業は、メディアと政治をめぐる諸問題について考える。

授業方法は演習形式である。

テキスト：

・鶴木 眞編『コミュニケーションの政治学』慶應義塾大学出版会

参考書：

・大石 裕『コミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会

〔地域研究論〕

アフリカ社会論Ⅰ（春学期）
 アフリカ音文化の諸相——その1 講師 鈴木 裕 之

授業科目の内容：

本講義ではアフリカ社会について論じるが、その際広く浅い情報を提供するのではなく、アフリカ社会で重要な役割を任っている「音楽」に焦点を当て、アフリカ音文化の諸相を通してアフリカ社会を深く理解することを目指す。またアフリカ系黒人によるアメリカ音楽も取り上げ、アフリカ音文化の地球規模での広がりについても概観する。

テキスト：

なし。

参考書：

授業時に紹介する。

アフリカ社会論Ⅱ（秋学期）
 アフリカ音文化の諸相——その2 講師 鈴木 裕 之

授業科目の内容：

「アフリカ社会論Ⅰ」にひきつづきアフリカ音文化の諸相をとりあげ、まずはレゲエとラップについて、その成立過程を検証し、それがいかにアフリカ文化と結びついているか明らかにする。講義の後半では独立後のアフリカで形成されてきたポピュラー音楽をとりあげ、グローバリゼーションと伝統文化との関係について考察する。

テキスト：

なし。

参考書：

・鈴木裕之『ストリートの歌：現代アフリカの若者文化』（世界思想社）
 ・マビヌオリ・カヨデ・イドウ『フェラ・クティ：戦うアフロ・ビートの伝説』（晶文社）
 ・エレン・リー『ルーツ・オヴ・レゲエ：最初のラスタ、レナー

政治

ド・ハウエルの生涯』(音楽之友社)

アメリカ政治史Ⅰ(春学期)

イギリス領植民地期北アメリカ史(通史授業)

文学部 教授 大森 雄太郎

授業科目の内容:

この授業は、参加メンバーに予備知識が全くないことを前提にして、ジェームズタウン(1607年)からフィラデルフィア(1776年)に至る、イギリス領植民地期アメリカ史を概観します。授業のタイトルは「アメリカ政治史」ですが、政治史に限らず、社会史、経済史、宗教史、思想史等、多角的な観点から概観します。「アメリカ」はただか200年余の歴史しか持っていない、としばしば言われます。しかしそのような見方は間違いであって、合州国が成立する以前に、170年にわたる植民地期の歴史があります。そしてこの間に、北アメリカに特有の諸条件によって、特殊アメリカ的な特性が形成され、合州国の歴史は多分にしてこの特性の上に成り立っています。その意味で、イギリス領植民地期アメリカ史の知識は、合州国の歴史の理解にとって不可欠であると言えます。授業は後の独立時に13のステイツとなる個別植民地の成立の事情と歴史を順々に概観し、最後にニュー・イングランドをとりあげて、初期ニュー・イングランドの特殊性(例外性)を強調します。

参加希望者は第2週の授業日まで、生協購買部でこの授業の「コピー教材」を購入して、授業に持ってきてください。

成績評価は学期末に行う完全持ち込み不可のエッセイ・テストによって行います。テストを完全持ち込み不可とするのは、個別の事象にこだわるよりは、全体としての歴史の理解を重要視し、よりよく授業を理解している参加メンバーによりよい成績がつくようにしたいためです。従って、他人のノートを借用してテストに対応しようとしても無駄です。また、出席を強要するような方策はとりません。本来なすべきことの外見だけで、何らかの成績が保証されるのは合理的ではない、と考えるからです。テストは試験期間ではなく、最終授業日の1週間前に行い、成績評価と簡単なコメントをつけて最終授業日に返却します。欠席回数が3回以内であれば(自己申告)、成績に疑問のある場合は、クレームを申し出てください。クレームが正当か否かを判断せずに、成績を学事に提出することはしません。欠席が4回以上であれば、もはや授業に参加したとはみなせないの、クレーム権を認めません。

なお、この授業と文学部設置の「西洋史概説Ⅲ」との重複履修は認められていないので、注意してください。

アメリカ政治史Ⅱ(秋学期)

イギリス領植民地期北アメリカ史(トピック授業)

文学部 教授 大森 雄太郎

授業科目の内容:

この授業は、参加メンバーに枠組み的な予備知識があることを前提にして、ジェームズタウン(1607年)からフィラデルフィア(1776年)に至る、イギリス領植民地期アメリカ史を概観します。授業のタイトルは「アメリカ政治史」ですが、政治史に限らず、社会史、経済史、宗教史、思想史等、多角的な観点から概観します。「アメリカ」はただか200年余の歴史しか持っていない、としばしば言われます。しかしそのような見方は間違いであって、合州国が成立する以前に、170年にわたる植民地期の歴史があります。そしてこの間に、北アメリカに特有の諸条件によって、特殊アメリカ的な特性が形成され、合州国の歴史は多分にしてこの特性の上に成り立っています。その意味で、イギリス領植民地期アメリカ史の知識は、合州国の歴史の理解にとって不可欠であると言えます。授業は17・18世紀全植民地を通じての、いくつかのトピックスをとりあげて検討し、最後にイギリス本国からの分離・独立にいたる、アメリカ革命前半期を簡単に見てゆきます。

参加希望者は最初の授業日まで、生協購買部でこの授業の「コピー教材」を購入して、授業に持ってきてください。

成績評価は学期末に行う完全持ち込み不可のエッセイ・テストによって行います。テストを完全持ち込み不可とするのは、個別の事

象にこだわるよりは、全体としての歴史の理解を重要視し、よりよく授業を理解している参加メンバーによりよい成績がつくようにしたいためです。従って、他人のノートを借用してテストに対応しようとしても無駄です。また、出席を強要するような方策はとりません。本来なすべきことの外見だけで、何らかの成績が保証されるのは合理的ではない、と考えるからです。テストは試験期間ではなく、最終授業日の1週間前に行い、成績評価と簡単なコメントをつけて最終授業日に返却します。欠席回数が3回以内であれば(自己申告)、成績に疑問のある場合は、クレームを申し出てください。クレームが正当か否かを判断せずに、成績を学事に提出することはしません。欠席が4回以上であれば、もはや授業に参加したとはみなせないの、クレーム権を認めません。

なお、この授業と文学部設置の「西洋史概説Ⅲ」との重複履修は認められていないので、注意してください。

イスラーム社会論Ⅰ(春学期)

イラン経済概論

講師 岩崎 葉子

授業科目の内容:

イランの社会を、その「経済」の成り立ちという側面から見ると、どう見えるか。経済学は万能ではないが、異なる文化や言語、政治体制のもとで暮らす人々の暮らしを、一定程度普遍的な尺度で推し量ることができる優れた方法論である。地域研究としての経済研究の面白さを探り、それを通してイランを理解することが本講義の目的である。

ごく基本的な経済学のタームを用いながら(タームに関しては授業中に説明する)、日本を含めた諸外国との比較もまじえて現代のイランが抱える経済問題を解説する。また現地でのフィールド・ワークで得られた情報などをもとに、イラン独特のさまざまな経済制度・慣行についても紹介する。

イランを事例として取り上げるがなるべく普遍的な議論をこころがけ、本講義を通じて、他地域・他分野での研究にも応用できるような知識や考え方のヒントを学生諸氏に与えることを目指したい。

テキスト:

特に指定しない。講義用の資料を毎回配布する。

履修者へのコメント:

経済学の素養がなくとも、まったく問題なし。授業中には学生諸氏の発言を求めるので、積極的かつ集中力のある者を歓迎する。授業中の私語・携帯電話は不可。なるべく通年履修が望ましい。

成績評価方法:

- ・学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価
- ・レポートによる評価
- ・平常点(出席状況および授業態度による評価)

イスラーム社会論Ⅱ(秋学期)

イラン経済概論

講師 岩崎 葉子

授業科目の内容:

イランの社会を、その「経済」の成り立ちという側面から見ると、どう見えるか。経済学は万能ではないが、異なる文化や言語、政治体制のもとで暮らす人々の暮らしを、一定程度普遍的な尺度で推し量ることができる優れた方法論である。地域研究としての経済研究の面白さを探り、それを通してイランを理解することが本講義の目的である。

ごく基本的な経済学のタームを用いながら(タームに関しては授業中に説明する)、日本を含めた諸外国との比較もまじえて現代のイランが抱える経済問題を解説する。また現地でのフィールド・ワークで得られた情報などをもとに、イラン独特のさまざまな経済制度・慣行についても紹介する。

イランを事例として取り上げるがなるべく普遍的な議論をこころがけ、本講義を通じて、他地域・他分野での研究にも応用できるような知識や考え方のヒントを学生諸氏に与えること目指したい。

テキスト:

特に指定しない。講義用の資料を毎回配布する。

ヨーロッパ政治史 II (秋学期)

イタリア政治の発展

講師 池谷 知明

授業科目の内容:

19世紀後半からのイタリアのリソルジメントと呼ばれる国家統一運動から現代までのイタリア政治史を概観する。

イタリア政治を特徴づける3つの対立軸—聖俗の対立, 南北の対立, 左右の対立—に注目し, 議会主義, 議会主義批判とエリート論, ファシズム, 戦後の政党支配体制などのテーマに言及しながら, 全体としてイタリア政治の理解を深めることを目的とする。

テキスト:

使用しない。

参考書:

馬場康雄・岡沢憲美編『イタリアの政治』早稲田大学出版部 1999年, 森田鉄郎編『イタリア史』山川出版社, 1976年

開発援助政策論 I (春学期)

講師 後藤 一美

授業科目の内容:

(1) 概要・目的: 21世紀は、「グローバル・ガバナンス」の時代。多様な価値観が渦巻く国際社会において展開される「国際協力」の世界とは、一見綺麗事のようにみえて、その実、利害関係を有する多様なアクター間のダイナミックな緊張関係に裏打ちされた同床異夢の世界である。そこには、自らの利益を守ることと集団ないし全体の共通利益をもたらすために行動するという次元の異なる様々な要請の間で、人間社会の政治的営みがみえてとれる。また、エゴイズムとヒューマニズムという両性具有の人間性が織りなす矛盾とご都合主義と後智慧によって、折々の要請を反映しながら、さまざまな戦略が展開される。「開発」とは、参加アクターの伸びる素質に「力」を与える行為。「発展」とは、生きとし生ける人間が「自由」(人間らしさを求める自由, 欠乏と貧困からの自由, 恐怖と紛争からの自由)を求めるプロセス。本講義では、国際協力の基礎(春学期)と応用(秋学期)を学習しながら、地球規模問題群のうち、発展途上地域の「開発問題」に焦点をあて、日本を含む先進諸国・国際機関・民間企業・非政府組織(NGO)等による「援助」という行為を主たる分析対象とした「開発援助政策論」(援助行政と開発行政の相互作用に係る制度・実施・評価の実態分析に基づく問題解決アプローチ)を展開することによって、将来、国際開発協力の世界で活躍する人材の育成をめざしたい。(秋学期「開発援助政策論II」においては、実際に国際開発協力の現場で働いている方々を授業内ゲスト・スピーカーとして招待することも予定したい。)

(2) 手法: 本講義は、①ビデオ(日本語・英語)、②講義(OHP使用)、③質疑応答の3点セットを組み合わせながら、開発援助の臨場感を抱けるように工夫しているので、特段の予備知識は必要としない。また、講師による一方的講義スタイルではなく、受講者の参加型演習とプレゼンテーションを随所に設けることにより、受講者の表現能力の能力向上に力点を置いている。

テキスト:

特定のテキストは使用しない。講義資料・参考資料・参考文献リストは、授業のなかで配布。

参考書:

参考書としては、下記を勧めたい。

- ・唐木園和・後藤一美・金子芳樹・山本信人(編)『現代アジアの統治と共生』慶應義塾大学出版会, 2002年
- ・『海外経済協力基金史』国際協力銀行, 2003年3月。(下記からダウンロード可)
- 〈http://www.jbic.go.jp/japanese/base/publish/history/pdf/k01_mokuji.pdf〉
- ・後藤一美(監修)『国際協力用語集』(第3版), 国際開発ジャーナル社, 2004年
- ・青木健・馬田啓一(編)『政策提言/日本の対アジア経済政策』日

開発援助政策論 II (秋学期)

講師 後藤 一美

授業科目の内容:

- (1) 概要・目的: 21世紀は、「グローバル・ガバナンス」の時代。多様な価値観が渦巻く国際社会において展開される「国際協力」の世界とは、一見綺麗事のようにみえて、その実、利害関係を有する多様なアクター間のダイナミックな緊張関係に裏打ちされた同床異夢の世界である。そこには、自らの利益を守ることと集団ないし全体の共通利益をもたらすために行動するという次元の異なる様々な要請の間で、人間社会の政治的営みがみえてとれる。また、エゴイズムとヒューマニズムという両性具有の人間性が織りなす矛盾とご都合主義と後智慧によって、折々の要請を反映しながら、さまざまな戦略が展開される。「開発」とは、参加アクターの伸びる素質に「力」を与える行為。「発展」とは、生きとし生ける人間が「自由」(人間らしさを求める自由, 欠乏と貧困からの自由, 恐怖と紛争からの自由)を求めるプロセス。本講義では、国際協力の基礎(春学期)と応用(秋学期)を学習しながら、地球規模問題群のうち、発展途上地域の「開発問題」に焦点をあて、日本を含む先進諸国・国際機関・民間企業・非政府組織(NGO)等による「援助」という行為を主たる分析対象とした「開発援助政策論」(援助行政と開発行政の相互作用に係る制度・実施・評価の実態分析に基づく問題解決アプローチ)を展開することによって、将来、国際開発協力の世界で活躍する人材の育成をめざしたい。(秋学期においては、実際に国際開発協力の現場で働いている方々を授業内ゲスト・スピーカーとして招待することも予定したい。)
- (2) 手法: 本講義は、①ビデオ(日本語・英語)、②講義(OHP使用)、③質疑応答の3点セットを組み合わせながら、開発援助の臨場感を抱けるように工夫しているので、特段の予備知識は必要としない。また、講師による一方的講義スタイルではなく、受講者の参加型演習とプレゼンテーションを随所に設けることにより、受講者の表現能力の能力向上に力点を置いている。

テキスト:

特定のテキストは使用しない。講義資料・参考資料・参考文献リストは、授業のなかで配布。

参考書:

参考図書としては、下記を勧めたい。

- ・唐木園和・後藤一美・金子芳樹・山本信人(編)『現代アジアの統治と共生』慶應義塾大学出版会, 2002年。
- ・『海外経済協力基金史』国際協力銀行, 2003年3月。(下記からダウンロード可)
- 〈http://www.jbic.go.jp/japanese/base/publish/history/pdf/k01_mokuji.pdf〉
- ・後藤一美(監修)『国際協力用語集』(第3版), 国際開発ジャーナル社, 2004年。
- ・青木健・馬田啓一(編)『政策提言/日本の対アジア経済政策』日本評論社, 2004年。

現代アメリカ論 I (秋学期)

現代アメリカ政治の概観: 統治制度からブッシュ政権まで

客員教授 久保 文明

授業科目の内容:

アメリカの政治制度の概説を行った後、政治過程および政策決定過程の特徴に及び、いくつかの政治的争点について各論的に触れた後、政治文化ないし政治思想的側面から考察を行う。理論的な考察と地域研究的な分析、そして比較論的な視座を交えながら議論を進めていきたい。アメリカ政治の特質を探りつつ、クリントン政権からブッシュ政権に至るまでの政治動向、9/11テロの影響、2004年大統領選挙にも注意を払いたい。

テキスト:

- ・阿部齊・久保文明『国際社会研究I: 現代アメリカの政治』放送

政治

- 大学教育振興会, 2002年
・久保文明編『G. W. ブッシュ政権とアメリカの保守勢力: 共和党の分析』日本国際問題研究所, 2003年
・『国際問題』2004年1月号(現代アメリカ政治特集)

参考書:

- ・五十嵐武士他編『アメリカの社会と政治』有斐閣, 1995年
・久保文明『現代アメリカ政治と公共利益』東京大学出版会, 1997年

現代オーストラリア論 I (秋学期)

多文化社会オーストラリアの市民意識の動態—過去・現在・未来
教授 関根政美

授業科目の内容:

本授業では、現代オーストラリアの文化・社会変動について論じたい。授業担当者は、社会変動論において、グローバリゼーション時代の多文化交錯世界の市民意識の動態について、「人種・民族・エスニシティ・多文化主義の政治社会学」の観点から議論している。経済グローバリゼーションは、世界的な人口移動を引き起こし、世界各地の国民国家の多文化・多民族社会化を進めている。そうした状況に置かれた国民がどのような対応をみせるのかは、今後の世界あるいは国民国家の秩序安定に対して重要な論点となることは間違いない。社会変動論においては、その問題について、主に理論的な観点からアプローチしているが、現代オーストラリア論Iでは、より具体的な事例を扱いながら議論してゆきたい。多文化交錯世界・社会の市民意識としては多文化主義支持的な態度や意識が必要と思われるが、多文化主義導入で先駆的な事例として注目されている現代オーストラリアでも問題がないわけではない。その状況と原因について探りたい。本授業を履修するに当たり、とくにオーストラリアについて詳しい知識を前もって必要だということはないが、社会変動論Iを履修しておくことより理解しやすいであろう。

テキスト:

- ・関根政美著, 2000年『多文化主義社会の到来』朝日新聞社刊

参考書:

関根政美著, 1989年『マルチカルチュラル・オーストラリア——現代オーストラリアの社会変動』成文堂, 関根政美他著 1988年『概説オーストラリア史』有斐閣刊, 森・竹田編 1998年『オーストラリア入門』, 東京大学出版会刊

現代台湾論 (春学期)

講師 松田康博

授業科目の内容:

現代台湾を、歴史、政治、経済、軍事、国際関係など様々な側面から論じる。台湾問題の複雑さを理解し、同時に台湾を媒介として現代の国際関係を理解することを目的とする。

テキスト:

- ・若林正丈『台湾』ちくま新書, 2001年。
毎回プリントを配布する。

参考書:

随時参考文献目録を配布する。

現代中国論 I (春学期)

中華人民共和国政治史 教授 国分良成

授業科目の内容:

中華人民共和国の政治史を時代順にあとづけるが、視点は常に現在に置く。

参考書:

- ・小島朋之・国分良成『東アジア』自由国民社, 1997年
・国分良成『中華人民共和国』ちくま新書, 1999年
・国分良成編『中国政治と東アジア』慶應義塾大学出版会, 2004年

現代中国論 II (秋学期)

中国の国際関係 教授 国分良成

授業科目の内容:

中国をめぐる国際関係を様々な角度から具体的に分析する。

参考書:

- ・国分良成『アジア時代の検証 中国の視点から』朝日選書, 1996年
・国分良成『中華人民共和国』ちくま新書, 1999年
・国分良成編『中国政治と東アジア』慶應義塾大学出版会, 2004年

現代中東論 I (春学期)

中東のエスニシティと政治秩序 教授 富田広士

授業科目の内容:

次の講義項目を予定している。若干変更するかもしれない。

- (1) 一体性
 - 1 国家概念の重層性
 - 2 アラブ・アイデンティティの構成要素
- (2) 多様性
 - 1 少数宗派・宗教・民族
 - 2 地域紛争の構造
- (3) 政治文化
 - 1 アラブの社会構造
 - 2 ベドウィン(遊牧民部族)の意志決定様式
 - 3 イスラームの展開
 - 4 中東経済の歴史的背景と現状
- (4) 国際環境
 - 1 植民地支配と「国民国家」の成立
 - 2 パレスチナ問題の発生と展開
 - 3 域内国際関係
- (5) 政治体制の国別比較(政党・選挙・議会)

テキスト:

- ・立山山司他『国際情勢ベーシックシリーズ③中東』第3版, 自由国民社, 2002年

参考書:

- ・学期中, 三田図書館リザーブ・ブックとして閲覧可。

現代中東論 II (秋学期)

中東の政治経済学 教授 富田広士

授業科目の内容:

次の講義項目を予定している。若干変更するかもしれない。

1. 人口問題
2. 経済開発と国家
3. 政府主導主義
4. 工業化政策
5. 経済自由化
6. 都市化
7. 農業と食糧問題
8. 経済開発と国際関係

テキスト:

学期初めに、資料・統計・参考文献等の教材プリントを、生協で販売する。

参考書:

- ・学期中, 三田図書館リザーブ・ブックとして閲覧可。

現代朝鮮論 I (春学期)

教授 小此木政夫

授業科目の内容:

朝鮮半島の国内政治や対外関係を理解することを目標としているが、現代朝鮮論Iでは、その前提として朝鮮の開国から朝鮮戦争までの政治史を講義する。独立運動や共産主義運動の展開について説明するが、それが解放後の国内政治や国際関係をどのように規定したのか、朝鮮半島の分断体制はどのように形成され、固定されたのか

かが中心的なテーマになる。そのつど、時事的なトピックについても解説する。

テキスト：

なし

参考書：

随時紹介します。

現代朝鮮論Ⅱ（秋学期）

教授 小此木 政夫

授業科目の内容：

朝鮮戦争後の韓国と北朝鮮の国内政治や対外関係について講義する。韓国については、リーダーシップ、政治体制などの観点から、軍隊の政治介入、工業化の達成、民主化などについて、また北朝鮮については独自社会主義の形成、民族解放闘争などについて説明する。さらに、南北関係、日韓・日朝関係なども重要なテーマになる。そのつど、時事的なトピックについても解説する。

テキスト：

なし

参考書：

随時紹介します。

現代ラテン・アメリカ論Ⅱ（秋学期）

講師 飯島 みどり

授業科目の内容：

16世紀以来、欧州知識人にユートピアの可能性を提供し続けてきた土地ラテンアメリカは、国家の意味、その存立の基本要件を考察する上で興味深い例となっている。dual society と評される社会にあって知識人の果たす政治的役割、内戦や体制移行後に問われる「和解」の可能性、今日の国際関係の難題ともいえる米州関係（米国・ラテンアメリカ）の基本的構図などについて論ずる。

テキスト：

特定のテキストはなし。適宜プリント資料を配布。

参考書：

講義中に適宜指示する。さしあたり以下を参照。

・歴史的記憶の回復プロジェクト編『ゲアテマラ・虐殺の記憶』岩波書店 2000年

現代ロシア論Ⅰ（春学期）

ロシアの政治

教授 横手 慎二

授業科目の内容：

ロシアの政治史を講義する。近年の変化で、ロシア社会についての多くのデータが入手可能になった。この結果、これまで不可解とされた事柄が少しずつ明らかになっている。この講義では、こうした近年の研究成果に依拠しつつ、アメリカでもヨーロッパでもない日本との比較を考えながら、ロシア政治の変化した部分と変化しない部分がどのようなものであるか考察する。

テキスト：

特に利用しない。

参考書：

講義の中で挙げる。

西洋法制史

ローマ法とヨーロッパ法史

講師 村上 裕

授業科目の内容：

ヨーロッパ法の基礎であるローマ法の特徴と、中世から近代にかけての法発展のアウトラインを捉えることを目的にして、内容は以下のような2部構成とします。

第1部は、共和政からユスティニアヌス法典の成立に至るまでのローマ法史を概観し、ローマ人の現実主義的な特質が法思考・法制度にどのように現れているかを、民事訴訟制度の展開などを採り上げて示していきます。

第2部は、ドイツを中心に中世から近代までの法の流れを辿っていきます。中世における非学問的な法からローマ法の継受をへて近

代の体系的・論理的構築物としての法へと進んでいく際の現実的契機と、ヨーロッパに普遍的な要素と特殊ドイツ的な面の対比を軸として、ヨーロッパ法史における諸々の時代的局をクローズアップしていきたいと思っています。

テキスト：

特に指定しません。講義資料は私のホームページからダウンロードできるようにします。URLやパスワードについては授業時に指示します。

参考書：

授業の進行に合わせて指示します。

中国政治史Ⅱ（春学期）

20世紀前半の中国革命史

助教授 高橋 伸夫

授業科目の内容：

20世紀初頭から中華人民共和国成立にいたる時期の中国政治史を、中国共産党の思想、組織、運動を中心に講義する。研究者たちはこれまでも「中央委員たちの事跡」しか語ってこなかった。党組織の頂点部分におけるコミンテルンの政策の受容、それに伴う党内の権力闘争、そしてその結果としての指導者の交替と革命戦略の変化——これらが従来の研究の主題であった。以上に加えて、この講義では「下から」の視点を導入したい。つまり、一般党員および革命運動に支持を与えた労働者、農民の視点から革命を再構成してみたいのである。

テキスト：

特に指定しない。

中国法制史

法文化の歩み

講師 堀

毅

授業科目の内容：

21世紀は国際化の時代といわれている。欧州では経済的な統合が進められ、日米に対抗する第三極を構成している。

一方、アジア地域では、多様な言語・異質な文化などの他、経済的な格差が大きく、経済的な統合や自由化は遠い将来の事である、といわれている。

アジアを概観すると、東アジア・東南アジア・南アジア・西アジアに大別されるが、講義は中国を主軸とする東アジアの法を中心に進める。

また、近年、イスラム圏に対しても大きな関心が寄せられているので、メソポタミアにおける法文化についても言及したい。

参考書：

授業時に提示

東洋政治思想史Ⅰ（春学期）

近代前期における中国政治思想の諸相

講師 高柳 信夫

授業科目の内容：

本講義では、アヘン戦争を発端とした西洋列強の侵入に直面した中国知識人が、いかにして王朝体制の再編をめざしていったかを、主に思想面において検討します。

対象として扱う時期は、主としてアヘン戦争前後から戊戌変法期までとし、特に、西洋という新たな「文明」と対峙しつつ、中国知識人が「中国」をどのようなものとして位置づけていったかという点に注目して論述を進めてゆきます。

テキスト：

テキストは特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

東洋政治思想史Ⅱ（秋学期）

梁啓超（1873～1929）と近代中国の思想世界

講師 高柳 信夫

授業科目の内容：

梁啓超は、清末民国初の中国において圧倒的な影響力を持った思

政治

思想家・ジャーナリスト・政治家・学者であり、その主張に賛成するにせよ反対するにせよ、当時において彼の影響を受けなかった知識人は、殆ど存在しないといってもよい程の人物です。

本講義では、彼の思想的な歩みを跡づけつつ、同時に、彼と対立した様々な思想潮流にも言及し、19世紀末から20世紀初頭の中国の思想状況について概観することをめざします。

テキスト：

テキストは特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

比較地域研究論Ⅰ（春学期）

アジア地域研究における問題領域 講師 佐藤 宏

授業科目の内容：

地域研究は様々な専門的学問的領域（いわゆるディシプリン）と地域との接点に立って、地域理解の深化と学問的認識の革新という双方向にむけて知識の地平を拡大するという、たいへん挑戦しがいのある学問分野だと思います。この講義では、ディシプリンと地域との接点から生み出されたいくつかの問題領域をとりあげて、地域研究の方法的な有効性を考えてみます。

テキスト：

特に用いるテキストはありません。

参考書：

毎回の講義のつど、参考文献を紹介します。

比較地域研究論Ⅱ（秋学期）

南アジアにおける宗教と政治 講師 佐藤 宏

授業科目の内容：

いわゆる「原理主義運動」などと称せられる運動は、イスラムあるいはヒンドゥー教といった個々の信仰（それぞれの「原理」）との関連から、その理念や運動が検討されることが多い。しかし、「宗教と政治」という観点からは、むしろ、こうした運動が例外なく、各国、各地域における「セキュラリズム（政教分離主義）」を攻撃の標的としている点で同一の地平に立っていることが重要である。本講義では、南アジアを例に、宗教運動と「セキュラリズム」理念との相克を、いくつかの具体的な局面に沿って描き出してみる。

テキスト：

特に用いるテキストはありません。

参考書：

毎回の講義のつど、参考文献を紹介します。

比較地域研究論Ⅲ（春学期）

「比較」重視の地域研究 専任講師（有期）粕谷 祐子

授業科目の内容：

すでに、ある地域の政治に関心をもっている学生に対し、その地域を「比較」の視点から分析・理解するための道具だてを提供する講義。ここでいう「比較」とは、二国間や多国間の比較だけではなく、同一国内の時間的、空間的な差異を比べることも含まれている。

地域研究には、2つの異なる立場が存在するといえるだろう。一方の極には、ある地域の政治はその地域固有の要因に規定されており、他国との比較や、一般化・理論化は意味がない、という立場である。その対極には、地域の独自性などは捨ておいて、比較分析をおこない、なるべく多くの地域・時代に共通する一般理論をみつけだそうとする地域研究（比較政治学）がある。本講義は、そのほぼ中間の立場をとる。サブタイトルを「『比較』重視の」としたが、ここでの比較分析の目的は、あくまで「地域」の理解であり、一般理論の形成ではない。しかし、比較なしには「地域」の理解もすまない。例えば、地域固有のものと考えられている要因が実際にそうであるかどうかは、他と比較しなければ判断できない。また、仮にそれが固有のものであっても、他の事例と比較対照したり、一般理論のロジックを借りて分析したほうが、その地域の「土地勘」がない人にとっても理解しやすい形で説明することができる。要するに、地域そのものを理解するにあたって「比較」のメリットは大きい、というのが本講義の基本的立場である。

各回の講義では、主に、最近の比較政治学における代表的な理論体系を紹介する。また、理論紹介と同時に、先進国・途上国の両方を含む実際の事例を用いて、理論を実際の政治に応用する方法についても適宜解説する。学期の最後のほうの講義では、フィールド・リサーチを含めた様々な研究方法についてもとりあげる。受講者に比較の「センス」を身につけてもらうのが本講義のねらいである。

テキスト：

特になし。講義資料は粕谷祐子のホームページよりダウンロードできるようにする。

参考書：

随時紹介する。

現代中国論特殊研究Ⅰ（秋学期）

現代中国・外交研究 教授 国分良成

授業科目の内容：

政治・外交・経済・社会・文化など中国全般に関する文献研究と個人の研究報告。

テキスト：

順次指示する

現代朝鮮論特殊研究Ⅰ（秋学期） 教授 小此木 政夫

授業科目の内容：

南北朝鮮の国内政治と対外関係についての理解を深めることを目的とします。

テキスト：

・オーバードファー『二つのコリア』、共同通信社

現代東南アジア論特殊研究Ⅰ（春学期）

ベネディクト・アンダーソンを読む

教授 山本 信人

授業科目の内容：

本セミナーでは、東南アジア研究のみならずナショナリズム研究の代表的研究者であるベネディクト・アンダーソンの作品を読み込んでいく。『想像の共同体』を読むだけでなく、アンダーソン論である *Grounds of Comparison* から数点の論文を読み進めて、アンダーソン理解の幅を広げる試みをおこないたい。

テキスト：

・ *Imagined Communities, Spectre of Comparisons, Grounds of Comparison*

地域研究論特殊研究Ⅰ（秋学期）

発展途上国の政治と開発 教授 井上 一明

授業科目の内容：

発展途上国（第三世界）における政治体制と開発の問題を分析する際に有効なさまざまな理論・分析枠組みに関する基礎的な文献を輪読する。前半は政治体制論、そして後半は開発関係である。

テキスト：

なし

参考書：

なし

比較地域研究論特殊研究Ⅰ（春学期）

現代世界の民主主義 専任講師（有期）粕谷 祐子

授業科目の内容：

比較政治学の名著である、アレンド・レイブハルトの *Patterns of Democracies* を原書（英語）で読む。20世紀後半において世界各国がとる現実の民主主義体制は、多数決型民主主義とコンセンサス型民主主義の二つを原型とし、その中間種・混合種として捉えることができる、というのが本書の基本的主張のひとつである。レイブハルトのこの議論は、彼が1970年に著したオランダ政治の研究に端を

発しており、その後の一連の著作とともに、現在に至るまで民主主義研究に多大な影響を与えている。その著者の最新作が本書である。ここでは、これまでの議論をさらに精緻化し、途上国、先進国の両方を含む36カ国を実証的に比較分析した上で、上記のような結論に達している。

本書を掘り下げて読むことにより、以下のような目的を達成するのが本セミナーのねらいである。(1)「理想型」ではなく「現実」の民主主義体制の多様性について考える、(2)アカデミックな英語の読解力を身につける、(3)実証政治学における「測定」の諸問題について学ぶ、(4)様々な政治制度の働きについて理解する、(5)分析対象となっている36カ国の政治について知る、(6)アカデミックな議論のしかたを身につける。授業では、毎回、担当者が1章分の要約・コメントをおこない、その後クラス全体でディスカッションをする。参加者すべてが授業前に指定章を毎回読んでくるのが履修の最低条件であるが、これを確認するため、何回か授業内小テストをおこなう。

テキスト：

・Arend Lijphart, *Patterns of Democracies: Government Forms and Performances of 36 Countries*, Yale University Press, 1999. (日本での販売価格は2300円前後、各自購入してください)

参考書：

猪口孝他編『政治学辞典』弘文堂、2000年。その他、随時紹介する。

(国際政治論)

安全保障論 (秋学期)

20世紀を中心とする戦争と平和ならびに戦略をめぐる歴史と理論
教授 赤木 完爾

授業科目の内容：

安全保障研究の取り扱う範囲を検討した後、国家安全保障を中心に様々な論点を検討する。テーマは理論と歴史にまたがる。理論をめぐるのはリアリズムの立場が中心となる。歴史は20世紀の戦争と平和ならびに戦略にかかわる。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

- ・赤木完爾『第二次世界大戦の政治と戦略』（慶應義塾大学出版会、1997年）
- ・赤木完爾編『朝鮮戦争』（慶應義塾大学出版会、2003年）
- ・赤木完爾『ヴェトナム戦争の起源』（慶應義塾大学出版会、1991年）
- ・G・A・クレイグ、A・L・ジョージ『軍事力と現代外交』（有斐閣、1997年）
- ・ジョセフ・ナイ『国際紛争』原書第4版（有斐閣、2003年）
- ・ピーター・バレット編『現代戦略思想の系譜』（ダイヤモンド社、1989年）
- ・クラウゼヴィッツ『戦争論』（芙蓉書房出版、2001年）
- ・ジェームズ・ジョル『第一次世界大戦の起源』（みすず書房、1997年）
- ・W・ストゥーク『朝鮮戦争』（明石書店、1999年）
- ・松岡完『ベトナム戦争』（中公新書、2001年）
- ・ハーバード核研究グループ『核兵器との共存』（TBSブリタニカ、1984年）
- ・ジョン・キーガン『戦争と人間の歴史』（刀水書房、2000年）
- ・マイケル・イグナティエフ『仁義なき戦場—民族紛争と現代人の倫理』（毎日新聞社、1999年）
- ・ウォルター・ラカー『大量殺戮兵器を持った狂信者たち』（朝日新聞社、2002年）

開発援助政策論 I (春学期) 講師 後藤 一美

授業科目の内容：

(1) 概要・目的：21世紀は、「グローバル・ガバナンス」の時代。

多様な価値観が渦巻く国際社会において展開される「国際協力」の世界とは、一見綺麗事のようにみえて、その実、利害関係を有する多様なアクター間のダイナミックな緊張関係に裏打ちされた同床異夢の世界である。そこには、自らの利益を守ることと集団ないし全体の共通利益をもたらすために行動するという次元の異なる様々な要請の間で、人間社会の政治的営みがみとれる。また、エゴイズムとヒューマニズムという両性具有の人間性が織りなす矛盾とご都合主義と後智慧によって、折々の要請を反映しながら、さまざまな戦略が展開される。「開発」とは、参加アクターの伸びる素質に「力」を与える行為。「発展」とは、生きとし生ける人間が「自由」（人間らしさを求める自由、欠乏と貧困からの自由、恐怖と紛争からの自由）を求めるプロセス。本講義では、国際協力の基礎（春学期）と応用（秋学期）を学習しながら、地球規模問題群のうち、発展途上地域の「開発問題」に焦点をあて、日本を含む先進諸国・国際機関・民間企業・非政府組織（NGO）等による「援助」という行為を主たる分析対象とした「開発援助政策論」（援助行政と開発行政の相互作用に係る制度・実施・評価の実態分析に基づく問題解決アプローチ）を展開することによって、将来、国際開発協力の世界で活躍する人材の育成をめざしたい。（秋学期「開発援助政策論II」においては、実際に国際開発協力の現場で働いている方々を授業内ゲスト・スピーカーとして招待することも予定したい。）

(2) 手法：本講義は、①ビデオ（日本語・英語）、②講義（OHP使用）、③質疑応答の3点セットを組み合わせながら、開発援助の臨場感を抱けるように工夫しているので、特段の予備知識は必要としない。また、講師による一方的講義スタイルではなく、受講者の参加型演習とプレゼンテーションを随所に設けることにより、受講者の表現能力の能力向上に力点を置いている。

テキスト：

特定のテキストは使用しない。講義資料・参考資料・参考文献リストは、授業のなかで配布。

参考書：

- 参考図書としては、下記を勧めたい。
- ・唐木固和・後藤一美・金子芳樹・山本信人（編）『現代アジアの統治と共生』慶應義塾大学出版会、2002年
- ・『海外経済協力基金史』国際協力銀行、2003年3月（下記からダウンロード可）
<http://www.jbic.go.jp/japanese/base/publish/history/pdf/k01_mokuji.pdf>
- ・後藤一美（監修）『国際協力用語集』（第3版）、国際開発ジャーナル社、2004年
- ・青木健・馬田啓一（編）『政策提言／日本の対アジア経済政策』日本評論社、2004年
<k-goto@i.hosei.ac.jp>

開発援助政策論 II (秋学期) 講師 後藤 一美

授業科目の内容：

(1) 概要・目的：21世紀は、「グローバル・ガバナンス」の時代。多様な価値観が渦巻く国際社会において展開される「国際協力」の世界とは、一見綺麗事のようにみえて、その実、利害関係を有する多様なアクター間のダイナミックな緊張関係に裏打ちされた同床異夢の世界である。そこには、自らの利益を守ることと集団ないし全体の共通利益をもたらすために行動するという次元の異なる様々な要請の間で、人間社会の政治的営みがみとれる。また、エゴイズムとヒューマニズムという両性具有の人間性が織りなす矛盾とご都合主義と後智慧によって、折々の要請を反映しながら、さまざまな戦略が展開される。「開発」とは、参加アクターの伸びる素質に「力」を与える行為。「発展」とは、生きとし生ける人間が「自由」（人間らしさを求める自由、欠乏と貧困からの自由、恐怖と紛争からの自由）を求めるプロセス。本講義では、国際協力の基礎（春学期）と応用（秋学期）を学習しながら、地球規模問題群のうち、発展途上地域の「開発問題」に焦点をあて、日本を含む先進諸国・国際

政治

機関・民間企業・非政府組織（NGO）等による「援助」という行為を主たる分析対象とした「開発援助政策論」（援助行政と開発行政の相互作用に係る制度・実施・評価の実態分析に基づく問題解決アプローチ）を展開することによって、将来、国際開発協力の世界で活躍する人材の育成をめざしたい。（秋学期においては、実際に国際開発協力の現場で働いている方を授業内ゲスト・スピーカーとして招待することも予定したい。）

- (2) 手法：本講義は、① ビデオ（日本語・英語）、② 講義（OHP使用）、③ 質疑応答の3点セットを組み合わせたうえで、開発援助の臨場感を抱けるように工夫しているので、特段の予備知識は必要としない。また、講師による一方的講義スタイルではなく、受講者の参加型演習とプレゼンテーションを随所に設けることにより、受講者の表現能力の能力向上に力点を置いている。

テキスト：

特定のテキストは使用しない。講義資料・参考資料・参考文献リストは、授業のなかで配布。

参考書：

- 参考書としては、下記を勧めたい。
- ・唐木園和・後藤一美・金子芳樹・山本信人（編）『現代アジアの統治と共生』慶應義塾大学出版会、2002年
 - ・『海外経済協力基金史』国際協力銀行、2003年3月（下記からダウンロード可）
<http://www.jbic.go.jp/japanese/base/publish/history/pdf/k01_mokuji.pdf>
 - ・後藤一美（監修）『国際協力用語集』（第3版）、国際開発ジャーナル社、2004年
 - ・青木健・馬田啓一（編）『政策提言／日本の対アジア経済政策』日本評論社、2004年

現代国際政治Ⅱ（春学期）

朝鮮戦争とヴェトナム戦争 教授 赤木 完 爾

授業科目の内容：

朝鮮戦争とヴェトナム戦争を、アジア冷戦の展開の中に位置づけ、その国際政治における意義を考える。このコースでは、1950年代および1960年代におけるアジアの動乱を、映像資料を利用して追体験することも試みつつ、歴史的な認識を深めたい。

テキスト：

4月開講時点で、入手可能な文献をテキストとして指定する予定である。

参考書：

- ・赤木完爾『第二次世界大戦の政治と戦略』（慶應義塾大学出版会、1997年）
- ・W・ストウーク『朝鮮戦争』（明石書店、1999年）
- ・赤木完爾編『朝鮮戦争』（慶應義塾大学出版会、2003年）
- ・赤木完爾『ヴェトナム戦争の起源』（慶應義塾大学出版会、1991年）
- ・松岡完『ベトナム戦争』（中公新書、2001年）
- ・ジョージ・C・ヘリング『アメリカの最も長い戦争』全2冊（講談社、1985年）

現代朝鮮論Ⅰ（春学期）

教授 小此木 政 夫

授業科目の内容：

朝鮮半島の国内政治や対外関係を理解することを目標としているが、現代朝鮮論Ⅰでは、その前提として朝鮮の開国から朝鮮戦争までの政治史を講義する。独立運動や共産主義運動の展開について説明するが、それが解放後の国内政治や国際関係をどのように規定したのか、朝鮮半島の分断体制はどのように形成され、固定されたのか为中心的なテーマになる。そのつど、時事的なトピックについても解説する。

テキスト：

なし

参考書：

随時紹介します。

現代朝鮮論Ⅱ（秋学期）

教授 小此木 政 夫

授業科目の内容：

朝鮮戦争後の韓国と北朝鮮の国内政治や対外関係について講義する。韓国については、リーダーシップ、政治体制などの観点から、軍隊の政治介入、工業化の達成、民主化などについて、また北朝鮮については独自社会主義の形成、民族解放闘争などについて説明する。さらに、南北関係、日韓・日朝関係なども重要なテーマになる。そのつど、時事的なトピックについても解説する。

テキスト：

なし

参考書：

随時紹介します。

現代ヨーロッパの国際関係Ⅰ（春学期）

欧州統合史概観 講師 小林 正 英

授業科目の内容：

2004年、EU、NATOはそれぞれ新加盟国10カ国、7カ国を迎え、ヨーロッパは大きく拡大する。また、冷戦後の両機構に代表される欧州の枠組みの質的変容も目を見張るものがある。欧州統合はEU（欧州連合）として政治外交分野などにその存在感を高め、NATOは地域的安全保障機構として新たな姿を見せつつある。本講義では戦後欧州の統合の過程を理解することを目的とする。戦後、“An ever closer union”と統合の旗を掲げた欧州統合プロジェクトは、現在、いわゆる憲法条約の策定を視野に入れ、“United in Diversity”との理念を奉じる。“Keep Germans down, Soviets out, Americans in”と言われたNATOは“Out of out-of-Area”との認識であったアフガニスタンに展開し、イラクへの派遣も議論されている。このような、そしてここに至るまでの欧州のダイナミズムについて考えてみましょう。

参考書：

- ・田中俊郎『EUの政治』岩波書店
- ・小久保康之「欧州統合」（長谷川・高杉編『新版 現代の国際政治』ミネルヴァ書房）
- ・ベルトラン他『ヨーロッパ2010』ミネルヴァ書房
- ・佐瀬昌盛『NATO』文春文庫

現代ヨーロッパの国際関係Ⅳ（春学期）

北欧諸国の外交政策 講師 吉 武 信 彦

授業科目の内容：

本講義は、ヨーロッパの中でも特に北欧諸国（デンマーク、フィンランド、アイスランド、ノルウェー、スウェーデン）に注目し、その第二次世界大戦後の外交政策を国内環境と国際環境の両面から検討する。

第二次世界大戦後、北欧諸国は地域協力を発展させ、冷戦といわれる厳しい国際環境にもかかわらず地域の安定を確保すると同時に、国際社会においても活発な外交を展開してきた。人口の点では、北欧5カ国は合計してもわずか2400万人にしかならない小規模な国々であるが、国際関係においてなぜ大きな発言力、影響力を行使できるのであろうか。また、冷戦が終焉し、21世紀を迎えた現在、北欧諸国は外交上いかなる問題に直面しているのであろうか。

テキスト：

- ・拙著『日本人は北欧から何を学んだか——日本・北欧政治関係史入門——』（新評論、2003年）

参考書：

第2回目の講義で、詳細な参考文献リストを配布します。

国際コミュニケーション論Ⅰ（春学期）

国際報道の現状とニュースの流れの構造

講師 内 藤 耕

授業科目の内容：

本講義では国際コミュニケーションを諸国家間のコミュニケーションおよび国境を相対化するグローバル・コミュニケーションを扱

ぐる問題構成としてとらえていきます。とくにIでは、イラク戦争でクローズアップされた、戦争報道を中心とした国際報道の現状と問題点を考えていきます。戦争報道の歴史の変遷から始めて、報道を支えるシステムのはらむ問題やニュースの国際的な流れの構造にいたるまで概観していきます。事例研究と理論的議論をセットにして紹介します。あまり明るい話はできませんが、「世界」に対する批判的精神を養うと同時に、むしろ受講生自身の力でオルタナティブな道を見つけていただけるような問題提起ができればと思っています。

テキスト：

学期中に案内します。

参考書：

・鶴木真『情報政治学』三嶺書房、2002年

国際コミュニケーション論Ⅱ（秋学期）

メディアのグローバリゼーションと文化摩擦

講師 内藤 耕

授業科目の内容：

グローバル化しつつあるメディアの現状とそれをめぐる問題について多面的に解説を試みます。講義は大きく二つに分かれ、前半が資本、コンテンツの流通等の側面からの分析となります。メディア資本の世界戦略、アジアにおける日本製アニメやテレビ番組の流通と受容などの事例を取り上げます。後半は、政策論として、文化交流政策と開発コミュニケーションについて概観していきます。受容する側の「したたかさ」についても理解できればと思います。全体的に、日本との関係、それから授業担当者の専攻領域の都合により、アジアの事例を多く取り上げることになるでしょう。対象の性格上、春学期の内容と一部重複する部分があるかもしれませんが、Iを受講している必要はありません。

テキスト：

学期中に案内します。

参考書：

適宜、授業中に紹介します。

国際政治経済論Ⅰ（春学期）

国際政治経済論概論

教授 田所昌幸

授業科目の内容：

国際政治学の立場から、経済問題について検討するのが、ここで言う国際政治経済学である。その意味で経済学の成果を利用しつつも、ここでの議論は基本的に政治学的なアプローチをとる。この授業では、国際政治経済学の基本的な知見と全体像を、学生に提供することをねらいとしている。

テキスト：

教科書は指定しない。

参考書：

・ロバート・ギルピン『グローバル資本主義』（東洋経済新報社）
・田所昌幸『アメリカを超えたドル』（中央公論新社）

国際政治経済論Ⅱ（秋学期）

国際政治経済論各論

教授 田所昌幸

授業科目の内容：

国際政治経済論Ⅰ（春学期）を受けて、いくつかのより個別的な問題領域について論考を進めたい。今年度は国際政治経済学上の現代的な課題をいくつか検討したい。

テキスト：

教科書は指定しない。

参考書：

授業の際に随時指定する。

国際政治理論Ⅰ（春学期）

講師 土屋大洋

授業科目の内容：

マクロ国際政治理論を扱う。マクロ国際政治理論とは、国単位の国際関係を理解する場合のレンズに相当し、勢力均衡論、相互依存論、世界システム論の三つの大きなパラダイム理論の相互関係を明らかにするものである。その他にも、ネットワーク理論や新帝国主義論など、新しい理論の展開を踏まえながら、国際政治を分析する視点を養う。秋学期の国際政治理論Ⅱとともに受講することが望ましい。全体として、政策科学を含めた「第三の国際政治学」のアプローチを紹介する。

参考書：

・薬師寺泰蔵『公共政策』東京大学出版会、1989年
・石井貫太郎『現代国際政治理論』ミネルヴァ書房、2002年
・土屋大洋『情報とグローバル・ガバナンス』慶應義塾大学出版会、2001年

国際政治理論Ⅱ（秋学期）

講師 土屋大洋

授業科目の内容：

ミクロ国際政治理論を扱う。ミクロ国際政治理論は、政策決定過程論とも政治経済学ともいわれるが、本講義ではもっと広くサブナショナルな単位が国際関係にどのように影響するかについて考える。前半では国際関係のアクターを分析する視点について検討し、後半ではさまざまなイシュー領域における構造的なパワーについて検討する。春学期の国際政治理論Ⅰとともに受講することが望ましい。全体として、政策科学を含めた「第三の国際政治学」のアプローチを紹介する。

参考書：

・スーザン・ストレンジ（西川潤・佐藤元彦訳）『国際政治経済学入門』東洋経済新報社、1994年
・Lawrence Lessig, *Code and Other Laws of Cyberspace*, Basic Books, 2000
・土屋大洋『ネット・ポリティクス ― 9.11 以後の世界の情報戦略 ―』岩波書店、2003年

政治経済システム論（春学期）

名誉教授 田中 宏

授業科目の内容：

個人の自由、繁栄、そして国家間の平和を確保する上で、政府の役割はどうあるべきか。この問題を吟味することが本講義の目的である。これは古く、かつ、新しい問題であるが、政治学、国際政治学の基本概念（たとえば権力概念とそのメカニズム）を明確にすることに力を置きながら講義を進めたい。

参考書：

・根岸・萩原・田中『国家の解剖学』日本評論社

西洋外交史Ⅱ（秋学期）

現代ヨーロッパ外交史

専任講師 細谷 雄一

授業科目の内容：

本講義では、第二次世界大戦から冷戦後の現在に至るまでの、現代ヨーロッパ外交史を検討する。第二次世界大戦と冷戦は、我々の生きる時代の土台を形成することになった。世界では米ソ二つの超大国が登場し、ヨーロッパ諸国は二度の世界大戦で国力を大きく失い、植民地独立問題に直面した。かつての威光を失う中で、西欧諸国は統合によって自立と復興を模索し、大西洋同盟によって安全保障を確立することを目指した。複雑化する世界を理解するためにも、戦後外交史を学び、現代国際政治の基礎を十分に認識することを目指したい。

テキスト：

・渡邊啓貴編『ヨーロッパ国際関係史』（有斐閣）

参考書：

・キッシンジャー『外交（下）』岡崎久彦監訳（日本経済新聞社）

政治

- ・クレイグ＝ジョージ『軍勢力と現代外交』木村修三他訳（有斐閣）
- ・ジョセフ・S・ナイ『国際紛争 理論と歴史』田中明彦・村田晃嗣訳（有斐閣）
- ・石井修『国際政治史としての二〇世紀』（有信堂）

日本外交史Ⅱ（春学期）

教授 添谷 芳 秀

授業科目の内容：

戦後日本外交の変遷を講義する。重要事項を外交史の事例として理解することとあわせて、戦後日本外交の全体像を理解するための視角や枠組みを重視して講義する。とりわけ、選択の自由が根本的に締約されていた占領下での吉田茂の選択が、その後不完全なまま定着したことの意味を考えてみたい。それは、きわめて今日的問題でもあり、そのことを深くみつめ直さなければ、今後の日本外交の指針もみえてこないだろう。

参考書：

- 参考文献を適宜講義のなかで紹介する。とりあえずは、以下を参照のこと。
- ・添谷芳秀『日本外交と中国 1945-1972』（慶應義塾大学出版会、1995年）
- ・五百旗頭真『戦後日本外交史』（有斐閣、1999年）
- ・添谷芳秀・田所昌幸編著『日本の東アジア構想』（慶應義塾大学出版会、2004年）

現代国際政治特殊研究Ⅱ（秋学期）

冷戦史研究

教授 赤木 完 爾

授業科目の内容：

冷戦史に関する論文・書籍を輪読する。また履修者に個別テーマによる研究発表を行ってもらうこともある。初回の授業で打ち合わせをするので、その時点で出席しない学生の受講は原則として認められない。教材については、一部英語の論文を考えている。セミナー形式であるので、受講者が多数の場合には、何らかの方法で人数を絞り込むこともある。

テキスト：

初回に指定する。

参考書：

参考文献リストを初回に配付する。

現代朝鮮論特殊研究Ⅰ（秋学期）

教授 小此木 政 夫

授業科目の内容：

南北朝鮮の国内政治と対外関係についての理解を深めることを目的とします。

テキスト：

- ・オーバードファー『二つのコリア』、共同通信社

現代東南アジア論特殊研究Ⅰ（春学期）

ベネディクト・アンダーソンを読む

教授 山 本 信 人

授業科目の内容：

本セミナーでは、東南アジア研究のみならずナショナリズム研究の代表的研究者であるベネディクト・アンダーソンの作品を読み込んでいく。『想像の共同体』を読むだけでなく、アンダーソン論である *Grounds of Comparison* から数点の論文を読み進めて、アンダーソン理解の幅を広げる試みをおこないたい。

テキスト：

- ・ *Imagined Communities, Spectre of Comparisons, Grounds of Comparison*

国際政治経済論特殊研究Ⅰ（春学期）

アジアの地域主義の政治経済学 教授 田 所 昌 幸

授業科目の内容：

アジアにおける地域経済の発展に関係する文献を輪読する形で、

授業を進めたい。授業内容の詳細は、受講生の人数を見て決定したいが、原則としてセミナー形式の授業にしたいと考えている。

テキスト：

- ・添谷芳秀、田所昌幸共編『日本の東アジア構想』（慶應義塾大学出版会、2004年2月出版予定）

西洋外交史特殊研究Ⅰ（春学期）

キッシンジャー『外交』を読む 専任講師 細 谷 雄 一

授業科目の内容：

近現代の外交史を学ぶことを目的にして、ヘンリー・キッシンジャー『外交（上・下）』を読み、討議することになる。キッシンジャーは、元ハーバード大学教授であり、後に米国务長官も務めて、外交の学問と実務の双方に造詣が深い。決して一般的とはいえない個人的な彼の名著『外交』を題材に、外交史の諸問題について学生諸君と意見を交えることを楽しみにしている。

テキスト：

- ・ヘンリー・A・キッシンジャー『外交（上・下）』（日本経済新聞社）

参考書：

- ・渡邊啓貴編『ヨーロッパ国際関係史』（有斐閣）
- ・ジョセフ・ナイ『国際紛争』（有斐閣）
- ・クレイグ＝ジョージ『軍勢力と現代外交』（有斐閣）

西洋外交史特殊研究Ⅱ（秋学期）

ブロック『ヒトラーとスターリン』を読む

専任講師 細 谷 雄 一

授業科目の内容：

この特殊研究ではアラン・ブロック『ヒトラーとスターリン（上・中・下）』を読み、討議することになる。ブロックは、オクスフォード大学歴史学教授で、現代イギリスの最高の歴史家の一人ともいわれている。20世紀はこの二人の独裁者の思想と行動により大きく動かされてきた。歴史を学ぶ楽しさを味わうとともに、現代世界の諸問題を思索する一つの手がかりをつかんで頂きたい。

テキスト：

- ・アラン・ブロック『ヒトラーとスターリン』（草思社）

参考書：

- ・セバスチャン・ハフナー『ドイツ帝国の興亡』（平凡社）
- ・木村靖二／柴宣弘／長沼秀世『世界大戦と現代文化の開幕』（中央公論社、1997年）
- ・E. H. カール『両大戦間における国際関係史』（清水弘文堂、1968年）

〔研究会（3年）〕

研 究 会（3年）（春学期）（秋学期）

教授 薩 山 宏

授業科目の内容：

社会科学の古典的書物を精読する。詳しくはゼミナリストと相談して決めたい。

研 究 会（3年）（春学期）（秋学期）

政治哲学、(現代)政治思想、政治学、平和学の研究

教授 萩 原 能 久 (春学期)

代講 助教授 田 上 雅 徳 (秋学期)

授業科目の内容：

4月に決定した研究会会員の希望にそって、中心的にテーマを設定し、そのテーマを扱った広範囲の重要文献を選定して輪読をすすめていきます。乱読はこうした分野に不可欠ですので、かなりの量の文献を読むことになります。

上記の、いわゆる本ゼミと平行してサブゼミも行います。サブゼミでは1)本ゼミの理解の助けとなるような二次的研究文献の輪読、

2) ディベート, 3) 研究会ホームページの作成, 4) 三田祭時に毎年刊行している論文集のための研究中間報告を行うこととなります。

テキスト:

開講時に履修者と相談して決めます。

参考書:

ゼミのなかで随時紹介していきます。

研究会 (3年) (春学期) (秋学期)

助教授 田上 雅 徳

授業科目の内容:

ヨーロッパの政治思想史を、とくに「政治と宗教」という観点から把握すべく、基礎的な文献を輪読し、討論を行います。同時に、政治思想の理解を深めるために古典を幅広く読み、レポートを作成してもらいます。

研究会 (3年) (春学期) (秋学期)

日本国憲法とアメリカ憲法 教授 大沢 秀 介

授業科目の内容:

日本国憲法の基本理念を知る上で重要なアメリカ憲法について、日本国憲法の現況を踏まえた上で、研究を行う。

テキスト:

・芦部信喜 (高橋和之補訂) 『憲法 (第三版)』 (岩波書店) および英書

参考書:

・大沢秀介 『憲法入門 (第3版)』 (成文堂)

研究会 (3年) (春学期) (秋学期)

教授 小林 良 彰

授業科目の内容:

あるべき政治の姿を念頭に置きながら、現代の政治過程の実態を調べ、自分が何に関心を持っているのかを、次第に自分自身で掘り込んで行くことを目的とする。その上で、現代の政治過程の中から、各自の問題意識にしたがって研究を進め、研究成果は三田祭で発表する。

テキスト:

・ジョン・ロールズ 『正義論』

参考書:

各自の問題意識にしたがって、随時、使用します。

研究会 (3年) (春学期) (秋学期)

独立自尊の行政学と現代日本行政システムの分析

教授 大山 耕 輔

授業科目の内容:

伝統的な「国家中心の行政学」を批判的に検討するとともに、グローバル化のなかの「国から地方へ民間へ」という時代における「独立自尊の行政学」の可能性と限界について考察します。またそのような視点から、現代日本行政システムを分析します。各自の卒業研究について、問題発見と洗練化、仮説設定、データ収集、批判的考察、結論という一連のプロセスの導入部分を指導します。

テキスト:

現時点では、村松岐夫・稲継裕昭『包括的地方自治ガバナンス改革』 (東洋経済新報社, 2003), Tony Bovaird and Elke Loeffler eds., *Public Management and Government* (Routledge, 2003) 等が候補ですが、詳しくは最初のゼミの時間に指示します。

参考書:

担当者の考えを知るには、『エネルギー・ガバナンスの行政学』 (慶應義塾大学出版会, 2002), 『行政指導の政治経済学』 (有斐閣, 1996) を読んでおいてください。その他ゼミ紹介に掲載されている文献などが参考になります。

研究会 (3年) (春学期) (秋学期)

教授 麻生 良 文

授業科目の内容:

公共経済学の基礎文献の輪読を行う。同時に、三田祭等での発表テーマについて研究を行う。

研究会 (3年) (春学期) (秋学期)

現代政治理論の研究

教授 河野 武 司

授業科目の内容:

政治的無関心が蔓延する中、危機に立つ代議制民主主義を維持、発展させる様々な要因について、検討します。

テキスト:

特に指定しません。

参考書:

授業中に、適宜紹介します。

研究会 (3年) (春学期) (秋学期)

権力理論の考察

教授 霜野 寿 亮

授業科目の内容:

権力に関する文献を読み進みながら議論をする。

テキスト:

・盛山和夫 「権力」, 東大出版会, 2000年

・杉田 敦 「権力」, 岩波書店, 2000年

参考書:

なし

研究会 (3年) (春学期) (秋学期)

脱工業化・グローバリゼーション時代の世界

・日本・豪州の文化・社会変動

教授 関根 政 美

授業科目の内容:

研究会では、学生諸君は2年間私を指導教授として研究活動を行うことになる。高校時代までは、先生の話聞いてノートを書いて覚え、試験でよい点をとるという作業である「お勉強」を中心にしていたはずである。それは、社会にでてから日常生活・職業生活に困らないような知識・技能を学び、市民として恥ずかしくない生活をするためであった。しかし、大学では、自ら研究課題を設定し、そのテーマを中心に調査・資料収集、分析・報告・討論などを行うという「研究活動」を行い、社会に役立つような知識を生み出すことが大きな目的となる。本研究会の主要テーマは、①グローバリゼーションと脱工業化の社会変動、②人種・民族・エスニシティ・ナショナリズム・多文化主義の政治・社会学、③現代オーストラリア研究に大きく分かれている。入会に当たっては、テーマの選択に注意してほしい。テーマ設定に当たり大学1年次より、研究活動に慣れておく必要があるので演習などの授業に参加しておくことが望ましい。

テキスト:

研究会では、①「自由論題」と称して、諸君の自主研究報告と中心としたセッションと、②輪読書を決めて報告・討論を行うセッションの2種類が実施される。テキストはそのつど諸君の希望を入れて選択していく予定である。自由論題による報告は、先行研究を踏まえて各自が収集した参考文献、調査報告書を分析して行うようにしてほしい。必要とあらば実証調査をすること。

参考書:

研究会指導者の著書・論文は一応目を通しておくこと。

①『エスニシティの政治社会学』名古屋大学出版会 1994年 ②『多文化主義社会の到来』朝日新聞社 2000年 ③『マルチカルチュラル・オーストラリア』成文堂 1989年 ④関根他編『社会学入門』弘文堂 1996年

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

教授 有末 賢

授業科目の内容:

社会学の基礎的な概念、見方、分析方法などをまず習得してもらうために、文献を指定して毎週輪読することから始める。秋学期以降は、三田祭での研究発表も含めて、自主的な活動を尊重したいが、本ゼミにおいては、都市社会学を中心とした研究への導入を行いたいと考えている。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

メディアと政治社会について考える

教授 大石 裕

授業科目の内容:

春学期は、マス・コミュニケーション、ジャーナリズム、政治社会学に関する文献や論文を読み、それについて討議する。

秋学期は、それに卒業論文発表が加わる。

その他、合宿、4年生のゼミ、サブゼミへの参加を通して研究を進めていく。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

助教授 澤井 敦

授業科目の内容:

社会理論を基盤としながら、現代社会のさまざまな動向について考察することを目的とする。社会理論および社会学の基礎知識の習得とその応用を目的とする「共同研究」と、各自の卒業論文の作成に向けての「個別研究」を並行させて、授業をすすめていく。

テキスト:

初回授業時に決定する。

参考書:

授業中に紹介する。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

教授 笠原 英彦

授業科目の内容:

基礎的文献を輪読し討論する。

引き続き共同研究を行う。

テキスト:

初回の授業で文献リストを配布する。

参考書:

授業時に適宜指定する。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

日本政治思想史・運動史

教授 寺崎 修

授業科目の内容:

春学期は、思想史の方法、資料収集の方法などを学びながら共同研究に従事する。三田祭後は各自、卒業論文のテーマ設定など、論文作成の準備をはじめめる。

参考書:

適宜指示する

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

近代日本政治研究

教授 玉井 清

授業科目の内容:

近代日本政治に関する基礎的研究書を読み解くとともに、資料収集から分析の方法を学びながら、各自卒論のテーマを設定することを目指す。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

中東地域研究のセミナー

教授 富田 広士

授業科目の内容:

(1) 文献(日本語および英語)の内容報告、(2) 3 学年度末に提出する論文の作成を中心に進める。

テキスト:

授業時に指示する。

参考書:

授業時に指示する。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

現代中国政治・外交、東アジア研究

教授 国分 良成

授業科目の内容:

春学期は基本篇として文献を毎週読み、秋学期は応用篇としてグループ研究を行う。

テキスト:

順次指定する。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

ロシアの政治と外交

教授 横手 慎二

授業科目の内容:

ロシアを題材にして、ゼミナール形式で、現代の政治と外交を研究する。研究題目は参加者の問題関心によって決める。最近の例で言うと、スターリンについての集団的記憶の問題、ロシアの刑法改正問題、年金問題、農業問題、チェチェン問題、犯罪の問題、カスピ海の資源問題、中ロ両国の経済改革の比較、ロシアの安全保障政策、ユーゴスラヴィアの政治体制などである。こうした問題について、これまでなされてきた研究を読み、解釈やアプローチの違いを知ることが最初の課題である。各人の発表とそれをめぐる自由な議論を通じて、プレゼンテーションや意見交換(討議)の仕方を身につけることを目指す。

テキスト:

特別に利用しない。ただし夏休みの合宿では、必ず英語の本を読むことにしている。また、日頃、英語と日本語の新聞や雑誌を比較しながら読むことを求めている。ロシア語の読める人がいれば、ロシア語の新聞も読んで同様の報告を求める。ただしロシア語は必須ではない。現在では、インターネットの英語版を使うことのでかたりの事実を追いかけることが可能だからである。

参考書:

3年生の春学期は、基本的な本を読むことにしている。これまでアリソン『決定の本質』、ヤハントントン『第三の波』、ブレジンスキー『地政学で世界を読む』、杉本良夫他『日本人論の方程式』など、また各種の日本語のロシア論を取り上げた。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

教授 井上 一明

授業科目の内容:

春学期は、政治体制および開発に関する基本的な英語文献を輪読する。

秋学期は、各自の卒業論文のテーマに関連した英語文献のプレゼンテーションをおこなう。

テキスト:

なし

参考書:

なし

研究会 (3年) (春学期) (秋学期)

助教授 高橋 伸夫

授業科目の内容:

主として中国政治史の分野で研究を行うための基礎体力の養成を目的とする。古典的な中国社会論および比較政治学的観点から書かれた中国研究の文献のリーディング、およびそれに基づく討論が中心となる。

研究会 (3年) (春学期) (秋学期)

教授 小此木 政夫

授業科目の内容:

春学期には、専門的な知識を吸収し、国際政治的な志向やセンスを磨くために、必要と思われる文献を精力的に読破する。履修者は多くのアサインメントに耐えなければならない。その後、夏季休暇までに三田祭の発表テーマを決定し、共同研究に着手する。各自が分担し、共同論文を執筆しなければならない。意欲のある会員のみが参加を許される。詳しくは、研究会ホームページを参照すること。

<http://www.clb.law.mita.keio.ac.jp/okonogi/>

テキスト:

開講時に紹介する。

研究会 (3年) (春学期) (秋学期)

EUの政治

ジャン=モネ チェア 教授 田中 俊郎

授業科目の内容:

ヨーロッパ連合 (EU) に関する英文の文献を読みながら、卒業論文の準備をする。

テキスト:

・ Michelle CINI, *European Union Politics*, Oxford University Press, 2003

参考書:

・ 田中俊郎『EUの政治』岩波書店、1998年など

研究会 (3年) (春学期) (秋学期)

教授 添谷 芳秀

授業科目の内容:

国際政治と日本外交の関連に着目し、戦後史を概観するとともに様々な分析枠組みを検討する。特殊 (個別的事象) と普遍 (一般的意義付け) の間を柔軟に往復する知性と、具体的出来事の連なりを構造的に把握する能力を養う。

テキスト:

適宜指定する。

研究会 (3年) (春学期) (秋学期)

現代国際政治・安全保障研究 教授 赤木 完爾

授業科目の内容:

現代国際政治ならびに安全保障問題の重要な論点を理解するために、基本文献を輪読し、議論し、各自の研究発表などを行う。また三田祭での発表・報告書刊行のための研究活動も並行して行う。

テキスト:

研究会において使用する文献リストは、開講後配付する。

研究会 (3年) (春学期) (秋学期)

国際政治史の概論 教授 田所 昌幸

授業科目の内容:

1年目は20世紀の国際政治史および国際政治学の古典的な著作のいくつかを輪読しながら、国際政治学への包括的な序説としたい。

テキスト:

随時指定

研究会 (3年) (春学期) (秋学期)

教授 山本 信人

授業科目の内容:

東南アジア地域研究に関する各自の興味を発掘し、理解を深める取り組みをおこなう。基本文献の読破、毎週のペーパー作成、ゼミでの議論、そして各自の研究発表が研究活動の軸になる。

〔研究会 (4年)〕**研究会 (4年)**

教授 蔭山 宏

授業科目の内容:

社会科学の古典的書物を精読する。詳しくはゼミナリストと相談して決めたい。

研究会 (4年)

政治哲学、(現代) 政治思想、政治学、平和学分野での卒論作成に向けて

教授 萩原 能久 (春学期)

代講 助教授 田上 雅徳 (秋学期)

授業科目の内容:

3年生、院生と合同の「本ゼミ」に参加することとは別に、4年生のみで、各人が自由に選んだテーマでの卒論の中間発表を行っていきます。

テキスト:

用いません。

参考書:

ゼミの中で随時紹介していきます。

研究会 (4年) (春学期集中)

助教授 堤林 剣

授業科目の内容:

卒論指導を行います。

研究会 (4年)

助教授 田上 雅徳

授業科目の内容:

卒業論文の作成を中心に進めます。

研究会 (4年)

教授 根岸 毅

授業科目の内容:

前年からの各自の論文作成の作業を継続する。

テキスト:

とくに指定しない。

参考書:

とくに指定しない。

研究会 (4年)

日本国憲法とアメリカ憲法 教授 大沢 秀介

授業科目の内容:

各自が選択したテーマにしたがって、卒業論文作成にあたる。

テキスト:

特になし

参考書:

特になし

研究会(4年) 教授 小林良彰

授業科目の内容:

現代の政治過程の中から、各自の問題意識にしたがって研究を進め、現代の政治過程の分析を行う。研究成果は、最終的に各自の卒業論文として提出する。

テキスト:

統一したものは使用しない。

参考書:

各自の問題意識にしたがって、随時、使用します。

研究会(4年) 教授 麻生良文

授業科目の内容:

卒業論文について報告してもらいます。

研究会(4年)

社会学理論の考察

教授 霜野寿亮

授業科目の内容:

各自の卒業論文作成に関して個別の指導を行う。

研究会(4年)

脱工業化・グローバル化時代の世界
・日本・豪州の文化・社会変動

教授 関根政美

授業科目の内容:

3年生の間に「お勉強」から「研究活動」への気持ちの転換を終わった諸君である関根研究会4年生の活動は、基本的には卒業論文作成のための研究活動を中心とする。3年春合宿で報告した1万字レポートの内容を土台に研究活動を継続する。と同時に、4年生は春学期中の研究会、本ゼミセッションでは3年生の研究指導を行う。ただし、春合宿以降に卒業論文テーマ変更をした場合は、その旨研究会指導教授に報告すること。

テキスト:

3年との合同で行う研究会「本ゼミ」セッションでは、3年生が使用するテキスト・論文を利用する。

参考書:

各自が、図書館等で卒業論文に必要な参考文献を探して読んでおくこと。

研究会(4年) 教授 有末賢

授業科目の内容:

卒業論文の指導を行う。春学期には、各自の論文のテーマを確定し、文献・資料を読み、調査も行う。夏合宿以後は、中間報告をし、場合によっては個別指導も取り入れる。

研究会(4年) 教授 大石裕

授業科目の内容:

各人の卒業論文の発表を中心に授業を行う。

研究会(4年)

日本政治史および日本行政史

教授 笠原英彦

授業科目の内容:

卒業論文の作成を指導する。

テキスト:

特に指定しない。

参考書:

授業時に適宜指示する。

研究会(4年)

日本政治思想史・運動史

教授 寺崎修

授業科目の内容:

各自の研究テーマについて、順次報告をもとめ、討議を行う。

参考書:

適宜指示する。

研究会(4年)

近代日本政治研究

教授 玉井清

授業科目の内容:

卒業論文に向け、各自のテーマに従い発表を行う。

研究会(4年)

中東地域研究のセミナー

教授 富田広士

授業科目の内容:

(1) 文献(日本語および英語)の内容報告、(2) 卒業論文の作成を中心に進める。

テキスト:

授業時に指示する。

参考書:

授業時に指示する。

研究会(4年)

現代中国政治・外交、東アジア研究

教授 国分良成

授業科目の内容:

卒業論文の中間報告を行う。

研究会(4年)

ロシアの政治と外交

教授 横手慎二

授業科目の内容:

卒業論文の作成を目指して、ゼミナール形式で授業を進める。プレゼンテーションやそれをめぐる議論での貢献度が重視される。論文は基本的に、4万字程度、脚注の付いたアカデミックなものとすることを求めている。

研究会(4年)

教授 井上一明

授業科目の内容:

卒業論文の作成。

研究会(4年)

助教授 高橋伸夫

授業科目の内容:

参加者の研究報告とそれに基づく討論を通じて、卒業論文の完成をめざす。

研究会(4年)(春学期)

アメリカ研究

客員教授 久保文明

授業科目の内容:

卒業指導

研究会(4年)

教授 小此木政夫

授業科目の内容:

前年度に蓄積した知識と磨かれたセンスを生かして、卒業論文テーマを作成する。テーマを設定し、情報を自分なりに体系化し、説得力のある論文を完成しなければならない。

研究会(4年)

EUの政治

ジャン=モネ チェア 教授 田中俊郎

授業科目の内容:

卒業論文を作成する。

研究会(4年)

教授 添谷芳秀

授業科目の内容:

卒業論文の研究および作成に関する指導

研究会(4年)

卒業論文指導

教授 赤木完爾

授業科目の内容:

2005年1月末の卒業論文の提出に向けて、ゼミ生各自の卒業論文にかかわる研究報告とそれに対する指導を行う。

研究会(4年)

教授 田所昌幸

授業科目の内容:

全体テーマに従って、学生のそれぞれのサブテーマに応じた研究報告をする形で、ゼミを運営する。

研究会(4年)

教授 山本信人

授業科目の内容:

卒業論文の報告と指導を中心に進める。

研究会(4年)

客員教授 薬師寺泰蔵

授業科目の内容:

研究会(3年)を基礎に、時事的な文献をも加えて読み進めることとする。同時に、卒業論文の作成も併行して行う。

〔社会科学科目〕**〔選択 法学系列〕****民法Ⅲ 家族法**

教授 犬伏 由子

授業科目の内容：

家族法と呼ばれている分野（民法—親族・相続編）を対象とします。現代において、家族に関する意識、行動、価値観が大きく変化したと言われてはいますが、講義では、現代家族のあり方を踏えて、家族法の基本的枠組、新たな問題等について考察します。

テキスト：

- ・遠藤 浩編「民法(8) 親族(第4版増補版)」有斐閣
- ・遠藤 浩編「民法(9) 相続(第4版増補版)」有斐閣

参考書：

久貴他編「家族法判例百選(第6版)」有斐閣

商法Ⅰ

講師 杉田 貴洋

授業科目の内容：

商法分野のうち、会社法の基本事項と考え方を理解することを目的とする。

会社には、合名会社・合資会社・株式会社・有限会社の四種がある。この、会社の種類を定め、会社に関わる人々の利益を調整する法律が商法・有限会社法である（もっとも近く予定されている会社法現代化立法ではこの会社の種類も含め見直しが検討されている）。会社法に関わるキーワードを挙げれば、株式、社債、株主総会、取締役、監査役、株主代表訴訟、コーポレート・ガバナンス、親子会社…とつきりがながい、これらの言葉が新聞紙面に登場しない日はない。会社法の知識は現代の経済社会を読み解く上で不可欠なものといえる。

テキスト：

- ・山本為三郎「会社法の考え方(第4版)」(八千代出版, 2003年)

参考書：

- ・宮島 司「会社法概説(第三版補正版)」(弘文堂, 2003年)

商法Ⅱ

助教授 高田 晴仁

授業科目の内容：

電子商取引の時代に入った現代においても、企業間取引の決済方法として、手形・小切手が重要な位置を占めていることに変わりはない。手形小切手は典型的には有価証券であるから、それらについての体系的な理解は他の有価証券を知るうえで必須であり、来るべき電子商取引法制の基礎にもなるべきものである。

企業活動に関わったことのない学生諸君には有価証券の世界はリアリティに乏しいだろうから講義は出来る限り具体的な事例を示して進めていくつもりである。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

- ・宮島 司『やさしい手形法・小切手法(第二版)』法学書院
- ・その他講義中に指示する。

労働法

企業と労働者(サラリーマン)をめぐる法的問題を分析する

助教授 内藤 恵

授業科目の内容：

労働法とは、賃金を得て生活する者(これを労働者と称します。)と使用者との間に生じる様々な法的問題を学ぶ領域です。この領域は大別して、労働市場法、個別的労働関係法、そして集团的労使関係法に分類されます。

本講義はまず労働法の歴史的背景から説き起こし、春学期及び秋学期の初めを使って、特に労働者と使用者の間に締結された労働契約の始期からそれが終了する原因に至るまでを講義します。この二つの法主体間の関係を、個別的労働関係と呼びます。内容としては、下記授業計画の第二章から第十一章がそれに当たります。

続いて、労働法と社会保障法に位置する労働災害補償の問題を講義(第十二章)し、更に労働者・使用者・労働組合の三者間の法的関係を解釈する、集团的労使関係の領域を講じます。内容としては、第十三章から第十八章がそれに当たります。

講義の進み方・あるいはソフトボール大会の影響などを見ながら、出来れば話題となった新しいテーマや法改正についても、随時織り込んでお話をしたいと考えます。

テキスト：

- ・テキストは使用せず、毎回 Web に講義資料プリントをアップロードします。

但し法学部のホームページの特性からパスワードの設定が出来ないので、URL は初回講義の中でお話しします。講義には、六法と判例百選を必ず携行してください。

別冊ジュリスト・労働法判例百選(第7版)(有斐閣 2002)

参考書：

初心者向けの参考書として、

- ・野川忍・野田進・和田肇『労働法の世界(第5版)』(有斐閣, 2003)
- ・西村健一郎・安枝英諄『労働法(第7版)』(有斐閣プリマシリーズ, 2002)

良く書き込まれた概説書に、菅野和夫『労働法(第6版)』(弘文堂)

経済法(春学期集中)

名誉教授 金子 晃

独占禁止法

産業研究所 助教授 石岡 克俊

授業科目の内容：

本講義では、時間の関係で実定経済法の中核をなし、経済の基本的秩序を形成している「独占禁止法」の体系的講義を行う。ただし必要最小限の範囲(独占禁止法の性格を明らかにする範囲)で、経済法理論についても触れる。独占禁止法は競争法とも呼ばれ、国内経済のみならず、国際経済をも基本的に秩序付けているグローバルスタンダードである。現代の経済社会で活躍するビジネスマンにとって必要不可欠な法律である。

わが国の独占禁止法は、敗戦後の昭和 22 年(1947 年)に制定され、現代にいたるまで既に 50 年余が経過している。この間に、わが国の経済社会は大きく変化し、わが国経済を基本的に秩序付ける独占禁止法の内容、公正取引委員会の運用・解釈もそれに応じて変化してきたといえる。現代において独占禁止法の社会的役割、そしてその重要性は国民一般に広く理解・認識されてきているが、いまだ完全にわが国の経済社会に定着したとはいえない状況にある。わが国が経済大国に相応しい国家になるためには独占禁止法をわが国の経済社会に定着させることが不可欠である。

本講義では現実の経済社会で活用できる知識と応用可能な理論を提供する。いかなる法科大学院の講義にも負けない充実した授業を学生諸君に提供したい。

テキスト：

- ・教科書は特に指定しない。ただし、近時、経済法ないし独占禁止法のテキストが数多く刊行されているので、講義初回に現在入手(ないし参照)可能なこれら関連書籍の簡単な紹介を行なう。

授業で提供される資料を毎回入手し、整理することにより、卒業後に企業等で活用できる実用的な教科書が作成できる。

講義のレジュメや資料など必要な情報は主として講義担当者的下記ウェブサイトを通じて公表される。ウェブサイトの URL は以下の通り。OFFICE ISHIOKA <<http://www.ishioka.org/>>

参考書：

- ・参考書も特に指定しない。前項と同様、経済法・独占禁止法に関する参考書や URL についてのさまざまなリソースへのアクセスは、講義初回にまとめて案内する。

犯罪学	(共同担当) 教授 加藤久雄 (共同担当) 講師 安部哲夫 (共同担当) 講師 守山正
-----	---

授業科目の内容：

講義は、基本的には(1)犯罪学の意義、(2)犯罪原因論、(3)犯罪現象学、(4)犯罪対策論に分かれる。(1)ではさらに「犯罪」の構造、刑事政策との関係、(2)では「犯罪の原因論：生物学的、心理学的原因論、社会学的原因論、(3)では「統計と犯罪現象：ハードな刑事政策を必要とする重大犯罪：凶悪殺人、凶悪性犯罪、凶悪精神障害犯罪、危険運転犯罪、重大少年犯罪、暴力団型組織犯罪、テロ犯罪。ソフトな刑事政策で対応できる犯罪：被害者なき犯罪、軽微な財産犯罪、軽い交通犯罪、(4)では個別的に伝統的な犯罪に加えて、ストーカー犯罪、児童虐待、夫婦間暴力の新しい社会現象などを扱う。ただし、必要に応じてテーマを取り上げるので、必ずしも上記の順となるとは限らない。そして、最終的に現代の犯罪学がどのような方向に向かいつつあるのかを検討する。

参考書：

- ・加藤久雄『人格障害犯罪者と社会治療』（成文堂・2003年）
- ・同『医事刑法入門』（東京法令出版・2004年）
- ・守山正『犯罪学への招待』
- ・安部哲夫『少年保護論』

〔選択必修 経済学・商学系列〕

経済政策	講師 川野辺裕幸
------	----------

授業科目の内容：

先進資本主義国における経済は各個人や企業の市場における取引を中心として成り立っている。社会主義計画経済と市場経済の優劣は近年のソ連東欧圏の崩壊から明らかと思われる。しかしわが国をふくめて多くの先進資本主義国には巨大な政府部門があり、市場経済にさまざまな形で影響をあたえようとしている。経済政策をもっとも広い意味でとれば、この全体が経済政策である。本講義は、「市場経済に政府が経済政策という形で介入する根拠：その正当性と成果」の解明をテーマにする。講義はマクロ・ミクロ経済学の基礎的知識を前提として進め、簡単な理論で現実をいかに説明し、政策論を展開できるように主眼をおく。景気政策、規制緩和、社会保障政策、環境政策など、経済政策課題を取り入れる。その意味で、この講義は、経済理論と現実への架け橋を理解することをねらっている。また、政府による政策決定と市場における決定の違いを明らかにするために、公共選択論による民主主義的な意思決定システムの特徴を講義する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

授業計画を参照。

財政論（秋学期集中）	講師 牛丸 聡
------------	---------

授業科目の内容：

財政学は政府の収入と支出に関する学問です。財政学に関する基本的な知識を提供するとともに、わが国の財政制度の仕組みと財政の現状と問題点を理解できるように講義します。

テキスト：

開講時に指示します。

参考書：

その都度紹介します。

国際経済論	経済学部 教授 竹森俊平
-------	--------------

授業科目の内容：

本講義では、金本位制が確立した19世紀後半から現代までの世界経済の流れを、とくに金融面に注目して解説する。1930年代の大恐慌の経験が、今日、日本が陥っている景気不振を理解する上で参考になることは拙著『経済論戦は甦る』で説明した。しかし、19世紀後半の世界経済も貿易、金融の面でのグローバル化と、世界的同時デフレが進行していたという点で、今日の状態との重要な類似性を持つので、詳しく検討する。つまり、本講義は、イベントを理解するための用具として経済理論とともに、歴史的なパースペクティブを重視するのである。

なお、講義の内容は日吉で担当している「世界経済の現状と問題」とはまったく異なり、第一部「バイメタリズムと金本位制」、第二部「世界大恐慌」、第三部「ブレトンウッズ体制とそれ以降」という、クロノジカルな三部構成で成り立つ。この講義内容に沿った著作を計画中であるが、とりあえず参考書として次の3点を挙げておく。

- ・Bary Eichengreen, *Globalizing Capital*, Princeton University Press.
- ・拙著『世界経済の謎』東洋経済新報社
- ・拙著『経済論戦は甦る』東洋経済新報社

国際経済論	経済学部 教授 若杉隆平
-------	--------------

授業科目の内容：

本授業は、国際貿易（直接投資を含む）に関して、以下に示す内容をカバーする標準的な講義シリーズである。この分野での勉学を深めたい学生諸君にとっての入門コースを目的とする。

1. Ricardoの貿易理論
生産技術の差異が国際貿易の理由となることに注目したりカードによる貿易理論をもとにして、比較優位と生産技術の関係、交易条件と貿易均衡について紹介する。
2. ヘクシャー＝オリーンの貿易理論
生産要素の賦存状況の差異が国際貿易の理由となることに注目したヘクシャー＝オリーンの貿易理論をもとにして、要素集約度と比較優位、貿易均衡、要素賦存量の変化と貿易均衡（リブチンスキー定理）、財価格の変化と要素価格の関係（ストルパー＝サミュエルソン定理）などを取り上げる。
3. 貿易均衡
自由貿易における生産、消費者利益、交易条件の変化と貿易利益、経済成長・イノベーションと貿易利益、貿易均衡の安定性・不安定性など、貿易均衡に関する主要な概念を紹介する。
4. 特殊要素モデル
財と生産要素が特殊な関係を有する場合の貿易モデルを取り上げ、財価格の変化、特殊な生産要素量の変化、共通的な要素量の変化が貿易均衡に与える効果について紹介する。
5. 完全競争市場の下での貿易政策
競争市場のもとでの政府の通商政策がもたらす諸効果を紹介する。具体的には、輸入関税、輸入数量制限、輸出税、貿易に関する補助金、最適関税の理論を取り上げる。
6. 不完全競争市場下での貿易政策
規模経済性や製品差別化のもとで生ずる貿易を対象として、産業内貿易の発生、貿易利益、不完全競争の下での貿易政策、戦略的貿易政策、産業保護政策に関して紹介する。
7. 直接投資・技術移転
直接投資や多国籍企業の活動は貿易と密接に関連する。直接投資と貿易均衡、技術の移転、発展途上国への経済協力・技術移転と経済成長について取り上げる。
8. 国際貿易の政治経済学
自由貿易の基礎を形成するWTOの諸ルール及び近年増加しつつある地域経済統合を取り上げ、理論的観点からの議論とともに政治経済学的観点からの議論を行う。

テキスト：

- ・若杉隆平『国際経済学（第2版）』岩波書店、2001年

政治

参考書：

・伊藤元重・大山道廣『国際貿易』岩波書店，1985年

国際経済論

商学部 教授 和 気 洋 子

授業科目の内容：

国際化の進んだ今日では、経済活動のネットワークは広く世界のすみずみにまで張りめぐらされている。実際、もろもろの経済資源が比較的自由に、しかも迅速に、国境を越えて移動する時代となった。そして、これほどに国際間の相互依存が高まると、どの国の経済、政策、ビジネスも、世界の他の諸国との取り引き関係抜きに語ることはできない。

さまざまな財・サービスなどのアウトプット（産物）が国境を越えて取り引きされているだけではない。株式、国債・社債などの金融資産の国際売買取り引きや、資金の対外借入あるいは対外貸付の国際金融取り引きや、企業そのものの海外進出が盛んに行われている。それが今日の国際経済取り引きの実態である。

先進国はもとよりのこと、遅れて近代的経済発展のスタートをした途上国にとって、国際経済取り引きはとりわけ重要であったし、その重要性は将来も高まりこそすれ低下することはないであろう。

本講では、各国経済のそうした国際化現象をふまえ、日本を取り巻く国際経済問題の体系的理解と、世界経済が当面する重要な政策課題について、国際経済学の分析視点を提供することに基本目標を置きたい。

テキスト：

・石井・清野・秋葉・須田・和気・ブラギンスキー著『入門・国際経済学』有斐閣，1999年。

参考書：

必要に応じて講義中に紹介する。

国際経済論

世界経済の現状と日本の通商政策

講 師 馬 田 啓 一

授業科目の内容：

本講義では、最新かつ重要な世界経済の諸問題を平易に解説します。講義を通じて、世界経済の現状と日本の通商政策のあり方について学生諸君の関心と理解を大いに高めたいと思う。このため、今論議を呼んでいる世界経済のトピックス、例えば、貿易摩擦、海外直接投資、通貨不安、WTO交渉、地域統合の動きなどをできるだけ講義のテーマに取り上げて、わかり易く説明していく方針です。

テキスト：

・青木健・馬田啓一編著『日本の通商政策入門』東洋経済新報社，2002年，2800円

なお、毎回、簡単なレジュメを配布します。

参考書：

- ・池間誠・大山道廣編著『国際日本経済論』文真堂，2002年，2800円
- ・青木健・馬田啓一編著『政策提言／日本の対アジア経済政策』日本評論社，2004年，2800円
- ・青木健・馬田啓一編著『経済検証／グローバリゼーション』文真堂，2001年，3300円
- ・青木健・馬田啓一編著『ポスト通貨危機の経済学』勁草書房，2000年，3800円
- ・青木健・馬田啓一編著『地域統合の経済学』勁草書房，1999年，2900円
- ・青木健・馬田啓一編著『WTOとアジアの経済発展』東洋経済新報社，1998年，2800円
- ・白石孝・馬田啓一編著『為替レートと日本経済』東洋経済新報社，1996年，2700円

国際経済論（春学期集中）

講 師 坂 元 浩 一

授業科目の内容：

本授業科目の目的は、国際経済に関わる理論と政策を学ぶことです。歴史は基礎事項のみとして、理論の理解と実践的な応用力を涵

養することを主眼とします。他の類似科目との違いは、講師の国連マクロ経済専門家、日本政府委託コンサルタント（援助調査）、政府招聘の途上国官僚研修講師の経験を生かして、実務とフィールド経験が加わることです。講師が訪問した30か国（延べで50回）、また委託調査で扱った日本及び世界で議論されている最先端の政策課題を紹介いたします。

指導方法としては、一方的に一般的な情報を伝達するだけでなく、講師が受託した調査案件の事例（例えば、WTOと農産物貿易、ODA中期政策評価）の一部提供と電卓を使った演習も行います。また、インターネットを利用したりリアルタイムの情報の収集方法やビデオのネイティブ・スピーカーの発言の解説を行います（教室の空き状況で、これまでと同様にコンピュータを使う部分は授業外で見ていただくということになるでしょう）。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

・土屋二郎編著『国際経済学』東洋経済新報社，2,415円。深海博明編著『国際経済論』八千代出版，3,360円

〔選択 経済学・商学系列〕

計量経済学

経済学部 教授 マッケンジー，コリン R.

授業科目の内容：

計量経済学は、経済理論の実証分析には不可欠である。経済・社会現象を計量的に分析するために、何らかのモデルを作成するのが普通の出発点である。計量経済モデルを作成するには理論モデルの特定化、データ収集、推定、仮説検定、モデルの評価と予測作成のような段階がある。本講義では推定方法（最小二乗法、操作変数法等）、仮説検定方法（t検定、F検定等）と予測方法を紹介しながら推定されたモデルの解釈—評価を議論する。推定方法と検定方法の利点と弱点、その方法が適切かどうかを調べる方法、推定・検定方法が不適切と判断された場合の処理方法も紹介する。紹介した道具を時系列又は横断データの実例で説明する。本講義では、初学者を対象に計量経済学の基礎知識の習得を目指す。あらかじめ履修しておくべき科目は指定しない。しかし、講義内容を理解するために、線形代数、微積分、および確率統計に関する初歩的な知識をもつことが望ましい。

テキスト：

・浅野哲・中村二郎『計量経済学』有斐閣

経 済 史（春学期集中）

経済学部 教授 杉 山 伸 也

授業科目の内容：

本講義では、17世紀の徳川幕府成立前後の時期から1970年代までの約400年にわたる日本経済の変化をマクロ的に概観する。講義では、とくに日本の経済発展の国際的・国内的環境と発展のメカニズムの解明に重点をおき、民間経済の動向とともに、政府の対外政策、財政・金融政策、産業政策について考察する。

この授業は、Web上で配信された講義の予習を前提とするもので、実際の授業では、特定のテーマに関する講義、グループ・ディスカッションおよびグループ・プレゼンテーション、ビデオ鑑賞を行う。

参考書：

- ・中村隆英『日本経済』（第3版）東京大学出版会
- ・新保博『近代日本経済史』創文社
- ・梅村又次他編『日本経済史』全8巻，岩波書店
- ・安藤良雄『近代日本経済史要覧』（第2版）東京大学出版会

経 済 史

経済学部 助教授 飯 田 恭

授業科目の内容：

古代から近代に至るヨーロッパの社会経済史について、「農村」を中心に考察する。ヨーロッパの史的発展の世界史における異質性と、

その地域的多様性の根源を、農村史の中に探求することを主たる目標とした。時期的には中世及び近世（5～18世紀）が、地理的には大陸諸国（特にフランス、ドイツ、オーストリア、ロシアなど）が、考察の中心となる。

テキスト：

特に定めない。

参考書：

講義で一覧表を配布するほか、可能な限り三田図書館リザーブブックのコーナーに陳列する。

金融論 経済学部 教授 吉野 直行(春学期)
講師 高月 昭年(秋学期)

授業科目の内容：

金融を取り巻く環境は大きな変化に直面している。マクロ・ミクロの両面から、わが国の金融全般について講義を行う。

参考書：

- ・吉野直行・高月昭年『入門・金融』有斐閣
- ・吉野直行『英語で読む日本の金融』有斐閣
- ・池尾和人・飯島高雄『日韓経済システムの比較制度分析』日本経済新聞社など

労働経済論(秋学期集中) 経済学部 教授 島田 晴雄

授業科目の内容：

本講義では、労働に関する諸問題を経済の基礎理論をふまえ、現実の日本経済の制度や政策課題を広い観点から多面的に考察する。

とりわけ、深刻な低迷に陥っている日本経済の現状を詳細に観察検討し、日本経済の新しい可能性はどこにあるのか、また、その可能性を現実のものとするにはどのような課題を克服しなくてはならないか、そのための政策手段は何かなどを考える。

テキスト：

- ・島田晴雄・吉川洋（共著）『痛みの先に何かがあるのか』東洋経済新報社
- ・島田晴雄『日本の雇用』筑摩書房
- ・島田晴雄（編著）『労働市場改革』東洋経済新報社
- ・島田晴雄『住宅市場改革』東洋経済新報社

参考書：

- ・島田晴雄『明るい構造改革』日本経済新聞社
- ・島田晴雄『日本経済 勝利の方程式』講談社
- ・島田晴雄『日本再浮上の構想』東洋経済新報社

社会保障論 商学部 教授 権 丈 善 一

授業科目の内容：

この講義の意義と目的は、最近の社会保障政策の動向を理解してもらうのみならず、君たちが大学を卒業し、社会で重責を担う年齢に達したときでも、自分自身で社会保障の政策動向を評価し、さらには政策をデザインすることができる力を身に付けてもらうことにもある。そして、講義を進める際に、特に次の2つのことを意識する。

- ・物事を抽象的に考える（モデルを使って考える）大切さを分かってもらうこと
 - ・望ましい政策を導き出す考え方は、実は、数多く存在し、考え方の数だけ「望ましさ」があるのを分かってもらうこと
- なぜ、これら2つのことを意識した講義を行うのかを理解してもらうために、少し説明しておこう。

今、君たちに、「社会保障と税制に関する過去1ヶ月の政策動向を、10分間で分かりやすく説明せよ」という課題が与えられたとしよう。君たちの能力をもってすれば、この課題は難なくこなせるはずである。そこで次に、「過去1年の社会保障と税制の動きを、10分間で分かりやすく説明せよ」と言われたとする。さらには、「過去5年、そして過去10年の動きを、10分間で分かりやすく説明せよ」と、質問の難易度がエスカレートしていったとしよう。この種の難問にみごとに答えるためには、物事を抽象的に考える能力、モデルを使って考える能力が必要となる。さらに時には、身近な例にたとえな

がら—身近な例に対する共通の理解の助けを借りて説明の時間を節約しながら—複雑な出来事を分かりやすく説明する能力が必須となる。社会保障に関する現実の政策動向の中から、枝葉末節を取り除き、重要な要因のみをもって抽象化したシナリオを作る能力がなければ、10年のできごとを10分というコンパクトな時間に要約することはできない。

それでは次の課題については、どうであろうか。「社会保障の過去における政策動向を評価するとともに、将来の望ましい社会保障の在り方を提案せよ」。この課題に答えるためには、何をもって「望ましい社会保障」のあり方なのかという評価規準を、どうにかして設定する必要がある。ところが面白いことに、何をもって望ましいとするかという評価規準は、実は、ひとつではなく、世の中にはたくさん存在するのである。わたくしは、君たちに、数多くの評価規準を示し、そのなかから、君たち自身が望ましいと思う望ましき(?)を選択してもらいたいと思っている。何を言っているのか分からないかもしれないが、講義に出席していれば、不思議と理解できるようになるので心配の必要はない、と思う。

このようなことを意識しつつ、具体的には、「社会保障のまわりで、過去10数年の間、いったい何が起こってきたのか、そしてこれから10数年にわたって、いったい何が起ころうとしているのか」を理解してもらえるように講義を進め、中長期的な視野で政策動向を大局的に把握する力を身に付けてもらいたいと願っている。

また、社会保障は、ほとんど毎日、新聞の紙面ににぎわしているわりには、これらの制度は複雑で用語は特殊すぎるために、多くの人は、問題の所在をとらえきれない。基礎編・政策編からなる、この社会保障論では、政策の動向を大局的に把握する力を身に付けてもらいながらも、制度、用語の説明を可能な限り行っていきたい。

なお、この講義の特徴の一つは、講義専用のホームページから、講義のハンドアウト・関連資料をダウンロードしてもらうとともに、ホームページを通じて社会保障・税制に関連する情報を、随時、君たちに提供できるシステムを活用していることにある。1999年より始めたこの方法のおかげで、タイムリーかつ相当の量の情報を、毎週、君たちに提供できるようになっている。

テキスト：

- ・権丈善一(2001)『再分配政策の政治経済学—日本の社会保障と医療』慶應義塾大学出版会

参考書：

- ・権丈善一(2003)『年金改革と積極的社会保障政策—再分配政策の政治経済学Ⅱ』慶應義塾大学出版会
- ・二木他編『医療経済・政策学』勁草書房

経営学 商学部 教授 今 口 忠 政

授業科目の内容：

企業を取り巻く環境は激変し、国際化、IT化が急激な勢いで進展している。これからの企業経営は、迅速・柔軟に変化に適應できる形態が求められる。講義は、企業を取り巻く環境の変化とそれに対応した経営という視点から理論的な考え方、事例を紹介する。現代企業の経営状況を具体的に理解し、これからの企業経営に必要な考え方を学べるように工夫する。

春学期は経営学の歴史的な発展、企業形態、会社組織などを中心として、現実の企業行動の理解に重点を置く。経営学がどのような問題を解決しようとするのか、企業形態、企業の統治、企業集団、企業合併などについて説明し、現代の企業が抱える問題、これから登場する企業形態などを理解する。

巨大企業は多数の従業員、巨額の資本、設備から成り立っており、それらを組織的に運営することは非常に難しい。巨大な企業ほど綿密に経営戦略をたて、経営組織を作って、計画的に運営している。秋学期は企業内部に焦点をあてて、経営戦略、組織、指揮、統制などのマネジメント活動について講義する。

テキスト：

- ・今口忠政『事例で学ぶ経営学(仮題)』白桃書房、2004年出版予定

参考書：

- ・小倉昌男『経営学』日経BP社、1999年(ヤマト運輸の経営者で、経営の実態理解に最適)

政治

- ・今口忠政『戦略構築と組織設計のマネジメント』中央経済社，2001年（秋学期の戦略，組織に参照）
その他は講義時に随時紹介します。

会 計 学

商学部 教授 黒川 行 治

授業科目の内容：

財務会計の基本的枠組み，会計基準の設定過程の問題，会計代替案選択に関する企業の会計意思決定の問題，会計認識および測定に関する基本的論理，会計測定の拡大・変容をふまえた近年の会計諸基準の具体的内容について，理解を深めることを目標とする。

テキスト：

- ・田中茂次「現代会計学総論〔第2版〕」（中央経済社）
- ・黒川行治「連結会計」（新世社）

参考書：

- ・黒川行治「合併会計選択論」（中央経済社）

法律学科 設置 共通科目 政治学科

(外国語科目, 人文科学科目, 自然科学科目,
数学・統計・情報処理科目)

(外国語科目) (選択)

英語第Ⅴ(春)(秋)

教授 太田 昭子

授業科目の内容:

[春学期] Academic Writing: ほぼ毎回アサインメントを提出していただきます。いわゆるスタンダードな five-paragraph essay の書き方を、段階的に学びます。英文の要約練習から始め、読んだ英文に対するコメント、時事問題などに関するコメント、更にエッセー作成へと発展させていく予定です。

[秋学期]

学期前半: Essay writing を oral level で発展させ、いくつかのテーマについて Debate を行います。(希望者が多ければ、Discussion 或いは Speech など加えます。)

学期後半: 各自がテーマを選び、長めの英文レポートを作成していただく予定です。

テキスト:

特定の教科書は使用しません。随時プリントを配布します。

参考書:

英英辞書を必ず持ってきてください。

英語第Ⅴ(春)(秋) 教授 レイサイド, ジェームズ M.

授業科目の内容:

This class will use material mostly taken from BBC World television programmes. Students may be required to do some writing to consolidate language use, but the main focus will be on discussion, listening and presentation.

テキスト:

新聞などからのプリント

参考書:

なし

英語第Ⅴ(a)(b)(春)(秋)(2コマ共通)

ビジネスと英語

教授 小屋 逸樹

授業科目の内容:

多国籍企業のビジネス・トランスアクションを見ながら、日本と欧米企業の商習慣の違いや会社での人間関係、交渉での留意点といったテーマを取り上げます。この授業では、さらに日本企業が出している年報(英語版)の実物を読み、ビジネスで使われている英語表現に親しみます。テキストとして使用する英語自体は難解なものではありませんが、一つ一つのビジネスの展開に関してどのような対応をとればいいのかは検討を要します。受講希望者が多い場合は人数制限をしますので、必ず最初の授業に出てください。

テキスト:

最初の授業にて紹介します。

英語第Ⅴ(春)(秋)

英語の基礎体力をつけなおす

教授 横山 千晶

授業科目の内容:

三田に来て、英語のインプット能力(読む力、聞く力)をしっかりと基礎からつけ直したい人たちのための徹底講座です。読解力のトレーニングとしては、最近の新聞、雑誌記事を中心に、主に精読

中心に、さまざまなテーマのエッセイを数多く読みこなしていきます。単に意味を取るだけではなく、英語を書く人の論の進め方、日本語には見られない言葉の使い方や文章構成など、詳しく分析していきます。また、聴解力のトレーニングでは、宿題を中心に英語ニュースの聞き取りをしていただきます。なるべく多くの英語に触れ、聞き取りのこつをつかむことで、少しずつ教材の難易度を上げていく予定ですので、途中でドロップアウトしないように、復習を必ず行ってください。

また、読解、聴解ともさまざまな時の話題を取り上げますので、皆さん方にはその背景を深く知っていただくために随時調査および発表もさせていただきます。

授業では宿題を毎回課し、リスニングに関しては授業の前に必ず提出していただきます。リーディングに関しては宿題の出た翌週に必ず小試験を行います。その意味で本当にやる気のある人だけ履修してください。評価は宿題・授業・小テストの三点から行う予定です。なるべく履修者一人一人に対してのきめ細かな指導をしていきたいと思っておりますので、履修者数を制限させていただくことがあるかもしれません。履修希望者は、必ず最初の授業に出席してください。その際、90分のカセットテープ(何も録音されていないもの)を持参すること。

テキスト:

プリントを使います。

参考書:

必要に応じて授業の中で紹介します。

英語第Ⅴ(春)(秋)

Political Debate: Indonesia and its Neighbours

教授 マクリン, ニール B.

授業科目の内容:

This is an advanced class aimed to promote skill and self-confidence in formal discussion. The purpose is to teach the techniques of exposition, argument, persuasion and debate. At the same time, the class will provide students an opportunity to investigate in detail political (and, to an extent, legal) issues in parts of the world that are easily ignored. We shall therefore spend the first semester conducting a series of exercises and simulations based on actual political dilemmas and problems, both historical and contemporary, in Indonesia and the surrounding areas. In the second semester we shall take another region, probably from Africa or Latin America, as our focus.

The essence of effective argument, as class members will quickly discover, is thorough preparation: those who take this class must therefore be ready to do several hours of preparation each week. Background materials will be provided, and help is available for students when preparing their speeches.

Reasonable competence and confidence in spoken English is of course necessary, but far the most important requirements are imagination, energy and above all commitment. Participants should also be aware that there is likely to be a considerable range in the English level of the class: advanced students must be willing to cooperate with those with less fluent than themselves, and less advanced students must be brave enough to speak up in front of these returnees.

英語第Ⅴ(春)(秋)

教授 井上 逸兵

授業科目の内容:

アカデミックライティングについて学び、実際にエッセイ等を書くことでその技術を身につける。いわゆる英作文の授業ではない。この授業は以下の3つを柱としてすすめる。

- (1) アカデミックライティングのエクササイズを通してその技術的な諸事項を習得する。
- (2) 実際に受講者それぞれの専門や関心にあわせたエッセイを書くことで実践的にアカデミックライティングの技術を身につける。
- (3) 学術的なレベルで書かれた(よい)論文等をモデルとして(そ

共通

れを読むなどを通して)、アカデミックライティングの諸技法について学ぶ。

しばしば課題を与えるが、提出物はすべて電子メールによることとするので、これを使う技術、および環境があることを受講の条件とする。

参考書：

授業中に指示する。

英語第Ⅴ(春)(秋)

演劇と社会の関係を読む

助教授 常山 菜穂子

授業科目の内容：

演劇は社会の動向と密接に連動する「集団的」芸術である。それゆえに国家の誕生・発展・成熟過程において、演劇はつねに国民の価値基準を決定し、国とは何かという問いに模範解答を供給すると同時に、そうした定義づけに抵抗する側にも主張の場を提供する。アメリカにおいて、独立を果たした18世紀から1990年代に至るまで、演劇文化はナショナル・アイデンティティの形成にいかなる役割を果たしてきたのだろうか。最新のアメリカ演劇研究書の講読を通じて、考えてみたい。

テキスト：

・ S. E. Wilmer 著 *Theatre, Society and the Nation: Staging American Identities*. (Cambridge: Cambridge University Press, 2002) ハードカバー ¥6,548

個人での購入は可能だが、高額なので必要部分をプリントで配布し、また図書館に指定図書として数冊確保する予定。目次はアマゾン・ジャパンのHP(<http://www.amazon.co.jp>)で確認できる。

参考書：

・ 拙著『アメリカン・シェイクスピア…初期アメリカ演劇の文化史』(国書刊行会, 2003) ほか、授業中に指示する。

英語第Ⅴ(a)(春)(秋)

Topical discussion

講師 スワン, ウィリアム L.

授業科目の内容：

Class discussion will center on stories/news articles/etc. which the students will get a week in advance to be read and prepared for discussion in the next class. Some of the stories/articles will be provided by the instructor; each student, or a group of students, will also be expected to prepare and present topics for discussion during the term. Along with the class discussion, higher levels of vocabulary and expressions will also be emphasized.

テキスト：

There is no textbook. Class discussions are based on handouts that are given out in class.

英語第Ⅴ(b)(春)(秋)

Topical discussion

講師 スワン, ウィリアム L.

授業科目の内容：

Class discussion will center on stories/news articles/etc. which the students will get a week in advance to be read and prepared for discussion in the next class. Some of the stories/articles will be provided by the instructor; each student, or a group of students, will also be expected to prepare and present topics for discussion during the term. Along with the class discussion, higher levels of vocabulary and expressions will also be emphasized.

テキスト：

There is no textbook. Class discussions are based on handouts that are given out in class.

英語第Ⅴ(a)(春)(秋)

会社で使う英語：コミュニケーション編

講師 日向 清人

授業科目の内容：

仕事上英語が必要となっても困らないよう、キープレーズを約800例おぼえるコースです。来客の対応、電話、会議、交渉、プレゼンテーション、ライティングと6分野をバランスよくカバーしており、Eメールは何とかなるけれど、電話は苦手ということがないように構成されています。平行して冠詞の用法等実務に必要な限度で文法の復習もしていきます。春は会話編、秋はライティング編です。通年でとれば英語で発信していくのに必要なツールをひととおり身につけられます。

テキスト：

・ 日向清人著「基礎からわかる会社で使う英語」(桐原書店)

参考書：

・ 日向清人著「会社で使う英語スキルアップゼミ」(桐原書店)

英語第Ⅴ(b)(春)(秋)

会社で使う英語：ボキャブラリー編

講師 日向 清人

授業科目の内容：

英語でどんどん発信していくことが求められる時代です。こうしたなか契約を英語では *agreement/contract* と言うのだという程度の英語力では受信一方の狭い世界から脱することができません。締結する、更新する、解除するといった言い方に対応する英語がぱっと出てくるぐらいになって初めてツールとしての英語が身につけると言えるのです。そこで「この単語・言回しは普通どように使われるのか」という問題意識に立って、基本的なビジネス英単語の意味を理解し、使い方を会得しようというのが、このコースです。こまめにテストをしていきますので、まじめに出席すれば企業情報や経済記事を読める程度の語彙力は身につきますし、反覆継続して暗記するところまで行けば、実務に耐える英語力を一気に身につけることができます。春は企業関連の単語や言回しを約200例、秋は経済関連の単語や言回しを約200例とりあげます。

テキスト：

・ 日向清人著「ビジネス英語スーパー・ハンドブック」(アルク)

参考書：

・ 日向清人著「ビジネス英語スーパー辞典」(アルク)

ドイツ語第Ⅴ(春)(秋)

東西ドイツ、その後…

講師 板倉 歌

授業科目の内容：

この授業では、現在ドイツの社会の一側面について考えたいと思います。今年はベルリンの壁が崩壊して15年目にあたるので、(旧)東西ドイツというテーマで授業を進めます。歴史及び現在の社会的な問題や風潮に注目します。

テキスト：

その都度指示します。

ドイツ語第Ⅴ(春)(秋)

時事ドイツ語と "Und wie ist das in Japan?"

講師 シュミット, ウーテ

授業科目の内容：

今のドイツで何が話題になっているのか。インターネット・新聞・雑誌の短い記事を活用して、最新のドイツの情報を紹介していきます。テーマは政治、経済、大学・学生・市民生活、環境などで、参加者の興味と希望に応じていくつかピックアップします。授業の狙いの第一は時事ドイツ語のテキストの講読になれることです。難しい文法が含まれている上に、多くの時事ドイツ語の単語が辞書に載っておらず、今までのドイツ語の知識と想像力が試されます。第

二はテキストについての自分の立場、意見を述べる練習をします。それに必要な表現は授業中に練習します。簡単なディスカッションを試みます。ドイツ人と知り合うと必ず *Und wie ist das in Japan?*, 「日本ではどうですか」と聞かれます。その質問に備えて、取り扱ったテーマについて、テキストで習った表現を活かして、日本の事情を説明する練習をします。

ドイツ語インテンシブ (上級) (春) (秋)

助教授 三 瓶 慎 一
訪問助教授 (招聘) シャーロット, ミハヤエル

授業科目の内容:

受講希望者は 4 月 3 日 (土) の採用テストを必ず受験すること。

シャーロットと三瓶が共同して進める授業である。総合的なドイツ語能力を伸ばし、最終的には、文法的により正確な表現、文体的により適切な表現を使えるようになること、そして内容のある議論を交わせるようになることが目標である。ドイツ語により日本事情を紹介できる視座と能力を育てたい。

春学期は主として日本事情をドイツ語圏で紹介するという立場を扱い、秋学期はドイツ語圏事情を理解するという立場をとる。

以下に挙げるのはいずれも春学期の授業内容である。秋学期については、春学期中に受講者と協議して決める。

教材は教室で頒布する。なお、無断欠席、無断遅刻が多い場合は学期半ばでも履修を取り消すことがあるので予め承知されたい。

4 月 10 日 (土) ~ 11 日 (日) には箱根でオリエンテーション合宿が行われる。特にドイツ語圏での語学研修、インターンシップ、留学、就職等を考えている人は必ず参加すること。

月 1・月 2 (シャーロット)

Im Zentrum der Veranstaltung, die gemeinsam von Schart und Sambe gehalten wird, steht das Buch „**Gebrauchsanweisung für Japan**“ von Gerhard Dambmann. Die Teilnehmenden lesen diesen Text, analysieren deren Struktur (Argumentationslinien, Argumentationselemente, etc.), fassen den Inhalt zusammen und setzen sich schließlich kritisch mit den Äußerungen des Autors auseinander.

Es ist das Ziel des Seminars, am Beispiel eines deutschsprachigen Textes eine ungewohnte Sicht auf die japanische Gesellschaft nachzuvollziehen. Vermittelt durch die Perspektive und Schwerpunktsetzung des Autors rückt dabei zugleich die fremde Lebenswelt ins Blickfeld. Die Studierenden sollen daher in der Auseinandersetzung mit dem Text ihre Fähigkeit schulen, zunächst Spannungsfelder zwischen Fremd- und Selbstwahrnehmung zu erkennen und zu beschreiben, und daran anschließend einen eigenen Standpunkt zu finden und diesen auch argumentativ zu verteidigen.

Die Studierenden werden zu den Themen des Buches eigene Texte verfassen, die dann gemeinsam analysiert und diskutiert werden. Es wird deshalb vorausgesetzt, dass sie aktiv, regelmäßig und eigenverantwortlich mitarbeiten.

水 1 (シャーロット)

Ziele

Die Studierenden erhalten in diesem Kurs die Möglichkeit, Fragestellungen aus verschiedenen Politikfeldern fachspezifisch zu erörtern. Vor dem Hintergrund ihres jeweiligen Studienfaches erschließen sie sich ausgewählte aktuelle gesellschaftspolitische Probleme in den deutschsprachigen Ländern. Sie beleuchten die Themen aus verschiedenen Perspektiven und diskutieren sie gemeinsam. Der Unterricht zielt in diesem Sinne darauf, das Denken in historischen und gesellschaftlichen Zusammenhängen zu fördern.

Zudem sollen die Studierenden ihre Fähigkeit, Informationen aus verschiedenen Quellen zielgerichtet zu erfassen, zu vergleichen und kritisch zu beurteilen, weiter entwickeln. Sie sollen es lernen, in der Fremdsprache ihren eigenen Standpunkt zu formulieren, diesen anschaulich zu präsentieren und in Diskussionen zu vertreten. Der Unterricht soll schließlich auch die Fähigkeit der Studierenden

fördern, Arbeitsprozesse selbständig zu organisieren, zu koordinieren und zu reflektieren.

Themen & Materialien

Die Grundlage des Seminars bilden unterschiedliche Originaltexte (vor allem Zeitungsartikel, Auszüge aus der Fachliteratur, Reportagen, Statistiken etc.), die den ausgewogenen Gebrauch aller Sprachfertigkeiten erfordern bzw. ermöglichen. Das Kursprogramm versteht sich als ein Angebot, das erst durch die persönlichen Interessen der Teilnehmenden seine endgültige Gestalt gewinnt. Deren aktive und eigenverantwortliche Mitarbeit bei der Ausdifferenzierung der Themen und der Auswahl der Texte wird vorausgesetzt.

Thema 1 „Sozialstaat vor dem Ende?“

Kein Thema beschäftigt die deutsche Öffentlichkeit derzeit so intensiv wie die Reformen der Sozialsysteme. Jahrzehntlang als Garant von Wachstum und Stabilität gepriesen, stehen plötzlich alle bewährten Instrumente der deutschen Sozialpolitik auf dem Prüfstand: die Sozialversicherung ebenso wie das Prinzip der Solidarität mit sozial Benachteiligten oder der Generationenvertrag. Wie kam es zu dieser Entwicklung, welche Reformen werden diskutiert und warum lassen sich diese nur schwer durchsetzen? Diesen Fragen wird sich die Veranstaltung anhand aktueller Texte widmen.

Thema 2 „Politische Kultur in Deutschland und Japan“

Ein historischer Text soll am Beginn dieser Veranstaltung stehen: Max Webers Abhandlung zum Beruf des Politikers. Auf dieser Grundlage soll der Frage nachgegangen werden, was eigentlich die politische Tätigkeit in Deutschland und Japan kennzeichnet. Welche Traditionen, Strukturen und Prozesse spielen für die politische Kultur eine Rolle? Wie wird Politik betrieben und von wem? Die Politik als Beruf soll dabei ebenso thematisiert werden wie die politische Aktivität außerhalb von Partei und Parlament.

Über mögliche weitere Themen entscheiden alle Beteiligten im Verlauf des Studienjahres.

木 1 (三瓶)

Gerhard Dambmann: „Gebrauchsanweisung für Japan“ を速読する。約 250 ページの本であるが、春学期で読了する。シャーロットの授業とタイアップし、議論のための材料提供をする。1 回 5 ページ程度から始めてだんだん進度を上げ、最終的には 1 回 20 ページ程度を読めるようにする。キーワードやトピックセンテンスを探すなどして段落構成を見抜くこと、読解に必要な文法的知識を深めること、部分を取り上げて商品価値のある翻訳を作ること、日本事情紹介の語彙や表現をストックすることが目標である。

テキスト:

・ Gerhard Dambmann: „Gebrauchsanweisung für Japan“ (教室で頒布)

ドイツ語速習 (初級) (春)

教授 岩 下 眞 好

授業科目の内容:

火 4・5 (春)

内容的にも、また時間割上も連続した週 2 回の授業によって、春学期だけで、いちおうドイツ語の基礎文法をすべて学びます (すなわち発音から接続法まで)。初めてドイツ語を学ぶ人でも、秋学期には「ドイツ語速習 (中級)」に進んで簡単な文章の読解やドイツ語によるコミュニケーションの基礎固めができるようになることが目標です。

テキスト:

・ 岩崎・平尾: 初歩ドイツ文法 (同学社)

ドイツ語速習 (中級) (秋)

教授 坂 口 尚 史

授業科目の内容:

火 4・5 (秋)

初級ドイツ語を終えた人が、中級に入っていきやすいように、基礎固めをしつつ楽しく学んでいける教材を選びました。17 の会話体

共通

の文章を読みながら、語順の問題など構文を研究します。

テキストは三田生協で購入のこと。

テキスト：

- ・「中級へのステップアップ—副文中心」
神竹道士編著 白水社 1700円

ドイツ語速習 (初級) (春)(秋)

講師 ヌルヌス, トルステン

授業科目の内容：

水2 (春) (秋)

ドイツ語を全くはじめて学ぶ受講者を対象とします。テキストには特定の本を使用せずコピーを配ります。会話体の文を中心にドイツ文法の理解と、Dialogが聴き取れるように訓練します。

テキスト：

コピーを使用

ドイツ語速習 (中級) (春)(秋)

講師 ヌルヌス, トルステン

授業科目の内容：

水1 (春) (秋)

会話を中心とした文を聴いたり、読んだりしながら、Hörverstandnis (聴解) と Leseverstandnis (読解) の練習をしていきます。テキストは特定の本を使用せずコピーを配ります。

課題として、短い文を自分で綴る練習を何回か実施します。

テキスト：

コピーを使用

フランス語第Ⅴ (春)(秋)

フランス語文献講読

専任講師 大出 敦

授業科目の内容：

フランス語で書かれた文献の速読を目指します。テキストは、現代作家パスカル・キニャールが書いた17世紀を舞台にした音楽家の小説『音楽のレッスン』です。一冊の本を読み通すことで、フランス語に対する自信をつけ、同時にフランス語の統辞法の正確な把握を目指します。

テキスト：

- ・ Pascal Quignard: *La leçon de musique*, Gallimard (Folio 叢書), 2002.

フランス語第Ⅴ (春) (秋)

講師 ヴァンシンテヤン・ディオ, カトリーヌ

授業科目の内容：

この授業の目的は聴取力と表現力を培うことである。教材としては、最近テレビで録画された番組 (ニュース, 映画等) のビデオを使用する予定である。

テキスト：

なし。プリントを配ります。

フランス語第Ⅴ (春) (秋)

講師 シュドル, フローレンス容子

授業科目の内容：

今までフランス語の基礎を学んだ人を対象に、フランス語基礎会話の能力をたかめることが本講義の目標です。教材として、新聞、雑誌記事、写真、映画等の抜粋を使用しながら解説をします。

テキスト：

特に使用いたしません。必要に応じてコピーを配布いたします。

参考書：

特になし。

フランス語インテンシブ (春)(秋)	教授 井田 三夫
	助教授 笠井 裕之
	専任講師 アンリ, ナタリー
	専任講師 大出 敦
講師 ヴァンシンテヤン・ディオ, カトリーヌ	
講師 シュドル, フローレンス容子	
講師 日佐戸 ミッシェル	

三田のフランス語インテンシブ・コースは原則として、1, 2 年次に日吉のインテンシブ・コース (週 4 コマ) を履修した諸君の上級用クラスとして設置されていますが、3 年次または 4 年次から新たに受講を希望する学生も履修することが出来ます。

全体で 8 クラス設けられており、(a) ネイティブ教師担当、(b) 日本人教師担当となっています。卒業単位として認定を受けるためには、この 8 コマの中から 3 コマ以上 (時間割の許す限り 4 コマの履修が望ましい) 履修する必要があります。なお、設置の 8 コマはすべて異なるテーマ・教材を使用するため、同一担当者の授業を 2 コマ履修することも可能です。講義要綱、時間割、最初の授業でのガイダンスなどを参考にして、自らの関心に則した履修をはかってください。

〔個別の授業内容および教材〕

(a) グループ

アンリ, ナタリー 担当

授業科目の内容：

この講座の主たる目的は、聴き・話すことの訓練です。学生自身が選んださまざまなテーマについて発表し合い討論などができたらと考えています。必要に応じて単語学習や和文仏訳などもとり入れ、バランスのとれたコミュニケーション能力の養成をめざします。なお、テキストはとくに用いず、必要に応じてコピーを配布します。

ヴァンシンテヤン・ディオ, カトリーヌ 担当

授業科目の内容：

この授業の目的は聴取力と表現力を培うことである。教材としては、最近テレビで録画された番組 (ニュース, 映画等) のビデオを使用する予定である。

テキスト：

なし。プリントを配ります。

シュドル, フローレンス容子 担当

授業科目の内容：

すでにフランス語の初級レベルを終了した学生を対象にして授業を進めたいと考えています。授業の中ではアップ・トゥ・デートな問題も取り入れながら、特にフランス語でのコミュニケーション能力を高めることを目標にしたいと考えています。

テキスト：

特に使用いたしません。必要に応じてコピーを配布いたします。

(b) グループ

井田 三夫 担当

授業科目の内容：

昨年度に続き、各種のジャーナリズム文、たとえば『ル・モンド』、『ル・モンド・ディプロマティック』、『ル・フィガロ』、『レクスプレス』、『ル・ヌーヴェル・オブセルヴァートル』といった新聞・雑誌からフランスのアップトデートな経済・政治・社会・文化にかかわる記事を主として講読し、時々現代女流作家で文芸評論家でもあるクリスティヤヌ・サンジェール Christiane Singer (1943 年～) の代表的小説でカミュ文学賞を受賞した『魂の物語』 Histoire d'âme の抜粋を読み、読解力と表現力の基礎の習得をめざします。

テキスト：

なおジャーナリズム教材は随時、配布しますが、クリスティヤヌ・サンジェールの小説の抜粋テキストは、プリントして最初の授業時に配布します。

笠井裕之 担当**授業科目の内容：**

精確な読解能力を養うことを目的として、フランスの現代小説・エッセイを講読する。はじめのうちはゆっくり確実に、徐々に読む速度を上げていく。当然のことながら、毎回、全員が準備してくることを望む。使用テキストは受講者の希望を聞いた上で初回に指示する。

大出敦 担当**授業科目の内容：**

ポール・クロードルというフランス象徴主義の掉尾を飾る詩人は、大正から昭和初期にかけて駐日フランス大使として来日した外交官でもありました。彼がフランス首相や外務大臣に宛てた外交書簡が現在、残されています。この書簡集の講読を通じて以下のような点についての考察を深めてください。(1) 当時のフランスの外交政策はどのようなものだったか。(2) 日本の文物がこの詩人に及ぼした影響はどのようなものだったか。(3) フランス語による外交・政治用語の語彙や特徴的な表現の習得。

テキスト：

・ Paul Claudel: *Correspondance diplomatique TOKYO 1921-1927*, Gallimard, 1995.
なお、テキストはコピーで配布します。

日佐戸 ミッシェル 担当**授業科目の内容：**

Travail et discussion sur des articles de presse.

テキスト：

Photocopies d'articles de journaux et magazines

中国語インテンシブ (春)(秋)

中国時事	専任講師 (有期)	馬 燕
	講師	松下 淑子
	講師	須山 哲治

授業科目の内容：

本授業は、改革開放後の中国に関する映像を素材に、現在の中国の社会現象や庶民の生活の変化などについて、討論する形で進めていく方針で、受講者が中国語で「自己主張」する能力を鍛えたいと思います。

テキスト：

・自編 (プリント配布)、場合により内容が変わる可能性もある。

スペイン語第 V (春)(秋)

スペイン語歌謡の聞き取りと解釈と鑑賞
講師 中山直次

授業科目の内容：

1. 毎回、スペインやラテン・アメリカの歌謡を聴いて、歌詞を聞き取ります。
2. 歌詞の内容を解釈します。歌といえども、詩の一種ですから、時には訳に凝りましょう。
3. 授業は、常に対話形式で進めます。ということは、「応答を求める」ということです。
4. 特定のテキストはありませんのでコピーを配りますが、時に板書も併用します。
5. 評価は、定期試験でなく平常点によりますが、それには出席のほか上記の「応答の状況」も加味します。
6. 楽しみながら言語力を深めることを念頭において進めますので、結果として、大きな収穫や進歩もあり得ますが、人によっては大きな無駄になることもあり得ますので、念のために付言しておきます。

テキスト：

プリントを配布します。

参考書：

特に使用しません。

スペイン語第 V (春)(秋)

(春学期) スペイン語演習 (中・上級レベル)
(秋学期) ラテンアメリカ世界を読む

講師 柳沼孝一郎

授業科目の内容：

〔春学期〕 下記の学習事項の演習を通してスペイン語の文構造、語法を学び、表現力および語彙力を養います。

- 1) 直説法の用法と時制 (現在・過去・未来・完了時制など)
- 2) 再帰動詞の用法
- 3) 無人称表現
- 4) 接続法の用法
- 5) 新聞記事の読解 (適宜)

〔秋学期〕

!Vamos a viajar por America! (ラテンアメリカの旅, 全24課) の平易なスペイン語文の読解を通して、ラテンアメリカの歴史 (マヤ、アステカなどのメソアメリカ文明、ナスカ、インカなどのアンデス古代文明、スペイン植民地支配時代、独立革命、近代化と従属化の構造、国民国家の形成、現代ラテンアメリカの諸問題など)、文化 (インディヘナ文化、融合文化など)、社会 (多民族社会、多元文化社会など)、政治・経済 (地域統合など)、日本とラテンアメリカの関係 (移住関係、経済貿易関係など) などについて、適宜、ビデオを観ながら、解説をくわえ授業を進めます。

〔到達目標〕

文部科学省認定「スペイン語技能検定試験」(春・秋2回実施) 3級 (英検準1級レベル) 取得を一応の目標に設定し、2級 (英検1級) 取得を目指します (2級および1級の出題形式は西文和訳、和文西訳のみです)。

さらに、日本とメキシコ両政府の「日墨政府交換留学生」(8月出発、翌年7月帰国の1年間) を目指します (希望者には受験指導します)。

テキスト：

春学期、秋学期ともにプリント (適宜、配布) を使用します。

参考書：

適宜、紹介します。

スペイン語第 V (春)(秋)

スペイン — 歴史物語から学ぶスペイン語
講師 仲道慎治

授業科目の内容：

スペインの歴史に関する物語風なテキストを読むことで、スペイン語学習だけでなくスペイン史やスペイン文化も同時に学習する。春学期は主に精読し構造の確認と理解を促す。秋学期は学習者のレベルに応じて可能であれば「総合的リーディング」と呼ばれているアプローチによって内容把握への焦点の移行を行う。

- I. 「イベリア半島のローマ化からエル・シッドまで」
- II. 「カトリック両王・新大陸との出会いからヌエバ・エスパーニャまで」

歴史を単に知ることで終わるのではなく、各時代を想像し歴史的人物がその時代にどのように考え行動したかを思索する。

テキスト：

・西川、ブエブラ共著、『スペイン — 歴史を訪ねて』、第三書房、2003年。

スペイン語インテンシブ (春)(秋)

	専任講師 (有期)	齋藤 華子
講師		アルバレス・クレスポ、ヘスス・カルロス
	講師	本谷 裕子
	講師	丸田 千花子

スペイン語インテンシブコースは週4コマ開講し、なるべく三田での2年間で4コマ全てを履修してください。三田のインテンシブコースは日吉で学んだ語学の基礎をいよいよ生かす場であり、ここ

共通

でスペイン語学習を放棄してしまうのでは、日吉での苦労が無駄になってしまいます。時間割の都合でインテンシブの授業が履修できない場合にも、スペイン語第Ⅴや政治学科の系列科目である文献講読に参加して、是非スペイン語学習を継続してください。なお、日吉でのインテンシブコースを履修していない学生や他学部の学生も履修可能ですが、各担当者に了解を得てください。

齋藤華子 担当

授業科目の内容：

近年関心の高まりつつあるスペイン語検定試験受験のための準備クラスです。これまでに習得したスペイン語力を試す機会として、検定3級（または4級）取得を目指します。文法事項の総復習、短文や長文の和訳・西訳等を通し、読解力や表現力の向上、語彙の増加を目標とします。日常会話表現だけでなく、時事的な話題も多く取り上げる予定です。

テキスト：

・プリントを配布します。

アルバレス・クレスポ、ヘスス・カルロス 担当

授業科目の内容：

El objetivo fundamental de este curso consiste en afianzar la capacidad oral y conseguir un cierto nivel de fluidez en la conversación mediante la práctica diaria, discutiendo los temas que vayan apareciendo en clase. Se repasarán conceptos, estructuras y vocabulario, y se pondrá énfasis en el conocimiento no sólo del idioma, sino también de la cultura española.

テキスト：

・Fotocopias（プリント）

本谷裕子 担当

授業科目の内容：

1年次に身につけたスペイン語の文法力をもとに、スペイン語で書かれた様々な文章を読んでいきます。その手始めとして、まずは私たち日本人の文化をスペイン語圏の人々に紹介できるよう「Vamos a hablar de Japón」というテキストを読むことにします。この授業は予習が欠かせません。必ずテキストに目を通したうえで授業にのぞむこと。また授業の際には必ず辞書を持ってくるように。みなさんの意欲に期待します。1年間、頑張ってください。

テキスト：

・「Vamos a hablar de Japón（日本について話そう）」芸林書房

丸田千花子 担当

授業科目の内容：

この授業では、様々なジャンルのテキストを読み、スペイン語の読解を高めること、スペイン語圏の文化を理解することを目的としています。春学期はラテンアメリカ、秋学期はスペインをテーマとします。テキストはあらゆるジャンルのものを読みます。（短編、歴史書、文化に関するエッセイ、新聞、歌詞、絵画の解説、映画の評論など）。

西検上級レベル、DELEに挑戦できる下地を作るとともに和訳のテクニックも磨きます。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

ロシア語インテンシブ（春）（秋）

講師 東井 ナジェージュダ

講師 宮澤 淳一

講師 熊野谷 葉子

授業科目の内容：

週四回の授業を有機的に関連させ、ロシア語の実力を向上させることを目的としています。出来るなら週四回の授業を受けることが望ましいと思いますが、三コマの受講も可能です。三年次から、また四年次からの受講も大いに歓迎します。少人数のアットホームな雰囲気の中でロシア語の力をつけましょう。ともかく楽しくロシア

語を習得できるよう、またロシアの現状なども理解できるような授業を行うつもりです。

ネイティブスピーカーの東井が週二回の授業を担当します。ロシア人と議論が行えるレベルに会話力をアップさせることを目指します。教科書は慶應義塾大学外国語学校の『ロシア語会話』を使います。また、それに加えて日本語の新聞などをロシア語に訳し、それを基にした会話の練習を行います。日常会話を卒業して、高度なレベルに会話力を高めることが目標です。

東井の授業に関連して、宮澤の時間では、困難な文法事項の確認と、それらを運用できる力の養成、そして和文露訳や自由な作文の授業を行います。「完了体と不完了体」、「前置詞」、「形動詞」などの用法の習熟を図りながら、露作文の実力のアップを目指します。

熊野谷の時間では、春学期にはビデオ教材を使った授業を行い、「聞き取る力」のアップに努めたいと思っています。教材は『モスクワの七つの散歩』編を使います。秋学期にはNHKの衛星放送で流されているロシアのテレビ局、PTPのニュースなども使います。ただし単語のリストやテープなどは用意しますので、それほど困難ではないでしょう。参加希望者の実力によっては、専らテープを聞く事によって「聞く力」を高める授業となる可能性はあります。

いずれにしてもロシアの現状を中心的な題材としながら、三人の講師は授業を相互に関連させ、それによって主に会話の実力がつくよう考えています。

さらに具体的な授業の進め方、教材などについては一回目の授業で説明します。

朝鮮語第Ⅴ（春）（秋）

韓国語で話そう！

講師 韓 晶 恵

授業科目の内容：

- ・聞き取り・発言・読解などをもって授業時間中は会話練習を主な内容とします。
- ・会話力向上のための基本的な力を身につけることが本講義の目標です。
- ・学習者の朝鮮語での発言意欲を積極的に促進し、支援します。
- ・韓国文化や映画などが理解できるようになります。

テキスト：

特に指定しません。

講義資料プリントを配布します。

参考書：

・『朝鮮語辞典』

ラテン語（中級）（春）（秋） 教授 マクリン、ニール B.

授業科目の内容：

This is an intermediate course, where we will begin reading simple Latin texts, and will aim to proceed during the course of the year to extracts from classical literature. The class will be conducted in Japanese, but it would be helpful if students have a little English (or, at least if they are not afraid of English).

ポルトガル語Ⅴ（中級）（春）（秋）

ブラジルのことば

講師 日向 敦子ノエミア

授業科目の内容：

〔春学期〕

日本に来ているブラジル人就労者向けの、ポルトガル語で書かれた週間新聞を読みます。最初は、スポーツ、家庭、社会欄等から始めて、徐々に経済欄、政治欄が読めるようになります。

また、新聞記事を読んで訳した後、ディスカッションも試みて、読解力と会話力が同時に身に付く授業を目指します。

〔秋学期〕

ブラジルの総合雑誌「Veja」の法律、政治、経済欄の記事を読み、訳し、それについてディスカッションをします。ポルトガル語の読解力と会話力が同時に身につく授業を試みます。また、文法問題もその都度指摘し、説明します。

テキスト：

プリントにし、初日に配布します。

辞書は、『現代ポルトガル語辞典』（白水社）がよいでしょう。あるいは、『ローマ字ポ和辞典』、『ローマ字和ポ辞典』（柏書房）も、例文が多いため、参考になると思います。

ポルトガル語 VI (上級) (春)(秋)

ブラジルのことば 講師 日向 敦子ノエミア

授業科目の内容：

[春学期]

日本の大正時代を生きたポルトガル人の随筆家 Wenceslau de Moraes の日本文化についての随筆を読み、訳し、ディスカッションをします。読解力と会話力が同時に付く授業を試みます。

[秋学期]

ブラジルにおける日系移民社会を分析した、社会学的な著書 *Estrutura Familiar e Mobilidade Social* (日本語訳：『家族構造と社会的移動性—サンパウロ州に在住する日本人に関する研究』) の、2003 年度とは違う箇所を読み、訳し、それについてディスカッションをします。ポルトガル語の読解力と会話力が同時に身に付く授業を試みます。この著書は、比較的易しいポルトガル語で書かれている上に、二宮正人先生の日本語訳付きです。

テキスト：

プリントし、最初の授業で配ります。

辞書は、『現代ポルトガル語辞典』（白水社）あるいは『ローマ字ポ和辞典』（柏書房）が、参考になると思います。

イタリア語第 V (春)(秋)

イタリア語講読 講師 町田 亘

授業科目の内容：

イタリア語文法の知識を深め、さらにイタリア社会の諸側面を知るために原書の講読を行う。

今日のイタリアを理解するために、イタリアの新聞、雑誌等から記事・章節を抜粋し、講読する。

テキスト：

プリント

参考書：

・長神 悟『イタリア語の ABC』（白水社）

【人文科学科目】

人文科学研究会 I・III (春)

人文科学研究会 II・IV (秋)

Lady Chatterley's Lover と 20 世紀イギリス文化史
(1920 年代, 1960 年代, 2000 年代)

教授 武藤 浩史

授業科目の内容：

20 世紀イギリスの最も重要な小説の 1 つである D. H. Lawrence の *Lady Chatterley's Lover* をみんなで意見を交換しながら読んでゆくことを通して、戦争、階級、メディア、ジェンダー、セクシュアリティ、感覚、シニシズムなど、20 世紀イギリス（そして先進国）文化を特徴づけるさまざまな問題を考えてゆきたい。小説の書かれた 1920 年代、小説が大ベストセラーとなりイギリスで「文化革命」が起きた 1960 年代、そして今われわれが生きている 2000 年代が議論の中心になるだろう。ある種の小説読解が、重要な歴史的諸問題を掘り下げて考える上で、情のおよび知的の両面から有効な手立てとなり得ることを証明したい。

人文科学研究会 I・III (春)

人文科学研究会 II・IV (秋)

イギリス地域文化研究

教授 太田 昭子

授業科目の内容：

ヴィクトリア朝イギリス社会の諸側面を、多角的に分析します。ともすれば現代に関心が集中し、歴史的視野がなおざりにされがちな傾向がありますが、現代そして今後の展望を論じる上で理解の不可欠な 19 世紀に敢えてスポットライトをあて、受講生のプレゼンテーションや議論を通じ、イギリス社会への理解を深めたいと考えています。映像資料なども随時使う予定です。

テキスト：

特定の教科書は使用しませんが、参加者全員が読むべき論文などは、必要に応じ指定するかプリントにして配布します。

参考書：

参考文献表を随時配布します。

人文科学研究会 II・IV (秋)

アメリカン国主義の検証～その文化的意味づけをめぐって
教授 鈴木 透

授業科目の内容：

9.11 以降のいわゆるネオコン（ネオコンサーヴァティズム）の台頭に伴い、アメリカの対外姿勢は一国主義的な傾向を強めてきている。この授業をしている 2004 年秋には、大統領選挙が行なわれるが、その選挙は、ある意味では、アメリカ国民がそうした一国主義に対してどのような判断を下すかが一つの焦点といえる。

そこで、この授業では、大統領選挙の動向と結果を視野にいれつつ、アメリカにおける一国主義的傾向の持つ意味を、文化史的視野から考察する。主要な論点は以下の二つである。

[対外の一国主義と国内の多文化主義との矛盾]

他国を軽視する強硬な外交姿勢と、国内において 90 年代以降高まっている、他者の立場を尊重しようとする多文化主義の精神とは、実は矛盾するのではないか。こうした矛盾を、果たしてアメリカ社会はどう処理できるのか。それとも、こうしたダブル・スタンダードを、かつての人種差別の時と同じように、アメリカは使い分けようとしているのか。もしそうなら、それは、アメリカ社会にどのような歪みをもたらす可能性を秘めているのか。授業では、現代アメリカにおける対外的な一国主義と国内の多文化主義の奇妙な並存状況の持つ意味を、今後のアメリカの動向を展望しつつ検討する。

[一国主義の源泉]

現在のアメリカに見られるような一国主義と多文化主義の並存状況は、確かに奇妙ではあるが、歴史的視点に立つなら、そもそもアメリカには孤立主義の伝統の強かった風土があり、他国との協調に決して最初から積極的だったわけではない。とすれば、そうした孤立志向（よくいえば自己信頼）は、ここへきて急に登場したものというよりは、実はあたかも地下水脈のようにこの国に受継がれてきているという見方もできる。もしそうなら、こうした一国主義の孤立的傾向は、純然たる外交問題の一時的な産物というよりは、むしろこの国の文化・社会の特質や伝統の一端を示しているのではないだろうか。そこで、授業では、一国主義をアメリカにおける孤立志向というべき文化的風土の系譜の中に位置づけ、アメリカの対外姿勢と国内の文化的伝統との関連性を考察する。

テキスト：

授業で取り上げる文献は、多岐にわたるので、配布方法も含めて、履修者と相談の上、追って指示する。

参考書：

・鈴木透『実験国家アメリカの履歴書』（慶應義塾大学出版会、2003）

人文科学研究会 I・III (春)
人文科学研究会 II・IV (秋)

〈ことばと意味〉

教授 小屋 逸 樹

授業科目の内容：

単語や文の意味に関する諸問題を取り上げます。言語は、意味を音声や文字などによって伝えることを最低限の機能として有していますが、この授業では「意味と指示」「意味関係」「意味と文法」等の意味論に属するテーマを幅広く議論します。英語のみならず、日本語やその他の言語にも積極的に言及します。

演習形式の授業のため、受講希望者が多い場合は人数制限をします。必ず最初の授業に出席してください。

テキスト：

・池上嘉彦編「テイクオフ英語学シリーズ3 英語の意味」(大修館書店、¥1,648)

人文科学研究会 I・III (春)
人文科学研究会 II・IV (秋)

芸術と社会— ヴィクトリア朝を中心に

教授 横山 千 晶

授業科目の内容：

芸術作品は、作者や文化の社会思想を伝えるひとつのメディアとして私たちの社会の中に存在しています。しかしそのような芸術の役割は、どのような形で発達し、私たちの生きる20世紀、21世紀に伝えられることになったのでしょうか。

この講義では、世界に先駆けて大規模な機械による生産体制を導入した19世紀のイギリスに焦点を当て、そのような社会状況の中で新しく台頭してきた芸術の意味とその社会との関わりを人々がどのようにとらえ、発展させていったのかを考えてみたいと思います。めまぐるしく変わりゆく価値観や倫理観の中で、芸術家たちはどのように自分たちの足場を築こうとしたのか、そして作品をどのように個人の社会観の表現の場として活用していったのでしょうか。同時に消費者は、どのような芸術を嗜好し、いかに芸術作品を社会思想を表す媒体として読み取っていったのかを考えてみたいと思います。ここでは創る側と鑑賞する側、使う側がしっかりと協力し合って新しい芸術創造の場を確立していったとも言えるでしょう。彼らの活動や思想が、広く私たちの芸術観の基本となっているといっても過言ではないのです。その様子をとともに見ていくことにしましょう。

テキスト：

なし。重要な文献に関しては随時紹介します。

参考書：

授業の中で紹介します。

人文科学研究会 I・III (春)
人文科学研究会 II・IV (秋)

教授 井上 逸 兵

授業科目の内容：

「言語」、「コミュニケーション」、「社会」、「文化」などを扱う諸分野のいくつかの議論を通して、人文科学とは何かを問うてみたい。主として社会言語学、言語人類学、語用論などの分野で論じられているトピックを中心に扱うことになるだろう。社会科学との関わりについてもふれる。授業の形式は受講者との相談の上で決めるが、毎回1～2名が発表し、それについて議論する形ですすみたい。

テキスト：

なし

参考書：

授業中に指示する

人文科学研究会 I・III (春)
人文科学研究会 II・IV (秋)

アメリカ文化研究

助教授 奥田 暁代

授業科目の内容：

演習形式でおこなうアメリカ文化研究の授業です。今年度は、アメリカの歴史をさまざまな視点から読み解いていくことをテーマに、さまざまな歴史書を取り上げていく予定です。とくに、ハリウッド映画に焦点をあてて、さまざまな歴史(とくにマイノリティーの物語)がどのように描かれてきたかみていきたいと思っています。

講義・討論だけでなく、学生による発表も考えています。テキスト・参考書は授業中に指示しますが、取り上げる文献として以下のものを検討しています。

- ・猿谷要『歴史物語アフリカ系アメリカ人』(朝日選書2000年)
 - ・富田虎男『アメリカ・インディアン史 第3版』(雄山閣出版1997年)
 - ・明石紀雄・飯野正子『エスニック・アメリカ(新版)』(有斐閣1997年)
 - ・C・V・ウッドワード『アメリカ人種差別の歴史』(福村出版1998年)
 - ・ジェームズ・リッジウェイ『アメリカの極右』(新宿書房1993年)
- 映像は数多く取り上げますが、例として以下のようなものも考えています。ほかにもドキュメンタリーもみる予定です。
- 『国民の創生』(1915年)
 - 『モヒカン族の最後』(1920年)
 - 『風と共に去りぬ』(1939年)
 - 『夜の大捜査線』(1967年)
 - 『カラー・パープル』(1985年)
 - 『背信の日々』(1988年)
 - 『ダンス・ウィズ・ウルブズ』(1990年)
 - 『ライジング・サン』(1993年)
 - 『ジェロニモ』(1994年)
 - 『ボカホントス』(1995年)
 - 『アメリカン・ヒストリーX』(1998年)
 - 『ベター・ラック・トゥモロウ』(2002年)

人文科学研究会 I・III (春)
人文科学研究会 II・IV (秋)

芸術と文学から見たドイツ語圏とヨーロッパ

教授 岩下 眞好

授業科目の内容：

基本テーマにもとづき、「ドイツ語圏の19世紀末と20世紀の芸術と文化」という個別テーマをいちおう設定する。今年度は両大戦間のベルリンの文化情況を取り上げたいと思っているが、具体的な内容は受講者の個別の問題意識に応じて設定し、講義、検証(写真、CDその他)、研究報告、討論、見証などを折りまぜて進める。文学、音楽、造形芸術、建築、哲学など、幅広い分野を適宜取り扱う。対象への受講者の積極的な関心を期待する。

参考書：

その都度指示する

人文科学研究会 I・III (春)
人文科学研究会 II・IV (秋)

「星の王子さま」を4カ国語で鑑賞する試み

人文科学研究会 II・IV (秋)

「星の王子さま」を5カ国語で鑑賞する試み

助教授 齋藤 文雄

授業科目の内容：

フランスの作家サン・テグジュペリ Antoine de Saint-Exupéry の「星の王子さま」Le Petit Prince をフランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、さらに秋学期にはポルトガル語も加えて読み合わせるにより、他言語・他文化への目を開く契機を与えることを目指す。担当者自身の語学力は、フランス語 niveau avancé (université de Savoie) イタリア語 livello Avanzato (Società Dante

Alighieri-Comitato di Siena) スペイン語 nivel Avanzado (Universidad de Salamanca) である。ポルトガル語は今年秋学期開始時点で学習歴丸1年(8月にリスボン大学にて1か月語学研修予定)と浅い。しかし学生諸君と共に切磋琢磨しながら学び続けていきたいと考えており、意欲ある諸君を歓迎したい。

授業形態は、毎回可能な限り出席者全員に訳読をしてもらい、平常点とレポートにより成績評価を行う。今年度は一応の目安として、I(春) XI-XIII章、II(秋) XIV-XV章を読む予定である。

テキスト:

- ・(仏) Le Petit Prince (Collection folio/Gallimard), 900円(予備)
- ・(独) Der kleine Prinz (Karl Rauch Verlag), 900円(同)
- ・(伊) Il piccolo principe (TASCABILI BOMPIANI), 1000円(同)
- ・(西) El principito (El libro de bolsillo 348), 900円(同)
- ・(ポ) O Principezinho (Caravela), 1400円(同)

参考書:

- ・(英) The Little Prince (A Harvest Book/Harcourt Brace & Company)
- ・(日) 星の王子さま (岩波書店)

〈注〉自分の選択する言語のテキストは各自購入することが望ましいが、他言語については随時コピーを配布する。

人文科学研究会 I・III(春)

人文科学研究会 II・IV(秋)

ドイツとヨーロッパ, そして日本の言語政策(続)

助教授 三瓶 慎一

授業科目の内容:

21世紀最初の年2001年は「ヨーロッパ言語年」として位置づけられ、欧州連合全体でさまざまな啓蒙的な催しが行なわれた。特筆すべきは、共通通貨Euroの導入に匹敵するほどの興味深い実験が、言語についても行われつつあることである。

各言語の能力を共通の指標で計り、移住、学習・教育、就職など、様々な局面で役立てようというのである。また同時に、各話者に個別の、文化的に異なる言語経験を自覚化させて、多言語性を維持しようという試みでもある。

このゼミでは、昨年度に引き続いて、こうしたヨーロッパにおける新しい枠組みを概観した後、特にドイツにおける言語政策について歴史的な経緯も視野に入れて研究する。さらにアジアにおける日本の言語政策とも比較することによって、今後の日本における外国語教育のとるべき方向性についても検討を加えたい。

教材資料:

- ・Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen: lernen, lehren, beurteilen. (2001, Langenscheidt), その他、数点の論文。

参考書:

授業時に指示する。

人文科学研究会 I・III(春)

人文科学研究会 II・IV(秋)

ニーチェのことなど

助教授 許 光俊

授業科目の内容:

みなさん(^o^)/これはニーチェが何を語ったかについて懇切丁寧に教えてもらえる授業ではありません(^-^)。道徳って? 正義って? 社会って? ニーチェの著作を出発点にしてあれこれ(たらたらとも言います)考える時間です。ですから、明確な行き先もありません。強いて言えば、普通の人が考えないことまで考えたり、疑っていないことを疑う(悪)癖がつかうかもしれません。それがあなたの人生にとってよいことかどうかはわかりません。もしかしたらあなたはそれによって不幸になるかもしれない。友人や恋人を失うかもしれない(^-^)。逆に、うまくすると「ニーチェがさあ」とインテリぶることはできるようになるかもしれません(^.^)。もしかしたらあなたはそれのおかげで幸福にならないとも限らない\(^O^)/。さて?

人文科学研究会 I・III(春)

人文科学研究会 II・IV(秋) 専任講師 アンリ, ナタリー

授業科目の内容:

この講座の主なる目的は、フランス文化、社会をもっと深く研究することです。学生自身がテーマを選んで、それについて研究し、発表したいと考えています。テキストはとくに用いず、必要に応じてコピーを配布します。なお、この科目は、日吉のフランス語第IV(A1)取得済の者、あるいはフランス語圏の国での滞在経験(6ヶ月から)のある者のみ履修が可能です。

人文科学研究会 I・III(春)

人文科学研究会 II・IV(秋)

助教授 大久保 教 宏

授業科目の内容:

ラテンアメリカ、カリブ海地域に関して学べる場は少ないでしょうから、細かいことは言いません。これらの地域に関することなら何でも見ていこう、というのがこの授業の求めるところです。具体的には、各参加者の関心に沿った文献を講読しながら、ラテンアメリカ、カリブ海地域に関する理解を深めます。アルゼンチンの国家遺産の問題、ドミニカ共和国における日本人移民の窮状の問題、返還後のパナマ運河の問題、あるいはメキシコのプロレスにはなぜ覆面レスラーが多いのか、マクドナルドが撤退した後のボリビアのファーストフード事情など、どのような関心事でも構いません。文献は日本語のものを多読する方針ですが、英語、西語、葡語、仏語、蘭語、マヤ語、ケチュア語でも結構です。秋学期には各自の関心を深めた上での研究発表も行ってもらおうつもりです。

人文科学研究会 I・III(春)

人文科学研究会 II・IV(秋)

中国の軍事と安全保障

助教授 安田 淳

授業科目の内容:

少人数のゼミ形式で、主として中国の安全保障を勉強する。取り上げる題材として中国人民解放軍はもちろんのこと、中国の領土問題やエネルギー問題、人口問題、治安問題、交通問題、さらに周辺諸国との関係など、中国の安全保障に関わるならば履修者諸君の関心や希望を広く取り入れたい。

テキスト:

授業中に指示する。

人文科学研究会 I・III(春)

人文科学研究会 II・IV(秋)

ドストエフスキーを読む

教授 山田 恒

授業科目の内容:

今年度はドストエフスキーの「カラマーゾフの兄弟」を読みます。作家の最後の作品であり、最も優れた作品であることは論を待ちません。また現在の日本でも様々な議論が可能ほど、内容と構成は極めて現代的です。作品の思想、また構造を中心に読み解く予定です。

ドストエフスキー小説の構造分析は、現代思想の源流ともなったロシア人文科学の成果ですので、その点にも留意して、読み進めたいと思っています。

彼の思想も同様に現代でも全く色あせていません。ただ他の作品(例えば無神論なら「悪霊」)にもある程度ふれることになります。

極めてロシア的な作品であり、フォークロアなどにも注意して読み進めましょう。

授業は作品を読んでいることを前提に進め、活発な議論を展開できるようにしなければならぬと考えています。

ドストエフスキーという極めてロシア的な作家の作品を読む中で、ロシア文化の理解を深めることが目標です。

テキスト:

- ・新潮文庫「カラマーゾフの兄弟」、授業開始時点までに用意してください。

共通

参考書:

・バフチン, シクロフスキー, また他の研究書などがありますが、授業中に紹介します。

人文科学研究会 I・III (春)

人文科学研究会 II・IV (秋)

ヨーロッパ舞台芸術論 教授 平林正司

授業科目の内容:

オペラ・バレエ・演劇・音楽作品など、劇場で上演される芸術を研究する。ヨーロッパの近・現代が中心になる。履修者は、芸術家・芸術作品などに関して、独自のテーマを決め、研究発表し、学期末にレポートにまとめて提出する。

テキスト:

未定

参考書:

未定

〔自然科学科目〕

自然科学特論 I (春)

多様な現象と力学法則の関連 講師 吉澤 徹

授業科目の内容:

高校で学習した力学の初歩的な知識の復習から始め、さまざまな現象を理解することをめざします。本講義では、力学の基本法則の理解を深めるために、流れに密接する身近な事象や力学に関連する地球ないし天文学的現象を取り上げ、直感的な見方をごく初等の数学で補いながら進みます。

テキスト:

特にありません。

参考書:

適宜紹介します。

自然科学特論 II (秋)

磁場まつわる自然科学現象 講師 吉澤 徹

授業科目の内容:

自然科学現象には、力学的性質と電磁気学的性質が絡みあったものが少なくありません。本講義では、自然科学特論 I で解説された力学の知識に加え、高校で学習した電磁気学の初歩的な知識の復習から始め、直感的な見方をごく初歩的な数学で補いながら、地球ないし天文学的現象を考察します。

テキスト:

特にありません。

参考書:

適宜紹介します。

自然科学特論 I (春)

講師 長谷川 敬

授業科目の内容:

情報受容およびヒューマンインターフェースをキーワードに、環境とヒトとの関係を視聴覚情報を中心に実験心理学、神経生理学の立場から紹介し、ヒトの基礎的特性の理解と他科学分野との接合についての幅広い視点の涵養に資する。また、ものの評価についての知見と技法などについても言及したい。同名講義の I は基礎とし、II はそれに基づく応用を手とする。

テキスト:

指定しない。

参考書:

適宜呈示する。

自然科学特論 II (秋)

講師 長谷川 敬

授業科目の内容:

情報受容およびヒューマンインターフェースをキーワードに、環境とヒトとの関係を視聴覚情報を中心に実験心理学、神経生理学の立場から紹介し、ヒトの基礎的特性の理解と他科学分野との接合についての幅広い視点の涵養に資する。また、ものの評価についての知見と技法などについても言及したい。同名講義の I は基礎とし、II はそれに基づく応用を手とする。

テキスト:

指定しない。

参考書:

適宜呈示する。

〔数学・統計・情報処理科目〕

〔数学系列〕

数学 V (春), VI (秋)

行動科学における数学 講師 松岡勝男

授業科目の内容:

数学は、自然科学、工学はもとより、社会科学、人文科学におけるいろいろな現象の解明のための基本的な道具としての役割を果たしている。そこで、テーマとしては、

- (1) 現代数学の最も重要な基礎をなし、哲学や論理学の現代化にも著しい影響を与えている「集合論」
- (2) 確率論をはじめとして、物理学、工学、統計学、制御理論、学習理論、OR など、非常に広汎な分野に現れる「エントロピーとマルコフ連鎖」
- (3) 経済、社会、政治などで現れる競争状態の数学的モデルを扱う「ゲームの理論」

などについて、適宜選択の上、「行動科学における数学」という立場から講義する。

テキスト:

特に指定しません。

〔統計系列〕

統計学 III (春)

推測統計学入門 講師 望月 要

授業科目の内容:

この授業では確率分布や統計的検定の基本的な概念の説明から始め、推測統計の基本的な考え方や技法を初心者向けに講義する。複雑な数式や数学的議論には立ち入らず、「文系の統計ユーザ」のための授業を行うが、特定のコンピュータ・ソフトウェアの使い方やハウツー的な知識ではなく、統計手法の基礎にある考え方や原理を理解することを目指す。受講者は、記述統計学の初歩的知識を有することが望ましいが、学期当初の授業で必要な部分については簡単な復習を行う。また参考書を利用して独学で補うことは十分に可能である。主なテーマは「授業計画」に挙げたものを予定しているが、受講者の希望により変更が可能である。要望があれば、初回授業の際に相談したい。

テキスト:

特に指定しない (配布資料に沿って授業を行う)。

参考書:

・鷲尾泰俊 1983 日常のなかの統計学 岩波書店 (ISBN 4-00-007636-1)。

他にも初回ガイダンス時に紹介する。

統計学Ⅵ(秋)

多変量解析入門

講師 望月 要

授業科目の内容:

この授業では多変量解析法と呼ばれる統計手法について初心者向けに講義する。授業では“データの解析”よりも“現象の解明”に重きを置く。多変量解析はコンピュータ処理が前提となるが、この授業は特定の解析ソフトウェアの実習ではなく、いろいろな解析手法の考え方を理解し、多変量解析を利用するに当たっての問題の立て方、解析結果の読み方、考察のしかたなどを習得して貰いたい。受講者は必ずしも『統計学Ⅲ』を履修している必要はないが、統計的概念について基礎知識を持っている必要がある。少なくとも以下の用語—分散、統計的有意性、有意水準、相関、相関係数—は理解して欲しい。但し、受講者から希望があれば、学期当初の授業で最低限の復習を行うことは可能だと思う。また参考書を利用して独学で補うこともできる。

テキスト:

特に指定しない(配布資料に沿って授業を行う)。

参考書:

初回ガイダンス及び授業中随時紹介する。

[情報処理系列]

情報処理Ⅴ(春)

研究・ゼミに活かすデータベース、オンラインジャーナル検索

講師 湯浅 壘道

授業科目の内容:

慶應義塾大学では、数多くのデータベース・オンラインジャーナルが提供されており、学部生が利用できるものとしては国内の大学で屈指の水準にある。しかし、これらのデータベースの中には利用法が難しいものもあり、必ずしも活用されていないのが実情である。そこで、特に法学部の学生が利用すると便利と思われるデータベース・オンラインジャーナルをとりあげ、利用法を解説する。毎回実際に検索を行ってもらい、各自の研究やゼミ活動に活かせるようにすることを目標とする。法律学科、政治学科のいずれの学生も歓迎する。

テキスト:

特に使用しない。講義資料をダウンロードするウェブページのURLは、ガイダンスの際に指示する。

情報処理Ⅵ(秋)

研究・ゼミ活動に活かすデータベースの作成

講師 湯浅 壘道

授業科目の内容:

WordとExcelの操作はできるが、Accessは使ったことがないという人が多い。

Excelでもある程度のデータは処理可能であるが、大量のデータの操作にはデータベースソフトを利用すると便利である。そこで、この科目ではAccessを使って自分独自のデータベースを作成することを目指す。講義は、毎回最初にやり方を説明し、その後各自が実習するという方法で進められる。法律学科、政治学科のいずれの学生も歓迎する。

テキスト:

特に使用しない。講義資料をダウンロードするウェブページのURLは、ガイダンスの際に指示する。

統計情報処理Ⅰ(春)

データ分析の基礎

講師 石上 泰州

授業科目の内容:

この授業では、パソコンを利用してデータを分析するために必要な基礎的な知識と技法を学ぶ。授業で目標とするのは、SPSS(Statistical Package for the Social Sciences)という社会科学のための統計ソフトを利用して、簡単なデータ分析を行えるようになることである。データを適切に使いこなすことができれば、それだけ説得力のある議論を展開することができるので、この授業を通じてデータの取り扱いの基礎を身につけてもらいたい。なお、初歩的な内容から授業をはじめるので、履修に際してパソコンや統計についての基礎知識はまったく不要である。履修者には何も基礎知識がないということを前提に授業をはじめるので、初心者の人にこそ履修してもらいたい。

テキスト:

・馬場浩他『SPSSで学ぶ統計分析入門』東洋経済新報社

統計情報処理Ⅰ(春)

コンピュータを用いた計量分析の基礎

講師 鷺見 英司

授業科目の内容:

■講義の目的

- (1) 社会科学の研究における統計処理の意義を理解する
 - ・社会の諸現象・事象を数量的に捉える
 - ・印象論・抽象論的記述ではなく、「何がどれだけ言えるのか」を数字で記述する。
 - ・データが持っている豊富な情報を引き出す
- (2) データの型、種類を理解する
- (3) データを適切に作成・管理する
- (4) 基本的な統計処理の手法を習得する
- (5) 研究対象に最適な統計処理を選択する
 - ゼミ発表、卒論研究等に適用できる基本的なスキルを習得する

■講義の進め方

毎時間、冒頭に統計処理の手法についてレクチャーし、実習に移る。実習にはSPSS(社会科学分析のための統計ソフト)、EXCELを用いる。講義後(あるいは翌週)に課題の提出を求めることがある。

テキスト:

特に指定しない。講義資料のプリントを配布する。

参考書:

必要に応じて指示する。

統計情報処理Ⅱ(秋)

SPSSを利用したデータ分析

講師 石上 泰州

授業科目の内容:

この授業では、「統計情報処理Ⅰ」に引き続いてパソコンを利用してデータを分析するために必要な基礎的な知識と技法を学ぶとともに、SPSSという統計ソフトを利用して、自らの問題関心にしたがいつつ実際に統計的な分析を行っていく。標準的には、自らテーマを設定し、自分の考えにもとづいて「仮説」をたて、その仮説の検証に必要なデータを収集、整理し、統計的な分析を通じて仮説の妥当性を検証する、という手順をふむ。そして最後には、これら一連の作業についてのプレゼンテーションを行ってもらう。なお、ここでは春学期の「統計情報処理Ⅰ」で学んだ知識や技法を前提に授業を進めるので、その旨あらかじめご了承ください。

テキスト:

・馬場浩他『SPSSで学ぶ統計分析入門』東洋経済新報社

統計情報処理 II (秋)

コンピュータを用いた計量分析の基礎 II

講師 鷲見英司

授業科目の内容：

■講義の目的

- (1) 社会科学の研究における統計処理の意義を理解する
 - ・社会の諸現象・事象を数量的に捉える
 - ・印象論・抽象論的記述ではなく、「何がどれだけ言えるのか」を数字で記述する。
 - ・データが持っている豊富な情報を引き出す
- (2) データの型、種類を理解する
- (3) データを適切に作成・管理する
- (4) 基本的な統計処理の手法を習得する
- (5) 研究対象に最適な統計処理を選択する
 - ゼミ発表、卒論研究等に適用できる基本的なスキルを習得する

■講義の進め方

毎時間、冒頭に統計処理の手法についてレクチャーし、実習に移る。実習にはSPSS（社会科学分析のための統計ソフト）、EXCELを用いる。「統計情報処理Ⅰ」で学んだ統計的知識や手法を手掛かりとしながら、各自が分析を行い、最終的には授業においてプレゼンテーションを行ってもらうことにしたい。

テキスト：

特に指定しない。講義資料のプリントを配布する。

参考書：

必要に応じて指示する。

学 部 共 通

学
部
共
通

慶應義塾外国語学校

外国語学校は、昭和 17 年 10 月語学研究所（現在の言語文化研究所）の設置と同時に、その実践部門として開講され、以来塾生はもとより、他校学生、一般社会人の外国語学習の場として、高い評価を得ています。現在、英語・英会話・ビジネスイングリッシュ・ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・ロシア語・イタリア語・インドネシア語・アラビア語・朝鮮語・ベトナム語・タイ語の 14 外国語科のコースを開講、約 1,000 名の生徒が在学しています。授業は、義塾内外の外国語担当教授をはじめ、外国語を使って実際の場で活躍している職業人、外国人講師など、優れた教員によって行われています。

法学部学生は、教授会によって設定された下記の科目を、自由科目として、履修申告の上履修することができます。

授業は、全科目三田 6 時限（英会話のみ 5 時限にも開設）で、春・秋学期（4 月期・10 月期）各 2 単位です。受講するには、外国語学校の定める入学手続が必要で、詳細は、「外国語学校入学案内」を参照のこと（請求先：港区三田 2-15-45 慶應義塾外国語学校・電話 5427-1592 ホームページ <http://www.fl.s.keio.ac.jp>）。入学手続期間は 3 月上旬～中旬と、9 月上旬～中旬の年 2 回です。

4 月期の場合は、履修申告手続前に外国語学校の入学手続をすることになるため、自由科目として履修申告をする時もし学部履修科目と時間が重なる場合は、直ちに外国語学校事務室窓口で相談して下さい。

科 目	ク ラ ス	週間授業数
英 語	上 級	3 回
英 会 話	中 級 上 級	2 回 2 回
ビジネス・イングリッシュ		2 回
ド イ ツ 語	基 礎 級	3 回
フ ラ ン ス 語	基 礎 級	3 回
ス ペ イ ン 語	中 級	3 回
中 国 語	中 上 級	* 3 回
イ タ リ ア 語		
ロ シ ア 語	基 礎 級	2 回
	基 礎 級	2 回
	中 級	** 3 回
	中 上 級	3 回
イ ン ド ネ シ ア 語	基 礎 級	2 回
ア ラ ビ ア 語	基 礎 級	2 回
朝 鮮 語	基 礎 級	2 回
ベ ト ナ ム 語	中 上 級	2 回
タ イ 語	中 上 級	2 回

* スペイン語上級は週 2 回

** ロシア語中級は 10 月期から週 2 回

教 職 課 程

中学あるいは高校の教員免許状を取得しようとする場合、教職課程を履修することになりますが、学生諸君は教職課程センターにおいて、教職課程登録の手続きをしなければなりません。教員免許状取得を志す学生は、学事日程表「教職課程ガイダンス」に必ず出席してください。その際教職課程の履修案内等を配布します。

※ 学事日程表の「教職課程ガイダンス」および「教育実習事前指導」以外に、教員免許状を取得するためには諸ガイダンスや説明があり本人が必ず出席しなければなりません。「教職課程履修案内」には、日程その他について詳しく記載されていますから必ず読んでください。

また、ガイダンス日程・場所・時間・教職諸行事等については、西校舎中央入口右側手前の「教職課程掲示板」の掲示にも常時注意してください。

言語文化研究所特殊講座

言語文化研究所特殊講座は三田に設置されています。

サンスクリット I (初級)

言語文化研究所 講師 土田 龍太郎

サンスクリット語入門の講義である。ほぼ一年かけて、サンスクリット語文法体系のあらましを修得することを目的とする。参加者は、練習問題の予習が必要となる。

教科書：ヤン・ホンダ著・鑑淳譯『サンスクリット語初等文法』（春秋社）

参考書：辻直四郎著『サンスクリット文法』（岩波書店）

サンスクリット II (中級)

言語文化研究所 講師 土田 龍太郎

サンスクリット語の初歩をすでに一通り修得したもののための授業である。

テキスト等は参加者の希望で決める。

アラビア語 I (基礎)

言語文化研究所 助教授 野元 晋

アラビア語初学者を対象とし、アラビア語文法の初級文法の修得を目的とします。春学期はアラビア文字の書き方、基本的な発音、単語の表記法、名詞、形容詞など、秋学期は動詞を中心に講義し、基礎的な文法事項を一年かけて学習していきます。下記の教科書、参考書以外にも、多くの補助的プリントを用いる予定です。

教科書：佐々木淑子『改訂版アラビア語入門』（青山社）

参考書：David Cowan, *An Introduction to Modern Literary Arabic* (Cambridge University Press)

アラビア語 II (現代文講読)

言語文化研究所 講師 稲葉 隆政

基礎文法を学んだ人を対象として現代文の講読を行う。講読を通じて文章の基本的構造に対する理解を深め、併せて読解力を養成することを目的とする。

授業は、極めて平易な文章から読み始め、既習の基礎的知識を再認識しながら順次程度の高い文章を講読し、文語学習の当面の目標の一つである、母音記号等補助記号がない文章に対処できる力をつけることを目指す。テキストについては、履修者と相談して決めます。

アラビア語 II (古典)

言語文化研究所 講師 岩見 隆

初級文法を終えたばかりの人を対象に文法の復習に重点を置きながら平易な散文を読みます。文法の初歩以上の予備知識や経験は要求致しません。

テキストはプリントを準備します。はじめは母音符合のついたやさしいものにします。

アラビア語文献講読

言語文化研究所 講師 岩見 隆

定評ある古典をあたりまえに読めるようになることを目標にやってみてほしいと思います。

テキストは履修者と相談して決めます。

ヴェトナム語 I (初級)

言語文化研究所 講師 春日 淳

ヴェトナム語を初歩から学び、初級文法を一通り終える。最初は発音と綴り字から始め、初歩的な会話が可能なる程度を目指す。

教科書：『ベトナム語入門 I』（慶應義塾外国語学校）

ヴェトナム語 II (中級)

言語文化研究所 助教授 嶋尾 稔

初級ヴェトナム語を学び終えた人を対象に文献講読を行う。最初は簡単なものから始めるが、受講者のレベル・要望に応じて、雑誌・新聞の記事などを読んでいくことにしたい。

ヴェトナム語文献講読

言語文化研究所 助教授 嶋尾 稔

ヴェトナム語で書かれた歴史関係の論文あるいは研究書を講読する。テキストは、受講者と相談して決める。

ペルシア語 I (初級)

言語文化研究所 講師 関 喜房

岡崎正孝著『基礎ペルシア語』（大学書林）を使い、現代ペルシア語文法を全くの初歩から講義します。

文法は前期で終え、後期からは易しい文章を読むつもりです。履修希望者は必ず最初の時間から出席してください。

教科書：岡崎正孝著『基礎ペルシア語』（大学書林）

ペルシア語 II (中級)

言語文化研究所 講師 岩見 隆

初級文法を学び終えた人を対象に文献講読を行います。ペルシア語は文法で押さええるというより、読み慣れが大きな働きをする言葉なので、散文をたくさん読みたいと思います。テキストはネザームルルク『スイヤーサト・ナーメ』を予定しています。

教科書：ネザームルルク『スイヤーサト・ナーメ』

タイ語 I (初級)

言語文化研究所 教授 三上 直光

タイ語の初級文法及び初級会話を学ぶ。タイ語独特の文字と発音の習得には特に重点を置く。

テキスト：プリント

参考書：三上直光著『タイ語の基礎』（白水社）

タイ語 II (中級)

言語文化研究所 講師 ボンシー・ライト

このクラスでは、主にタイの小学校の教科書から短編ストーリーを抜粋し、読解力・ライティングの向上を目指します。

更に、スピーキング、リスニングによる理解にも、焦点をあてています。

トルコ語 I (初級)

言語文化研究所 講師 アイドゥン・ヤマンラール

トルコ共和国の現代トルコ語初級文法を講義します。基礎的な文法事項を学習しますが、簡単な講読も行います。

教科書：プリント使用

トルコ語 II (中級)

言語文化研究所 講師 アイドゥン・ヤマンラール

初級文法を学んだ人を対象に講読を行います。文法事項の復習にも重点を置くつもりです。

テキストは履修者と相談して決めます。

朝鮮語文献講読

文学部 教授 野村 伸一（春学期）
言語文化研究所 講師 李 泰文（秋学期）

朝鮮民族、朝鮮社会、朝鮮の人びとを知るためのテキストを講読します。読む対象は言語で表現されたものを第一義としつつ、随時、図像、写真、映像などを解説します。対象とする時代は特に限定しませ

んが、現代の朝鮮民族を理解するためには、やはり近代を扱う必要があります。

分野別のリストは開講後に提示します。後期は受講者の関心領域を反映するかたちにするつもりですが、一点にしなければならない場合はこちらから提案します。設置講座の性格上、受講者は朝鮮語を読む準備ができていないことが前提となります。口頭会話の能力は必要ありません。テキストは受講者と相談して決めます。

カンボジア語 I (初級)

言語文化研究所 教授 三上直光

カンボジア語の初級文法及び初級会話を学ぶ。カンボジア語独特の文字と発音の習得には特に重点を置く。
テキストは開講時に指示する。

ヘブライ語 I (初級) 言語文化研究所 講師 笈川博一

旧約聖書のヘブライ語の初歩。テキストはルツ記を用いるが、プリントを授業で配布する。英語ないしドイツ語による辞書(¥2,500~¥10,000)が必要となるが、それについては授業で案内する。

ヘブライ語 II (中級) 言語文化研究所 講師 笈川博一

サムエル記の講読。テキストはクラスで配布する。

古代エジプト語 I (初級)

言語文化研究所 講師 笈川博一

後期エジプト語の初歩。テキストは授業で配布する。5月頃から辞書(約¥9,000)が必要となるが、それについては授業で案内する。

古代エジプト語 II (中級)

言語文化研究所 講師 笈川博一

中期エジプト語の初歩。テキストは「難破した水夫」。辞書は Raymond O. Faulkner, *A Concise Dictionary of Middle Egyptian* Oxford (Amazon US で \$45) が必要となる。秋学期には後期エジプト語テキストも合わせて講読する。

アッカド語 I (初級)

言語文化研究所 講師 高井啓介

アッカド語を学ぶ際の基礎となる古バビロニア方言 (Old Babylonian) の初級文法及び文字表記システムの修得を目的とします。下記に指定した教科書を使いますが、足りないところは適宜プリントによって補っていく予定です。文法事項を学び進めながら、アッカド語が記されるときに使われた楔形文字のうち主要なものを覚えていきます。秋学期以降には、ハンムラビ法典など著名な作品の雰囲気にも触れていきたいと考えています。

教科書: Richard Caplice, *Introduction to Akkadian* (Biblical Institute Press)

アッカド語 II (中級)

言語文化研究所 講師 高井啓介

アッカド語の初級文法を一通り学んだ人を対象に文献講読を行います。文法事項を再度確認しながら、簡単なものからはじめていろいろなジャンルのテキストを読んでいくことにします。具体的なテキストは受講者と相談して選びます。

〔参考〕平成16年度言語文化研究所特殊講座

科目名	教員名	単位数
サンスクリット I (初級)	土田 龍太郎	通年 2 単位
サンスクリット II (中級)	土田 龍太郎	
アラビア語 I (基礎)	野元 晋	
アラビア語 II (現代文講読)	稲葉 隆政	
アラビア語 II (古典)	岩見 隆	
アラビア語文献講読	岩見 隆	
ヴェトナム語 I (初級)	春日 淳	
ヴェトナム語 II (中級)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語文献講読	嶋尾 稔	
ペルシア語 I (初級)	関 喜房	
ペルシア語 II (中級)	岩見 隆	
タイ語 I (初級)	三上直光	
タイ語 II (中級)	ポンシー・ライト	
トルコ語 I (初級)	アイドゥン・ヤマンラール	
トルコ語 II (中級)	アイドゥン・ヤマンラール	
朝鮮語文献講読	野村 伸一 (春学期) 李 泰文 (秋学期)	
カンボジア語 I (初級)	三上直光	
ヘブライ語 I (初級)	笈川博一	
ヘブライ語 II (中級)	笈川博一	
古代エジプト語 I (初級)	笈川博一	
古代エジプト語 II (中級)	笈川博一	
アッカド語 I (初級)	高井啓介	
アッカド語 II (中級)	高井啓介	

メディア・コミュニケーション研究所

【メディア・コミュニケーション研究所とは】

メディア・コミュニケーション研究所（Institute for Media and Communications Research）は、昭和21年（1946年）に産声を上げた新聞研究室を母体とする歴史の長い研究所です。新聞研究室は、後に新聞研究所と名称を改め、平成8年（1996年）に50回目の誕生日を迎えました。まさに、研究所は日本の戦後とともに歩んできたこととなります。新聞研究所は、第二次世界大戦前と戦争中、新聞報道を中心とする日本のマスメディアが軍国主義に迎合した報道姿勢をとったことを憂いた連合軍占領軍が、戦後の民主化に新聞を中心とする言論報道機関の果たす役割の大きさを考慮して、その役割の遂行に貢献しうる人材の育成とともに、マス・メディア研究を行いうる研究機関の設置を幾つかの日本の大学に求めました。選ばれた大学の一つが慶應義塾であり、後に法学部の学部長になった米山桂三教授に研究所の運営が任せられることになったというのがその発端であると伝えられています。

既述の通り、当初、新聞研究所は新聞研究室として出発しましたが、後に研究機能の重視を目的に研究所に名称を改めました。かつては、新聞を実際に発行して実習授業を盛んに行っていました（当時発行された新聞はマイクロフィルム化されていますので読もうと思えば読めます）、今日では実習的な側面よりも研究生（新聞研究所に入学した学生はこう呼ばれます）にはマス・メディアおよびマス・コミュニケーション研究の基礎的教育を行い、専任教員を中心として基礎的な研究に力を入れてきました。メディア業界からは、テクニカルな知識や技術を身に付けた人間よりは、基礎的な知識や思考能力そして人間関係能力に裏打ちされ、しっかりとした考えと独創的な発想力をもつ人材が求められており、そうした要求に沿った教育と、各種メディア・コミュニケーション産業にとり有益な研究成果を提供することに新聞研究所は力を入れてきました。

しかし、時代は急速に変わりつつあります。戦後50年の情報通信技術の革新の動きは目覚ましく、新聞研究所がスタートした頃の報道機関といえば活字メディアが中核で、ラジオがそれに多少付け加わっているだけでした。その後、テレビ放送が本格化しメディアの中核は電気通信・放送へと移行して行きました。近年では地上波だけでなく、衛星放送・衛星通信、ケーブルテレビなど多面的かつグローバルにコミュニケーションが展開する時代になってきました。また、スーパー情報ハイウェイとインターネットを中核とし、パソコン通信ネットワークを土台にマルチ・メディアの展開が叫ばれ、コンピュータ・メディアの時代へと大きく変化し、新聞、ラジオ・テレビの融合現象も注目されるようになりました。と同時に、かつては一方的な伝達を中心であったものが、コンピュータ・メディアの発達により双方向的なものとなると同時に、その情報通信範囲もパーソナルなレベルからグローバルなレベルへと拡大化し、コミュニケーション能力の著しい発展と質的な変化は驚くべきものとなりました。また、多チャンネル時代を迎え、放送内容も多様なものになり、アイデアや創造力がメディア業界に働く人々に要求される度合いも格段に高くなりました。

こうなってくると、新聞研究所という名称はさすがに古めかしさを感じさせるようになったため、平成8年（1996年）には、研究所50年の記念式典を行い翌平成9年度より名称を変更いたしました。それが、メディア・コミュニケーション研究所出発の経緯です。新しいメディアの発展による新しいコミュニケーションの時代に合致した名称に変更したというわけです。もっとも、メディア・コミュニケーションの形態・技術は変化しても、報道ジャーナリズムの健全な発達のため、つまり、民主主義的で自由で公正なる報道を行うための前途有為な人材育成の目的はそのままです。そして、そのための少人数精鋭教育のためのカリキュラム変更も行いました。研究生には、報道ジャーナリズムやマス・コミュニケーション研究の基本を学び、新しいメディア（とくにコンピュータ・メディア）をある程度理解した上に自由に使いこなせるだけの能力も身に付けて欲しいと思っています。そのために、平成11年（1999年）10月より、この方面のメディア・リテラシー向上を求めて、「メディア・ワークショップルーム（MWR）」を開設しました（本格的稼働は平成12年4月より）。今ではインターネット放送もはじめました。間もなくオンライン新聞の発行をはじめたいと思いますので、<http://www.>に慣れてください。学生との連絡にEメールも利用しています。

1996年秋に新聞研究所は記念式典を実施し、その際に新しい名称を与え新たなスタートを切りました。基本的な研究所の研究生教育とメディア・コミュニケーション研究は変わりませんが、新たな名称のもとに生まれ変わった研究所の次の50年の発展が大変期待されます。現在のスタッフは所長、専任および兼任所員、事務職員総勢でも10名に満たない小さな研究所ですが、非常勤講師の諸先生のご協力を得て研究生150名（2～4年生）の教育を行いつつ、新たな研究に邁進する決意をしております。本年入所される研究生を含め現在の研究生は、新たな歴史を刻む当事者となります。再出発にふさわしい成果を生むために大いに頑張ってください。

なお、メディア・コミュニケーション研究所の名称は長いので、通常は「メディアコム」と呼ばれます。

◇カリキュラム

1. 設置科目について

研究所には、基礎科目、研究会、特殊研究、基礎演習の4つの講義群がある。

このうち、基礎科目は研究生以外（2年生以上）でも履修可能なオープン科目となっている。但し、2年生以上で、三田設置科目を含めて履修可能であるが、学部によっては履修できない場合もあるので、学部履修要項等で確認すること。また、学部での単位の取扱い、学部履修要項を熟読すること。

- ・基礎科目（オープン科目）
メディア・コミュニケーション研究に必要な基礎的知識を提供する講義群。
- ・研究会（研究生のみ対象）
研究所における学習の中心となる科目で、2年生より履修できる。
- ・特殊研究（研究生のみ対象）
少人数の講義で、実務家を中心とした特殊講義と大学教員による特殊研究がある。
- ・基礎演習（研究生のみ対象）
メディア・コミュニケーション関連分野の調査方法の学習を目的とした講義群。

2. 研究生制度

研究所には研究生制度がある。研究生制度は、メディア・コミュニケーションの研究、あるいは将来マス・メディアへの就職を希望するものに総合的な教育を行い、同時に研究の場を与えるために設けられている。

例年12月中旬に行われる入所選考に合格し、研究生となることを許可された者は、修了までに合計28単位以上取得しなければならない。所定の単位を取得した研究生には修了証書が与えられる。各学部の授業科目で研究所が認めたものは修了単位に含めることができるが、それでも一般の塾生より余分な科目を履修しなければならず、それだけ余力のあることが入所の条件といえる。

- (1) 入所説明会（入所申込書配布）11月中旬三田，日吉，藤沢の各キャンパスで行う。これについては掲示する。
- (2) 入所試験（選考）12月中旬三田で行う。

3. 修了単位について

研究生が研究所の課程を修了するためには、以下の各群から所定の単位を合計28単位以上取得しなければならない。

- ・基礎科目 10 単位以上
 - ・研究会 8 単位以上※
 - ・特殊研究 4 単位以上
 - ・基礎演習 2 単位以上
 - 合 計 28 単位以上
- ※ 2～4年春学期までに研究会Ⅰ～Ⅴを順番に履修し6単位以上取得する。4年秋学期には必ず研究会Ⅵ（論文指導）を履修すること。すなわち、研究会Ⅰ～Ⅲと研究会Ⅵは全員が履修するが、研究会ⅣとⅤは必修ではない。
3～4年では原則として同一研究会を履修すること。

平成16年度慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所科目一覧

*基礎科目（オープン科目）研究生以外も履修可能

設置場所	科目名	単位数	講師
三田設置科目	マス・コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2/秋2	大石 裕
三田設置科目	マス・コミュニケーション発達史Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2/秋2	大井 眞二
三田設置科目	国際コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2/秋2	内藤 耕
三田設置科目	メディア法制Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	林 紘一郎
三田設置科目	ジャーナリズム論Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	玉木 明
三田設置科目	世論Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	河野 武司
三田設置科目	情報行動論Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	福田 充
三田設置科目	異文化間コミュニケーション	秋2	手塚千鶴子
三田設置科目	メディア文化論Ⅰ	春2	畠 信彦
三田設置科目	メディア文化論Ⅱ	秋2	白水 繁彦
三田設置科目	メディア産業と政策Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	菅谷 実
三田設置科目	情報産業論Ⅰ	春2	宿南達志郎
三田設置科目	情報産業論Ⅱ	秋2	内山 隆
日吉設置科目	メディア・コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	伊藤 高史
日吉設置科目	マス・コミュニケーション論Ⅰ（法学部併設）	春2	小川 恒夫
日吉設置科目	社会心理学Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2/秋2	萩原 滋

*研究会（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）	春2/秋2	萩原 滋
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）	春2/秋2	菅谷 実
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）	春2/秋2	宿南達志郎
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）	春2/秋2	金山 智子
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）	春2/秋2	伊藤 高史
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）	春2/秋2	伊藤 陽一
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）（新規募集なし）	春2/秋2	渡辺 秀樹
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）	春2/秋2	大石 裕
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）	春2/秋2	小澤 太郎

*特殊研究（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	放送特殊講義Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	上野 邦治
三田設置科目	新聞特殊講義Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	河原 理子
三田設置科目	広告特殊講義Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	池田 諸苗
三田設置科目	メディア特殊講義Ⅰ	春2	境 真良
三田設置科目	メディア特殊講義Ⅱ	秋2	前澤 哲爾
三田設置科目	特殊研究Ⅰ・Ⅱ（日本の近代化とマス・メディア）	春2/秋2	小川 浩一
三田設置科目	メディア産業実習Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	宿南達志郎
三田設置科目	★ジャーナリズム特殊研究Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	佐藤公正・大石裕
日吉設置科目	メディア産業実習Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	菅谷実・金山智子

*基礎演習（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	時事英語Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	小林 雅一
三田設置科目	文章作法Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	村上久仁子
三田設置科目	放送制作Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	碓井 広義
三田設置科目	メディア・コミュニケーション実習Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	酒井由紀子
三田設置科目	メディア・コミュニケーション実習Ⅲ・Ⅳ	春2/秋2	酒井由紀子
日吉設置科目	電子ネットワーク調査法Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	金山 智子
日吉設置科目	時事英語Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	小林 雅一
日吉設置科目	文章作法Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	栗田 亘

★印は朝日新聞寄付講座

マス・コミュニケーション論 I	大石 裕
-----------------	------

マス・コミュニケーションと政治

授業科目の内容：

本講義は、マス・コミュニケーションと政治をめぐる諸問題について講義する。基本的な概念や理論・モデルの説明が中心となるが、具体的事例に言及しながら講義を進めることにしたい。その際、ニュースの政治的機能が中心となる。

テキスト：

- ・大石 裕『コミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会
- ・大石 裕ほか『現代ニュース論』有斐閣

参考書：

- ・マッコームズほか『ニュース・メディアと世論』関西大学出版部
- ・ニューマン『マス・オーディエンスの将来像』学文社

マス・コミュニケーション論 II	大石 裕
------------------	------

政治コミュニケーションの理論と分析

授業科目の内容：

本講義では、政治コミュニケーションに関する理論について解説し、また、それを用いて現実の政治社会（主として戦後日本社会）について分析を行う。その際、マス・コミュニケーションに関する諸研究、世論研究、社会運動論、政治権力論などを参照する。

テキスト：

- ・大石 裕『政治コミュニケーション』勁草書房
- ・大石 裕ほか『現代ニュース論』有斐閣

参考書：

- ・大石 裕『コミュニケーション研究』
- ・ルークス『現代権力論批判』未来社

マス・コミュニケーション発達史 I	大井 眞二
-------------------	-------

近代化の位相とマス・コミュニケーション

授業科目の内容：

日本の近代化を縦軸にし、マス・メディア空間を横軸にして、日本の近代史をメディア史のパスベクディブから振り返ってみたい。近代社会という固有の空間に誕生した最初のマス・メディアである新聞は、近代化の過程と密接に絡み合いながらその姿を変えてきた。本講では、幕末維新期から第一次世界大戦までを射程に置いて、日本の近代政治史に「変化のエージェントとしてのメディア」（エイゼンシュテイン）がどのように関わったか、を考察する。

テキスト：

特に指定しない。適宜資料を配付する。

参考書：

- ・大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』（近刊）、世界思想社、2004年

マス・コミュニケーション発達史 II	大井 眞二
--------------------	-------

デモクラシーとマス・メディア

授業科目の内容：

日本のマス・メディアに与えた大きな影響の視点から、米国のメディア史を取り上げたい。

これには日本のメディア史を相対化する意図が込められている。米国のメディアとりわけ新聞は、建国期からデモクラシーにおける役割が重視されてきた。あるいはデモクラシーの制度的前提であったといってもいい。この考え方は、基本的に今日においても変わることがない。このことの意味を考えてみたい。

テキスト：

講義の際に指示する。

参考書：

- ・大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』（近刊）、世界思想社

国際コミュニケーション論 I	内藤 耕
----------------	------

国際報道の現状とニュースの流れの構造

授業科目の内容：

本講義では国際コミュニケーションを諸国家間のコミュニケーションおよび国境を相対化するグローバル・コミュニケーションをめぐる問題構成としてとらえていきます。とくにIでは、イラク戦争でクローズアップされた、戦争報道を中心とした国際報道の現状と問題点を考えていきます。戦争報道の歴史の変遷から始まって、報道を支えるシステムのはらむ問題やニュースの国際的な流れの構造にいたるまで概観していきます。事例研究と理論的議論をセットにして紹介します。あまり明るい話はできませんが、「世界」に対する批判的精神を養うと同時に、むしろ受講生自身の力でオルタナティブな道を見つけていただけるような問題提起ができればと思っています。

テキスト：

学期中にご案内します。

参考書：

- ・鶴木真『情報政治学』三嶺書房、2002年

国際コミュニケーション論 II	内藤 耕
-----------------	------

メディアのグローバリゼーションと文化摩擦

授業科目の内容：

グローバル化しつつあるメディアの現状とそれをめぐる問題について多面的に解説を試みます。講義は大きく二つに分かれ、前半が資本、コンテンツの流通等の側面からの分析となります。メディア資本の世界戦略、アジアにおける日本製アニメやテレビ番組の流通と受容などの事例を取り上げます。後半は、政策論として、文化交流政策と開発コミュニケーションについて概観していきます。受容する側の「したたかさ」についても理解できればと思います。全体的に、日本との関係、それから授業担当者の専攻領域の都合により、アジアの事例を多く取り上げることになるでしょう。対象の性格上、春学期の内容と一部重複する部分があるかもしれませんが、Iを受講している必要はありません。

テキスト：

学期中に案内します。

参考書：

適宜、授業中に紹介します。

メディア法制 I	林 紘一郎
----------	-------

授業科目の内容：

本講義は、2001年度まで長期間にわたって「マス・コミュニケーション法制」として実施されてきたものを基礎にしつつ、2002年度から通信やインターネットも取り込んで、包括的な「メディア法制」として再出発したものである。

テキスト：

- ・拙著『情報メディア法』（2004年夏出版予定）

参考書：

- ・松井茂記『マス・メディア法入門（第2版）』日本評論社、1998年

メディア法制 II	林 紘一郎
-----------	-------

授業科目の内容：

本講義は、2001年度まで長期間にわたって「マス・コミュニケーション法制」として実施されてきたものを基礎にしつつ、2002年度から通信やインターネットも取り込んで、包括的な「メディア法制」として再出発したものである。

テキスト：

- ・拙著『情報メディア法』（2004年夏出版予定）

参考書：

- ・松井茂記『インターネットの憲法学』岩波書店、2002年

ジャーナリズム論 I	玉木 明
------------	------

授業科目の内容：

明治以来のジャーナリズム史を概観し、日本のジャーナリズムの特殊性を考察する。

テキスト：

・玉木明著「ゴシップと醜聞」（洋泉社 680 円）

参考書：

・玉木明著「ニュース報道の言語論」（洋泉社）

ジャーナリズム論 II

玉 木 明

授業科目の内容：

中立公平・客観報道の限界が露呈してきた 1960 年代、アメリカで起こったニュー・ジャーナリズムに注目し、その具体的な成果（作品）の分析を通して、新しいジャーナリズムの在り方を考察する。

テキスト：

・玉木明著「言語としてのニュー・ジャーナリズム」（洋泉社 2000 円）

参考書：

・玉木明著「ニュース報道の言語論」（洋泉社）

世 論 I

河 野 武 司

世論と政治

授業科目の内容：

デモクラシーは、世論による政治と言われる。しかし世論とは一体全体何なんだろうか。国民の多数が賛成する意見なのであろうか。国民の多数が賛成する意見は正しいものなのだろうか。本講義では、世論についての定義や概念を明らかにした後、政治や社会を動かす原動力とみなされている世論が、今日において相応しく機能しているか否かといった問題を考察します。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

授業中に適宜紹介します。

世 論 II

河 野 武 司

世論調査データの分析

授業科目の内容：

今日いわゆる世論の方向と量は、世論調査によって測定されますが、本講義では世論調査データの分析方法の基礎を、コンピュータ室における実習を通して、身につけることを目的としています。実習にあたっては統計解析ソフトである SPSS を用います。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

・酒井麻衣子『SPSS 完全活用法—データの入力と加工』（東京図書、2001 年、2800 円）

・西澤由隆、西澤浩美訳『誰にでもできる SPSS によるサーベイリサーチ』（丸善株式会社、1997 年、2900 円）

その他授業中に適宜紹介します。

情報行動論 I

福 田 充

情報行動の基礎理論とメディア利用の諸問題

授業科目の内容：

高度情報化社会に生きる現代人は、情報とメディアに囲まれた日常に生きている。現代社会における情報環境のあり方、情報行動の変容に関して、具体的なメディア利用の現象を社会的、社会心理学的なアプローチから理論的に考察する。情報行動論の基礎編である。

テキスト：

・特に指定なし。講義資料プリントを配布する。

参考書：

・東京大学社会情報研究所編『日本人の情報行動 2000』東京大学出版会

・萩原滋編『変容するメディアとニュース報道』丸善株式会社

情報行動論 II

福 田 充

ユビキタス社会における情報行動の変容

授業科目の内容：

現代のメディア環境、情報環境の変容は、私たちの日常生活における情報行動に対してどのような影響を与えているのだろうか。情報行動に関する最新の問題群をトピックごとに考察しながら、変容する現代の情報行動の特質を解明する。情報行動論の応用編である。

テキスト：

・特に指定なし。講義資料プリントを配布する。

参考書：

・東京大学社会情報研究所編『日本人の情報行動 2000』東京大学出版会

・萩原滋編『変容するメディアとニュース報道』丸善株式会社

異文化間コミュニケーション

手 塚 千 鶴 子

日本人学生と留学生との交流をめざして

授業科目の内容：

グローバル化下での世界的な人口移動の激しい現代、日本人は、国内外で初めて多様な外国人と広範囲にしかも日常的な接触を持つようになっている。この授業では、近代の「知識」「情報」「モノ」の欧米からの一方的な異文化受容の歴史が、日本人の異文化コミュニケーションに与えた負の遺産をふまえて、双方で着段着の異文化コミュニケーションをめざす現代の日本人にとっての課題を明らかにし、異文化コミュニケーションの基本的概念、枠組みを理解しながら、実際に日本人学生が、キャンパスの留学生達とどうコミュニケーションしていけばよいのか、留学生との授業内外の交流体験を通して、異文化コミュニケーションの基本的態度やスキルを身に付けることを目的とします。

テキスト：

特に指定せず資料を配布します。参考書：

・「異文化コミュニケーション・ワークブック」（三修社）

・「異文化への理解」（東京大学出版会）

メディア文化論 I

鳥 信 彦

各種メディアの特質とメディア・リテラシー

授業科目の内容：

テレビ、新聞、ラジオ、インターネットなど各種メディアの特色とその影響力を検証し、メディアリテラシーの重要性を考える。学生たちに構想力や現場主義について体験論を講義。

テキスト：

・特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

・鳥信彦著「ニュースキャスターたちの 24 時間」（講談社 α 文庫、1999 年）

メディア文化論 II

白 水 繁 彦

メディアが作りだす地域や集団のイメージ

授業科目の内容：

地域や集団のイメージ作りに欠かせないメディアのあり方を具体的に且つクリティカルに検討する。内容は；まず、観光地イメージの形成とメディアの働きの例としてハワイをとりあげる。つぎにイメージ作りに欠かせない手段である広告の分析手法を学ぶ。次いで、一般になじみにくいエスニック・メディアの実態分析を通して、マジョリティの外国人イメージを逆照射する。

テキスト：

・山中速人『ハワイ』岩波新書 1993 年 740 円、その他プリント

参考書：

・白水繁彦『エスニック文化の社会学』

・同『エスニック・メディア』

メディア産業と政策 I	菅 谷 実
-------------	-------

メディア政策基礎理論とメディア・コンテンツ

授業科目の内容：

前半はメディア産業の市場と組織および政策を理解するために必要な基礎理論、後半はメディア産業の個別政策課題（本年度は映画を中心とした映像コンテンツ産業を取り上げる）を中心に論じる。

テキスト：

・菅谷実・中村清編『映像コンテンツ産業論』丸善、2002年

メディア産業と政策 II	菅 谷 実
--------------	-------

米国のメディア政策

授業科目の内容：（講義回数の目安）

本講義では米国のメディア産業の発展史、放送、通信、ケーブルテレビを含む各メディアの市場および産業構造、政策の変容などを体系的に明らかにする。

情報産業論 I	宿 南 達志郎
---------	---------

授業科目の内容：

情報産業について、とりわけ技術革新により変化の激しい、コンピュータ、通信、放送、出版等を中心に講義します。大きな流れとしては、デジタル化（電子化）、ネットワーク化、パーソナル化、ブロードバンド化などがあります。

これらのメディア間の競合・補完について、最新の情報に基づき、普及状況や利用形態を含め、日本と海外との比較を交えながら解説します。例えば、地上波デジタル放送、携帯電話への放送受信機能の搭載、映像のインターネット配信、ウェアラブル・コンピュータなどについて学びます。

テキスト：

特に指定しません。講義資料はプリントの配布または Web サイトでの閲覧とする予定です。

参考書：

・総務省（編）「情報通信白書 平成 15 年版」ぎょうせい 2003 年
・野村総合研究所「これから情報・通信市場で何が起ころのか 2004 年版」東洋経済新報社 2003 年

情報産業論 II	内 山 隆
----------	-------

経営戦略と政府政策

授業科目の内容：

情報産業といわれたときにイメージされる業種、一例えば放送・通信、新聞・出版、映画・映像、などには二面性があります。それは先進国では一大産業セクターとなること、そして文化・思想の育成機関であることです。産業が持続可能であるためには、これらの一面だけを追求するのではなく、その両立を図ることを考えなければなりません。本講義では産業としての側面から、情報産業の他産業に対する特色を考え、同時に豊かな文化を築くという経営使命を達成する方法としての経営戦略と政府政策を考えていきます。なお講義トピックとして、以下のことを中心に講義を進める予定です。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

・菅谷実・中村清編『放送メディアの経済学』中央経済社、2000年
・菅谷実・中村清編『映像コンテンツ産業論』丸善、2002年

メディア・コミュニケーション論 I (日吉)	伊 藤 高 史
------------------------	---------

メディアと公共性の変容と情報社会

授業科目の内容：

メディア・コミュニケーションという言葉は、個人と個人が顔をつけあわせて行う「対面的」コミュニケーション（パーソナル・コミュニケーション）に対して使われる言葉です。ですから、まずは、対面的コミュニケーションとメディア・コミュニケーションの関係などについて議論から講義を始めます。そして、情報社会と言われ

る今日において、両者の関係がどのように変化しつつあるのか、また、メディア・コミュニケーションそのものがどのように変容しつつあるのかについて、社会学および法律学的な観点から解説します。

参考書：

・鶴木真編『客観報道』成文堂
・阿部潔著『公共圏とコミュニケーション』ミネルヴァ書房

メディア・コミュニケーション論 II (日吉)	伊 藤 高 史
-------------------------	---------

情報社会時代の情報操作と表現の自由

授業科目の内容：

秋学期は特に、メディアの送り手という視点に立って、メディアコミュニケーションについて講義します。昨今では、個人がインターネットを利用して、一般に向かって広く情報発信をすることが容易になりました。その一方で、欧米での政治キャンペーンの場などでは、既存のマスメディアを利用する広報専門家「スピンドクター」の存在が大きな関心を呼んでいます。情報化社会になり、誰でもが情報発信できる時代だからこそ、有力なメディアを利用する能力が必要になっているのかもしれませんが。こうした状況の変化について、表現の自由に関する議論や既存のマスメディア研究、ジャーナリズム研究の視点を踏まえて、講義していきます。

参考書：

・津金澤聡廣、佐藤卓己編『広報・広告・プロパガンダ』ミネルヴァ書房

マス・コミュニケーション論 I (日吉)	小 川 恒 夫
----------------------	---------

政治とメディアの相関図

授業科目の内容：

極めて遠く離れた場所に、ただちにメッセージを送ったり、また何百人もの人々に同じような意味を伝達するといった、今日われわれがもっている驚くべき能力は、私達にとってきわめてなじみ深いものであるために、ともするとそのような能力を当然のことのように見なししてしまう。しかし、このような能力が、個人的に、あるいはまた集会的に、われわれにどんな影響を与えているのか、またこれがわれわれの未来をどのようなものにしていくのか、こうしたことについて明確な予測をすることは難しいのが現状である。

本授業の中心的課題は、これらの問題に答えるべく、これまでに現れてきた主要な論述を概観し、1) マス・コミュニケーションはどのようなように発生したか、その結果、2) 個人や社会秩序に対してどのような結果をもたらされたかの点について考察を行うことにある。

参考書：

・大石裕著「コミュニケーション研究」慶應大学出版会

社会心理学 I (日吉)	萩 原 滋
--------------	-------

社会的認知と対人行動

授業科目の内容：

自分たちの社会的環境をいかにして把握するかという問題、すなわち「社会的認知」と呼ばれる研究領域を中心に、均衡理論、認知的不協和理論、帰属理論など社会心理学の代表的な理論枠組について概説し、それに依拠して行われた実験など具体的な研究事例を詳しく紹介する。また対人魅力など、対人行動の基礎となる問題も取り上げることとする。

参考書：

適宜、指示する

社会心理学 II (日吉)	萩 原 滋
---------------	-------

メディアとコミュニケーション

授業科目の内容：

対人コミュニケーションからマス・コミュニケーションまで幅広く「コミュニケーション」の過程を取り上げるが、前者に関しては「説得的コミュニケーションと態度変容」、後者に関しては「テレビの社会的機能、対人的影響」に焦点を当てて、新旧取り混ぜて社会心理学的研究の成果を紹介する。

参考書：
適宜，指示する

研究会（Ⅰ～Ⅵ）

萩原 滋

メディア利用と社会行動

授業科目の内容：

本研究会は、2年ないし3年の在籍期間を通じて、各自の関心に基づいて研究活動を積極的に行い、その成果を研究会の場で逐次報告し、最終的には修了論文に結実させることを目的としている。研究テーマは、メディアやコミュニケーションに関連性のあるものであれば、ある程度各自の自由裁量に任されることになるが、単なる感想や思い付きではなく、それを何らかのデータによって裏づける努力をして欲しい。つまり研究方法としては、理論研究や主観的解釈を排除するわけではないが、できるだけ実証的手法を重視するということである。

テキスト：

・田崎篤郎・児島和人編著（2003）マス・コミュニケーション効果研究の展開[改訂新版] 北樹出版（もう1冊は、追って指示する）

研究会（Ⅰ～Ⅵ）

菅谷 実

メディア産業論

授業科目の内容：

放送、新聞に代表されるマスメディアからインターネットに代表されるマルチメディアまで、メディア産業全体を対象にその産業構造、ビジネス戦略、メディア規制をテーマとして研究をすすめる。

春学期は、個人研究の発表、秋学期は三田祭での共同研究（2003年度は、「LOVEMUSIC 変わり行く音楽産業」）、4年生の修了論文発表を中心に進める。また、夏合宿、企業訪問等も計画している。

なお、ゼミ活動の詳細は、メディアアCOMのホームページ（www.mediacom.keio.ac.jp）を参照のこと。

成績評価方法：

・授業出席を含めた研究会活動全体に対する参加・貢献度による評価。
・なお研究会Ⅵは修了研究の発表および論文による評価。

研究会（Ⅰ～Ⅵ）

宿南 達志郎

授業科目の内容：

本研究会では、インターネット及び携帯電話などの情報通信メディアを中心に、メディアの発展の歴史、情報通信産業の構造、情報通信政策の変化、経済・社会の変化などについて実証的に研究していく。

テキスト：

・春学期：岡田・松田（編）「ケータイ学入門」有斐閣選書 2002年
・秋学期：研究生の皆さんと議論して決定

参考書：

・林紘一郎「電子情報通信産業」コロナ社 2002年
・総務省（編）「情報通信白書 平成15年版」ぎょうせい 2003年

研究会（Ⅰ～Ⅵ）

金山 智子

授業科目の内容：

本研究会は、情報コミュニケーション技術（ICT）の普及が社会や個人に与える影響をテーマにさまざまな観点から研究します。技術普及と社会との関係をクリティカルに考察し、分析する力の養成を目指します。また、これまで議論されてきた情報化やICTの活用にとらわれることなく、市民やNPOによる創造的なメディアやICTの活用についても考察します。

テキスト：

現在未定ですが、基礎文献リストを用意します。

参考書：

折々のテーマに即して紹介します。

研究会（Ⅰ～Ⅵ）

伊藤 高史

メディアと表現の自由にかかわる諸問題についての学際的研究

授業科目の内容：

メディア論やコミュニケーション論は、様々な学問分野からアプローチされるべき学際的分野です。春学期には、社会学、法学、政治学といった各分野からメディアあるいはコミュニケーションにアプローチした諸論文を提示しますので、担当者にそれら論文について報告してもらい、互いに討論します。これを通じて、学問的な考え方や研究方法を身につけてもらいたいと思います。また適宜、メディアとコミュニケーションに関連した事件を取りあげて、解説、討議してもらいます。秋学期には履修者の修了論文完成に向けて、メディアをとりまく具体的な問題等についての、出席者の個人研究発表を中心に進めます。

参考書：

・『コミュニケーションの政治学』（鶴木真編，慶應大学出版）

研究会（Ⅰ～Ⅵ）

伊藤 陽一

情報化と近代化

授業科目の内容：

「情報化」（情報技術が発達し、マス・メディアと教育が一般庶民レベルにまで普及し、情報流通量が增大する現象として定義される）が「近代化」に及ぼした影響とそのメカニズムについて研究する。具体的には、「近代」の特質である民主主義、合理主義、個人主義、資本主義が、「情報化」を通じてどのようにしてもたらされたか、あるいはもたらされつつあるかについて考察・議論する。

テキスト：

・伊藤陽一「メディアの歴史と社会変動」
・関口一郎（編）「コミュニケーションのしくみと作用」大修館，1999年

参考書：

・稲葉三千男「コミュニケーション発達史」創風社，1989年
・竹内成明「コミュニケーション物語」人文書院，1986年
・香内三郎「活字文化の誕生」晶文社，1982年

研究会（Ⅰ～Ⅵ）

渡辺 秀樹

映画の社会学

授業科目の内容：

映画を素材とする社会学的考察がテーマ。ビデオを見ながら社会学的視点、枠組に慣れ、社会学的なものの考え方（Sociological way of thinking）を育てることを目的とする。

参考書：

・田中直毅・長田弘「この百年の話—映画で語る二十世紀」
ほか多数

研究会（Ⅰ～Ⅵ）

大石 裕

ジャーナリズムについて考える

授業科目の内容：

・ジャーナリズムやマス・コミュニケーションに関する基本的文献や論文を輪読する。
・各グループごとに新聞報道を中心に分析を行う。
・修了論文の発表を行う（4年生中心）。

テキスト：

・大石裕他『現代ニュース論』有斐閣

参考書：

・田村紀雄他編著『ジャーナリズムを学ぶ人のために』世界思想社
・リップマン『世論』岩波文庫

研究会（Ⅰ～Ⅵ）

小澤 太郎

電子社会の公共選択論

授業科目の内容：

情報通信社会の光と影を、学際的に検討したいと思います。春学

期は、「技術」と「米国の国家戦略」を軽視する、我が国の通信行政の歪みを取り上げます。秋学期は、電子政府の可能性と弊害について考えてみたいと思います。

テキスト：

春学期：石黒一憲『電子社会の法と経済』岩波書店、2003年（秋学期は未定）

参考書：

春学期

- ①石黒一憲『IT戦略の法と技術』信山社、2003年
- ②中村慎助・小澤太郎・グレーヴァ香子編『公共経済学の理論と実際』東洋経済新報社、2003年
- ③金子郁容編『総合政策学の最先端Ⅱ：インターネット社会・組織革新・SFC教育』慶應義塾大学出版会、2003年

放送特殊講義Ⅰ

上野邦治

テレビジャーナリズム論Ⅰ

授業科目の内容：

テレビ番組はこんなことをしていいの？世論の厳しい目が光る中、テレビ界にも自主・自律の動きも出てきた。テレビ界にいるものの立場から、現状（問題番組）を実例検証し、テレビのあるべき姿を考察する。

放送特殊講義Ⅱ

上野邦治

テレビジャーナリズム論Ⅱ

授業科目の内容：

（教材 ビデオ・テープ）

放送特殊講義Ⅰに続いてテレビ番組の現状（問題番組）を、そのつど実例検証し、テレビ界のあるべき姿を考察する
メディア規制の動きが強まる中、テレビ界は、自主、自律を守るため、どうすべきか提議し、学生とともに検討する。

新聞特殊講義Ⅰ・Ⅱ

河原理子

授業科目の内容：

- ・事件報道（特に被害者への取材報道）を軸に、新聞の現状、役割と課題を学ぶ。
 - ・多角的な視点を身につけ、より良い読み手になる。
（借り物の批判でなく、自分の目で見て考えられるように。また、自分だったらどう書くか、まで考えたい）
 - ・自分で調べ、当事者の話を聞き、説得力ある文章を書くことを目指す。
 - ・ひとを取材するのに最低限必要なマナーと配慮を学ぶ。
- ★Ⅰで基礎となる視点を鍛え、Ⅱはできるだけ実践的に進めたい。

テキスト：

・プリントを配布

参考書：

- ・河原理子著「犯罪被害者」（平凡社新書、1999年）
- ・William Cote, Roger Simpson 著 “Covering Violence”（Columbia Univ. Press 2000年）

広告特殊講義Ⅰ・Ⅱ

池田諸苗

授業科目の内容：

広告業界に身を置く者としての観点から、(1) 経済システムにおける「広告」の役割、(2) 広告会社の今日的業務の実態、(3) 最新の広告業界動向と将来見通し、の3点を学んでいただくことを目的としたプログラムを編成。講師は、内容ごとの専門家によるオムニバス形式を基本とし、適宜池田による「まとめ」を織り交ぜる。春学期は主に「過去～現在」、秋学期は主に「現在～未来」を対象領域とする。

メディア特殊講義Ⅰ

境真良

コンテンツ財の経済からエンタメビジネスの産業構造を「読む」

授業科目の内容：

娯楽系コンテンツ財の経済という視点から、資金調達とビジネス

モデルを二つのキーワードに、現在のエンタメ・コンテンツ産業のしくみを再解釈します。単にお金の運動として説明するのではなく、関係者の慣習や主観がどのような理由で形成されるかを重視します。IT二重革命や、国際化に代表される地殻変動の中で、今後エンタメ・コンテンツ産業がどこへ行くのかを考える基本的な力を身につけることが目標です。

テキスト：

特にありません。講義資料プリントを配付します。

参考書：

- ・映像コンテンツ産業論（菅谷実、他、2002、丸善）
- ・経済産業省メディアコンテンツ課の各報告（www.meti.go.jp からダウンロード可能）

メディア特殊講義Ⅱ

前澤哲爾

映画産業と映画振興～2004年、今起っていること

授業科目の内容：

現実の映画を取り巻く環境を国際的な視野で学ぶことの中から、実態を把握する力と主体的に考える力を自ら発見します。

参考書：

適宜、推薦します。

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 映画産業の構造 (2)
3. 日本の映画状況
4. アジアの映画状況
5. 世界の映画状況
6. 世界の映画祭 (2)
7. 映画振興策 (2)
8. フィルムコミッション (2)
9. これからの展望

履修者へのコメント：

常に疑問を持ち、積極的に質問する学生を希望します。ノートだけ取る学生は不用です。

成績評価方法：

・平常点（参加度、積極性、出席率）

質問・相談：

常にOKです。maezawa@film-com.jp

特殊研究Ⅰ（日本の近代化とマス・メディア）小川浩一

授業科目の内容：

戦後日本社会の近代化の原理を「民主主義」と考えた場合に、現在この原理はいかなる状態として認識できるか、原理の実体化にマス・メディアは如何なる貢献をしているかを評価したい。

参考書：

・沢山あるので授業時に指示しますが、岩波新書『新聞は生き残れるか』を読了すること。

特殊研究Ⅱ（日本の近代化とマス・メディア）小川浩一

授業科目の内容：

戦後日本の近代化の原理を「民主主義」と考えた場合に、現在この原理はいかなる状態として認識できるか、原理の実体化にマス・メディアはいかなる貢献をしているかを評価したい。

参考書：

・岩波新書『新聞は生き残れるか』を読了しておくこと。

メディア産業実習Ⅰ・Ⅱ

（三田）宿南達志郎

（日吉）菅谷実

（日吉）金山智子

授業科目の内容：

本講義は、研究所主催のインターンシップである。春学期は、講義と討論形式により各産業の歴史、構造、動向およびインターンシップの意義等を学ぶ。

夏休み期間の2週間以上、各企業のインターンシップに参加す

る。

秋学期には、インターンシップ参加の口頭報告およびレポートを提出する。なお、秋学期については夏休みにおける企業研修参加が単位取得の条件となる。本年度、インターンシップに参加できなかった学生は次年度メディア産業実習Ⅱを登録し、インターンシップに参加することができる。

ジャーナリズム特殊研究Ⅰ・Ⅱ

佐藤 公正
大石 裕

朝日新聞寄付講座

授業科目の内容：

本講義は、第一線で活躍中の朝日新聞の記者をお招きし、ジャーナリズムの諸問題、およびその時々の政治・社会・経済問題などについて講義していただく。

テキスト：

・特に指定しないが、『新聞研究』、『総合ジャーナリズム研究』などは日常的に目を通しておくこと。

参考書：

・特に指定しないが、『新聞研究』、『総合ジャーナリズム研究』などは日常的に目を通しておくこと。

時事英語Ⅰ・Ⅱ(三田・日吉)

小林 雅一

外国メディアの報道から学ぶ現代社会と世界情勢

授業科目の内容：

英字紙・誌の記事を無理なく読解・咀嚼できるようになることが基本的な狙い。時にはビデオを教材にし、放送英語にも接する。「時事」英語なので、英語を通して世界の最新情勢を学ぶ。それによって、より実践的な英語力が養われる。

テキスト：

・特に指定しません。教材を配布します。

参考書：

・講義が進む中で、順に指定します。

文章作法Ⅰ・Ⅱ

村上 久仁子

「伝わる」文章を書こう

授業科目の内容：

文章を書く、ということは「伝える」ということと同時に自分の思考や感性を突き詰める作業でもあります。それだけに個性が強く表れます。その個性を活かしつつ、伝えようとする内容が効果的に読み手に届く、そのような作文能力を引き出すことを目指します。

参考書：

・本多勝一「日本語の作文技術」(朝日新聞社)

放送制作Ⅰ・Ⅱ

碓井 広義

映像制作で考えるテレビ・メディア

授業科目の内容：

2003年12月から始まった地上デジタル放送。送受信のシステムが変化しても、そこで流されるコンテンツ(番組)の重要性は変わりません。むしろ、これまで以上に「創ること」に対する認識が高まると考えられます。この授業では映像制作をしながらテレビ・メディアを考察してゆきます。

テキスト：

・碓井広義「テレビの教科書」(PHP新書・2003年・700円)

メディア・コミュニケーション実習Ⅰ

酒井 由紀子

映像編集の技術

授業科目の内容：

インターネット放送に必要な、ノンリニア編集を学びます。

メディア・コミュニケーション実習Ⅱ

酒井 由紀子

インターネット放送の仕組みを学ぶ

授業科目の内容：

インターネット放送の仕組みを学び、実際に配信を体験します。

メディア・コミュニケーション実習Ⅲ

酒井 由紀子

映像制作を通して学ぶインターネット放送(初級)

授業科目の内容：

映像制作を通してインターネット放送の可能性と問題点を考えます。(初級編)

メディア・コミュニケーション実習Ⅳ

酒井 由紀子

映像制作を通して学ぶインターネット放送(初中級)

授業科目の内容：

映像制作を通してインターネット放送の可能性と問題点を考えます。(初中級編)

電子ネットワーク調査法Ⅰ(日吉)

金山 智子

授業科目の内容：

インターネットの普及は、現代社会に生きる人々のコミュニケーションや情報行動に大きな影響を及ぼしており、また電子ネットワーク上では新しいメディア空間が展開されています。本講義では、人々がサイバースペースで繰り広げるコミュニケーション行動やヴァーチャル・コミュニティのありよう、さらに電子ネットワーク空間で伝達されるさまざまなメディア・メッセージなどを研究するための調査方法について学びます。春学期は電子ネットワーク調査研究の基礎を身に付けます。

教科書：

特に指定しません。講義中に次回までに予習しておく文献や関連ウェブサイトを示します。

参考書：

・池田謙一『ネットワーク・コミュニティ』東京大学出版会

電子ネットワーク調査法Ⅱ(日吉)

金山 智子

授業科目の内容：

秋学期は主に質問調査、内容分析、インタビュー、及び参与観察の調査方法について学びます。調査方法の選定、各調査方法を実施する際の留意点、さらにデータの分析方法も身につけます。実際に小グループで電子ネットワークに関する調査を実施し、クラスで発表してもらいます。

教科書：

特に指定しません。講義中に次回までに予習しておく文献や関連ウェブサイトを示します。

参考書：

・ステイブ・ジョーンズ『ドゥーイング インターネット リサーチ』セージ

文章作法Ⅰ(日吉)

栗田 亘

「天声人語」流に

授業科目の内容：

各自が実際に「書く」ことを通じて、文章の上達をめざす。

文章作法Ⅱ(日吉)

栗田 亘

文章作法Ⅰの成果を発展させて

授業科目の内容：

文章作法Ⅰ以上に実践を重んじ、さまざまな実践に備える。

設置講座案内 (三田)

外国語教育研究センターは、語学視聴覚教育研究室を改組して、昨年の10月に発足しました。英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語およびスペイン語の6外国語について、「表現技法」をキーワードとし、「聴く」「話す」ことから出発し、「読み」「書き」さらに「発想・思考」にいたる外国語学習本来のプロセスを尊重し、各要素のバランスのとれた外国語コミュニケーション能力が確実に身につくよう、少人数編成のクラスで授業を行います。また、超上級クラス、基礎固めのクラス、各種の検定試験に特化したクラスも用意されています。さらに、これらの設置科目のほかに、学部で開講されている外国語科目の一部が外国語教育研究センターに併設されています。

外国語教育研究センターでは、毎年夏休みに慶應立科山荘で行われていた集中セミナーに替わる集中講座を新たなコンセプトのもとに企画しています。計画が決定し次第、外国語教育研究センターのホームページや掲示で広報し、参加者の募集をする予定です。

以下に本年度開講される外国語教育研究センター設置科目の一覧を掲載します。ガイダンス、履修の手続き、および各科目の詳しい講義内容ならびに併設科目については、別途配布の『外国語教育研究センター 履修案内・講義要綱』を参照してください。

ガイダンス日程：4月5日(月) 12:20～12:50 533番教室
受講料は無料です。
定員を超えた場合は抽選となります。

外国語教育研究センター設置科目一覧 (三田)

- * 科目名に (A) (B) と表記されている科目は春 (A)・秋 (B) をセットで履修することが義務付けられている科目です。
- * 科目名に (1) (2) と表記されている科目は春 (1) と秋 (2) のどちらかひとつを履修しても、あるいは両方履修することも可能です。
- * 英語 Grammar in Action: Speaking and Writing と英語アカデミックライティングは春または秋のどちらかの履修のみ可能です。

語種	科目名	担当講師名	設置学期	曜日・時限	定員	形態	単位数
英語	アドバンスト英語 (A) (最上級)	レイサイド, ジェイムズ	春	火・4	25	半期	1
	アドバンスト英語 (B) (最上級)	レイサイド, ジェイムズ	秋			半期	1
	アドバンスト英語 (最上級)	レイサイド, ジェイムズ	春 秋			通年	2
	英語TOEFL 対策 (1) (Developing TOEFL Skills I)	バロウス, リチャード	春	木・5	30	半期	1
	英語TOEFL 対策 (2) (Developing TOEFL Skills II)	バロウス, リチャード	秋			半期	1
	英語TOEIC 対策 (1) (TOEICテスト対策のための実践演習)	狩野 みき	春	月・2	30	半期	1
	英語TOEIC 対策 (2) (TOEICテスト対策のための実践演習)	狩野 みき	秋			半期	1
	英語アカデミックライティング (Writing an Academic Paper in English)	和田 朋子	春 秋	月・5	25	半期	1
	経済・金融英語 (1) (130パターンでおぼえる経済英語の常識)	日向 清人	春	月・3	30	半期	1
	経済・金融英語 (2) (130パターンでおぼえる金融英語の常識)	日向 清人	秋			半期	1
	法律・法務英語 (1) (130パターンでおぼえる会社と法務関係の英語)	日向 清人	春	月・4	30	半期	1
	法律・法務英語 (2) (130パターンでおぼえる契約関係の英語)	日向 清人	秋			半期	1
ドイツ語	ドイツ語表現技法Ⅳ (A) (中上級聴解・口頭表現)	三瓶 慎一	春	月・4	25	半期	1
	ドイツ語表現技法Ⅳ (B) (中上級聴解・口頭表現)	三瓶 慎一	秋			半期	1
	ドイツ語表現技法Ⅳ (中上級聴解・口頭表現)	三瓶 慎一	春 秋			通年	2

語 種	科目名	担当講師名	設置学期	曜日・時限	定員	形態	単位数
ドイツ語	ドイツ語表現技法Ⅴ (A) (中・上級文章表現法)	ドゥッペル-タカヤマ, メヒティルド	春	火・4	25	半期	1
	ドイツ語表現技法Ⅴ (B) (中・上級文章表現法)	ドゥッペル-タカヤマ, メヒティルド	秋			半期	1
	ドイツ語表現技法Ⅴ (中・上級文章表現法)	ドゥッペル-タカヤマ, メヒティルド	春 秋			通年	2
フランス語	フランス語表現技法Ⅱ (1) (DELF第1段階対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル	春	月・4	20	半期	1
	フランス語表現技法Ⅱ (2) (DELF第1段階対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル	秋			半期	1
	フランス語表現技法Ⅲ (1) (DELF第2段階対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル	春	月・4	20	半期	1
	フランス語表現技法Ⅲ (2) (DELF第2段階対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル	秋			半期	1
	フランス語表現技法Ⅳ (1) (DALF対応クラス)	ペリセロ, クリステイアン・アンドレ	春	木・1	20	半期	1
	フランス語表現技法Ⅳ (2) (DALF対応クラス)	ペリセロ, クリステイアン・アンドレ	秋			半期	1
ロシア語	ロシア語表現技法Ⅰ (1) (映画とドラマでロシア語を学ぼう)	熊野谷 葉子	春	金・3	25	半期	1
	ロシア語表現技法Ⅰ (2) (映画とドラマでロシア語を学ぼう)	熊野谷 葉子	秋			半期	1
	ロシア語表現技法Ⅱ (1) (ロシア語で発信しよう)	宮澤 淳一	春 秋	木・4	25	半期	1
	ロシア語表現技法Ⅱ (2) (ロシア語で発信しよう)	宮澤 淳一	春 秋			半期	1
中国語	中国語リスニングⅡ (1) (最上級) (時事中国語)	山下 輝彦	春	月・3	25	半期	1
	中国語リスニングⅡ (2) (最上級) (時事中国語)	山下 輝彦	秋			半期	1
	中国語ライティングⅡ (1) (最上級) (作文と翻訳)	蔣 文明	春	月・5	25	半期	1
	中国語ライティングⅡ (2) (最上級) (作文と翻訳)	蔣 文明	秋			半期	1
スペイン語	スペイン語表現技法Ⅲ (1) (上級) (スペイン語の新聞記事を読む)	長野 太郎	春	月・2	25	半期	1
	スペイン語表現技法Ⅲ (2) (上級) (スペイン語の新聞記事を読む)	長野 太郎	秋			半期	1

2004 年度 外国語教育研究センター設置科目（三田）春学期時間割

時限	第 1 時限		第 2 時限		第 3 時限		第 4 時限		第 5 時限	
曜日	9:00~10:30		10:45~12:15		13:00~14:30		14:45~16:15		16:30~18:00	
月			英語TOEIC対策 (1) スペイン語表現技法Ⅲ (1) (上級)	狩野 長野	経済・金融英語 (1) フランス語表現技法Ⅱ (1) 中国語リスニングⅡ (1) (最上級)	日向 ルカウ・エ 山下	法律・法務英語 (1) ドイツ語表現技法Ⅳ (A) ドイツ語表現技法Ⅳ フランス語表現技法Ⅲ (1)	日向 三瓶 ルカウ・エ	中国語ライティングⅡ (1) (最上級) 英語7gateミッドライティング	蔭 和田
火							ドイツ語表現技法Ⅳ (A) (最上級) ドイツ語表現技法Ⅳ (最上級) ドイツ語表現技法Ⅴ (A) ドイツ語表現技法Ⅴ	レイイト ドクハ ルカウ・エ		
水										
木	フランス語表現技法Ⅳ (1)	ハ・リロ					ロシア語表現技法Ⅱ (1)	宮澤	英語TOEFL対策 (1)	ハ・ロス
金					ロシア語表現技法Ⅰ (1)	熊野谷				
土										

2004 年度 外国語教育研究センター設置科目（三田）秋学期時間割

時限	第 1 時限		第 2 時限		第 3 時限		第 4 時限		第 5 時限	
曜日	9:00~10:30		10:45~12:15		13:00~14:30		14:45~16:15		16:30~18:00	
月			英語TOEIC対策 (2) スペイン語表現技法Ⅲ (2) (上級)	狩野 長野	経済・金融英語 (2) フランス語表現技法Ⅱ (2) 中国語リスニングⅡ (2) (最上級)	日向 ルカウ・エ 山下	法律・法務英語 (2) ドイツ語表現技法Ⅳ (B) ドイツ語表現技法Ⅳ フランス語表現技法Ⅲ (2)	日向 三瓶 ルカウ・エ	中国語ライティングⅡ (2) (最上級) 英語7gateミッドライティング	蔭 和田
火							ドイツ語表現技法Ⅳ (B) (最上級) ドイツ語表現技法Ⅳ (最上級) ドイツ語表現技法Ⅴ (B) ドイツ語表現技法Ⅴ	レイイト ドクハ ルカウ・エ		
水										
木	フランス語表現技法Ⅳ (2)	ハ・リロ					ロシア語表現技法Ⅱ (2)	宮澤	英語TOEFL対策 (2)	ハ・ロス
金					ロシア語表現技法Ⅰ (2)	熊野谷				
土										

情報処理教育室

情報処理教育室では、情報処理に関する講座を開講しています。

情報処理に関する知識・技術を持つことは、学生諸君にとって今や必須のこととなっています。各学部専門課程での学習・研究活動に役立つだけでなく、日常の学習・学内の諸活動に大変有効です。なるべく多くの皆さんが履修しておくことを勧めます。

1 ガイダンス

4月2日（金） 2時限目（10：45～12：15） 513番教室

2 受講申し込み手続き

受講する科目が決まったら、証紙券売機で受講料分の証紙を購入し、申し込み用紙に貼付して窓口へ提出してください。各講座とも定員になり次第締め切ります。

日 時：4月 9日（金） 9：00～16：00

4月10日（土） 9：00～14：00（11：30～12：30は昼休み）

4月12日（月） 9：00～16：00

場 所：三田学事センター

3 履修上の注意

情報処理教育室に申し込みを行った科目については、必ず各学部の履修案内にしたがって各自で履修申告をしてください。履修申告を行わないと単位は与えられませんので特に注意してください。また、受講申し込みをしないで履修申告をしても単位は認められません。

履修申告により単位がどのように与えられるかは学部によって異なります。学部の履修案内を熟読して間違いのないようにしてください。

4 問合せ先

情報処理教育室（日吉学事センター内） 045-566-1019

5 平成16年度開講科目及び受講料

設置講座は受講料が必要ですが、文学部、経済学部、法学部、商学部生については当年度学部設置の情報処理基礎関連の科目（文学部：基礎情報処理 経済学部：情報処理Ⅰ 法学部：情報処理Ⅰ・Ⅱ 商学部：情報処理Ⅰ）を定員の関係で履修できずに「情報処理概論Ⅲ（パソコンによる情報整理学）」を申し込む場合には受講料（12,000円）は免除されます。申し込み方法は変更ありませんが、必ず学生証を提示してください。

平成16年度 情報処理教育室設置講座（三田）

講座名	クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位
情報処理概論Ⅱ	JAVA	12 A 藤村 光	通 年	50	12,000円	4
情報処理概論Ⅲ	パソコンによる情報整理学	13 B 江島 夏実				
情報処理概論Ⅳ	Cobol	14 A 田窪 昭夫	春学期	30	6,000円	2
情報処理応用Ⅱ	統計解析	32 A 鴻巣 努				

開講曜日・時限は学部の時間割ではなく、情報処理教育室設置講座の時間割に記載されます。

授業は学部授業と同様4月8日（木）から開始されます。

参考：平成16年度 情報処理教育室設置講座（日吉）

講座名	クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位
情報処理概論Ⅰ	11 A	恩田 憲一	通 年	100	12,000円	4
	11 B	斎藤 博昭		50		
情報処理概論Ⅲ	パソコンによる情報整理学	13 A 河内谷幸子		46		
情報処理応用Ⅰ	コンピュータグラフィックス	31 A 大野 義夫	春学期	50	5,000円	2

授業科目の内容：

Java 言語を用いてコンピュータを動かす方法、および基本的な考え方を紹介します。

問題をコンピュータで処理できるように分析し、処理を組み立て、プログラムを作成し、結果を検証するという手順で、プログラムを作成する際に必要となる一般的な知識を習得するのが目的です。Java 言語の中核とツールキットの一部を用いて、例題の提示、演習を行います。基本情報技術者試験 (FE) 午後の Java の問題に取り組めるレベルを到達目標とします。

教科書：

Web サイト <http://web.hc.keio.ac.jp/~fujimura/> で公開。適宜更新します。

参考書：

講義の展開と個人の進捗にあわせて適宜紹介します。

授業科目の内容：

ITC のパソコンを利用して、コンピュータの仕組みや社会との関わりを、応用プログラムの使い方を学びながら理解する。けれども、それぞれの応用プログラムの使い方を学ぶことが目的ではなく、コンピュータを利用して、情報を獲得し、整理し、必要ならば加工し、伝達するための基礎知識を学び、これからの大学生活や社会に出ても役立つことが目的である。したがって、パソコンの使い方を憶えるのではなく、コンピュータのハードウェア、ソフトウェアの仕組みについて理解し、ネットワークを用いたコミュニケーションについても理解することが大切である。この講義では、できるだけ多くの実習をとり入れる予定であるが、限られた時間の中で細かな点までを教えることは到底できない。諸君が空いた時間を利用して、自発的に実習することが前提になっている。

教科書：

・ Computer System Workbook 「日本語文書処理」, 同「表計算 1」, (株) コンピュータ教育工学研究所

参考書：

・ Computer System Textbook 「2. ワープロ・表計算・プレゼンテーション」

授業科目の内容：

ビジネス (業務処理) を遂行するにあたって、コンピュータがどのようにデータ処理に利用できるかを理解し、COBOL 言語による基本的なプログラムの作成ができるようになることを目的とする。

コンピュータを使ったビジネスデータ処理 (業務処理) のために、与えられた問題を分析し、解法を設計しコンピュータプログラムの形で実現できる力を養う。

COBOL は、今日の C++, JAVA などと違い、生誕 40 余年を迎え、200 数十万と最大のコンピュータ言語人口を擁し、ビジネス処理の標準言語として、世界で常に一位の地位を保っている。

教科書：

・ 大駒誠一著 COBOL の基礎と応用 — JIS 1992 年版準拠 — サイエンス社

授業科目の内容：

データサイエンスの知識は、外国語や情報処理能力と並び、研究やビジネスに不可欠なツールである。本講義では、調査や実験により得られたデータを統計的に分析し、その持つ意味をいかに引き出すかを学習する。統計解析に関する基礎的内容から出発し、多変量解析の基礎に至るまでを講義内容とする。数学的背景よりも、こうした手法を研究やビジネスのための「ツール」として、利用できるようになることを重視する。統計およびコンピュータに関する予備知識は特に求めない。

教科書：

・ 室淳子、石村貞夫「SPSS でやさしく学ぶ多変量解析」東京図書

参考書：

・ 東京大学教養学部統計学教室編「統計学入門」東京大学出版会
・ 田中豊・脇本和昌「多変量統計解析法」現代数学社

慶應義塾大学 夏季在外研修プログラム

慶應義塾大学 — ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

The Keio University College of William & Mary Cross-Cultural Collaboration

柏崎 千佳子 経済学部助教授

大串 尚代 文学部助手

授業科目の内容：

慶應義塾大学では、「慶應義塾大学 — ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座」を夏季休業期間に開講します。ウィリアム・アンド・メアリー大学（所在地：東海岸ヴァージニア州ウィリアムズバーグ）は、教育・研究で高い評価を得ている州立大学です。創立は1693年で、アメリカではハーバード大学について古い歴史を誇っています。

本講座は、毎年定められるテーマ（2004年度は“American Dreams: Lost and Found”）に沿った講義、グループワーク、フィールドワーク、インタビュー、プレゼンテーション等で構成されています。現地では、大学内での寮生活や、ボランティアワーク、住民との交流、講演会、ホームステイ等を通じ、さまざまな異文化交流が体験できるように工夫されています。短期間に質の高い充実した内容が盛り込まれていますので、アメリカでの生活体験をしたい方、語学力向上を期待する方、将来長期の留学を考えている方などにとって、ふさわしい講座といえるでしょう。現地研修には本学の教職員が同行します。また、ビデオ会議などを含めた事前・事後研修を、日吉キャンパスで実施します。

なお、この講座は、自然災害、戦争・テロ災害、航空機等交通機関にかかわる事故ならびに前期以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する可能性があることをあらかじめご了承ください。詳しくは、国際センター作成の募集要項やホームページ等を参照してください。

教科書：

特にありませんが、研修に参加するにあたり必要と思われる文献・資料は事前研修の際にお知らせします。

授業の計画：

現地研修期間：2004年7月30日（金）～8月19日（木）

4月下旬より事前研修（6回程度）、また、帰国後には事後研修（2回程度）を行います。

研修内容：ウィリアム・アンド・メアリー大学教員による講義および質疑応答、ダイアログクラス、ウィリアム・アンド・メアリー大生をまじえてのグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション、ワシントン DC 近郊の家庭でのホームステイなど。

参加申し込みについて：

- (1) 募集人数：40名（提出書類により選考を行います。）
- (2) 募集対象：全学部・研究科正規生（ただし通信教育部をのぞく）
- (3) 提出書類：①参加申込書（所定用紙）、②学習計画書（日本語及び英語。各A4一枚程度）、③最新の学業成績表のコピー（3月中旬に保証人宛に送付されるもの）、④あれば英語能力証明書のコピー（TOEFL, TOEIC, 各種英語検定など）、⑤RESEARCH PROPOSAL（所定用紙）書類選考後、グループ分けの時に利用します。
- (4) 募集期間：4月7日（水）～4月15日（木） 各地区国際センター（※窓口時間終了後の提出は一切受け付けません。）
- (5) 募集ガイダンス：4月5日（月）三田133番教室 13:00～14:30
4月5日（月）SFC Ω12教室 17:00～18:30
4月6日（火）矢上 14-201教室 13:00～14:30
4月6日（火）日吉 J11教室 17:00～18:30
- (6) 選考結果発表：4月28日（水）13:00（予定）

履修者へのコメント：

This program gives you a rare opportunity to stay at a prestigious American college and to work closely with its staff members. We welcome highly motivated students. (柏崎 千佳子 経済学部助教授)

成績評価方法：

事前・事後研修の出席、中間発表、現地研修期間中の活動、Final Presentation、日本帰国後のFinal Reportにより採点します。

質問・相談：

問い合わせ先：三田国際センター URL <http://www.ic.keio.ac.jp/j-index.html> 「塾生向け海外留学情報」のページをご覧ください。

前野 隆 司 理工学部助教授
池田 幸 弘 経済学部教授

授業科目の内容：

慶應義塾大学では、「慶應義塾大学 ― ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座」を夏季休業期間中、英国・ケンブリッジにおいて開講します。ケンブリッジ大学は、オックスフォード大学と並ぶ英国の名門校で、美しいキャンパスは勉学に最適な環境にあります。授業は英語による講義およびディスカッションを中心としており、講義は原則としてケンブリッジ大学の教員が担当します。講座期間中は、専門分野の知識を深めるだけでなく、ダウニングコレッジ内での寮生活や、ケンブリッジ大生が企画する様々なアクティビティを通して、現地の学生との交流も体験できます。このように本講座は、国際性豊かな学生を育成することを目的としています。現地研修には本学の教職員が同行します。また、現地への出発前に、事前研修を3回程度三田キャンパスで実施する予定です。

なお、この講座は、自然災害、戦争・テロ災害、航空機等交通機関にかかわる事故ならびに前期以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する場合があります。あらかじめご了承ください。詳しくは国際センター作成の募集要項やホームページ等を参照してください。

教科書：

現地での開講科目の参考文献を、国際センター作成の募集要項に記載しています。また、事前研修時にリストにして配布します。

授業の計画：

現地研修期間：2004年8月9日（月）～9月8日（水）

5月～7月に三田キャンパスにて事前研修を3回程度行います。

講義日程：第1週：8月10日（火）～8月16日（月）

Placement Interviews, English & writing preparation classes

第2週：8月17日（火）～8月23日（月）

Ancient Greece and Western Civilization および Genetics: ethical issues arising from developments in genetics

第3週：8月24日（火）～8月30日（月）

Society and Politics in Contemporary Britain および The Science of Chaos

第4週：8月31日（火）～9月6日（月）

English Literature および Astronomy: Unveiling the Universe

9月7日（火）Closing ceremony

第2週から第4週までは、各週2科目ずつ用意された授業の内1科目を選択、合計3科目を選択履修。

※ 各科目とも定員が30名のため、事前に参加者の希望をもとに履修調整を行います。

※ 開講科目は事情により変更されることがあります。

研修内容：ケンブリッジ大学の教員による講義及び質疑応答（午前）

ケンブリッジ大生 (TA: Teaching Assistant) を交えてのディスカッション（午後）。エッセイ作成・提出。

参加申し込みについて：

- (1) 募集人数：60名（提出書類により選考を行います。）
- (2) 募集対象：全学部・研究科正規生（ただし通信教育部をのぞく）
- (3) 提出書類：①参加申込書（所定用紙）、②学習計画書（日本語及び英語。各A4一枚程度）、③最新の学業成績表のコピー（3月中旬に保証人宛に送付されるもの）、④あれば英語能力証明書のコピー（TOEFL, TOEIC, 各種英語検定など）、⑤履修希望科目申告表（所定用紙）
- (4) 募集期間：4月7日（水）～4月15日（木） 各地区国際センター（※窓口時間終了後の提出は一切受け付けません。）
- (5) 募集ガイダンス： 4月5日（月）三田133番教室 13:00～14:30
4月5日（月）SFC Ω12教室 17:00～18:30
4月6日（火）矢上 14-201教室 13:00～14:30
4月6日（火）日吉 J11教室 17:00～18:30
- (6) 選考結果発表： 4月28日（水）13:00～14:30（予定）

履修者へのコメント：

私もかつて、カリフォルニア大、ハーバード大に留学したことがあります。国際経験は、世界観・人生観を1次元から2次元へ（線から面へ）広げることのできるすばらしい経験です。大いに学び、大いに楽しみましょう。（前野 隆司 理工学部助教授）

これからの若い人たちには、海外で職探しをするくらい気合を期待したいと思います。本プログラムは、イギリスの文化や制度を知るためにも、また日本を見直すための一助となるものと信じます。Good Luck!（池田 幸弘 経済学部教授）

成績評価方法：

現地でのエッセイの評価をもとに行います。

質問・相談：

問い合わせ先：三田国際センター URL <http://www.ic.keio.ac.jp/j-index.html> 「塾生向け海外留学情報」のページをご覧ください。

国際センター設置講座

国際研究講座ならびに日本研究講座受講希望者へ

国際センターでは、外国および日本の文化や社会、国際関係を理解するための英語による講座を開講しています。本年度国際研究講座で取り扱う国／地域は、米国、カナダ、オーストラリア、東南アジア、ラテンアメリカにおよび、EU関係の講座も開講します。一方日本研究講座では、経済、産業、文学、芸術、マスコミなど幅広い側面から日本を探求します。

なお、本講座の履修単位の取り扱いは各学部・研究科により異なりますので、履修申告の際には履修単位の取り扱いを必ず確認してください。

1. 対象

1) 国際研究講座

本塾大学学部生ならびに大学院生

2) 日本研究講座

本塾大学に在籍する外国人留学生を対象としていますが、日本人学生の受講も奨励しています。海外からの外国人留学生と共に英語で学ぶ授業としてユニークなものであり、学問を通しての国際交流の場として日本人学生の積極的な参加を歓迎します。

2. 手続方法

学事センターで所定の履修申告をしてください。国際センターに出向く必要はありません。 学部・大学院が設置主体の科目については、学部・大学院の登録番号を使用して登録手続きをしてください。

所属する学部・研究科で履修対象とならない科目については、三田、日吉の国際センターにある所定の用紙に必要事項を記入し、次の手続期間内に国際センターに直接申し込んでください。

国際センター受付期間：

春学期開講科目 4月15日(木)～21日(水) 10:00～16:00

秋学期開講科目 10月2日(土)～8日(金) 10:00～16:00

*いずれも日吉は 10:00～11:30, 12:30～16:00

*土曜日は 10:00～11:30, 12:30～14:00

3. 受講料

無料です。

4. 掲示

休講などの連絡事項は、三田西校舎国際センター掲示板（日吉では第四校舎・藤山記念館の国際センター掲示板、学事センターの共通掲示板）に掲示されます。

法学部の履修取扱いについて

【夏季講座】

担当者氏名	授業科目名
前野 隆司・池田 幸弘	慶應義塾大学ーケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座
柏崎千佳子・大串 尚代	慶應義塾大学ーウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

【国際研究講座】

担当者氏名	授業科目名
ケルヒア, アラン	オーストラリアにおける死と喪失
細谷 明子	国際人権法
エインジ, マイケル	比較映画論：映画における過去観の諸文化比較
奥田 暁代	アメリカ研究：アフリカ系アメリカ人の視点からみたアメリカ史
トビン, ロバート	グローバルビジネスにおける革新と戦略
トビン, ロバート	アジア諸国におけるビジネスマネジメント
アントリネス, マリオ	世界政治におけるラテンアメリカ
後藤 一美	国際開発協力論
イエローリーズ, ジェームズ	カナダという国とカナダの国際的な役割
ショールズ, ジョゼフ	異文化研究：文化、価値と自己理解
ショールズ, ジョゼフ	異文化研究：国際化と異文化理解プロセス
近藤 英俊	アフリカインシユーズ：アフリカにおける近代と危機の意味
秋尾 沙戸子	アジアの政治、宗教、文化
嘉治 佐保子	EU・ジャパン・エコノミック・リレーションズ
山口 光恒	地球環境問題と企業・政府・消費者
ルイス, ジョナサン	産業史各論（科学技術政策史）
田中 俊郎	プロジェクト科目・欧州統合
庄司 克宏	
深尾 光洋	金融特論
小島 明	国際経済

【日本研究講座】

担当者氏名	授業科目名
ドーシー, ジェームス	芸術と戦争：日本の戦時体制と作家、詩人、評論家
カーペンター, ジョン	美術を「よむ」ー日本美術史入門
ルーマニエル, ニコル	
河合 正朝	
アーマー, アンドルー J.	浮世と道行き
アーマー, アンドルー J.	日本の文学
ナコルチェフスキー, アンドロイ	日本の宗教：救済の探求
柏崎 千佳子	多民族社会としての日本
添谷 芳秀	日本の政治と外交
太田 昭子	近代日本の対外交流史
レイサイド, ジェイムス M.	20世紀日本文学に与えたヨーロッパ文学の影響
伊藤 規子	日本の経済システムにおける政府の役割
梅津 光弘	日本の経営
手塚 千鶴子	異文化コミュニケーション1ー日本的コミュニケーションパターンから見た場合ー
手塚 千鶴子	異文化コミュニケーション2ー異文化接触における日本人のアイデンティティーー
稲葉 エツ	日本企業の経営戦略と管理手法
石井 宏明	NPO/NGO 実践講座ー日本のケース
キンモンズ, アール H.	英国と米国のマスコミに描かれた日本
市川 博也	日本経済の展望
嘉治 佐保子	エコノミー・オブ・ジャパン
小島 明	ジャパニーズ・エコノミー
ハリス, グレアム	日本の金融ビッグバン
ドゥウルフ, チャールズ	科学技術文化特論

学 期	単位数	実施場所	備 考	法 律	政 治
特定期間集中	4	英国		自主選択科目	自主選択科目
特定期間集中	4	米国		自主選択科目	自主選択科目

言語	学期	単位数	設置地区	備 考	法 律	政 治
英語	春	2	三田		自由科目	自由科目
英語	春	2	三田		自主選択科目	自主選択科目
英語	秋	2	三田		自主選択科目	自主選択科目
英語	秋	2	三田		自主選択科目	自主選択科目
英語	春	2	三田		自主選択科目	自主選択科目
英語	秋	2	三田		自主選択科目	自主選択科目
英語	春	2	三田		自主選択科目	自主選択科目
英語	秋	2	三田		自主選択科目	自主選択科目
英語	秋	2	三田		自主選択科目	自主選択科目
英語	春	2	三田		自由科目	自由科目
英語	秋	2	三田		自由科目	自由科目
英語	秋	2	三田		自由科目	自由科目
英語	秋	2	三田		自主選択科目	自主選択科目
英語	秋	2	三田	経済学部が設置主体	経済学部設置科目を履修	
英語	秋	2	三田	経済学部が設置主体	経済学部設置科目を履修	
英語	秋	2	三田	商学部が設置主体	商学部設置科目を履修	
英語	秋	2	三田	法学研究科が設置主体	大学院設置科目のため履修対象外	
英語	秋	2	三田	商学研究科が設置主体	大学院設置科目のため履修対象外	
英語	秋	2	三田	商学研究科が設置主体	大学院設置科目のため履修対象外	

言語	学期	単位数	設置地区	備 考	法 律	政 治
英語	秋	2	三田		自由科目	自由科目
英語	春	2	三田		自主選択科目	自主選択科目
英語	春	2	三田		自主選択科目	自主選択科目
英語	秋	2	三田		自主選択科目	自主選択科目
英語	秋	2	三田		自主選択科目	自主選択科目
英語	春	2	三田		自主選択科目	自主選択科目
英語	春	2	三田		自主選択科目	自主選択科目
英語	秋	2	三田		自主選択科目	自主選択科目
英語	秋	2	三田		自主選択科目	自主選択科目
英語	秋	2	三田		自主選択科目	自主選択科目
英語	春	2	三田		自主選択科目	自主選択科目
英語	春	2	三田		自主選択科目	自主選択科目
英語	秋	2	三田		自主選択科目	自主選択科目
英語	春	2	三田		自由科目	自由科目
英語	秋	2	三田		自主選択科目	自主選択科目
英語	春	2	三田		自主選択科目	自主選択科目
英語	秋	2	三田		自主選択科目	自主選択科目
英語	春	2	三田	経済学部が設置主体	経済学部設置科目を履修	
英語	春	2	三田	商学部・商学研究科が設置主体	商学部設置科目を履修	
英語	春	2	三田		自主選択科目	自主選択科目
英語	秋	2	日吉	理工学研究科が設置主体	大学院設置科目のため履修対象外	

I 国際研究講座 (INTERNATIONAL STUDIES)

異文化研究：文化、価値と自己理解

(2単位) (春 火3)

CULTURE AND THE UNCONSCIOUS: LOOKING FOR THE HIDDEN ROOTS OF CULTURAL DIFFERENCE

(2 Credits) (Spring Tue 3)

シヨールズ, ジョセフ 国際センター講師 (立教大学助教授)

Joseph Shaules

Lecturer International Center (Associate Professor, Rikkyo University)

Course Description:

Culture has two sides, a visible side - food, clothing, architecture - and a hidden side of unconscious beliefs, values and assumptions. In this course we will learn the story of the discovery of hidden culture. We will explore culture's unconscious influence over us, and see how hidden cultural difference creates conflict in relationships and communication. This will involve learning hidden patterns of cultural difference related to things like: time, personal space, cooperation, independence, fairness, equality, emotion. Students will discuss their intercultural experiences, share their opinions and give presentations. The ultimate goal of this course is a deeper self-understanding.

Text Book:

Handouts to be supplied by the teacher.

Recommended Readings:

Different Realities - Adventures in intercultural communication, by Shaules & Abe, published by Nan'un-do.

Riding the Waves of Culture, by Trompenaars and Hampden-Turner, published by McGraw Hill

世界政治におけるラテンアメリカ

(2単位) (春 火5)

LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS

(2 Credits) (Spring Tue 5)

アントリネス, マリオ 国際センター講師

Mario Antolinez

Lecturer, International Center

Course Description:

The countries of Latin America and the Caribbean form a vast and complex part of the Western Hemisphere. Although the strategic geopolitical relevance of the region has been recognized, Latin American values and attitudes regarding politics, business and life in general remain profoundly misunderstood, if not totally unknown by many. Not surprisingly, what people think they know about the region is based on unfair stereotypes and generalizations generated by some dramatic event covered by the world media.

Thus, the main objective of this course is to foster a greater understanding of the region's realities. The course is designed as a multidisciplinary study focusing on Latin American politics, economics and foreign policy, and it is divided in two parts. Part I deals with the main features of Latin America as a region, while Part II consists mainly of a country-by-country approach.

Text Book:

Hillman Richard, "Understanding Contemporary Latin America". Lynne Rienner Publishers, 2001.

Recommended Readings:

Atkins Pope, "Latin America in the International Political System". Westview Press, 1995.

Black Knippers Jan, "Latin America: Its Problems and Its Promise". Westview Press, 1998.

Calvert Peter, "The International Politics of Latin America". Manchester University Press, 1994.

Cortes Roberto, "The Latin American Economies". Holmes & Meir, 1985.

Child Jack, "Geopolitics and Conflict in South America". Praeger, 1985.

Lael Richard, "Arrogant Diplomacy". Scholarly Resources, 1987.

Levine Donrel, "Religion and Politics in Latin America". Princeton University Press, 1981.

Lowenthal Abraham, "Partners in Conflict: The United States and Latin America". Johns Hopkins University Press, 1990.

Molineu Harold, "U.S Policy toward Latin America: From Regionalism to Globalism", Westview Press, 1990.

Peeler John, "Latin American Democracies". University of North Carolina Press, 1983.

Rosenberg Mark, "Americas: An Anthology". Oxford University Press, 1992.

Smith Peter, "Modern Latin America". Oxford University Press, 1997.

Tokatlian Juan, "Teoria y Practica de la Politica Exterior Latinoamericana", 1983.

Wesson Robert, "U.S. Influence in Latin American in the 1980's. Praeger.

Course Description:

Students will study five different aspects of international human rights including:

1. Procedures for implementing international human rights involving state reporting to treaty bodies; individual complaints; thematic, country rapporteurs, and other U.N. emergency procedures for dealing with gross violations; humanitarian intervention; criminal prosecution and procedures for compensating victims; diplomatic intervention; state v. state complaints; litigation in domestic courts; the work of nongovernmental organizations; etc.
2. Major international institutions including the human rights treaty bodies; the U.N. Commission on Human Rights and its Sub-Commission on the Promotion and Protection of Human Rights; the U.N. Security Council; international criminal tribunals; the International Criminal Court; U.N. field operations authorized by the U.N. Security Council or under the authority of the U.N. High Commissioner for Human Rights; the Inter-American Commission on and Court of Human Rights; the European Court of Human Rights and other parts of the European human rights system; the U.N. High Commissioner for Refugees; and the International Labor Organization
3. Human rights situations in various countries such as South Africa, Iran, Myanmar, East Timor, Kosovo, Cambodia, former Yugoslavia, the Democratic Republic of Congo, Japan, the United States, Europe, Sudan, Ghana, and India
4. Substantive human rights problems related to the rights of the child, economic rights, the right to development, torture and other ill-treatment, minority rights, the right to a free and fair election, human rights in armed conflict, crimes against humanity, arbitrary killing, indigenous rights, self-determination, discrimination against women, the rights of refugees, etc.
5. Learning methods such as advising a client, role-playing, the dialogue methods, drafting, and advocacy in litigation

Text Book:

David Weissbrodt, Joan Fitzpatrick, and Frank Newman, *International Human Rights: Law, Policy and Process* (3rd ed. 2001) and supplement *Selected International Human Rights Instruments and Bibliography for Research on International Human Rights Law*

Course Description:

This is an introduction to Australian society examined through the prism of its experiences in death and loss. We will examine important dimensions of Australian history, politics and society by describing and reflecting on how these sociological dimensions shape - and are shaped by - experiences of Australian mortality.

The aims of this subject are:

- To provide a basic introduction to the culture and history of Australian society
- To provide a comparative basis for reflections about Australian national character with that of contemporary Japanese
- To provide an understanding of the most important patterns of national conflict - race, gender and class - that characterize the zeitgeist ['spirit of the times'] for Australian society today.
- To understand Australian experiences of death and loss

Our discussions will revolve around a weekly reading. The topics and citations to these readings are supplied to you in this outline.

Your teacher for this course is:

Professor Allan Kellehear, PhD, is Professor of Palliative Care and Director of the Palliative Care Unit at La Trobe University in Melbourne, Australia. He is also Professorial Fellow at the University of Melbourne Medical School and Chair of the Scientific Advisory Committee of the National Centre for HIV Social Research in Sydney. In 2000 he was British Academy Visiting Professor at the University of Bath and the Religious Experience Research Centre at Westminster College, Oxford. He is the author or editor of 17 books and is currently in Japan as Visiting Professor of Australian Studies at the University of Tokyo.

グローバルビジネスにおける革新と戦略 (2単位) (春 金 3)
INNOVATION AND STRATEGY IN GLOBAL BUSINESS (2 Credits) (Spring Fri 3)
トビン, ロバート I. 商学部教授
Robert I. Tobin Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course examines successful innovations in global organizations-including market-changing products, inventive approaches to leadership and work, synergy between technology and product development, and the crafting, implementing and executing of business strategy. Ideas, customers, leadership, technology, markets, and talent are all part of the mix when companies innovate and craft business strategy-and will be examined in this course.

Students will develop the skills and tools that are critical for inventing and utilizing new business concepts, re-inventing old ones, and making innovation part of their lives.

The course will be conducted seminar -style with lecture-discussions, student group presentations, case studies, video segments, experiential class activities, and research assignments..

Text Book:

Leading the Revolution by Gary Hamel
Supplementary Reading Materials and Case Studies
Additional Book To Be Assigned

Recommended Readings:

Students are encouraged to read related materials in The Asian Wall Street Journal, Business Week, and Fast Company and to watch related business television broadcasts.

産業史各論 (科学技術政策史) (2単位) (秋 月 1)
HISTORY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY POLICY (2 Credits) (Fall Mon 1)
ルイス, ジョナサン 商学部非常勤講師 (一橋大学助教授)
Jonathan Lewis Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce (Associate Professor, Hitotsubashi University)

Course Description:

This course investigates the aims, effectiveness and unexpected consequences of science and technology policies around the world. It considers the roles of states, enterprises and universities in scientific research and technological development in the context of globalization from a variety of perspectives.

The class will be in English and Japanese.

Recommended Readings:

Etzkowitz, Henry, 2002. MIT and the Rise of Entrepreneurial Science. Routledge.
Fuller, Steve, 1997. Science. Open University Press.
Hafner, Katie and Lyons, Matthe, 1998. Where Wizards Stay Up Late. Simon & Schuster.
L_vy, Pierre, 2001. Cyberculture. University of Minnesota Press.
Low, Morris; Nakayama, Shigeru and Yoshika, Hitoshi, 1999. Science, technology and society in contemporary Japan. Cambridge University Press.
Mani, Sunil, 2002. Government, innovation and Technology Policy: an international comparative analysis. Edward Elgar.
Penely, Constance. 1997. NASA/Trek: popular science and sex in America. Verso.
Samuels, Richard J. 1994. "Rich Nation, Strong Army". Cornell University Press.
加藤弘一 著「電脳社会の日本語」文春新書, 2000
中山茂 他 著「通史 日本の科学技術」ガクヨウ書房, 1995

アジアの政治, 宗教, 文化	(2 単位) (秋 月 4)
POLITICAL CULTURES OF SOUTHEAST ASIA: POLITICS, RELIGION, AND CULTURE	(2 Credits) (Fall Mon 4)
秋尾沙戸子	国際センター講師 (ジャーナリスト)
Satoko Akio	Lecturer, International Center (Journalist)

Course Description:

This course surveys the values and the attitudes which supply the original assumptions and the patterns which determine the political behavior influenced by the conventional traditions in Southeast Asia. Unique topics such as the role of Islam, Buddhism, and patron-client relations should be focused on while discussing the political leadership. Video presentation of historical events will help to understand the background of this region. Course requirements are active participation in the classroom, oral presentation and term paper.

Text Book:

Funston, John, (ed), *Government and Politics in Southeast Asia*, Singapore, Institute of Southeast Asian Studies, 2001.

アメリカ研究：アフリカ系アメリカ人の視点からみたアメリカ史	(2 単位) (秋 月 4)
AMERICAN STUDIES: HISTORY OF THE UNITED STATES FROM AN AFRICAN-AMERICAN PERSPECTIVE	(2 Credits) (Fall Mon 4)
奥田暁代	法学部助教授
Akiyo Okuda	Associate Professor, Faculty of Law

Course Description:

The objective of this course is to promote the student's understanding of American history and culture by exploring the diverse experiences of black people in the United States. Emphasis will be placed on contemporary public issues as well as on the historical events. By means of discussion, lectures, videos, reading, writing, and class presentation, this course will provide new insights and perspectives into American history and culture.

Recommended Readings:

John Hope Franklin: From Slavery to Freedom

地球環境問題と企業・政府・消費者	(2 単位) (秋 月 4)
GLOBAL ENVIRONMENTAL ISSUES AND ACTORS	(2 Credits) (Fall Mon 4)
山口光恒	経済学部教授
Mitsutsune Yamaguchi	Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course is offered in English.

By attending this course, you will understand what's happening on global environment and how important they are to our economy, health and future generations. I will focus on the actors, such as firms, governments and consumers and explain their roles. Then move on to selected issues; First, climate change (including international as well as domestic policies and measures), second, waste minimization focusing on EPR (Extended Producer Responsibility), and, if time allows, compatibility of free trade and environment.

1. Nature of global environmental problems
2. Global environmental issues and firms
3. SO Environment Management and Firm
4. Government activity (1) - Cost benefit analysis and value of the environment
5. Government activity (2) - Policies and measures
6. Role of consumers and NGO's
7. Climate change (1) -IPCC report and Framework Convention on Climate Change
8. Climate change (2) -Kyoto Protocol and US withdrawal
9. Climate change (3) -Domestic measures
10. Waste problems, Extended Producer Responsibility
11. Waste Problems, EPR-Japanese situation
12. Free trade and the environmental protection

Text books:

F.Cairncross, "Costing the Earth", Harvard Business School Press, 1991
 山口光恒「地球環境問題と企業」岩波書店2000年

異文化研究：国際化と異文化理解プロセス

(2単位) (秋 火 4)

INTERNATIONALISM AND CULTURAL LEARNING: HUMAN RELATIONS IN THE NEW GLOBAL COMMUNITY

(2 Credits) (Fall Tue 4)

ショールズ, ジョセフ 国際センター講師 (立教大学助教授)

Joseph Shaules Lecturer, International Center (Associate Professor, Rikkyo University)

Course Description:

Traveling, living abroad and dealing with people from other cultures sometimes leads to understanding, tolerance and rich human relations. At other times, it increases stereotypes, creates conflict, causes culture shock and even identity crises. In this course, we will study this process of cultural learning. We will look at the stages that sojourners (travelers, expatriates etc.) go through when adapting to new environments, including how one's view of the world, values, and even identity can change. We will try to understand what it means to be "international" or "bi-cultural". The emphasis will be on the personal cultural learning experience, rather than geopolitical issues. There will strong emphasis on student discussion, student presentations, and students' intercultural experiences.

Text Books:

Handouts to be supplied by the teacher.

Recommended Readings:

Different Realities - Adventures in intercultural communication, by Shaules & Abe, published by Nan'un-do
 Identity, by Shaules, Tsujioka & Iida, published by Oxford University Press

カナダという国とカナダの国際的な役割

(2単位) (秋 火 5)

CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE

(2 Credits) (Fall Tue 5)

イエローリーズ, ジェームズ 国際センター講師 (カナダ日本連盟日本代表)

James Yellowlees Lecturer, International Center (Director-Japan, Canadian Education Alliance)

Course Description:

The course will focus on introducing the history, economy and social and political systems of Canada. Students will then examine contemporary Canada and its role in the international community. We will make use of videos and computer assisted media.

比較映画論：映画における過去観の諸文化比較

(2単位) (秋 水 2)

VISIONS OF THE PAST: CROSS-CULTURAL COMPARISON OF HISTORICAL FILM

(2 Credits) (Fall Wed 2)

エインジ, マイケル W. 経済学部助教授

Michael W. Ainge Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

Historical Drama is a well-established film genre in most nations. While the majority of historical films ostensibly try to "re-create" past events, and present a "window on the past", others depict the past in such a way as to comment on the nature of presenting history on film. In this course, we will examine historical films from around the world—Asia, Africa, Europe, Latin America and North America—with an eye on how they treat their historical subjects and on which attendant historiographical issues they raise. We will learn to recognize the basic issues and problems of presenting history on film (as compared to history recorded in books and manuscripts, for example), and this will allow us to discuss and compare how filmmakers in different cultures have responded to those problems.

First, we will define the two dominant types of historical film, the drama and documentary, analyzing their conventions, as well as assessing their limitations. Then, we will proceed to survey some alternative approaches to representing the past on film. All along, we will try to uncover the "hidden" ideological and interpretive assumptions in the films. We will have to consider the relationship between fact and film, and the questions of accuracy, completeness, complexity, argument. Finally, students will be expected to view a film independently, and to write a paper analyzing that particular film in light of the questions and theories discussed in the class.

Students will be required to watch the assigned films on video before class, as homework, and to prepare questions for discussion in English in class. Assigned films will be available with English and/or Japanese subtitles. Evaluation will be based on: class participation (40%), and understanding of the course material as demonstrated in a term paper (60%).

A partial list of films on the course syllabus:

CEDDO (SENEGAL, 1978)
FRIDA, NATURALEZA VIVA (Mexico, 1984)
HEARTS AND MINDS (U.S.A., 1975)
JFK (U.S.A., 1991)
THE MARRIAGE OF MARIA BRAUN (W. GERMANY, 1979)
QUILOMBO (BRAZIL, 1984)
REDS (U.S.A., 1981)
SANS SOLEIL (FRANCE, 1982)
TANGO (SPAIN/ARGENTINA, 1998)
WALKER (U.S.A., 1987)

Additionally, written material for background reading and historical analysis will be available, for a small fee. The class will be conducted as a lecture-discussion, with frequent student presentations.

アフリカン イシューズ： アフリカにおける近代と危機の意味	(2 単位) (秋 木 5)
AFRICAN ISSUES: THE MEANING OF MODERNITY AND CRISES IN AFRICA	(2 Credits) (Fall Thu 5)
近藤英俊	国際センター講師 (関西外国語大学助教授)
Hidetoshi Kondo	Lecturer, International Center (Associate Professor, Kansai Gaidai University)

Course Description:

Children, who are emaciated with protruding bellies and fly-infested faces, are crying for food, or worse, already motionless in their mothers' arms. For many, such a shocking scene is typically associated with Africa. This popular imagery has its origin in mass media that are often sensationalistic as to African coverage. The truth is that Africa is the continent of wonderfully rich and diverse cultures, where people live their vibrant everyday life. Yet, from this, it does not immediately follow that Africa is a trouble-free region. Just as Japan and other industrial countries have many social problems, Africa does have critical issues to be pursued.

This course is intended to explore some of the major problems that Africa is currently facing. This year we will focus on the issues of medicine and illness in contemporary Africa. Using wide range of academic disciplines, we will explore the social and cultural aspects of medicine and illness in Africa. Thus, the topics we deal with include: (1) complexity and flow of medical cultures, (2) social relations and power in medicine, (3) capitalism, the state and medicine, (4) development and decline of bio-medicine, (5) traditional medicine and professionalisation, (6) religion as medicine, (7) cultural understandings and social consequences of AIDS pandemic.

The course comprises lectures and class works. For class works, students are required to read and summarise a part of books or articles (minimum 30 pages per week) before attending the class. In the class, students will discuss their readings in a small group and then present it in front of all the rest. This is by no means an easy course! Assessment is based on active participation in class works and an essay (3000 words) submitted at the end of the term.

アジア諸国におけるビジネスマネジメント	(2 単位) (秋 金 3)
BUSINESS MANAGEMENT IN ASIAN COUNTRIES	(2 Credits) (Fall Fri 3)
トビン, ロバート I.	商学部教授
Robert Tobin I.	Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course focuses on strengthening your understanding of the major issues and challenges involved in the leadership of businesses in Asia. There will be a special focus on businesses and the styles of management of firms headquartered in Asia outside of Japan.

Students will explore traditional and emerging issues for Asia's business and political leaders and their organizations. In addition students will enhance their communication and leadership skills on group projects with other students.

Among the topics will be the unique political, economic, social and cultural influences on Asian management, issues related to corporate governance and ownership, entrepreneurship and strategy.

The course will be conducted seminar-style with presentations and discussions based on assigned readings, case studies, video segments, open-space activities, projects, experiential class activities, and research assignments.

Text Book:

Asian Management Systems, Min Chen.

Additional assigned articles and supplementary readings

Recommended Readings:

Students are encouraged to read related materials in The Wall Street Journal, Business Week, and The Economist and to watch related television broadcasts.

国際開発協力論	(2単位) (秋 金 4)
INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION	(2 Credits) (Fall Fri 4)
後藤一美	法学部非常勤講師 (法政大学教授)
Kazumi Goto	Part-time Lecturer, Faculty of Law (Professor, Hosei University)

Course Description:

The twenty-first century is an era of global governance. The realm of contemporary international relations has seen the commencement of new political attempts to gradually reform existing systems in complex governance with different players and multi-tiered networks for the creation of a convivial global society, in which the common values of peace, prosperity and stability are pluralistically shared, overcoming the risks of asymmetry and tit-for-tat sequences. In this new political initiative towards an unknown world, there are some critical challenges, including the pursuit of public goals in the international community and of effective measures to reach them. In the new world of international development cooperation, aid donors and aid recipients have different dreams yet lie in the same bed with a dynamic and tense relationship. By reviewing frontline efforts in international development cooperation with a view towards sustainable growth and poverty reduction from the perspective of cooperation policies, this course is intended to provide some basic foundations and applications for the management of international development cooperation with students that are interested in the main issues of poverty and development in the developing regions, and that wish to be involved in the world of international development cooperation in the future. Several guest speakers shall be invited from international aid agencies.

Text Book:

Textbook is not used in particular. Resume and list of reading materials will be available during the course and via e-mail.

Recommended Readings:

Some recommended readings are as follows:

Finn Tarp, *Foreign Aid and Development: Lessons Learned and Directions for the Future*, Routledge, 2000.

John Degnol-Martinussen and Poul Engberg-Pedersen, *Aid: Understanding International Development Cooperation*, Zed Books, 2003.

唐木園和・後藤一美・金子芳樹・山本信人 (編) 『現代アジアの統治と共生』慶應義塾大学出版会, 2002年。

青木健・馬田啓一 (編) 『政策提言/日本の対アジア経済政策』日本評論社, 2004年。

後藤一美 (監修) 『国際協力用語集』(第3版), 国際開発ジャーナル社, 2004年。

EU・ジャパン・エコノミック・リレーションズ	(2単位) (秋 土 2)
EU - JAPAN ECONOMIC RELATIONS	(2 Credits) (Fall Sat 2)
嘉治佐保子	経済学部教授
Sahoko Kaji	Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course is offered in English. The text used in this course is Julie Gilson, *Japan and the European Union*, Macmillan Press (in the UK), St Martin's Press (in the USA), 2000. The contents of the book are as follows:

- Chapter 1 Introduction: Assessing Bilateral Relations
- Chapter 2 Developing Cooperation, 1950s - 80s
- Chapter 3 Japan and its Changing Views of Japan
- Chapter 4 European Integration and Changing Views of Europe

Chapter 5 The 1990s and a New Era in Japan-EU Relations
Chapter 6 Cooperation in Regional Forums
Chapter 7 Addressing Global Agendas
Chapter 8 Conclusions: A Partnership for the Twenty-first Century

Lectures will be based mostly on chapters of this text. Emphasis will be on the economic side of EU-Japan relations, rather than the political or historical. The plan is to use the first lecture for introduction. During the following weeks, one to two lecture-hours will be spent discussing each of the chapters 1 through 8.

The topic to be discussed in the following week will be announced at the end of each lecture. Students must submit a report on the Topic each week. They should thus familiarize themselves with the topic before coming to class. Several copies of the text will be on reserve at the library.

Evaluation is by class participation and an essay at the end of the term. For lighter reading on Japan, students may turn to Kaji, Hama and Rice, *The Xenophobe's Guide to the Japanese*, Oval Books, 1999, £ 3.99. Reading and/or purchasing of this latter book are not necessary.

II 日本研究講座 (JAPANESE STUDIES COURSES)

異文化コミュニケーション1 —日本のコミュニケーションパターンから見た場合—	(2単位) (春 月5)
INTERCULTURAL COMMUNICATION 1: SEEN FROM JAPANESE COMMUNICATION PATTERNS	(2 Credits) (Spring Mon 5)
手塚 千鶴子	国際センター助教授
Chizuko Tezuka	Associate Professor, International Center

Course Description:

This course has three interrelated purposes. The first is to help students learn some essential elements of Japanese psychology and culture, and their implications for communication patterns of Japanese people both among themselves and in intercultural settings. The second is to help students to examine both difficulties/challenges and excitements/joys of intercultural communication by learning key concepts and issues of intercultural communication. The third is to facilitate both Japanese and international students' on-going intercultural communication both by increasing self-awareness of how their respective cultures affect their communication patterns and by arranging them to learn to work together successfully on group projects which will serve as testing grounds for their intercultural communication.

Text Books:

No designated textbook and handouts will be distributed.

Recommended Readings:

Japanese culture and behavior: selected readings by Takie Lebra & William Lebra
Japanese patterns of behavior by Takie Sugiyama Leba
Dependency and Japanese socialization by Frank A. Johnson
Conflict in Japan edited by Ellis Krauss, Thomas Rohlen, and Patricia G. Steinhoff
An introduction to intercultural communication by John C. Condon & Fathi Yousef
Intercultural communication :a reader (6th edition) by L.A.Samovar & R.E.Peter

日本の金融ビッグバン	(2単位) (春 火3)
FINANCIAL DEREGULATION (BIG BANG) IN JAPAN	(2 Credits) (Spring Tue 3)
ハリス, グレアム O.B.E.	商学部非常勤講師
Graham Harris O.B.E.	Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

In this class we will study the role of foreign and Japanese financial institutions in Japan including banks, securities and insurance companies. We will evaluate the Big Bang changes and ascertain whether or not they are achieving their purpose.

Text Book:

Current materials will be used.

英国と米国のマスコミに描かれた日本	(2単位) (春 火3)
JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION	(2 Credits) (Spring Tue 3)
キンモンズ, アール H.	国際センター講師 (大正大学教授)
Earl H. Kinmonth	Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

Course Description:

This course examines foreign (primarily Anglo-American) views of Japan from the earliest awareness of Japan until the present. For Japanese, the course serves as an introduction to the many ways Japan has been and is seen by foreign observers. For non-Japanese, the course serves to introduce students to the limits and peculiarities of scholarly and journalistic writing on Japan. For both, the course is intended to give students an awareness of the degree to which not just journalists but also allegedly objective scholarly observers are in fact heavily influenced by the historical and political circumstances in which they write.

Recommended Readings:

Appropriate readings will be suggested in conjunction with the lectures.

多民族社会としての日本	(2 単位) (春 火 4)
MULTIETHNIC JAPAN	(2 Credits) (Spring Tue 4)
柏崎 千佳子	経済学部助教授
Chikako Kashiwazaki	Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course introduces students to 'multiethnic Japan'. Although Japanese society is often portrayed as ethnically homogeneous, its members include diverse groups of people such as the Ainu, Okinawans, zainichi Koreans, and various 'newcomer' foreign residents. In this course, students will learn about minority groups in Japan and their relations with the majority 'Japanese' population. The goal of this course is to acquire basic knowledge and analytic tools to discuss issues concerning ethnic relations in Japan and elsewhere.

Texts:

Reading materials consist of excerpts from a variety of sources and will be provided by the instructor.

日本企業の経営戦略と管理手法	(2 単位) (春 火 4)
CORPORATE STRATEGIES, MANAGEMENT SYSTEMS AND PRACTICES IN JAPAN: Understanding Key Success Factors for Developing and Implementing Corporate Strategies	(2 Credits) (Spring Tue 4)
稲葉 エツ	国際センター講師 (財団法人貿易研修センター人材育成部長)
Etsu Inaba	Lecturer, International Center (Director, Human Resource Development Department, Institute for International Studies and Training)

Course Description:

Objectives:

1. This course tries to identify key success factors of linking corporate strategies with the management systems and practices. Using case studies and discussion, we will look at the micro level management strategies and practices.
2. The course also tries to develop analytical and experiential learning skills as well as discussion/presentation skills in students.

Under the increasingly global economy, companies are constantly reviewing their strategies and management practices to meet the new challenges. It is recognized that the competitiveness of corporations includes their ability to modify and change, as the environment changes, their management systems and practices. The course offers the opportunity to understand the linkage between corporate strategies and the process of developing management practices. In-depth understanding of selected corporations in Japan as "best practice" will be pursued through case studies, company visits and student's own research

Basic frameworks will be provided during the course. Each student is expected to develop individual list of key success factors of implementing strategies through management practices, based on the case studies used during the course.

Classes are conducted in English. Discussions and information sharing will also take place through e-mails. Both undergraduate and graduate level students are welcome.

Recommended Readings:

Will be advised at the beginning of the course.

浮世と道行き	(2 単位) (春 水 3)
JOURNEY THROUGH THE FLOATING WORLD	(2 Credits) (Spring Wed 3)
アーマー, アンドルー	文学部教授
Armour Andrew	Professor, Faculty of Letters

Course Description:

This course focuses on the pre-modern Japanese literature of the Edo period (1600-1867). Marking contrast with both the war tales of the samurai and the contemplative works of the solitary priests, much of the literature of this period reflects the concerns and tastes of the common townspeople. It was their prosperity and vitality that spurred the growth of printed literature and popular drama, encouraging men like Saikaku, Bashō, Chikamasa and Akinari. As well as the "floating world" of prose fiction, we shall be covering such topics as haiku poetry and love suicides in the puppet theatre.

Texts:

Students will be presented with materials in class or via the class website (www.armor.cc/ukiyo.htm)

Recommended Readings:

A list of reference works and useful links are available on-line.

日本の経営	(2単位) (春 水 3)
JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS	(2 Credits) (Spring Wed 3)
梅津 光弘	商学部専任講師
Mitsuhiro Umezu	Lecturer, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

Goal:

In this course, we will analyse contemporary Japanese society and business from an ethical perspective.

Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized management and globally acceptable norms for future international business. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese Style Management which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable.

Method:

First, I will highlight the historical and theoretical aspects fundamental to analyzing Japanese society and business from an ethical perspective. Then I will assign you to read short cases which describe recent incidents that have caused public controversy both in Japan and elsewhere.

Texts:

Reischauer, E.O. The Japanese Today: Change and Continuity. The Belknap Press of Harvard University Press, 1988.

Handouts

Recommended Readings:

TBA

美術を「よむ」－日本美術史入門	(2単位) (春 水 4)
INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN	(2 Credits) (Spring Wed 4)
河合 正朝	文学部教授
Kawai Masatomo	Professor, Faculty of Law
ルーマニエール, ニコル	国際センター講師 (セインズベリー日本藝術研究所所長)
Nicole Rousmaniere	Lecturer, International Center (Director, The Sainsbury Institute for Study of Japanese Arts and Cultures)
カーペンター, ジョン	国際センター講師 (ロンドン大学東洋アフリカ学院助教授)
John Carpenter	Lecturer, International Center (Assistant Professor, SOAS, University of London)

Course Description:

Through an examination of selected topics ranging from prehistory through to the 19th century, this introductory course aims to familiarize students with concepts and processes at work in Japanese art history. The course will provide a basic introduction to Japanese artistic formats, such as screen painting, calligraphy and ceramics, and to genres such as Zen painting, rinpa and literati styles. Primary emphasis is placed on understanding the work of art itself and its context.

Requirements:

Two short written assignments (4-5 double spaced A4 pages)

Active participation in class discussions and on field trips. Attendance and participation will be reflected in the final grade for the course.

Field Trips:

One field trip to Tokyo National Museum (Ueno Park) will be taken during the course in conjunction with a paper assignment.

Lecture Topics:

Japanese Prehistory

Todaiji and the Shosoin

Courtly Literature and Kana Calligraphy
 Zen Painting and Calligraphy
 Japanese Ceramics
 Japanese trade and relations with China and Europe
 Rinpa Painting and Calligraphy
 Literati Painting and Calligraphy
 Japanese Ceramics
 Kabuki and 17th Century Genre Painting
 Kazari, Japanese Design and Decoration
 Ukiyo-e and Surimono
 Collecting Japan in 19th-century America and Britain

Texts:

There is no single textbook for the course. Instead, a list of suggested books will be distributed and photocopies of selected sections will be available.

Castile, Rand (ed), *The Burghley House Porcelains*. New York: Japan Society, 1986.
 Clunas, Craig, "Oriental Antiquities/ Far Eastern Art," *Positions: East Asian Cultures Critique* vol. 2, no.2 (Fall 1994), pp.318-354.
 Nishi, Kazuo and Kazuo Hozumi, *What is Japanese Architecture?* (Translated by H. Mack Horton) Tokyo: Kodansha International.
 Fontein, Jan and Money Hickman, *Zen Painting and Calligraphy*. Boston: Museum of Fine Arts, 1970.
 Guth, Christine, *Art of Edo Japan: The Artist and The City 1615-1868*. New York: H.N. Abrams, 1996.
 Impey, Oliver and John Ayers and J.V.C. Mallet (ed), *Porcelain for Palaces*. London: The Oriental Ceramic Society, 1990.
 Mason, Penelope, *History of Japanese Art*. New York: H.N. Abrams, 1993.
 Mikami Tsugio. *Japanese Ceramics*. New York: Heibonsha International, 1977.
 Nishi, Kazuo and Kazuo Hozumi, *What is Japanese Architecture?* (Translated by H. Mack Horton) Tokyo: Kodansha International, 1985.
 Pearson, Richard, *Ancient Japan*. Washington, DC: Smithsonian Institution.
 Rousmaniere, Nicole (ed), Kazari, *Decoration and Display in Japan 15th - 19th Centuries*. London: British Museum Press, 2003.
 Singer, Robert, *Edo, Arts of Japan*. Washington D.C., National Gallery of Art, 1998.
 Wilson, Wilson, *Inside Japanese Ceramics*. Tokyo and New York: Weatherhill, 1995.

Also See:

Chanoyu Quarterly (Urasenke Foundation)
 The Kodansha Encyclopedia of Japan (9 vols.), New York: Kodansha International, 1983
 The Shibata Collection Catalogues (6 vols) published by The Kyushu Ceramic Museum, 1995 onwards.

日本の政治と外交	(2単位) (春 木 5)
JAPANESE POLITICS AND DIPLOMACY	(2 Credits) (Spring Thu 5)
添谷 芳秀	法学部教授
Yoshihide Soeya	Professor, Faculty of Law

Course Description:

This course aims to evaluate the evolution of Japanese politics and diplomacy since the end of the World War II. It will deal with several key issues and questions relating to the emergence, evolution, and demise of the so-called 1955 regime of Japanese domestic politics, as well as the so-called Yoshida "doctrine" in its foreign policy.

Texts:

Reading assignments, shown in the syllabus to be distributed in the first class, will be available from the University Co-op.

ジャパニーズ・エコノミー	(2単位) (春 木 5)
JAPANESE ECONOMY	(2 Credits) (Spring Thu 5)
小島 明	商学研究科教授
Akira Kojima	Professor, Graduate School of Business and Commerce

Course Description:

Japan's Economic Performance and policy debate in post war period up to now is covered with global economy perspective. Issues such as management practices, financial big-bang, foreign direct investment (FDI), bad loan problems, exchange rate, system reforms are all

discussed with preferably active participation of students. Students can have real exposure to the most current policy debate amongst special through Video and Tapes etc.

Recommended Readings:

Japan's Policy Trap - Dollars, Deflation and the Crisis of Japanese Finance, by Akio Mikuni and R. Taggart Murphy. (Brookings Institution Press, 2002)

Balance Sheet Recession - Japan's struggle with uncharted economics and its global implications, by Richard C. Koo, 2003 John Wiley & Sons

Message to Those Taking This Course:

Active participation by students strongly desired.

Evaluation:

Report and in-class exam.

エコノミー・オブ・ジャパン	(2 単位) (春 土 2)
ECONOMY OF JAPAN	(2 Credits) (Spring Sat 2)
嘉治佐保子	経済学部教授
Sahoko Kaji	Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course is offered in English.

The text book is Takatoshi Ito, The Japanese Economy, MIT Press, 1992.

Lectures will be based on chapters of this text.

The book's contents are as follows:

Part I Background

Chapter 1 An Introduction to the Japanese economy

Chapter 2 Historical background of the Japanese economy

Part II Economic Analysis

Chapter 3 Economic growth

Chapter 4 Business cycles and economic policies

Chapter 5 Financial markets and monetary policy

Chapter 6 Public finance and fiscal policies

Chapter 7 Industrial structure and policy

Chapter 8 Labour market

Chapter 9 Saving the cost of capital

Chapter 10 International trade

Chapter 11 International finance

Part III Contemporary Topics

Chapter 12 US — Japan economic conflicts

Chapter 13 The distribution system

Chapter 14 Asset prices; land and equities

Students must submit a report on the chapter to be discussed each week. They should thus familiarize themselves with the topic before coming to class. Several copies of the text will be on reserve at the library.

Recommended Readings:

For lighter reading on Japan, students may turn to Kaji, Hama and Rice, The Xenophobe's Guide to the Japanese, Oval Books, 1999, £3.99. Reading and/or purchase of this latter book is not necessary.

Evaluation:

Class participation and an essay at the end of term

太田 昭子

法学部教授

Akiko Ohta

Professor, Faculty of Law

Course Description:

The course aims to provide an introductory and comprehensive view of the history of diplomatic and cultural relations between Japan and the World in the latter half of the nineteenth century and early twentieth century. A basic knowledge of Japanese history is desirable, but no previous knowledge of this particular subject will be assumed. A small amount of reading will be expected each week.

Texts:

No specific textbook will be used.

Recommended Readings:

The reading list will be given at the beginning of the term.

Class Schedule (Subject to change):

1. Japan and the World before the Opening of Japan (2 lectures) : General introduction and the reappraisal of the Seclusion Policy
 2. The Opening of Japan and international society in the 1850s and 1860s
 3. The First Treaty with the West and the subsequent treaties(2 lectures) : the analysis of the U.S.-Japanese Treaty of Peace and Amity will be included
 4. Japanese Visits Abroad (2 lectures) : the evaluation of the cultural and diplomatic significance of the Japanese visits abroad (official missions / official students / stowaways and castaways
 5. Japanese perception of the West, changing attitudes and feelings in the 1860s (1 lecture)
 6. Western perception of Japan in the 1850s and 1860s (1 lecture)
 7. The significance of the Iwakura Mission (1~2 lectures)
 8. Development of Japanese Nationalism in the Meiji Era (2 lectures) : comparative analysis of several primary sources
- ☆ Optional excursion to the Yokohama Archives of History may be included in the programme.

Evaluation:

Students are expected to make a short report on a research project of their own choosing and hand in a term paper of about 2,000 words (about five pages, A4, double space) by the end of the term, and take the final examination.

Volunteers for a mini-presentation (about 10-15 minutes) on the topics related to the lecture are most welcome. (Details will be explained in class.)

異文化コミュニケーション2 —異文化接触における日本人のアイデンティティー

(2単位) (秋 月5)

INTERCULTURAL COMMUNICATION 2: IDENTITY OF JAPANESE SOJOURNERS

(2 Credits) (Fall Mon 5)

手塚 千鶴子

国際センター助教授

Chizuko Tezuka

Associate Professor, International Center

Course Description:

The first purpose is to help students learn how Japanese people have been experiencing exciting as well as confusing encounters with cultures different from their own and how such cross cultural encounters in and outside of Japan have been affecting their sense of identity and communication styles as an individual (and as people) from the times of Japan's First Opening to the world in the late Edo Period up to the present from the three perspectives: history, cultural adjustment, and intercultural communication, utilizing case studies. The second purpose is to help both Japanese and international students who are brought together to Mita campus by the globalization and internationalization to make best use of this class to communicate effectively through discussion and other student-centered activities.

Texts:

There is no designated textbook. Handouts will be distributed.

Recommended Readings:

Tsuda Umeko and Women's Education in Japan by Barbara Ross, Yale Univ Press, 1992.

The White Plum: a biography of Ume Tsuda by Yoshiko Furuki, Weatherhiesel, 1991.

Nitobe Inazo: Japan's bridge across the Pacific by John F. Howes, Westview Press, 1995.

Foreign Studies (translated from Japanese by Mark Williams) by Shusaku Endo, Charles E. Tuttle, 1989.
Intercultural Communication: reader 5th ed., Larry Samovar and Richard E Porter, Wadsworth Publishing Company, 1989.
Japanese Culture and Behavior (revised edition) ed. by Takie Sugiyama Lebra and William Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1986.
Japanese Patterns of behavior ed by Takie Sugiyama Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1976.
Exploring Japaneseness: on Japanese Enactments of Culture and Consciousness ed by Ray T. Donahue, Ablex Publishing Company, 2002.
Japan Encounters The Barbarian: Japanese travelers in America and Europe

日本の文学	(2単位) (秋 水 3)
JAPANESE LITERATURE	(2 Credits) (Fall Wed 3)
アーマー, アンドルー 文学部教授	
Andrew Armour	Professor, Faculty of Letters

Course Description:

This course is intended to cover the history of Japanese literature from earliest times up to the modern era. Starting with the writing system, we will trace the conspicuous developments in poetry, prose and drama through the Nara, Heian, Kamakura, Muromachi and Edo periods. Included are such works as the *Manyōshū*, *Genji monogatari*, *Heike monogatari*, *Oku-no-hosomichi* and *Sonezaki shinjū*.

Texts:

Students will be presented with materials in class or via the class website (www.armour.cc/jilt.htm)

Recommended Readings:

A list reference works and useful links are available on-line.

20世紀日本の文学に与えたヨーロッパ文学の影響	(2単位) (秋 水 5)
THE IMPACT OF WESTERN LITERATURE ON JAPANESE TWENTIETH-CENTURY FICTION	(2 Credits) (Fall Wed 5)
レイサイド, ジェイムス 法学部教授	
James M. Raeside	Professor, Faculty of Law

Course Description:

This course of lectures is intended to give a selective account of the way that Western literature was received in Japan during the 20th century, and the different ways that Japanese novelists engaged with the genres and techniques of foreign predecessors and contemporaries.

Consideration will be limited to Japanese novelists, though poets will also figure amongst the Western writers. The lectures will follow a basically chronological order, beginning with the Natsume Soseki and ending with Murakami Haruki. Students interested in this course should try to read at least some of the following (names appear without macrons).

Natsume Soseki 夏目漱石 『草枕』
English Translation A Three-Cornered World/ Unhuman Tour
 Nagai Kafu 永井荷風 『墨東奇談』
English Translation: A strange Tale from East of the River
 Akutagawa Ryunosuke 芥川龍之介 『蜘蛛の糸』, 『地獄変』, 『河童』
English Translation "The Spider's Thread"; "The Hell Screen" Kappa
 Tanizaki Junichiro 谷崎潤一郎 『痴人の愛』, 『蓼喰う虫』
English Translation Naomi; Some Prefer Nettles
 Mishima Yukio 三島由紀夫 『愛の渇き』, 『憂国』
English Translation: Thirst for Love; "Patriotism"
 Endo Shusaku 遠藤周作 『沈黙』
English Translation Silence
 Noma Hiroshi 野間宏 『わが塔はそこに立つ』
 (There Stands my Pagoda)
 Oe Kenzaburo 大江健三郎 『新しい人よ眼ざめよ』
English Translation Rouse Up O Young Men of the New Age!
 Murakami Haruki. 『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』
English Translation Hard-boiled Wonderland

General surveys of Japanese literature such as those by Donald Keene and Shuichi Kato will also provide good background information.

日本の経済システムにおける政府の役割－規制と介入の特殊性を中心に－ (2単位) (秋 木 4)
THE ROLE OF GOVERNMENT IN THE JAPANESE ECONOMIC SYSTEM: A Critical Look at the Unique Features of Japanese
Regulations and Government Involvement (2 Credits) (Fall Thu 4)
伊藤 規子 商学部助教授
Noriko Ito Associate Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course aims to help the student to understand the Japanese style of economic regulation and how and why the central/local government's involvement in many areas of the economy is distinctive to that of other industrial nations. The lectures will (A) cover the contents of the text book, *'Arthritic Japan'* which is useful in explaining the postwar Japanese economic system and the problems the Japanese have been facing during the last decade, (B) briefly explain general concepts and approaches in theories of industrial organization, public choice and regulatory economics and (C) survey some distinctively Japanese approaches to developing infrastructure and regulating industries.

Texts:

Edward, J. Lincoln, *Arthritic Japan: the slow pace of economic reform*, Brookings, 2001.

Recommended Readings:

Additional materials will be provided during some sessions if necessary.

芸術と戦争：日本の戦時体制と作家、詩人、評論家 (2単位) (秋 金 3)
THE ART OF WAR: JAPANESE WRITERS, FILMMAKERS, POETS, AND CRITICS UNDER THE WARTIME STATE
(2 Credits) (Fall Fri 3)
ドーシー, ジェームス 国際センター講師 (ダートマス大学助教授)
James Dorsey Lecturer, International Center (Associate Professor, Dartmouth University)

Course Description:

The course will examine a variety of Japanese literary and critical texts from the 1930s and 1940s, with a focus on those that deal directly or peripherally with the war efforts in China and the Pacific. Students will gain an understanding of the workings and relationship of nationalism, colonialism, censorship, propaganda, publishing practices, interpretive strategies, and the literary imagination.

Texts:

John W. Dower, *War Without Mercy: Race & Power in the Pacific War* (New York: Pantheon Books, 1986), 2000円.

Kawabata Yasunari, *Snow Country*, trans by Edward Seidensticker (New York: Vintage, 1996), 2000円.

Ishikawa Tatsuzō, *Soldiers Alive*, trans by Zeljko Cipris (Honolulu: University of Hawai'i Press, 2003), 2500円.

All other readings will be made available in copy form.

日本経済の展望 (2単位) (秋 金 4)
ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN (2 Credits) (Fall Fri 4)
市川 博也 国際センター講師 (上智大学教授)
Hiroya Ichikawa Lecturer, International Center (Professor, Sophia University)

Course Description:

An advanced applied course of economics concerning the contemporary Japanese economy. The course will examine the roots of the instability of the present financial system and critically examine the Japan Model, which once was used to explain the success of the Japanese economy in the postwar period. This examination includes discussion of the legacy of wartime control and debates over the East Asia Miracle. Problems related to the aging population, social security, the burden of government debt, competition policy, deregulation (including the financial big bang), corporate governance, government-business relations, trade disputes, foreign direct investment, ODA policy, environmental issues, and the role of Japan in the world will be discussed. Students are required to read economic and financial news every day for class discussion.

Text Book:

Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy" University of Tokyo Press, 1995

NPO/NGO 実践講座 ー日本のケース	(2 単位) (秋 金 4)
REALITY OF NPO/NGO IN THE CASE OF JAPAN	(2 Credits) (Fall Fri 4)
石井宏明	国際センター講師 (ピース ウィンズ ジャパン 渉外)
Hiroaki Ishii	Lecturer, International Center (External Relations, Peace Winds Japan)

Course Description:

Recently NGOs and their activities have become more and more publicized in Japan, since the Hanshin-Awaji Earthquake occurred. Ordinary people who did not have access to NGOs may have a big question, such as “Why does this happen and why is NGO work so important in the Japanese context?”

This course will define the development of Japanese NPO/NGOs and their activities, responding to such questions, and examine the role of NGOs, especially in the field of international cooperation.

Through introducing the “live” activities of various kinds of NGOs, this course will show the real pictures of Japan-based NGOs as well as the environment surrounding them. Students could also learn strength and weakness of NGOs, particularly in the Japanese context, and the relations with other agencies such as the government, military forces, UN, and business sectors.

Guest speakers from NGOs and other players related to NGO's activities would be invited to address in the course. Handouts will be periodically provided during the class session, and the lecturer will introduce some relevant reading materials.

Students should be able at the end of the course to:

1. Understand the definition and the diversity of NGOs and their activities, particularly in humanitarian assistance.
2. Develop a basic knowledge of NGO activities, including implementation of project implementation, advocacy, administration activity, public relations, and so on, through lecture, guest speech.
3. Acquire practical methodology throughout the group activity in terms of how an NGO can be organized and develop its capacity.

日本の宗教：救済の探求	(2 単位) (秋 金 4)
RELIGIONS IN JAPAN: IN SEARCH OF SALVATION	(2 Credits) (Fall Fri 4)
ナコルチェフスキー, アンドリイ	文学部助教授
Andrei Nakortchevski	Associate Professor, Faculty of Letters

Course Description:

In this course I would like to introduce main religious teachings existed in Japan from old times and up to our days. For the reason the name of the course is specified purposely as “Religions in Japan” and not as “Japanese Religions.” Otherwise we have to limit our discourse to the only genuine Japanese religion - Shinto and maybe some eclectic so called “new religions”, and forget about Buddhism or Christianity.

Each of these religions will be presented in three aspects: dogmatic (the only exception will be done for Christianity and I will accent the peculiarity of a perception of this religion in Japan), historical and cultural. Dogmatic aspect means an introduction to the core postulates and their transformation over time. Historical aspect allows us to trace a destiny of a religious teaching in Japanese history, and cultural aspect implies a study of influences to and interactions with other spheres of cultural activities - art, literature, science, etc.

Besides the above mentioned aspects, the fourth theme, namely religion's promise to solve the individual's existential and social problems, will be constantly touched on in this course. From these theme derives the subtitle - “In Search of Salvation.” Especially this aspect becomes important when we deliberate “new religions”, including the notorious Aum Shinrikyo in particular.

About half of the lectures will be devoted to Buddhism as the most philosophically profound and variable teaching, but I would like to introduce not only institutionalized religion as Buddhism, Shinto, Christianity, as well as Taoism and Confucianism to some extension, but also the most interesting so called folk religions, for example, tradition of shugendou (mountain asceticism), different variants of shamanic practices, etc.

体 育 科 目〔三田設置〕 (体育研究所)

実施場所・教室変更、休講、授業時間割変更等の連絡事項は、三田設置科目については共通掲示板(西校舎)に、日吉設置科目については、体育科目掲示板(日吉J11番教室前)にすべて掲示します。履修者は常に掲示に注意してください。

体育科目(日吉)の時間割、講義要綱・シラバス等は、学事センターで閲覧できます。

体育科目の履修に関して質問のある場合は、学事センターで相談してください。

三田地区の学生は、日吉設置の体育科目を履修することができますが、三田でも、体育実技A(ウィークリー・スポーツ)が、8科目(テニス、バレーボール、フットサル、合気道、弓術、剣道、柔道、ダンス)開講されています。

履修の方法等については以下のとおりですが、学部により単位の取り扱いが異なります。各自、学部学則をよく読んで履修するようにしてください。

1 体育科目のねらい

体育科目は、「身体」に関わる様々な事象を体験・理解し、社会における自己の存在を見つめ、人間を理解していくことに大きなねらいがあります。特に、言語化された知識を越えて、自己の身体が体現する「身体知」を理解・獲得することで豊かな人間の形成をめざすものです。各開講科目には、このねらいに通ずる様々なアプローチがあり、それぞれに細分化された目標が立てられています。

2 体育科目の構成

体育科目には、「体育学講義」、「体育学演習」、「体育実技A」、「体育実技B」の4科目があります。学部、学科によって科目の取り扱いや単位認定の上限が異なりますので、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。各科目の概略は以下のとおりですが、詳しくは、本書とともに日吉の講義要綱・シラバスを参照してください(学事センターで閲覧できます)。

- (1) 体育学講義 (2単位).....「身体」「健康」「運動」等に関する講義。
- (2) 体育学演習 (1単位)..... 講義+実習による演習形式の授業。
- (3) 体育実技A (1単位).....「身体活動」実技 A~Dの4段階評価。
ウィークリー・スポーツ
シーズン・スポーツ
- (4) 体育実技B (1単位).....「身体活動」実技 P(合)・F(否)(Pass/Fail)の2段階評価。
ウィークリー・スポーツ
シーズン・スポーツ

体育実技には「体育実技A」と「体育実技B」がありますが、特に成績評価の方法が異なることに注意してください。なお、「体育実技A」と「体育実技B」、ともにウィークリー・スポーツとシーズン・スポーツがあります。その概要は以下のとおりです。

ウィークリー・スポーツ..... 週1回半年(春学期または秋学期)の授業。

シーズン・スポーツ..... 夏季休業中(7月~9月)または春季休業中(2月)の7日間の授業。ただし、合宿科目は原則として3泊4日。

3 2003年度以前に入学した諸君へ

2004年度より、保健体育科目から体育科目へと名称変更になり、個々の科目名や内容も変更されています。すでに保健体育科目を履修していて、さらに体育科目を履修しようとする場合は、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。

4 履修方法について

体育実技を履修する場合は、以下の事項に留意して履修申告してください。

(1) 体育科目ガイダンス

体育科目を履修する場合は、体育科目ガイダンスに出席し、履修方法の説明を聞いてください。

日時・場所 4月5日(月)2限および5限 519番教室(西校舎、いずれの時限も同じ内容です。)

(2) 定期健康診断

体育実技を履修する場合、保健管理センターが行う定期健康診断を受診していることが前提条件となります。現在、運動に制限のある治療中の病气・ケガがある場合は、必ず健康診断時に診断書を持参してください(制限内容の記載のあるもの)。診断書がない場合、体育実技履修の可否判定ができないことがありますので注意してください。健康診断受診後、学生証裏面に健康診断済証明印を押します。この証明印がないと体育実技の履修はできません。

体育実技を履修する学生は必ず日吉で健康診断を受けてください。その際、日吉の健康診断受付窓口で三田在籍の学生であることを申し出て、以下の健康診断項目をすべて受診してください。

【健康診断項目】

計測（身長・体重） 視力 検尿 血圧
 胸部X線 ヘルスチェック 内科（指示された者） 心電図（同左）

【実施場所】

日吉記念館

日吉の定期健康診断日程は以下のとおりです。

(受付時間)		9:00～11:00	13:00～15:30	(受付時間)		9:00～11:00	13:00～15:30
4月14日	水	男子(10時開始)	男子	4月20日	火	男子	男子
15日	木	女子	女子	21日	水	女子	男子
16日	金	男子	男子	22日	木	男子	男子
17日	土	女子	男子	24日	土	男子	男子
19日	月	男子	女子	26日	月	男子	

- * この期間に受診できない場合は、5月に三田で実施する健康診断を受けることになります。その場合は、該当学年の健康診断項目を受診してください。
- * 健康診断の結果、「体育2」または「体育3」と判定された場合は、日吉学事センター7番窓口申し出てください。
- * 授業開始時までに健康診断を受けていない場合は、必ず授業担当者に申し出てください。

(3) 履修申告

体育科目の履修申告は、体育研究所三田設置科目（体育実技A）と日吉設置科目（体育実技A、体育実技B、体育学演習、体育学講義）で申告方法が異なるので注意してください。

ア 三田設置科目

- (ア) 履修者数の調整は第1週目の授業時に行います。体育研究所時間割（三田諸研究所時間割に掲載）を参照の上、第1週目の授業で、体育研究所許可証を受け取ってください。秋学期についても同時に行います。
- (イ) 第1週目の授業に出席できない者は、4月8日（木）から14日（水）の12:30から14:00まで（日曜を除く）、三田綱町グラウンド武道館玄関にて体育研究所許可証を発行します。そこで許可証取得の手続きをしてください。第2週目以降は、各授業担当者より許可証を受け取ってください。
- (ウ) 履修申告期間に学事Webシステムによる履修申告を行ってください。

イ 日吉設置科目

- 体育科目時間割（日吉）を参照の上、希望する体育科目を選択し、指定期日に履修申告してください。
- (ア) 学事Webシステムによる履修申告が必要です。履修申告用紙の場合は、必ずコピーしておいてください。
- (イ) 各学部履修案内をよく読んで、正確に履修申告してください。
- (ウ) 秋学期科目を履修する場合も必ず履修申告しておいてください。

(4) 日吉設置科目の履修者数の調整

日吉設置の体育実技A、体育実技Bおよび体育学演習については、定員を上回る履修希望者がいた場合、抽選による履修者数の調整を行います。調整結果は以下のとおり掲示しますので、履修申告した者は、履修の可否を必ず確認してください。

ただし、体育学講義は、抽選による履修者数の調整は行いません。

(日吉設置科目)

調整結果発表 4月24日（土）

9:00 日吉 体育科目掲示板（第4校舎B棟1階J11番教室前）

10:30 三田 共通掲示板（西校舎）

なお、三田、日吉の追加履修できる体育実技および体育学演習についても、同時に発表します。

(5) 追加履修

履修調整の結果、定員に余裕のある体育実技および体育学演習は追加履修することができます。追加履修のためには、①体育研究所許可証の取得と、②修正申告の2つの手続きが必要です。

ただし、追加履修の扱いは学部により異なります。所属学部の履修要項を確認してください。

※ 履修者数調整結果を再確認し、誤りのないようにしてください。

○ ウィークリー・スポーツ、シーズン・スポーツ（共に、体育実技A、体育実技B）と体育学演習の追加履修手続き

① 体育研究所許可証の取得手続き

定員に余裕のある科目について、以下のとおり申し込み順に受け付けます。定員に達した科目は締め切ります。

受付日時	受付場所
4月26日(月) 9:15~11:30, 12:30~16:00 27日(火) 9:15~11:30, 12:30~15:00	体育研究所(陸上競技場側)
4月28日(水) から5月修正申告期間終了まで (平日) 8:45~17:00 (土) 8:45~14:15	日吉学事センター 7番窓口

(注) 以上のいずれかで「体育研究所許可証」を取得してください。

② 修正申告(学事センター)

体育研究所許可証にもとづき、学事センターで修正申告期間終了までに修正申告をしてください。

◎ 以上①, ②いずれの手続きが不足しても追加履修はできません。

(6) シーズン・スポーツ(合宿科目)の実技費用納入について

シーズン・スポーツのうち、以下の合宿形式6科目については、指定期間内に実技費用を納入してください。

実技費用納入科目
アウトドアレクリエーション, 山岳, スキー, スケート, 馬術, ヨット

① 実技費用納入日時

4月24日(土) 8:45~14:15
26日(月)~30日(金) 8:45~17:00(祝日を除く)

② 実技費用納入場所(証紙貼付)

日吉学事センター 7番窓口(納入用紙交付)

※ 上記の科目は、履修申告しても費用を納入しなければ参加できません。

※ 費用が納入期間に間に合わない場合は、窓口で相談してください。

※ 実技費用納入締め切り後、なお人員に余裕のある科目については追加履修を受け付けます(実技費用納入順, 前(5)項参照)。

体育実技実施要項〔三田設置科目〕

体育実技 A (ウィークリー・スポーツ)

〈球技〉

体育実技 A (テニス)

(初級)

平田 大輔

〔授業の目的〕

テニスの技術だけでなく、マナーやルールを学び、生涯スポーツとしてテニスを楽しめるようにする。

〔実施場所〕

網町グラウンド テニスコート (屋外)

〔服装・携行品・その他〕

ラケット、テニスシューズは各自で準備。

体育実技 A (テニス)

(中級)

平田 大輔

〔授業の目的〕

いままでの技術のさらなる向上を目指し、試合に生かせるようにする。

〔実施場所〕

網町グラウンド テニスコート (屋外)

〔服装・携行品・その他〕

ラケット・テニスシューズは各自で準備。

体育実技 A (テニス)

(上級)

堀場 雅彦

〔授業の目的〕

テニスの技術習得と体力の向上。

〔実施場所〕

網町グラウンド テニスコート (屋外)

〔服装・携行品・その他〕

硬式テニスラケット、シューズ (ハードまたはオールコート用)

体育実技 A (テニス)

(中級～打ち合いで安定して 10 往復以上続けられる方)

村松 憲

〔授業の目的〕

試合を楽しむために必要な技術・戦術を学びます。また、エチケット、ルールを再確認します。

〔実施場所〕

網町グラウンド テニスコート (屋外)

〔服装・携行品・その他〕

- ・テニスシューズ
- ・テニスラケット

体育実技 A (バレーボール)

野口 和行

〔授業の目的〕

チームスポーツであるバレーボールの実践を通して、個々の技術レベルに応じた役割分担をしながら、相互のコミュニケーションを

促進する。生涯スポーツとして楽しめるようにバレーボールを実践する。

〔実施場所〕

網町グラウンド バレーボールコート

〔服装・携行品・その他〕

運動できる服装、屋外シューズ

体育実技 A (フットサル)

(初心者、経験者問わず)

須田 芳正

〔授業の目的〕

フットサルの基本的技術、戦術を習得するとともに、フットサルの楽しさを味わってもらうことを目的とする。

〔実施場所〕

銀座 de フットサル 田町スタジアム

〔服装・携行品・その他〕

スポーツのできる格好。

〈武道〉

体育実技 A (合気道)

藤平 信一

〔授業の目的〕

合気道の実技を通して、心と身体の正しい使い方を学ぶ。心身統一を、日常の一挙手一投足で活用できるように修得する。

〔実施場所〕

網町グラウンド 武道館

〔服装・携行品・その他〕

- ・道着は貸与
- ・タオル (汗をふく為)
- ・Tシャツ (女子のみ)
- ・道着を持ち運ぶバッグ等

体育実技 A (弓術)

小笠原 清忠

〔授業の目的〕

弓術ウィークリー・スポーツの授業は、射法、射術の習得を目標とします。スポーツは動的なものです。弓術は静的なもので、相対する対して己の心のあり方が求められます。練習では常に正しい心のあり方、至誠と礼節を重んじることにあります。

〔実施場所〕

網町グラウンド 武道館 (正巴弓道場)

〔服装・携行品・その他〕

服装は運動の出来る服装 (ボタンや胸ポケットのないもの)。靴下または足袋を持参すること。

体育実技 A (剣道)

(初心者から有段者まで)

吉田 泰将

〔授業の目的〕

剣道をはじめで行うものから、有段者まですべてのレベルを対象に、初心者は一級に、有段者はさらにひとつ上の段に挑戦するために、基本的な技術、知識、日本剣道形を学習します。それぞれのレベルの人が協力して、クラス全体の實力アップを図りましょう。そ

して、生涯を通じて実践できる剣道をしっかりと身につけましょう。

〔実施場所〕

網町グランド 武道館（剣道場）

〔服装・携行品・その他〕

剣道着・袴（運動に相応しい服装も可） 手ぬぐい

※ 剣道具（防具）・竹刀は準備しています。

体育実技 A（柔道）

（初心者，経験者を問わない～男女共習） **安藤 勝英**

〔授業の目的〕

柔道を通して技術，体力の向上を図り，これから生涯スポーツとして取り組むことの出来るよう行う。中でも礼法，受身，正しい技の掛け方等をより深く解説する。

また，見る柔道の立場から，国際，国内ルールを説明する。

更に，昇段希望者には，この授業の中で実地指導する。

〔実施場所〕

網町グランド 武道館（柔道場）

〔服装・携行品・その他〕

柔道衣（希望者には貸与する），タオル，Tシャツ（女子のみ）

〈個人種目〉

体育実技 A（ダンス）

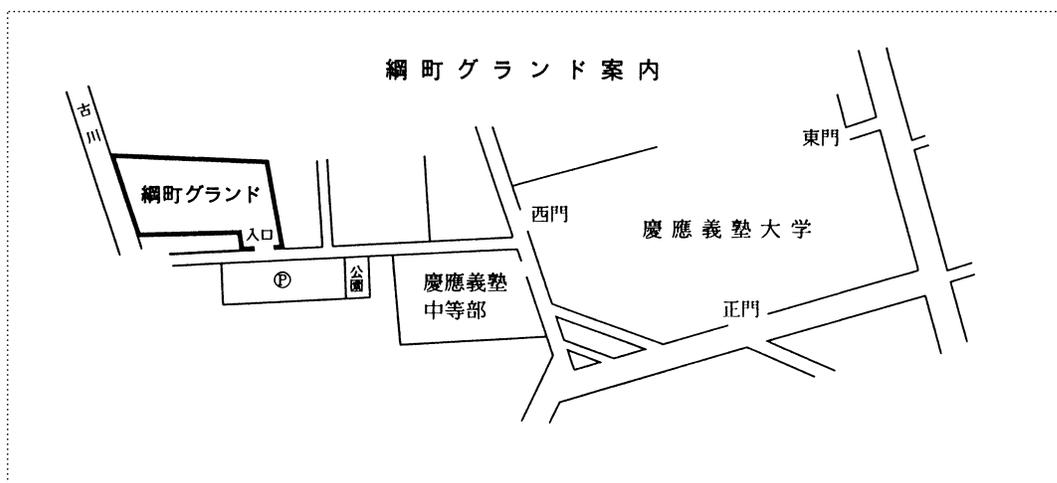
「ボールルームダンス」（入門及び初級） **篠原 しげ子**

〔授業の目的〕

各種目のリズムの特徴を理解し動けるようになる。他のダンスと異なり，組んで踊るので相手の動きも理解し，協力して動けるようになる。

〔実施場所〕

網町グランド 武道館（剣道場）



平成 16 (2004) 年度 体育実技 A・体育実技 B (シーズン・スポーツ) 実施要領一覧〔日吉設置科目〕

実施月 (学期)	科 目	定員	実 施 日 程 (開始時間)	実 施 場 所	備 考
7・8月 (春)	体育実技 A (空手)	40	7/28 (水) ~ 8/4 (水) 日曜を除く7日間 (10:00)	空手部道場 (蝮谷)	
	体育実技 A (弓術)	40	〃 (9:00)	志正弓道場 (〃)	¥500 (教本)
	体育実技 A (少林寺拳法)	30	〃 (9:00)	拳法道場 (〃)	
	体育実技 A (水泳)	50	〃 (13:00)	日吉プール	
	体育実技 A (軟式野球)	40	〃 (9:30)	日吉台野球場 (蝮谷)	
	体育実技 B (山岳) (合宿)	50	8/3 (火) ~ 6 (金)	八ヶ岳連峰 (長野)	¥35,000 ※ (交通費除く)
	体育実技 B (馬術) (合宿)	36	7/29 (木) 8:00 日吉 ~ 8/1 (日)	馬術競技場 (山梨)	¥49,000 ※ (交通費含む)
体育実技 B (ヨット) (合宿)	40	8/2 (月) 14:00 ~ 5 (木)	ヨット部合宿所 (神奈川・三浦)	¥37,000 ※ (交通費除く)	
9月 (秋)	体育実技 A (器械体操) (新体操含む~女子のみ)	30	9/13 (月) ~ 22 (水) 土曜・日曜・祝日を除く7日間 (15:00)	日吉記念館	
	体育実技 A (端艇)	20	9/15 (水) ~ 24 (金) 日曜・祝日を除く7日間 (9:00)	端艇部戸田艇庫 (埼玉)	埼京線戸田公園駅 下車10分
	体育実技 B (バレーボール) 「夏のバレーボール」	30	9/15 (水) ~ 22 (水) 日曜・祝日を除く6日間 (10:00)	日吉記念館	
	体育実技 B (アウトドア レクリエーション) (合宿)	50	9/2 (木) ~ 6 (月)	慶應義塾立科山荘 (長野)	¥26,000 ※ (交通費除く)
2月 (秋)	体育実技 B (スキー) (合宿)	150	2/8 (火) ~ 11 (金)	志賀高原発晴温泉スキー場 (長野)	¥45,000 ※ (交通費除く)
	体育実技 B (スケート) (合宿)	40	2/7 (月) ~ 10 (木)	軽井沢スケートセンター (長野)	¥27,000 ※ (交通費除く)

※ 合宿科目費用納入

納入日時 4月24日(土)~30日(金) 8:45~17:00 (ただし、土曜は、14:15まで)

納入場所 日吉学事センター7番窓口

(費用が納入期間に間に合わない場合は、窓口で相談してください。)

- 終了時間等の質問については、初回授業で担当者に聞いてください。

知的資産センター設置講座（平成 16 年度開講）

1. 知的資産センター設置講座開講にあたり

慶應義塾大学では、研究成果の社会への還元を、教育・研究と並ぶ大学の使命と考えています。そして、「慶應義塾で生れた研究成果は義塾にとって貴重な知的資産であり、大学はこれら知的資産の保護と活用を積極的に促進・支援する」という理念を公表しています。

こうした方針に基づき、知的資産センターは慶應義塾で生れた研究成果を社会へ還元するために、慶應義塾大学の技術移転機関として 1998 年 11 月に設立されました。技術に関するものだけでなく、電子メディアを始めとして広汎な研究成果を対象とするとともに、新しい事業の創出に資するという意味をこめて「知的資産センター」と名付けられました。

知的資産センターの事業は、研究成果に対する特許保護から始め、技術の移転、起業の支援と段階的に拡充していく計画です。そして、教職員の熱意と高いポテンシャルをもった研究成果に支えられ、既に数多くの慶應義塾の特許出願が生まれ、技術移転も活発化してきました。

また、知的資産センターは技術移転に密接に関係する知的財産に関する教育・研究も任務としています。

情報技術の劇的な革新に伴い電子メディア、ビジネスモデル特許に代表されるように、知的財産は社会のあらゆる分野に密接に関係してきました。こうした時代の変化に対応していくためには、専攻分野に係わらず知的財産に関する幅広い知識と理解が求められています。

そこで、知的財産に関する教育の一貫として、全学部の学生を対象として知的財産全般について基本的な事項の理解を図るため、設置講座を開講しました。

2. 設置科目、履修上の取扱いについて

今年度は「知的資産概論」の 1 科目を、春学期三田キャンパスで開講します。

授業時間は 18:10~19:40、単位は 2 単位です。その他授業に関する情報は、三田共通掲示板（西校舎 1 階）、<http://www.ipc.keio.ac.jp> でお知らせします。

受講を希望する場合は、履修の取扱いについて各学部、研究科の履修案内で確認の上、各学部窓口で履修申告をしてください。

3. 講義要綱

知的資産概論 ―知的財産の保護と活用をめぐる課題―
(ナテグリニド特別講座)

コーディネーター 知的資産センター所長（商学部教授）清水 啓 助

授業科目の内容：

研究活動や創造活動の成果を知的財産として、戦略的に保護・活用し、我が国産業の国際競争力を強化するという国家戦略が策定され、知的財産に対する関心は高まっています。知的財産には、技術（特許）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）、音楽・映画のコンテンツ（著作権）といったものがあり、権利の内容や活用法はそれぞれ固有な特色があります。本講義では、代表的な知的財産の権利保護・活用における現状と課題についての理解を深め、知的財産に関する幅広い知識を得ることを目標とします。

教科書：

講義資料を配布します。

参考書：

「知的創造時代の知的財産」清水啓助他著、慶應義塾大学出版会

授業の計画：

- 1 知的財産の新たな時代
- 2 特許の仕組み
- 3 著作権の仕組み
- 4 マルチメディアに関する知的財産

- 5 知的財産の契約
- 6 商標ブランドの価値
- 7 知的財産の裁判
- 8 著作権処理に関する問題
- 9 企業における知的財産戦略
- 10 知的財産に関する世界の動向
- 11 知的財産の紛争処理
- 12 ベンチャー・起業の仕組み
- 13 技術の移転

なお、講義は外部講師を含め、オムニバス形式で行います。

履修者へのコメント：

積極的に学ぶ意欲を持つ学生を歓迎します。

単位の取扱については、学部により異なりますので注意してください。

成績評価方法：

平常点及びレポートによる評価

質問・相談：

授業の最後に質疑の時間を設けます。